

うるま市高齢者の実態把握報告書

(うるま市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定資料)

- 高齢者を取り巻く状況や課題
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告
- 在宅介護実態調査結果報告
- アンケート調査から把握された課題のまとめ

目 次

第1章 本市の高齢者を取り巻く状況や課題

第1節 高齢者の人口や世帯等	1
1. 人口動態	1
2. 世帯の状況	9
3. 就労の状況	10
4. 老人クラブ	13
第2節 介護保険サービスの状況	15
1. 要介護認定の状況	15
2. 介護保険サービスの利用状況	27
3. 介護保険給付費の状況	34

第2章 高齢者を取り巻く状況や課題のまとめ

まとめ1. 高齢者の人口や世帯	67
まとめ2. 高齢者の活動の状況	68
まとめ3. 要介護認定の状況	68
まとめ4. 介護保険給付費の状況	70

第3章 うるま市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告

第1節 高齢者の実態把握調査について	73
1. 調査の目的	73
2. 調査の概要	73
3. 報告書の見方	73
4. リスク判定方法	74
第2節 調査結果	78
1. 回答者の基本属性等	78
2. 体を動かすことについて	84
3. 食べることについて	88
4. 毎日の生活について	96
5. 地域での活動について	102
6. たすけあいについて	107
7. 健康について	112
8. 認知症にかかる相談窓口の把握について	124
9. その他	125
10. 身体機能リスク経年変化	134
11. 圏域別リスク者等の状況	135

12. 世帯構成別リスク者等の状況	141
13. 歯の健康状況別リスク者の状況	144
14. 社会参加別リスク者の状況.....	145
15. 幸福度、主観的健康感、生きがいの有無別リスク者の状況	146
16. 孤独・孤食の状況別リスク者の状況	149
17. BMI別リスク者の状況.....	151
18. 喫煙・飲酒の有無別リスク者の状況	153
19. 暮らしの状況(経済的負担感)別リスク者等の状況	155
20. 耳の病気の有無別リスク者等の状況	161
21. 県内他保険者のリスク者割合との比較	162
22. うるま市日常生活圏域ニーズ調査より 自由回答のまとめ	167
23. 単純集計表【経年比較表編(第7期～第9期)】	175
24. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査票	204

第4章 うるま市在宅介護実態調査結果報告

1. 調査の目的.....	223
2. 調査の概要.....	223
3. 本報告の構成.....	223
4. 報告書の見方.....	223
5. 調査結果より(国の分析項目を中心に掲載)	224
(1)基本的な項目.....	224
(2)施設等検討の状況.....	239
(3)介護者が不安を感じる介護.....	241
(4)介護者が不安を感じる介護(サービス利用回数別)	243
(5)サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況	245
(6)訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況	247
(7)介護者が不安を感じる介護(就労継続見込み別)	248
(8)介護保険サービスの利用.....	250
(9)サービス利用の組み合わせ(介護者の就労状況別)	252
(10)介護のための働き方の調整(就労継続見込み別)	253
(11)在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	255
(12)サービス利用の組み合わせ(要介護度別・世帯類型別)	257
(13)施設等検討の状況(要介護度別・世帯類型別)	259
(14)訪問診療の利用割合.....	261
(15)訪問診療とサービスの利用有無の関係	263
(16)救急(総合病院への定期外受診)の受診回数	265
(17)新型コロナウイルス感染症の影響	266
6. 在宅介護実態調査 調査票.....	271

第5章 アンケート調査から把握された課題のまとめ

第1節 日常生活圏域ニーズ調査結果から見える課題のまとめ	283
まとめ1. 身体機能リスク全般について	283
まとめ2. 「1人暮らし」と「配偶者以外と2人暮らし」について	284
まとめ3. 主観的幸福感、主観的健康感、孤独感、生きがい	284
まとめ4. 歯の健康	286
まとめ5. BMI	286
まとめ6. 経済的負担感を抱える人	287
まとめ7. 社会参加	287
まとめ8. 最期の迎え方（終活）	288
まとめ9. 携帯電話	288
まとめ10. 新型コロナウイルス感染症の影響	289
第2節 在宅介護実態調査結果から見える課題のまとめ	290
まとめ1. 在宅介護の状況（介護者）	290
まとめ2. 介護者の就労と介護の状況	291
まとめ3. 介護をする上での困りごと、もとめられる生活支援	291
まとめ4. 施設入所の希望	292
まとめ5. 訪問診療	292
まとめ6. 新型コロナウイルス感染症の影響	293

第1章 本市の高齢者を取り巻く状況や課題

第1節 高齢者の人口や世帯等

1. 人口動態

(1) 総人口の推移

本市の総人口は令和4年10月1日現在125,876人であり、毎年増加で推移しています。

高齢者数(年齢3区分別では老年人口と言う)も総人口と同様に増加を続けており、令和4年は29,024人となっています。

平成27年と令和4年を比較すると、総人口は3,904人増、高齢者数は5,281人増加しています。

高齢化率をみると、平成27年は19.5%でしたが年々上昇しており、平成28年には20.2%と20%を超え、令和4年では23.1%と高齢者が総人口の2割を超える状況となっています。

令和3年の本市の高齢化率を、全国や県と比較すると、全国(28.9%)より低く、また県(23.1%)と比べても若干低くなっています。

人口構成

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	対平成27年比	
うるま市	人数(人)	総人口	121,972	122,381	122,938	123,629	124,368	125,029	125,657	125,876	3,904
		年少人口	21,317	21,270	21,303	21,252	21,225	21,285	21,359	21,286	▲31
		生産年齢人口	76,912	76,442	76,222	76,130	75,921	75,878	75,746	75,566	▲1,346
		老年人口	23,743	24,669	25,413	26,247	27,222	27,866	28,552	29,024	5,281
	構成比(%)	年少人口	17.5	17.4	17.3	17.2	17.1	17.0	17.0	16.9	▲0.6
		生産年齢人口	63.1	62.5	62.0	61.6	61.0	60.7	60.3	60.0	▲3.1
老年人口(高齢化率)		19.5	20.2	20.7	21.2	21.9	22.3	22.7	23.1	3.6	
沖縄県	構成比(%)	年少人口	17.3	17.2	17.1	17.1	16.9	16.7	16.5	—	▲0.8
		生産年齢人口	62.9	62.4	61.9	61.3	60.9	60.8	60.4	—	▲2.5
		老年人口(高齢化率)	19.7	20.4	21.0	21.6	22.2	22.5	23.1	—	3.4
全国(%)											
	老年人口(高齢化率)	26.6	27.3	27.7	28.1	28.4	28.6	28.9	29.0	2.4	

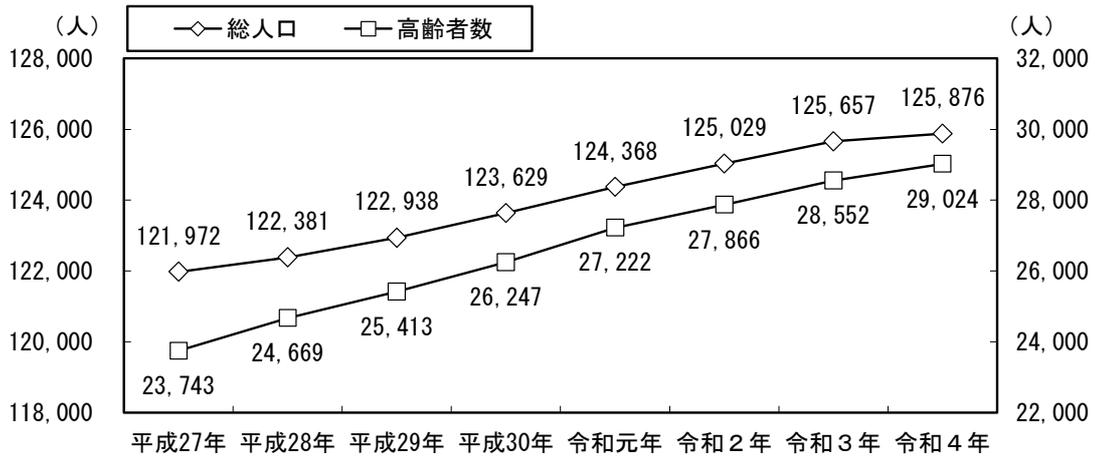
資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

沖縄県・全国は総務省人口推計（各年10月1日現在）

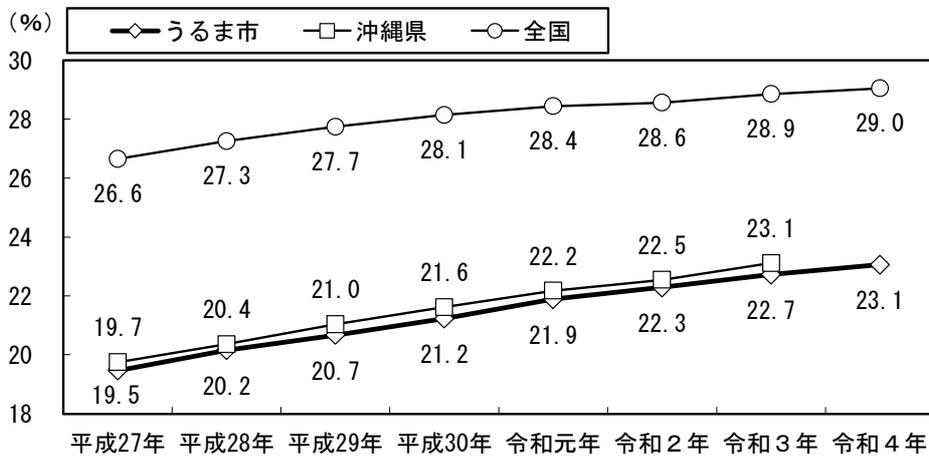
令和4年の全国は総務省人口推計（10月1日概算値）

※年齢3区分別人口＝年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)

総人口と高齢者数の推移



高齢化率の比較



高齢者について日常生活圏域別にみると、高齢化率は与勝東地区が31.2%で最も高く、次いで与勝西地区が27.1%となっています。

日常生活圏域別高齢者人口

日常生活圏域	圏域別総人口	高齢者人口	高齢化率(%)
石川地区	18,307	4,472	24.4%
具志川北地区	20,158	4,193	20.8%
具志川東地区	19,238	4,166	21.7%
具志川西地区	18,973	4,183	22.0%
具志川南地区	24,505	4,471	18.2%
与勝西地区	14,107	3,828	27.1%
与勝東地区	10,369	3,239	31.2%
合計	125,657	28,552	22.7%

資料：住民基本台帳（令和3年10月1日現在）

(2) 推計人口

将来人口の推計によると、総人口は今後もしばらくは増加を続け、令和7年(2025年)には127,174人になると見込まれます。その後も増加傾向で推移し、令和14年には128,812人となりますが、令和17年には128,558人に減少すると推計されます。

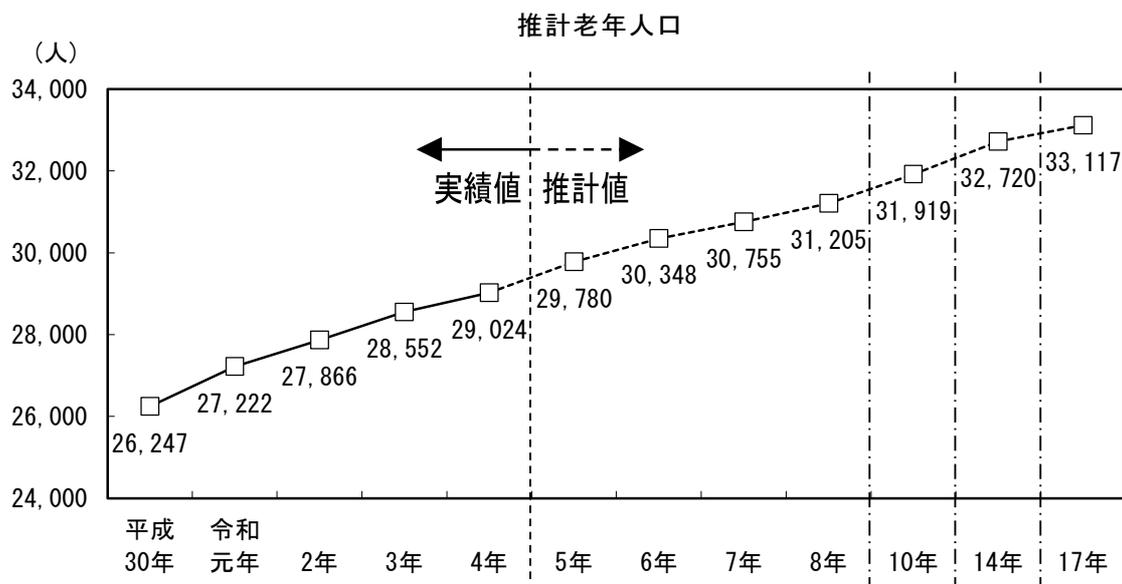
高齢者人口(老年人口)は毎年増加すると推計され、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に到達するとされている令和7年(2025年)には30,755人、第9期計画最終年の令和8年には31,205人、第11期計画最終年の令和14年には32,720人になると予測されます。

高齢化率は、令和4年で23.1%となっていますが、令和7年には24.2%、令和14年には25.4%になると予測されます。

推計人口

		実績値 (再掲)	推計値						
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和10年	令和14年	令和17年
人数 (人)	総人口	125,876	126,476	126,779	127,174	127,503	128,030	128,812	128,558
	年少人口	21,286	21,207	21,160	21,134	21,081	20,984	20,591	20,350
	生産年齢人口	75,566	75,489	75,271	75,285	75,217	75,127	75,501	75,091
	老年人口	29,024	29,780	30,348	30,755	31,205	31,919	32,720	33,117
構成比 (%)	年少人口	16.9	16.8	16.7	16.6	16.5	16.4	16.0	15.8
	生産年齢人口	60.0	59.7	59.4	59.2	59.0	58.7	58.6	58.4
	老年人口	23.1	23.5	23.9	24.2	24.5	24.9	25.4	25.8

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率：令和2→令和4平均）



(3) 前期・後期別高齢者人口の推移

高齢者を前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)に分けてみると、令和4年では前期高齢者が15,703人、後期高齢者が13,321人であり、前期高齢者は一貫した増加、後期高齢者は令和2年、令和3年に一旦減少後、令和4年で増加に転じています。

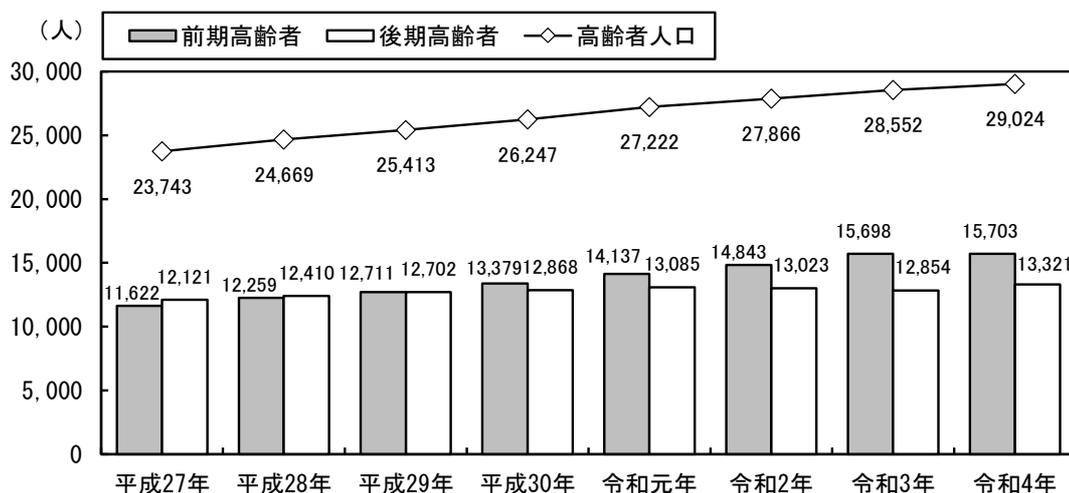
構成比をみると平成28年までは、前期高齢者より後期高齢者の割合が上回っていましたが、平成30年に逆転し、令和3年までは、前期高齢者の割合は上昇傾向、後期高齢者の割合は減少傾向となっています。令和4年では、前期高齢者は微減で54.1%、後期高齢者は微増で45.9%となり、前期高齢者の占める割合が上回っています。

前期高齢者人口と後期高齢者人口の推移

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
人数(人)	高齢者人口	23,743	24,669	25,413	26,247	27,222	27,866	28,552	29,024
	前期高齢者 (65～74歳)	11,622	12,259	12,711	13,379	14,137	14,843	15,698	15,703
	後期高齢者 (75歳以上)	12,121	12,410	12,702	12,868	13,085	13,023	12,854	13,321
構成比(%)	前期高齢者	48.9	49.7	50.0	51.0	51.9	53.3	55.0	54.1
	後期高齢者	51.1	50.3	50.0	49.0	48.1	46.7	45.0	45.9

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

前期高齢者人口と後期高齢者人口の推移



(4) 推計前期・後期別高齢者人口

将来人口の推計によると、第9期計画期間については、前期高齢者は減少、後期高齢者は、増加する見込みとなっています。構成比をみると、後期高齢者の占める割合が着実に上昇し、令和7年までは前期高齢者が50%を超えています。第9期最終年の令和8年には逆転し、前期高齢者は49.3%、後期高齢者が50.7%と、ほぼ同率となります。その後は後期高齢者の占める割合が上昇し、令和14年には55.9%になると予想されます。

後期高齢者人口は、令和5年以降、大きく伸びると予測され、令和6年は14,531人、令和7年は15,255人、令和8年は15,823人になると見込まれます。この先、後期高齢者人口はこれまででないほど増加していきます。後期高齢者人口の伸びが緩やかあるいは減少していた第7期、第8期と比べ、介護保険サービスの利用量、給付費は大きく伸びると予測されます。

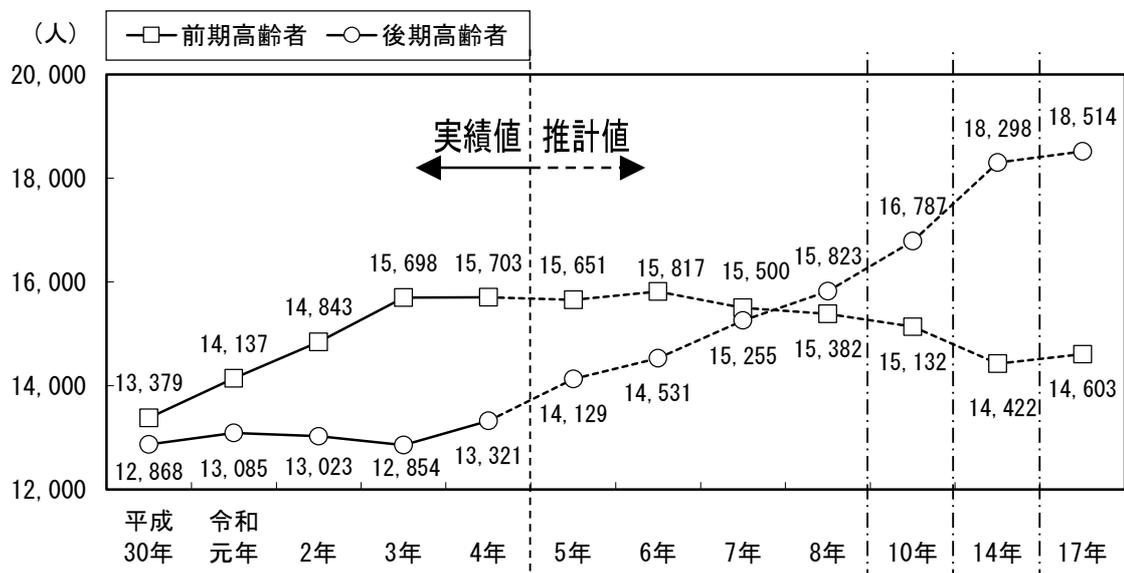
後期高齢者人口の増加に対応できる介護保険サービス等の基盤整備が必要です。

推計高齢者人口（前期・後期別）

		実績値 (再掲)	推計値						
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和10年	令和14年	令和17年
人数 (人)	高齢者人口	29,024	29,780	30,348	30,755	31,205	31,919	32,720	33,117
	前期高齢者	15,703	15,651	15,817	15,500	15,382	15,132	14,422	14,603
	後期高齢者	13,321	14,129	14,531	15,255	15,823	16,787	18,298	18,514
構成比 (%)	前期高齢者	54.1	52.6	52.1	50.4	49.3	47.4	44.1	44.1
	後期高齢者	45.9	47.4	47.9	49.6	50.7	52.6	55.9	55.9

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率：令和2→令和4平均）

推計高齢者人口（前期・後期別）



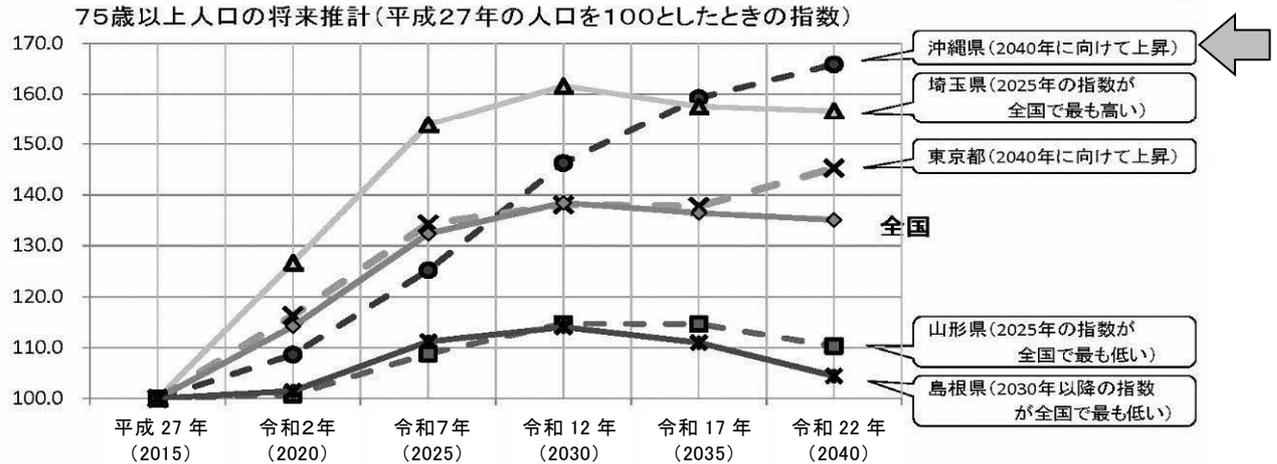
【参考】

2025年までの各地域の高齢化の状況

○75歳以上人口は、多くの都道府県で2025年頃までは急速に上昇するが、その後の上昇は緩やかで、2030年頃をピークに減少する。

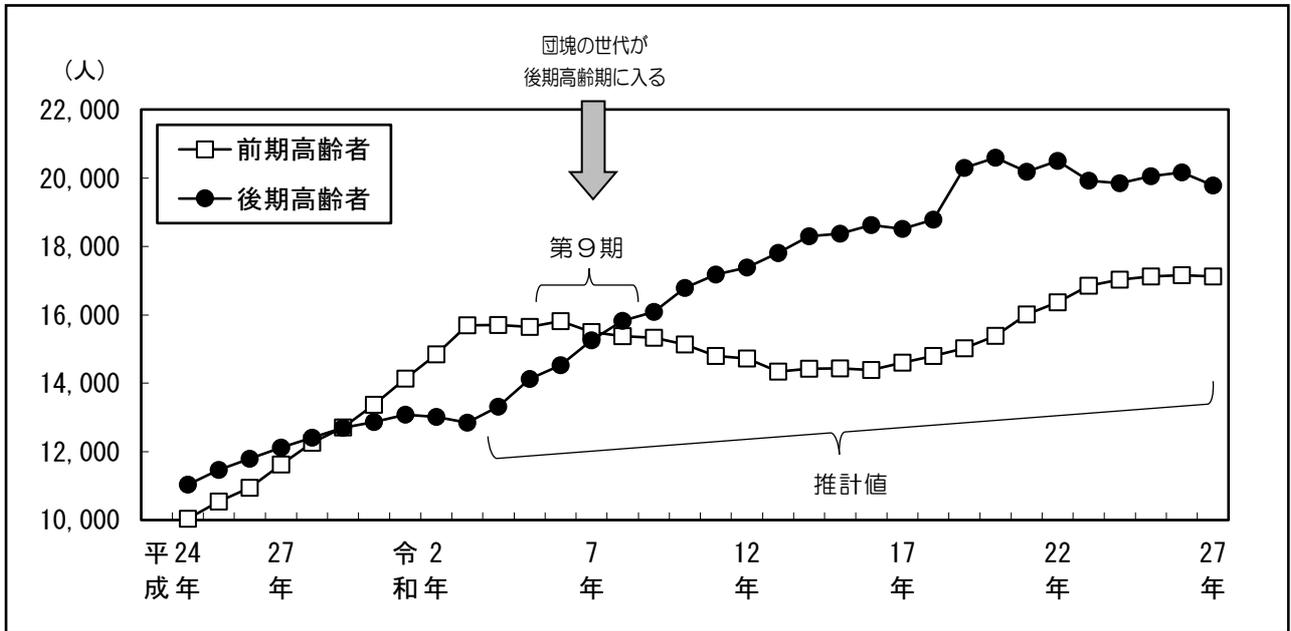
※2030年、2035年、2040年でみた場合、2030年が一番高いのが34道府県、2035年が一番高いのが9県
 ※沖縄県、東京都、神奈川県、滋賀県では、2040年に向けてさらに上昇

○2015年から10年間の伸びの全国計は、1.32倍であるが、埼玉県、千葉県では、1.5倍を超える一方、山形県、秋田県では、1.1倍を下回るなど、地域間で大きな差がある。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」より作成

■うるま市の高齢化の見込み



※平成27年の後期高齢者数を100とした時の令和22年の後期高齢者指数=1.63...2 (全国より大幅に高い)

(5) 人口動態

自然動態は、令和2年度までは、出生数が死亡数を上回って推移していましたが、令和3年度は出生数が減少し、死亡数が出生数を上回ったことにより、初めてマイナスとなっています。社会動態は、各年度とも転入数が転出数を上回っており、増加の状況が続いていますが、転入は令和3年度から、転出は令和2年度から前年度を下回る状況となっています。

本市の人口は、毎年増加を続けていますが、自然動態による増減は減少傾向にあります。

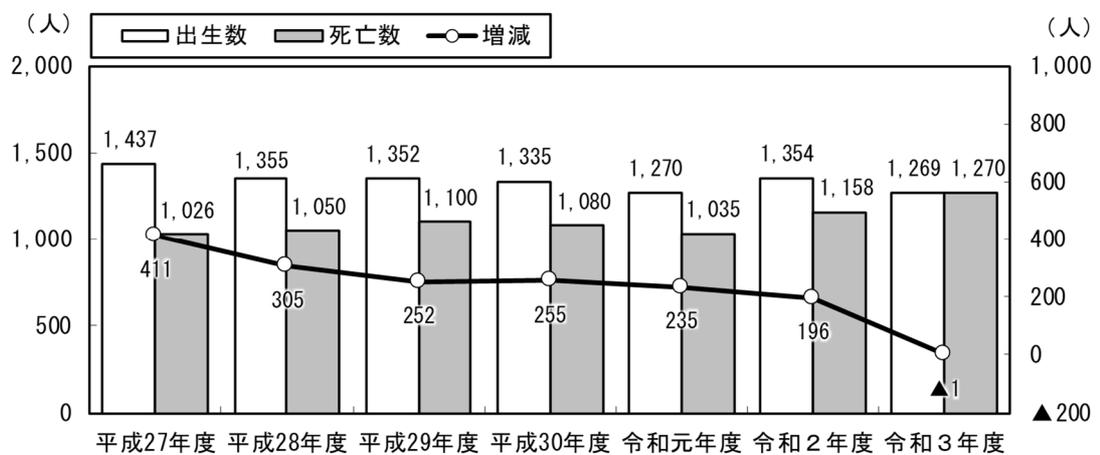
人口動態

単位：人

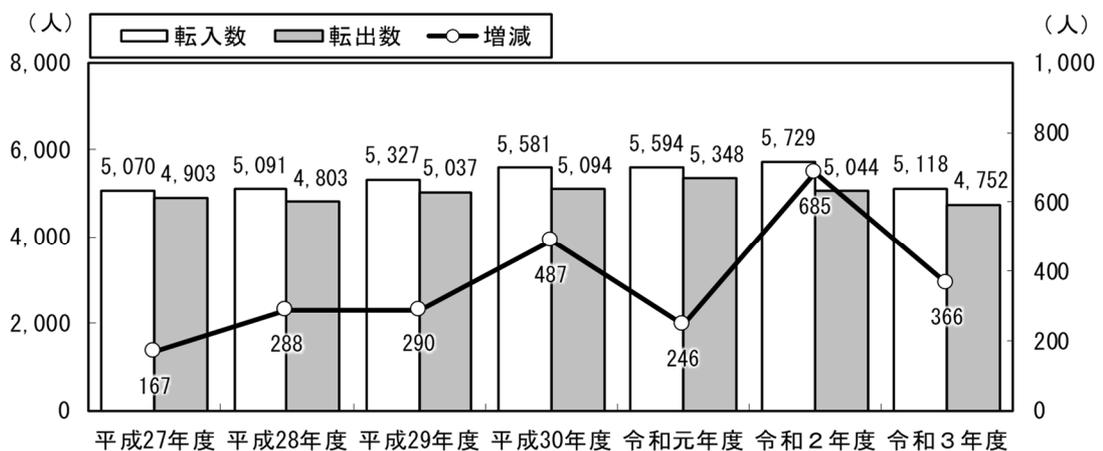
	自然動態			社会動態			増減
	出生数	死亡数	増減	転入数	転出数	増減	
平成27年度	1,437	1,026	411	5,070	4,903	167	578
平成28年度	1,355	1,050	305	5,091	4,803	288	593
平成29年度	1,352	1,100	252	5,327	5,037	290	542
平成30年度	1,335	1,080	255	5,581	5,094	487	742
令和元年度	1,270	1,035	235	5,594	5,348	246	481
令和2年度	1,354	1,158	196	5,729	5,044	685	881
令和3年度	1,269	1,270	▲1	5,118	4,752	366	365

資料：沖縄県企画部統計課「沖縄県の推計人口」（各年1月～12月まで）

自然動態の推移



社会動態の推移



(6) 第8期計画での人口推計値と実績値の比較

第8期計画で推計した将来人口と、令和3年から令和5年の実績人口を比較すると、どの推計値も実績値に近似しています。

推計値と実績値の比較

		令和3年	令和4年	令和5年
総人口	第8期推計値	125,645	126,149	126,944
	実績人口	125,657	125,876	
	推計値との差	12	▲ 273	
高齢者人口	第8期推計値	28,555	29,015	29,827
	実績人口	28,552	29,024	
	推計値との差	▲ 3	9	
高齢化率	第8期推計値	22.7%	23.0%	23.5%
	実績人口	22.7%	23.1%	
	推計値との差	0.0	0.1	
前期高齢者	第8期推計値	15,710	15,798	15,733
	実績人口	15,698	15,703	
	推計値との差	▲ 12	▲ 95	
後期高齢者	第8期推計値	12,845	13,217	14,094
	実績人口	12,854	13,321	
	推計値との差	9	104	
前期高齢者割合	第8期推計値	55.0%	54.4%	52.7%
	実績人口	55.0%	54.1%	
	推計値との差	0.0	▲ 0.3	
後期高齢者割合	第8期推計値	45.0%	45.6%	47.3%
	実績人口	45.0%	45.9%	
	推計値との差	0.0	0.3	

※「推計値との差」は「実績人口」－「第8期推計値」で算出

2. 世帯の状況

本市の総世帯のうち、高齢者のいる世帯は 20,389 世帯、構成比 37.5%(令和2年)となっております。高齢者のいる世帯は年々増加しており、総世帯に占める割合も上昇で推移しています。

平成25年と比較すると、高齢者のみの世帯と高齢者単身世帯は合わせて 5,005 世帯増加しており、多世代同居等世帯は 328 世帯減少しています。また、総世帯に占める構成比をみると、高齢者のみの世帯と高齢者単身世帯は合わせて 7% 上昇しております。

高齢者単身世帯は 16.0% で多世代同居等世帯を上回っており、また、高齢者のみの世帯と高齢者単身世帯を合わせて 13,162 世帯(24.3%) で総世帯の約 4 分の 1 を占めます。高齢者の孤立対策(見守りや支え合い)が大きな課題となります。

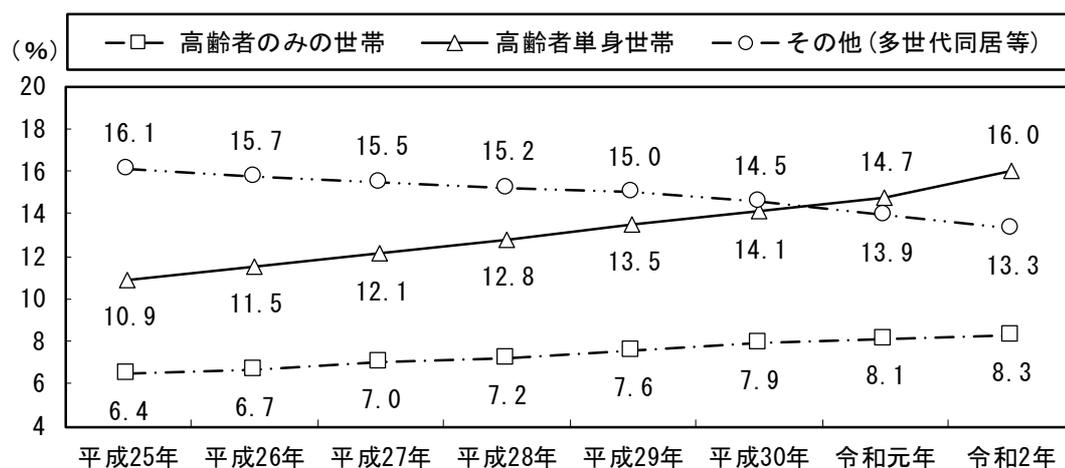
高齢者世帯の推移

		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
世帯数 (世帯)	高齢者のいる世帯	15,712	16,352	16,981	17,644	18,233	18,852	19,553	20,389
	高齢者のみの世帯	3,023	3,211	3,442	3,608	3,830	4,083	4,326	4,490
	高齢者単身世帯	5,134	5,557	5,939	6,407	6,823	7,263	7,825	8,672
	その他(多世代同居等)	7,555	7,584	7,600	7,629	7,580	7,506	7,402	7,227
	総世帯	47,009	48,276	49,116	50,122	50,628	51,619	53,239	54,315
構成比 (%)	高齢者のいる世帯	33.4	33.9	34.6	35.2	36.0	36.5	36.7	37.5
	高齢者のみの世帯	6.4	6.7	7.0	7.2	7.6	7.9	8.1	8.3
	高齢者単身世帯	10.9	11.5	12.1	12.8	13.5	14.1	14.7	16.0
	その他(多世代同居等)	16.1	15.7	15.5	15.2	15.0	14.5	13.9	13.3

資料：高齢者福祉関係基礎資料（各年10月1日現在）

※構成比はすべて総世帯数に対する比率

高齢者世帯の推移



高齢者の独居率を日常生活圏域別にみると、具志川北地区が33.6%、石川地区が33.3%で、他の地区より高くなっています。そのほかの圏域も概ね30%前後の独居率となっていますが、具志川東地区は27.8%であり、最も独居率が低いです。

日常生活圏域別独居高齢者世帯数

日常生活圏域	独居高齢者世帯			独居率(%)
	男性	女性	合計	
石川地区	581	871	1,452	33.3%
具志川北地区	558	794	1,352	33.6%
具志川東地区	485	618	1,103	27.8%
具志川西地区	453	786	1,239	30.2%
具志川南地区	482	761	1,243	29.1%
与勝西地区	479	608	1,087	29.6%
与勝東地区	470	526	996	31.4%
合計	3,508	4,964	8,472	30.7%

資料：うるま市福祉事務所概要より(令和2年3月31日現在)

※老人ホーム等施設入所者および外国人登録者を含みます。

※独居率は、65歳以上高齢者における比率です。

3. 就労の状況

就労している高齢者数は4,951人(令和2年)であり、高齢者の17.7%を占めています。

平成12年を起点にみると、平成22年までは、就労者数は192人増で微増、就労割合は▲2.3%と減少傾向でしたが、平成27年からは就労者数・就労割合ともに上昇に転じており、令和2年では、就労者数は4,951人で2,946人増、就労割合は17.7%で4.7%増と大幅に上昇しています。

しかしながら、沖縄県全体の21.7%と比較すると就労割合が4%低く、本市における高齢者の雇用の場の確保が課題と言えます。

高齢者の就労状況の推移

		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	沖縄県 令和2年
		人数 (人)	総労働者数	43,784	43,587	42,823	45,519
高齢者人口	15,427		18,376	20,445	23,623	28,050	
就労している高齢者数	2,005		2,190	2,197	3,550	4,951	
65歳～74歳	1,659		1,807	1,747	2,862	4,134	
75歳以上	346		383	450	688	817	
構成比 (%)	就労している高齢者の割合	13.0	11.9	10.7	15.0	17.7	21.7
	労働者全体に占める高齢者の割合	4.6	5.0	5.1	7.8	11.8	12.2

資料：国勢調査

※「就労している高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷高齢者人口

※「労働者全体に占める高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷総労働者数

高齢者の就労状況を、産業別就業者数(構成比)でみると、令和2年では「サービス業」が1,622人(32.8%)で最も大きいほか、次いで、「卸売・小売・飲食業」が806人(16.3%)、「建設業」が584人(11.8%)となっています。

平成12年と比較すると、「サービス業」が1,218人(12.7%)増、「建設業」が464人(5.8%)増と就業者数・就業割合ともに上昇しています。「卸売・小売・飲食業」は、就業者数は385人増加していますが、就業割合は▲4.7%と減少しています。「農業」は、就業者数・就業割合とも▲352人(▲29.8%)と大きく減少しています。

高齢者の産業別就業者の状況が大きく変化しており、実態に応じた対応策を検討する必要があります。

高齢者の産業別就業者の状況

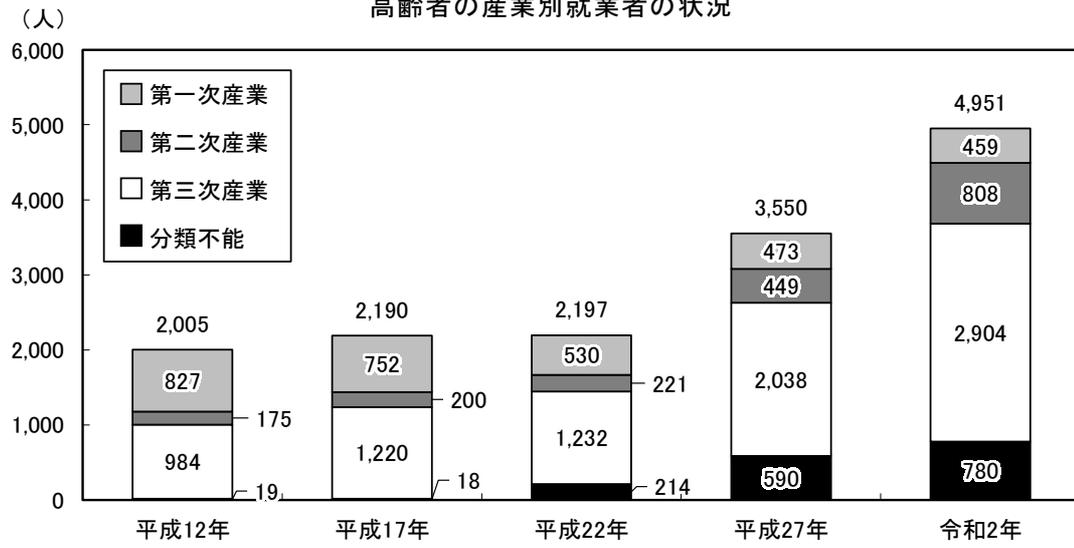
	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年		令和2年	
	(人)	構成比(%)	県(%)	国(%)								
総数	2,005	—	2,190	—	2,197	—	3,550	—	4,951	—	—	—
第一次産業	827	41.2	752	34.3	530	24.1	473	13.3	459	9.3	13.6	11.9
農業	763	38.1	680	31.1	479	21.8	433	12.2	411	8.3	12.8	11.2
林業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.2
漁業	64	3.2	72	3.3	51	2.3	40	1.1	48	1.0	0.9	0.5
第二次産業	175	8.7	200	9.1	221	10.1	449	12.6	808	16.3	13.8	18.5
鉱業	1	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	4	0.1	0.1	0.0
建設業	120	6.0	141	6.4	137	6.2	321	9.0	584	11.8	9.0	8.7
製造業	54	2.7	59	2.7	84	3.8	126	3.5	220	4.4	4.6	9.8
第三次産業	984	49.1	1,220	55.7	1,232	56.1	2,038	57.4	2,904	58.7	64.7	63.2
電気・ガス・熱供給・水道	2	0.1	4	0.2	3	0.1	6	0.2	14	0.3	0.1	0.2
運輸・通信業	96	4.8	138	6.3	151	6.9	243	6.8	273	5.5	6.9	5.1
卸売・小売・飲食業	421	21.0	483	22.1	405	18.4	601	16.9	806	16.3	19.5	19.9
金融・保険業	8	0.4	9	0.4	11	0.5	13	0.4	21	0.4	0.8	0.9
不動産業	10	0.5	23	1.1	55	2.5	81	2.3	109	2.2	4.0	4.4
サービス業	404	20.1	509	23.2	567	25.8	1,033	29.1	1,622	32.8	31.7	31.7
公務(他に分類されないもの)	43	2.1	54	2.5	40	1.8	61	1.7	59	1.2	1.6	1.0
分類不能	19	0.9	18	0.8	214	9.7	590	16.6	780	15.8	7.9	6.3

資料：国勢調査

※項目は平成12年の分類。平成17年、平成22年は分類が変更されていますが、以下のように合算いたしました。

- 平成17年
1. 「情報通信業」「運輸業」→【運輸・通信業】
 2. 「卸売・小売業」「飲食店・宿泊業」→【卸売・小売・飲食業】
 3. 「医療・福祉」「教育・学習支援業」「複合サービス事業」「サービス業(他に分類されないもの)」→【サービス業】
- 平成22年
1. 「情報通信業」「運輸業、郵便業」→【運輸・通信業】
 2. 「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」→【卸売・小売・飲食業】
 3. 「学術研究、専門・技術サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療・福祉」「複合サービス事業」「サービス業(他に分類されないもの)」→【サービス業】

高齢者の産業別就業者の状況



4. 老人クラブ

高齢者数は増加を続けていますが、老人クラブの加入者数は年々減少しています。平成30年度は7,389人でしたが、令和3年度には6,061人となっています。また、単位老人クラブでは休会が増えており、令和3年度は18か所が休会しています。圏域別にみると、石川地区、具志川北地区、具志川西地区では休会がありませんが、具志川東地区では3か所、具志川南地区と与勝西地区では4か所、与勝東地区では7か所が休会しています。

各老人クラブ会員数

単位：人

NO	自治会名	クラブ名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	曙	曙区老人クラブ	133	129	130	123
2	南栄	南栄区老人クラブ	84	85	99	81
3	城北	城北区老人クラブ	77	77	74	75
4	中央	中央区老人クラブ	102	106	108	98
5	松島	松島区老人クラブ	105	107	96	98
6	宮前	宮前区老人クラブ	69	66	65	62
7	東山	東山区老人クラブ	102	99	65	64
8	旭	旭区老人クラブ	63	71	74	70
9	港	港区老人クラブ	78	69	65	59
10	伊波	伊波区老人クラブ	110	114	105	92
11	嘉手苺	嘉手苺区老人クラブ	40	40	40	40
12	山城	山城区老人クラブ	68	67	78	83
	石川地区		1,031	1,030	999	945
13	天願	天願老人クラブ清流会	218	211	196	196
14	昆布	昆布老人クラブ	127	123	97	97
15	栄野比	栄野比老人クラブ	232	276	266	266
16	川崎	川崎老人クラブ若水会	155	179	173	173
17	みどり町1・2	みどり町1・2丁目むつみクラブ	107	93	35	35
18	みどり町3・4	みどり町3・4丁目老人クラブ	127	99	99	99
19	みどり町5・6	みどり町5・6丁目老人クラブ	161	276	69	69
20	石川前原	前原区老人クラブ	113	112	118	113
21	東恩納	東恩納区老人クラブ	155	155	158	155
22	美原	美原区老人クラブ	67	60	53	56
	具志川北地区		1,462	1,584	1,264	1,259
23	具志川	具志川黄金友	174	161	258	258
24	田場	田場老人クラブ	377	433	382	382
25	赤野	赤野楽寿会	休会	休会	休会	休会
26	宇堅	宇堅老人クラブ	休会	休会	休会	休会
27	上江洲	上江洲老人クラブ福栄会	140	138	131	131
28	大田	大田老人クラブ	休会	休会	休会	休会
29	川田	川田老人クラブ	97	114	91	91
	具志川東地区		788	846	862	862

NO	自治会名	クラブ名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
30	安慶名	安慶名老人クラブ	274	329	317	317
31	平良川	平良川命伸会	298	298	264	264
32	西原	西原区願寿会	73	164	113	113
33	上平良川	上平良川老人クラブ	199	187	236	236
34	兼箇段	兼箇段老人クラブ	113	92	87	87
35	米原	米原老人クラブ	165	122	174	174
36	喜仲	喜仲老人クラブ	237	235	226	226
	具志川西地区		1,359	1,427	1,417	1,417
37	赤道	赤道老人クラブ	130	130	103	103
38	江洲	江洲豊和会	335	364	364	364
39	宮里	宮里ことぶき会	休会	休会	休会	休会
40	塩屋	塩屋老人クラブ	休会	休会	休会	休会
41	豊原	豊原老人クラブ長生会	223	休会	休会	休会
42	高江洲	高江洲老人クラブ	124	117	76	76
43	前原	前原老人クラブ長寿会	休会	休会	休会	休会
44	志林川	志林川かりゆし会	143	139	121	121
45	新赤道	新赤道老人クラブ	126	128	107	107
	具志川南地区		1,081	878	771	771
46	南風原	南風原長寿クラブ	304	218	255	255
47	平安名	平安名長寿クラブ	839	506	休会	休会
48	内間	内間寿クラブ	休会	休会	休会	休会
49	平敷屋	平敷屋長寿クラブ	休会	休会	休会	休会
50	津堅	津堅長寿クラブ	休会	休会	休会	休会
51	与那城西原	与那城西原老人クラブ	136	181	181	181
	与勝西地区		1,279	905	436	436
52	浜	浜更生クラブ	96	76	62	休会
53	比嘉	比嘉若寿会	20	20	23	23
54	照間	照間老人クラブ	休会	休会	休会	休会
55	与那城	与那城区老人クラブ	休会	休会	休会	休会
56	饒辺	饒辺老人クラブ	休会	休会	休会	休会
57	屋慶名	屋慶名区老人クラブ	20	25	30	30
58	平安座	平安座老人クラブ	181	206	203	203
59	桃原	桃原老人クラブ	72	70	70	70
60	上原	上原老人クラブ	休会	休会	休会	休会
61	宮城	宮城老人クラブ	休会	休会	休会	45
62	池味	池味老人クラブ	休会	休会	休会	休会
63	伊計	伊計老人クラブ	休会	休会	休会	休会
	与勝東地区		389	397	388	371
	合計		7,389	7,067	6,137	6,061

資料：うるま市福祉事務所概要

※令和3年度 活動中老人クラブ45クラブ、休会中老人クラブ18クラブ

第2節 介護保険サービスの状況

1. 要介護認定の状況

(1) 要介護認定者数の推移

介護保険の要介護認定者数は年々増加しており、令和3年10月では5,553人となっています。また、認定者5,553人のうち、第1号被保険者は5,393人、第2号被保険者は160人となっています。

第1号被保険者の認定者を前期高齢者・後期高齢者別にみると、後期高齢者の割合が8割半ばとなっており、認定者のほとんどが後期高齢者であることがわかります。

認定率は、平成27年には20.1%へと上昇しましたが、28年以降減少傾向となり、令和3年には18.9%となっています。認定率は県より高く、国とはほぼ同率となっています。

認定率(令和3年)を前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者は5.4%、後期高齢者は35.3%となっており、75歳以上の後期高齢者になると介護が必要となる割合が急増することがわかります。

要介護認定者数の推移

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
人数 (人)	認定者数	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293	5,332	5,553
	第1号被保険者	4,531	4,764	4,787	4,895	4,991	5,124	5,174	5,393
	前期高齢者	579	613	650	677	685	702	765	843
	後期高齢者	3,952	4,151	4,137	4,218	4,306	4,422	4,409	4,550
	第2号被保険者	164	161	152	156	162	169	158	160
構成比 (%)	前期高齢者	12.8	12.9	13.6	13.8	13.7	13.7	14.8	15.6
	後期高齢者	87.2	87.1	86.4	86.2	86.3	86.3	85.2	84.4
	認定率(第1号被保険者)	19.9	20.1	19.4	19.2	19.0	18.8	18.6	18.9
	前期高齢者	5.3	5.3	5.3	5.3	5.1	5.0	5.1	5.4
	後期高齢者	33.5	34.3	33.3	33.2	33.4	33.7	33.9	35.3

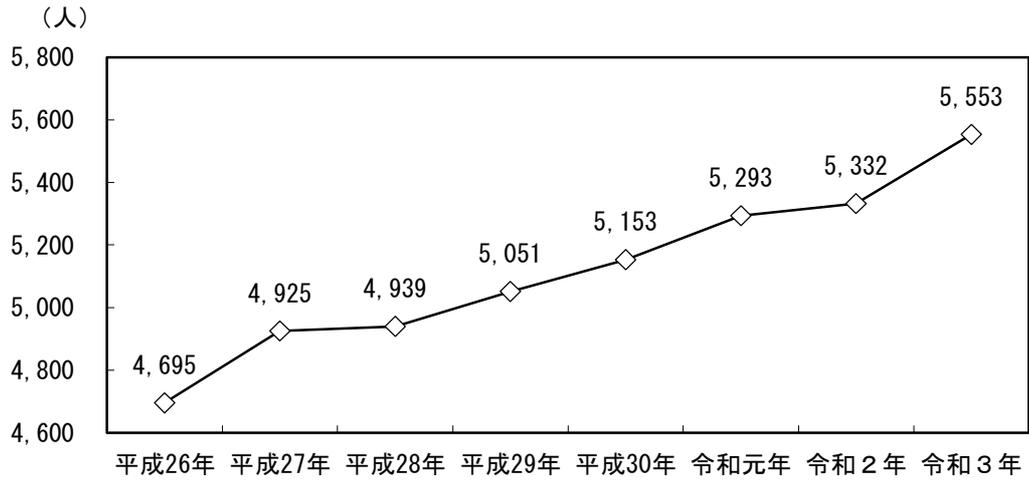
資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

※認定率は、第1号被保険者の認定率として記載(第1号被保険者の認定者数÷第1号被保険者)

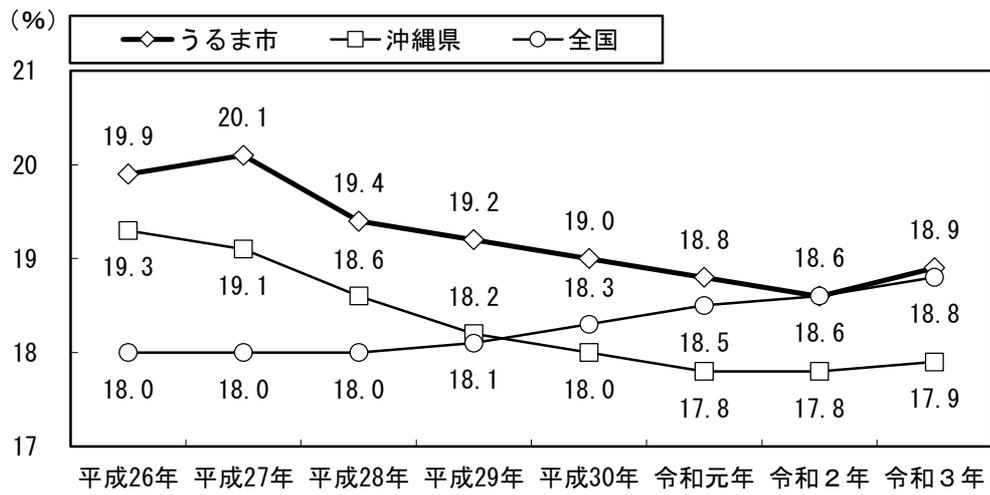
※前期高齢者の認定率＝前期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち前期高齢者数

※後期高齢者の認定率＝後期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち後期高齢者数

認定者数の推移



認定率の推移



(2) 要介護度別認定者数の推移

要介護度別の認定者について構成比で見ると、令和3年では、要介護1が18.6%、要介護4が18.4%を占めており、比較的高くなっています。

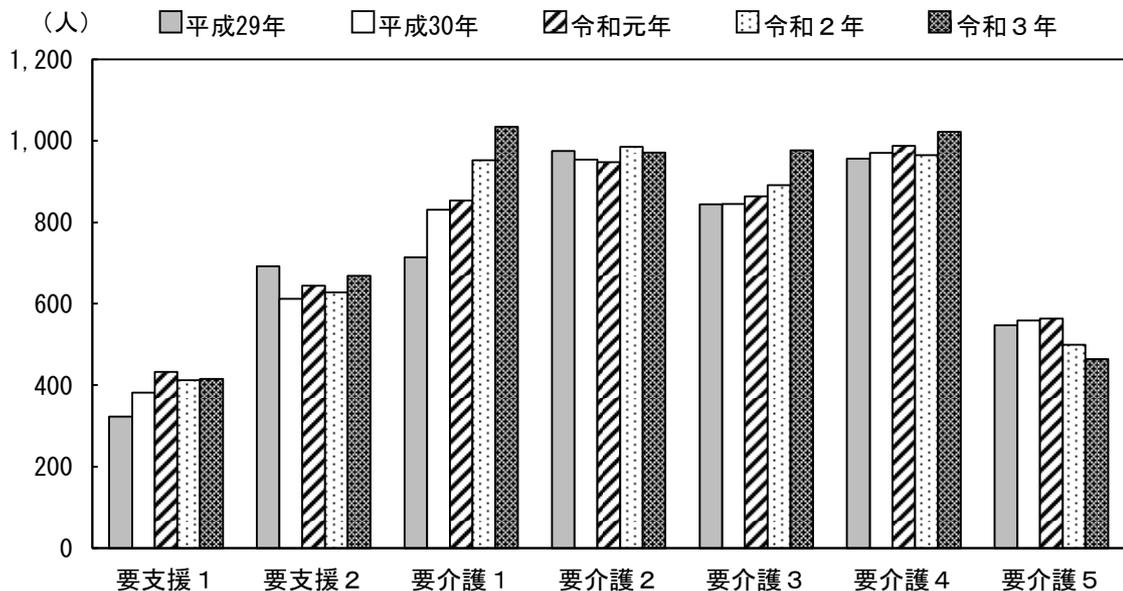
また、認定者数は、要介護1、要介護3、要介護4では増加傾向、要介護5では減少傾向にあります。

要介護度別認定者数

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
人数 (人)	認定者数	4,695	4,925	4,939	5,051	5,153	5,293	5,332	5,553
	要支援1	430	461	343	323	382	433	412	415
	要支援2	734	772	682	692	612	644	628	669
	要支援(小計)	1,164	1,233	1,025	1,015	994	1,077	1,040	1,084
	要介護1	672	689	686	714	831	853	952	1,035
	要介護2	815	842	917	975	954	948	985	971
	要介護3	692	708	825	844	845	864	891	977
	要介護4	843	893	921	956	970	987	965	1,022
	要介護5	509	560	565	547	559	564	499	464
構成比 (%)	要支援1	9.2	9.4	6.9	6.4	7.4	8.2	7.7	7.5
	要支援2	15.6	15.7	13.8	13.7	11.9	12.2	11.8	12.0
	要支援(小計)	24.8	25.0	20.8	20.1	19.3	20.3	19.5	19.5
	要介護1	14.3	14.0	13.9	14.1	16.1	16.1	17.9	18.6
	要介護2	17.4	17.1	18.6	19.3	18.5	17.9	18.5	17.5
	要介護3	14.7	14.4	16.7	16.7	16.4	16.3	16.7	17.6
	要介護4	18.0	18.1	18.6	18.9	18.8	18.6	18.1	18.4
	要介護5	10.8	11.4	11.4	10.8	10.8	10.7	9.4	8.4

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

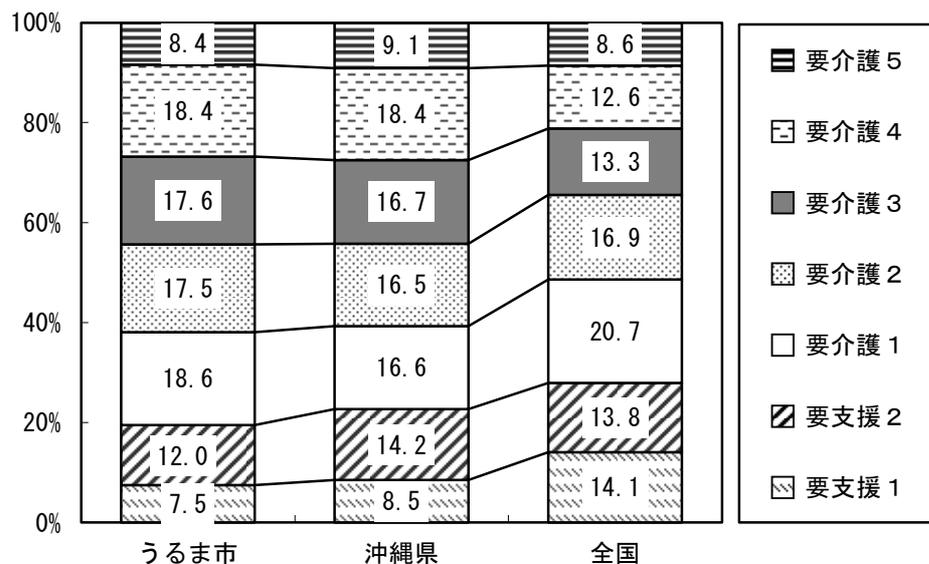
要介護度別の認定者数の推移



中度者、重度者の占める割合については、県や全国の数より高くなっています。また要介護4、要介護5の重度者は、市では26.8%であるのに対し、県は27.5%、全国は21.2%であり、県より下回っているものの全国を上回っています。

一方、要支援および要介護1の軽度者については、市では38.1%であるのに対し、県は39.3%、全国は48.6%であり、県や全国を下回っています。

要介護度別認定者の状況（令和3年10月）



(3) 所得段階別要介護認定の状況

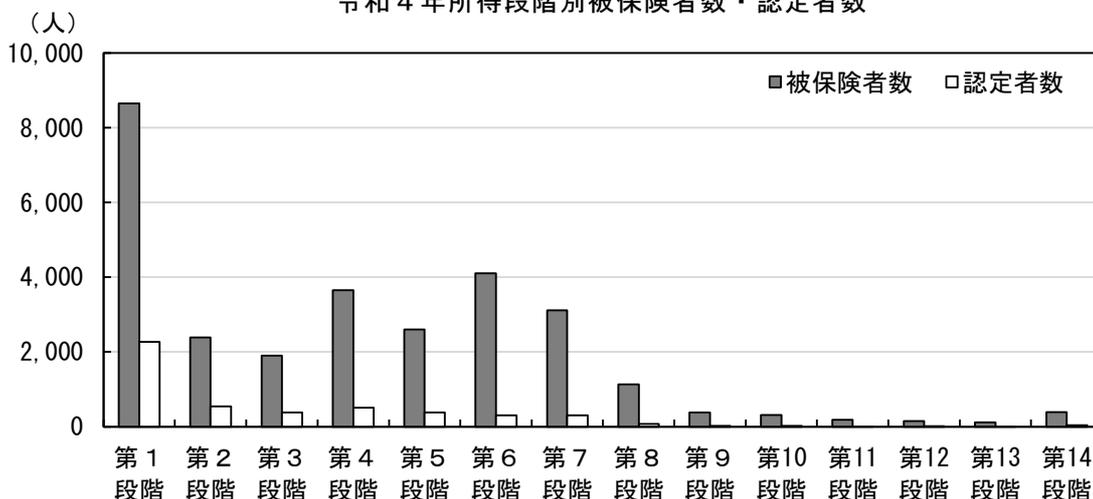
① 所得段階別の要介護・要支援認定者数および認定率

所得段階別被保険者数をみると、被保険者全体(29,084人)に占める第1段階～第3段階(12,945人)の非課税世帯の割合は44.5%と半数近くを占めています。中でも第1段階(8,651人)は約29.7%を占めており、高齢者の多くが低所得者であることがわかります。

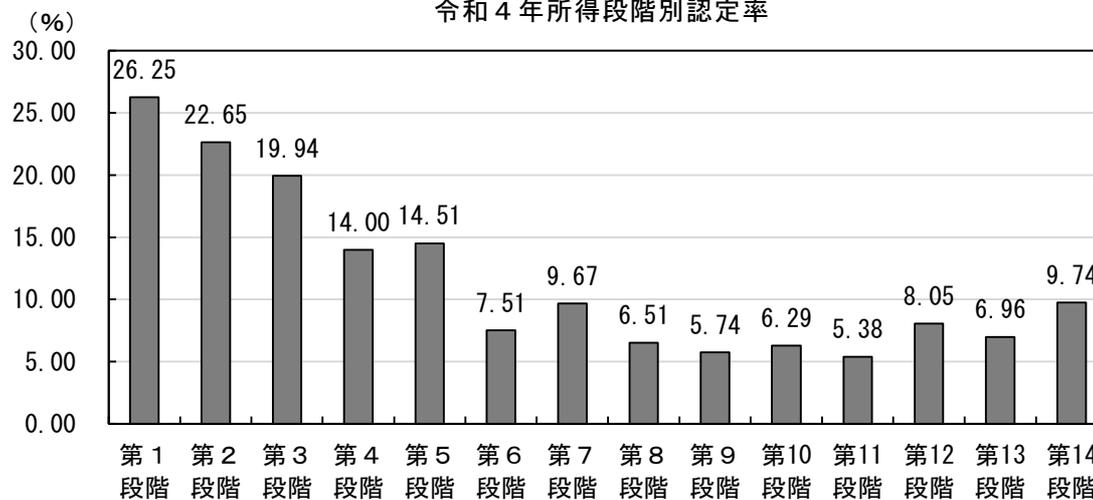
要介護・要支援認定者全体(4,873人)に占める第1段階～第3段階(3,192人)の割合は65.5%であり、それぞれの所得段階における認定率は、第1段階では26.25%、第2段階では22.65%と、第6段階以上の所得段階の認定率が10%未満であるのに対し、所得段階が低いほど認定率が高い状況にあります。

また、非課税世帯と課税世帯で認定率を比べると、非課税世帯の認定率は24.66%、課税世帯の認定率は10.42%であり、その差は2.37倍となっています。

令和4年所得段階別被保険者数・認定者数



令和4年所得段階別認定率



所得段階別の要介護・要支援認定者数および認定率（R4.12.16集計） 単位：人、%

所得段階	非課税世帯			課税世帯										
	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	第7段階	第8段階	第9段階	第10段階	第11段階	第12段階	第13段階	第14段階
被保険者数	8,651	2,388	1,906	3,649	2,599	4,101	3,113	1,136	383	318	186	149	115	390
	12,945			16,139										
認定者数	2,271	541	380	511	377	308	301	74	22	20	10	12	8	38
	3,192			1,681										
認定率	26.25	22.65	19.94	14	14.51	7.51	9.67	6.51	5.74	6.29	5.38	8.05	6.96	9.74
	24.66			10.42										

②重度の要介護者と所得段階別人数との関係

要介護3以上の認定者全体(2,176人)に占める第1段階～第3段階(1,521人)の割合は69.9%であり、重度の要介護者に占める非課税世帯の割合が非常に高くなっています。

非課税世帯における要介護者の割合が高い要因を分析するとともに、この層に対する介護予防や重度化防止の取組、あるいは高齢となる前又は介護認定となる前の健康づくり・健康管理の取組を検討する必要があります。また、所得と介護との相関関係がみえることから、市民の所得向上対策の観点も必要といえます。

(R4.12.16集計)

所得段階		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要介護3～5	全体に占める割合	
非課税世帯	第1段階 (うち生保)	171 (68)	227 (55)	402 (142)	365 (120)	462 (177)	432 (129)	212 (69)	2,271 (760)	1,106 (375)	50.8% (17.2%)	69.9%
	第2段階	42	84	101	83	84	105	42	541	231	10.6%	
	第3段階	25	43	62	66	56	92	36	380	184	8.5%	
課税世帯	第4段階	46	58	92	97	98	79	41	511	218	10.0%	30.1%
	第5段階	32	57	63	83	55	61	26	377	142	6.5%	
	第6段階	29	43	65	60	49	53	9	308	111	5.1%	
	第7段階	23	51	71	33	50	55	18	301	123	5.7%	
	第8段階	9	8	15	16	11	10	5	74	26	1.2%	
	第9段階	0	6	6	4	3	2	1	22	6	0.3%	
	第10段階	1	5	3	3	6	1	1	20	8	0.4%	
	第11段階	1	1	3	2	1	0	2	10	3	0.1%	
	第12段階	0	3	4	3	1	1	0	12	2	0.1%	
	第13段階	0	0	3	1	2	2	0	8	4	0.2%	
	第14段階	4	4	10	8	4	5	3	38	12	0.6%	
計		383	590	900	824	882	898	396	4,873	2,176	100%	100%

(4) 他保険者との比較

① 他保険者との比較（認定率（調整済み認定率・要介護度別））

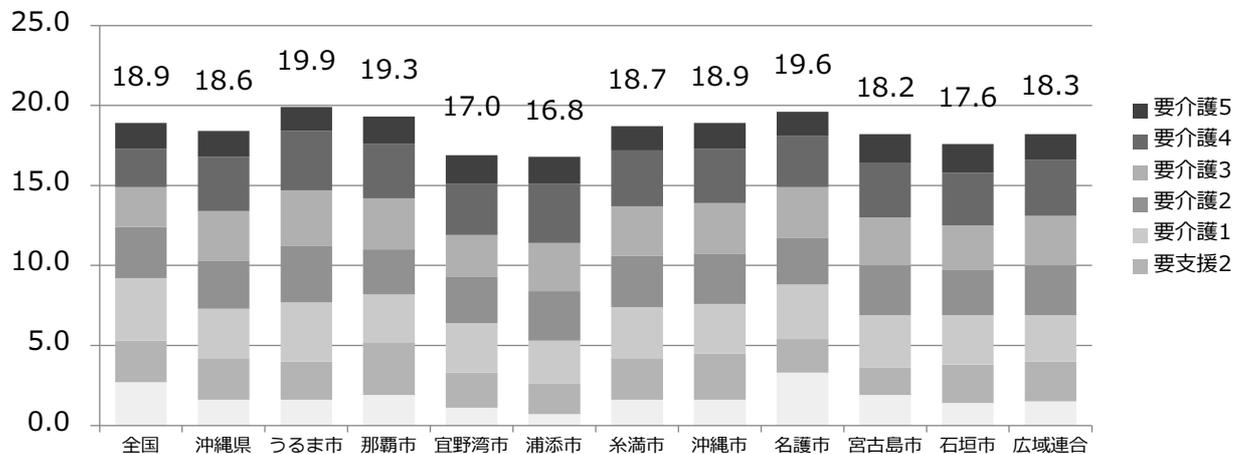
7) 近隣保険者との比較

介護保険の認定率(被保険者に占める認定者の割合)について他保険者と比べてみました。
(調整済み認定率=加齢とともに介護ニーズが上がるため、年齢調整により保険者の年齢構成の差を除いたもの)

令和4年時点における本市の認定率は19.9%であり、県内保険者(多良間村、与那国町、竹富町除く)の中で最も高くなっています。また、全国(18.9%)も上回っており、本市では介護保険サービスを必要とする方が比較的多いことがわかります。

要介護度別にみると、要介護1から要介護4までは本市の方が高くなっていますが、要介護5では他保険者の方が概ね高くなっています。

調整済み認定率（要介護度別）



(時点) 令和4年(2022年)
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和元年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

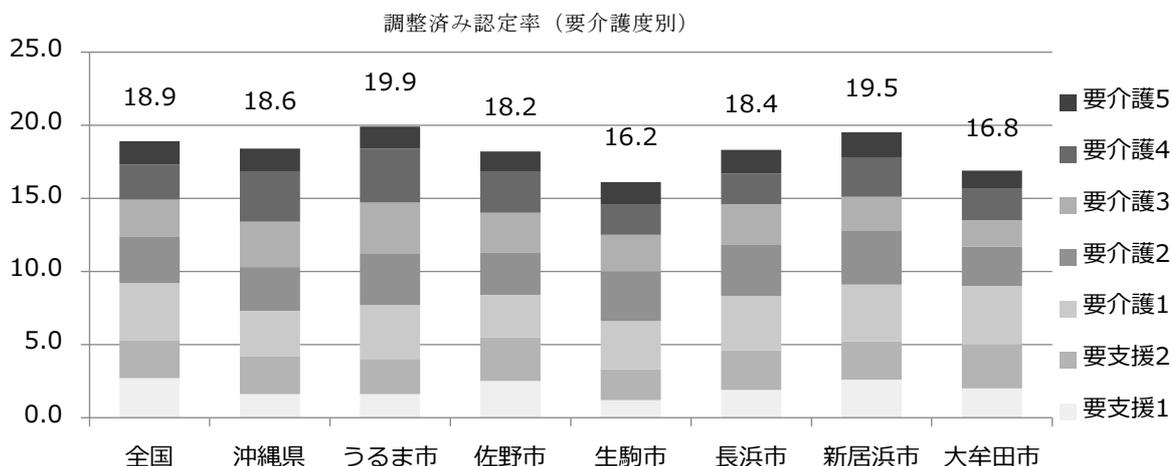
単位：%

		全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
調整済み認定率	要支援1	2.7	1.6	1.6	1.9	1.1	0.7	1.6	1.6	3.3	1.9	1.4	1.5
	要支援2	2.6	2.6	2.4	3.3	2.2	1.9	2.6	2.9	2.1	1.7	2.4	2.5
	経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	3.9	3.1	3.7	3.0	3.1	2.7	3.2	3.1	3.4	3.3	3.1	2.9
	要介護2	3.2	3.0	3.5	2.8	2.9	3.1	3.2	3.1	2.9	3.1	2.8	3.1
	要介護3	2.5	3.1	3.5	3.2	2.6	3.0	3.1	3.2	3.2	3.0	2.8	3.1
	要介護4	2.4	3.4	3.7	3.4	3.2	3.7	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3	3.5
	要介護5	1.6	1.6	1.5	1.7	1.8	1.7	1.5	1.6	1.5	1.8	1.8	1.6
	合計調整済み認定率	18.9	18.6	19.9	19.3	17	16.8	18.7	18.9	19.6	18.2	17.6	18.3
対うるま市	要支援1	1.1	0.0	—	0.3	▲0.5	▲0.9	0.0	0.0	1.7	0.3	▲0.2	▲0.1
	要支援2	0.2	0.2	—	0.9	▲0.2	▲0.5	0.2	0.5	▲0.3	▲0.7	0.0	0.1
	経過的要介護	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護1	0.2	▲0.6	—	▲0.7	▲0.6	▲1.0	▲0.5	▲0.6	▲0.3	▲0.4	▲0.6	▲0.8
	要介護2	▲0.3	▲0.5	—	▲0.7	▲0.6	▲0.4	▲0.3	▲0.4	▲0.6	▲0.4	▲0.7	▲0.4
	要介護3	▲1.0	▲0.4	—	▲0.3	▲0.9	▲0.5	▲0.4	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲0.7	▲0.4
	要介護4	▲1.3	▲0.3	—	▲0.3	▲0.5	0.0	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.3	▲0.4	▲0.2
	要介護5	0.1	0.1	—	0.2	0.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.3	0.3	0.1
合計調整済み認定率	▲1.0	▲1.3	—	▲0.6	▲2.9	▲3.1	▲1.2	▲1.0	▲0.3	▲1.7	▲2.3	▲1.6	

1) 人口規模が近い保険者との比較

本市と人口規模が近い全国の保険者を比べると、本市の認定率は6保険者の中で最も高く、2位とは0.4ポイントの差があります。また、最も認定率の低い保険者とは3.7ポイントの差があります。

要介護度別にみると、要支援者は生駒市以外の他保険者より本市の認定率の方が低くなっていますが、要介護者では、概ね本市の方が高く、特に要介護4でその差が大きいです。



(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

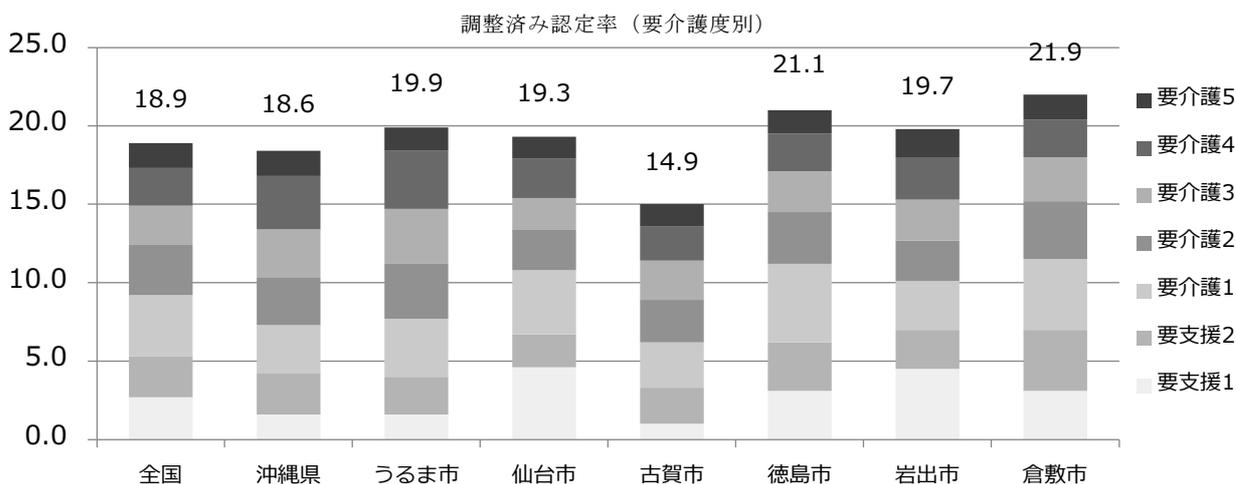
単位：%

		全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
調整済み認定率	要支援1	2.7	1.6	1.6	2.5	1.2	1.9	2.6	2.0
	要支援2	2.6	2.6	2.4	3.0	2.1	2.7	2.6	3.0
	経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	3.9	3.1	3.7	2.9	3.3	3.7	3.9	4.0
	要介護2	3.2	3.0	3.5	2.9	3.4	3.5	3.7	2.7
	要介護3	2.5	3.1	3.5	2.7	2.5	2.8	2.3	1.8
	要介護4	2.4	3.4	3.7	2.8	2.1	2.1	2.7	2.2
	要介護5	1.6	1.6	1.5	1.4	1.5	1.6	1.7	1.2
	合計調整済み認定率	18.9	18.6	19.9	18.2	16.2	18.4	19.5	16.8
対うるま市	要支援1	1.1	0.0	—	0.9	▲ 0.4	0.3	1.0	0.4
	要支援2	0.2	0.2	—	0.6	▲ 0.3	0.3	0.2	0.6
	経過的要介護	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護1	0.2	▲ 0.6	—	▲ 0.8	▲ 0.4	0.0	0.2	0.3
	要介護2	▲ 0.3	▲ 0.5	—	▲ 0.6	▲ 0.1	0.0	0.2	▲ 0.8
	要介護3	▲ 1.0	▲ 0.4	—	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 1.2	▲ 1.7
	要介護4	▲ 1.3	▲ 0.3	—	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 1.6	▲ 1.0	▲ 1.5
	要介護5	0.1	0.1	—	▲ 0.1	0.0	0.1	0.2	▲ 0.3
	合計調整済み認定率	▲ 1.0	▲ 1.3	—	▲ 1.7	▲ 3.7	▲ 1.5	▲ 0.4	▲ 3.1

ウ) 人口密度に近い保険者との比較

本市と人口密度に近い全国の保険者を比べると、本市の認定率は6保険者の中で3位に位置し、1位とは2.0ポイントの差があります。また、最も認定率の低い保険者とは5.0ポイントの差があります。

要介護度別にみると、要支援者は他保険者より本市の認定率の方が低い傾向となっていますが、要介護者では、要介護3以上では本市の方が概ね高くなっています。



(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

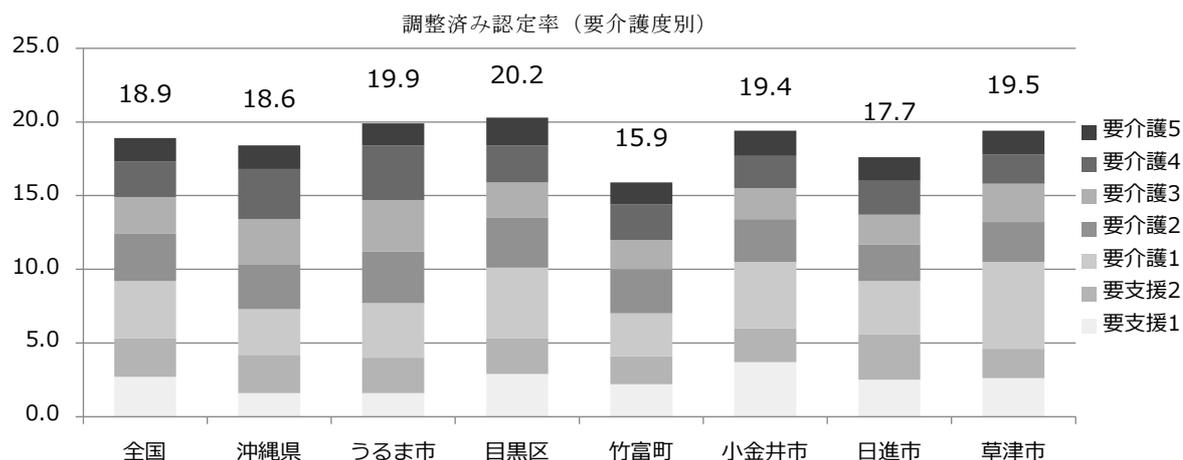
単位：%

	全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市	
調整済み認定率	要支援1	2.7	1.6	1.6	4.6	1.0	3.1	4.5	3.1
	要支援2	2.6	2.6	2.4	2.1	2.3	3.1	2.5	3.9
	経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	3.9	3.1	3.7	4.1	2.9	5.0	3.1	4.5
	要介護2	3.2	3.0	3.5	2.6	2.7	3.3	2.6	3.7
	要介護3	2.5	3.1	3.5	2.0	2.5	2.6	2.6	2.8
	要介護4	2.4	3.4	3.7	2.5	2.2	2.4	2.7	2.4
	要介護5	1.6	1.6	1.5	1.4	1.4	1.5	1.8	1.6
	合計調整済み認定率	1.1	0.0	—	3.0	▲0.6	1.5	2.9	1.5
対うるま市	要支援1	1.1	0.0	—	3.0	▲0.6	1.5	2.9	1.5
	要支援2	0.2	0.2	—	▲0.3	▲0.1	0.7	0.1	1.5
	経過的要介護	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護1	0.2	▲0.6	—	0.4	▲0.8	1.3	▲0.6	0.8
	要介護2	▲0.3	▲0.5	—	▲0.9	▲0.8	▲0.2	▲0.9	0.2
	要介護3	▲1.0	▲0.4	—	▲1.5	▲1.0	▲0.9	▲0.9	▲0.7
	要介護4	▲1.3	▲0.3	—	▲1.2	▲1.5	▲1.3	▲1.0	▲1.3
	要介護5	0.1	0.1	—	▲0.1	▲0.1	0.0	0.3	0.1
合計調整済み認定率	▲1.0	▲1.3	—	▲0.6	▲5.0	1.2	▲0.2	2.0	

I) 高齢化率が近い保険者との比較

本市と高齢化率が近い全国の保険者を比べると、本市の認定率は2位に位置しており、1位とは0.3ポイントの差があります。また、最も認定率の低い保険者とは4.0ポイントの差があります。

要介護度別にみると、要支援者は、他保険者より本市の方が低い傾向となっていますが、要介護者では、要介護2以上は、概ね本市の方が高く、特に要介護3と要介護4でその差が大きくなっています。



(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

単位：%

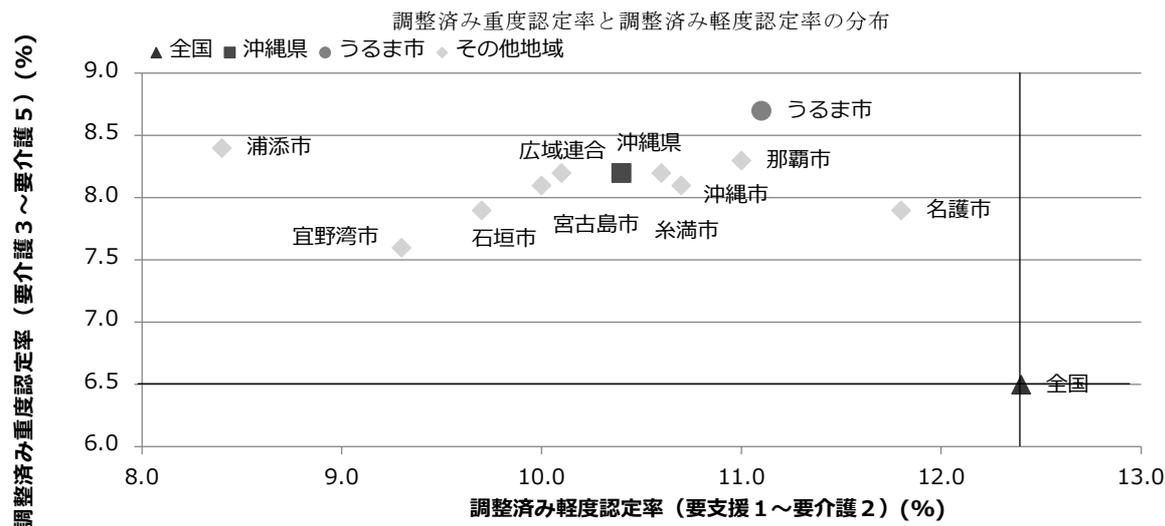
		全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
調整済み認定率	要支援1	2.7	1.6	1.6	2.9	2.2	3.7	2.5	2.6
	要支援2	2.6	2.6	2.4	2.4	1.9	2.3	3.1	2.0
	経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護1	3.9	3.1	3.7	4.8	2.9	4.5	3.6	5.9
	要介護2	3.2	3.0	3.5	3.4	3.0	2.9	2.5	2.7
	要介護3	2.5	3.1	3.5	2.4	2.0	2.1	2.0	2.6
	要介護4	2.4	3.4	3.7	2.5	2.4	2.2	2.3	2.0
	要介護5	1.6	1.6	1.5	1.9	1.5	1.7	1.6	1.6
	合計調整済み認定率	18.9	18.6	19.9	20.2	15.9	19.4	17.7	19.5
対うるま市	要支援1	1.1	0.0	—	1.3	0.6	2.1	0.9	1.0
	要支援2	0.2	0.2	—	0.0	▲ 0.5	▲ 0.1	0.7	▲ 0.4
	経過的要介護	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護1	0.2	▲ 0.6	—	1.1	▲ 0.8	0.8	▲ 0.1	2.2
	要介護2	▲ 0.3	▲ 0.5	—	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.8
	要介護3	▲ 1.0	▲ 0.4	—	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 0.9
	要介護4	▲ 1.3	▲ 0.3	—	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.4	▲ 1.7
	要介護5	0.1	0.1	—	0.4	0.0	0.2	0.1	0.1
合計調整済み認定率	▲ 1.0	▲ 1.3	—	0.3	▲ 4.0	▲ 0.5	▲ 2.2	▲ 0.4	

②他保険者との比較（重度認定率と軽度認定率の分布（調整済み認定率））

7) 近隣保険者との比較

本市の重度認定率と軽度認定率の分布をみると、全国より軽度者(要支援1～要介護2)の認定率は低いものの、重度者(要介護3以上)の認定率が高い位置にあります。

県内の保険者と比べると、重度認定率は1番目に高い位置にあるほか、軽度認定率も名護市に続いて2位に位置しており、本市は、重度者が多いだけでなく、軽度者も比較的多い保険者となっています。

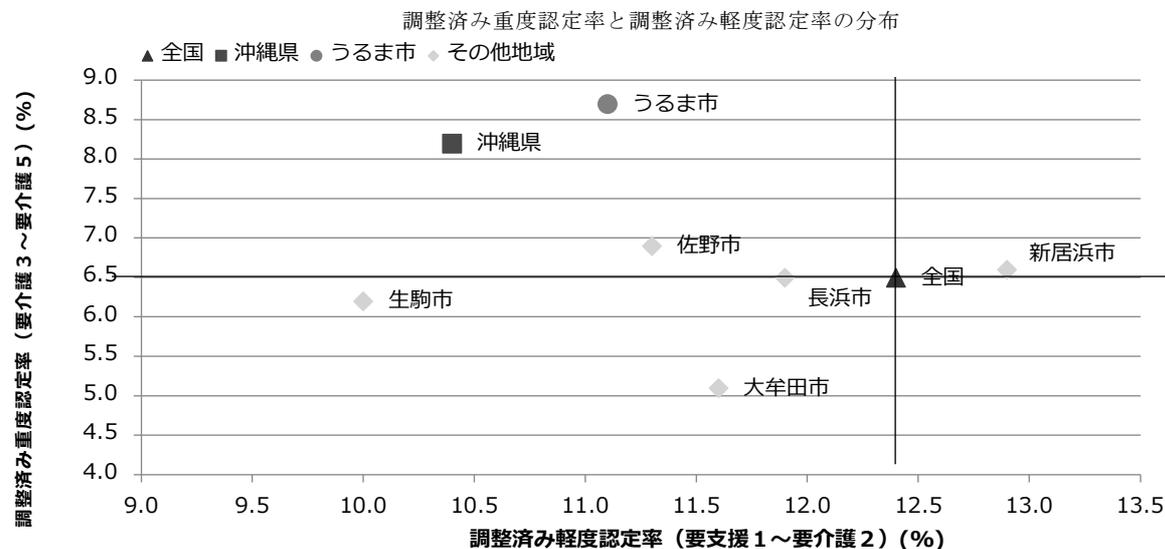


(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

1) 人口規模が近い保険者との比較

本市と人口規模が近い全国の保険者を比べると、重度認定率は最も高い位置にあり、他の保険者は大きく下回っています。軽度認定率は5位に位置しており、比較した6保険者の中で中位となっています。

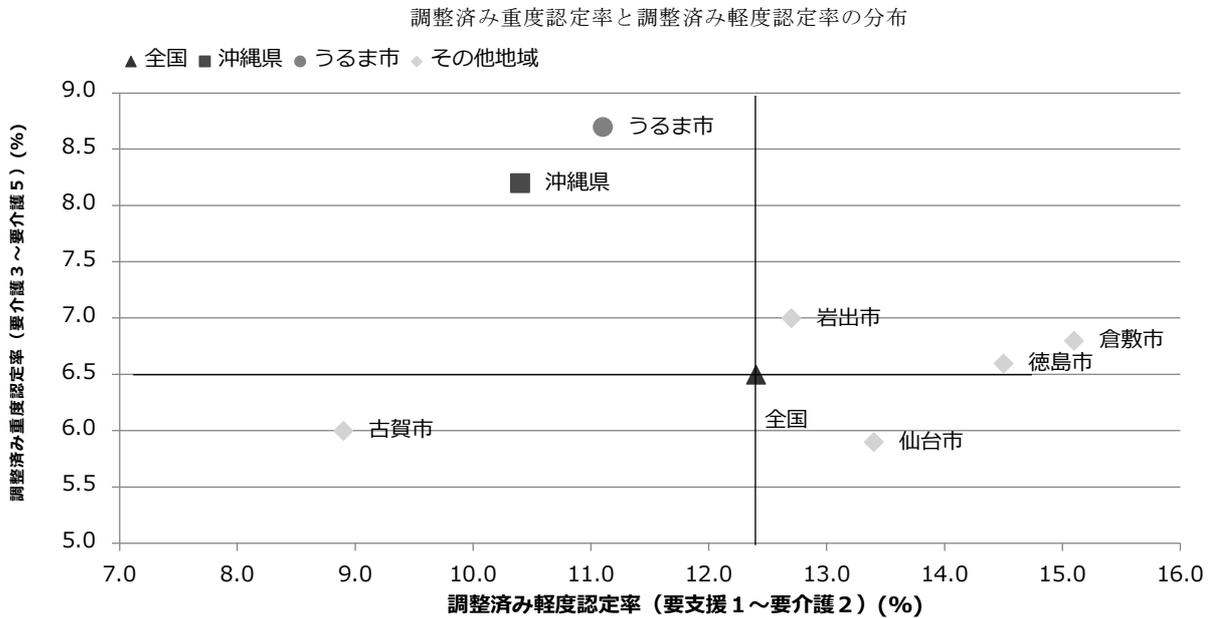


(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

ウ) 人口密度が近い保険者との比較

本市と人口密度が近い全国の保険者を比べると、重度認定率は最も高い位置にあります、軽度認定率は5位に位置しており、比較した6保険者の中で下から2位と低くなっています。

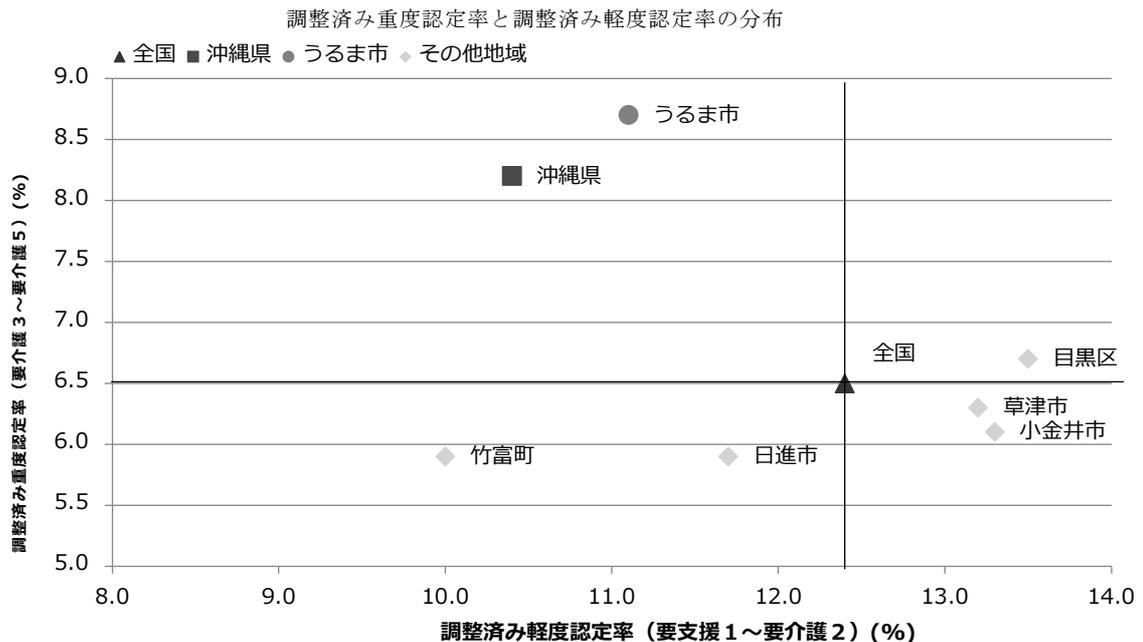


(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

イ) 高齢化率が近い保険者との比較

本市と高齢化率が近い全国の保険者を比べると、重度認定率は最も高く、多くの保険者は本市を大きく下回っています。軽度認定率は5位に位置しており、比較した6保険者の中で下から2位と低くなっています。



(時点) 令和3年(2021年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

2. 介護保険サービスの利用状況

(1) 介護保険サービスの受給者数の推移

サービス類型別に介護保険サービスの受給者数をみると、平成 29 年以降は居宅サービスと地域密着型サービスは増加傾向、施設サービスは微増の後、令和 3 年には減少しています。サービス利用者の大半は居宅サービス受給者であり、受給者の 7 割を占めています。

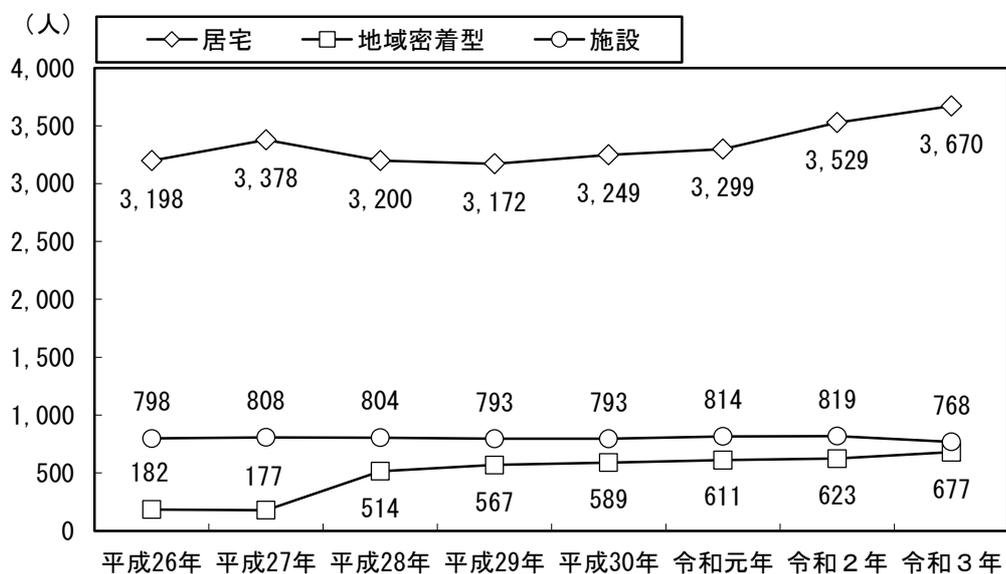
また、平成 28 年には居宅サービス受給者が大幅減、地域密着型サービス受給者が大幅増となっています。制度改正で通所介護のうち小規模の事業所が地域密着型サービスに移行(地域密着型通所介護)し、これにともなって受給者も移行したことが影響しています。

居宅、地域密着型、施設サービス別受給者数

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2 年		令和 3 年	
							構成比 (%)	構成比 (%)		
受給者数(人)	4,178	4,363	4,518	4,532	4,631	4,724	4,971		5,115	
居宅(人)	3,198	3,378	3,200	3,172	3,249	3,299	3,529	71.0	3,670	71.7
地域密着型(人)	182	177	514	567	589	611	623	12.5	677	13.2
施設(人)	798	808	804	793	793	814	819	16.5	768	15.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

介護サービスの受給者数の推移



(2) 居宅サービスの利用状況

居宅サービスのサービス別に1か月あたりの利用人数をみると、福祉用具貸与の利用者が最も多く、次いで通所介護が続いています。これら2つのサービス利用者が非常に多くなっています。

構成比をみると、令和3年では福祉用具貸与が40.4%、通所介護が27.3%であり、これら2つのサービスが非常に高くなっています。訪問系サービスでは、訪問介護が12.0%と10%を超えていますが、その他の訪問系サービスは5%未満にとどまっています。

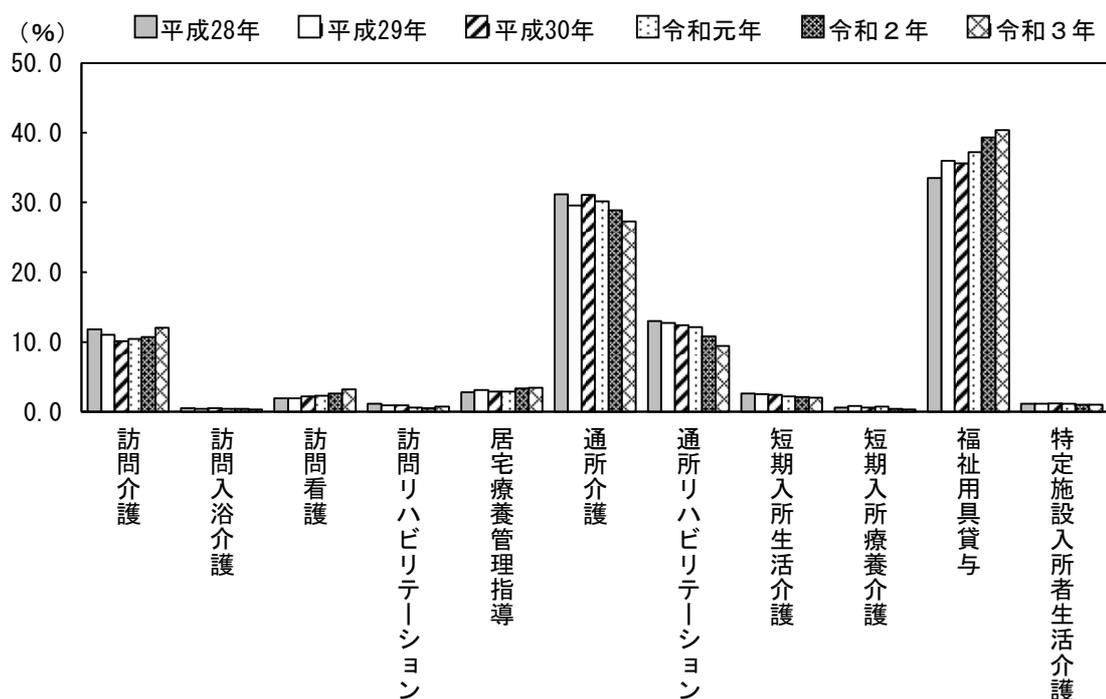
訪問系サービスの訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導が上昇傾向で推移している一方、通所系サービスの通所介護、通所リハビリテーションの占める割合は令和元年以降減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、通所系サービスの利用が控えられ訪問系サービスのニーズが高まってきたことが一因とみられます。

居宅サービス別の利用状況

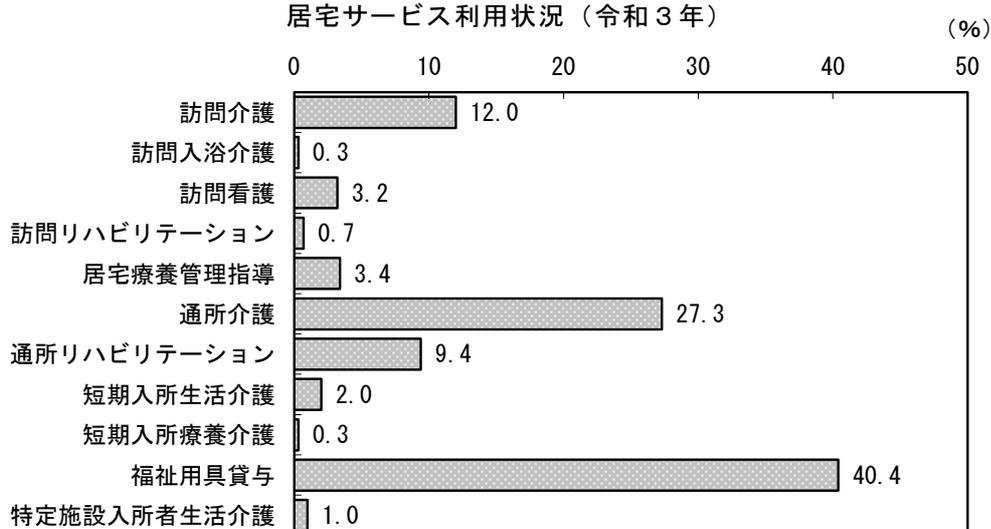
		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
件数 (件)	居宅サービス	5,514	5,495	5,650	5,787	5,971	6,288
	訪問介護	648	605	573	602	641	753
	訪問入浴介護	26	23	30	23	23	21
	訪問看護	105	105	126	132	158	202
	訪問リハビリテーション	58	49	53	32	32	44
	居宅療養管理指導	155	171	164	168	196	213
	通所介護	1,722	1,628	1,755	1,745	1,724	1,718
	通所リハビリテーション	719	699	699	698	643	591
	短期入所生活介護	143	135	134	130	123	126
	短期入所療養介護	33	42	34	41	23	16
	福祉用具貸与	1,845	1,977	2,012	2,154	2,348	2,540
特定施設入所者生活介護	60	61	70	62	60	64	
構成比 (%)	訪問介護	11.8	11.0	10.1	10.4	10.7	12.0
	訪問入浴介護	0.5	0.4	0.5	0.4	0.4	0.3
	訪問看護	1.9	1.9	2.2	2.3	2.6	3.2
	訪問リハビリテーション	1.1	0.9	0.9	0.6	0.5	0.7
	居宅療養管理指導	2.8	3.1	2.9	2.9	3.3	3.4
	通所介護	31.2	29.6	31.1	30.2	28.9	27.3
	通所リハビリテーション	13.0	12.7	12.4	12.1	10.8	9.4
	短期入所生活介護	2.6	2.5	2.4	2.2	2.1	2.0
	短期入所療養介護	0.6	0.8	0.6	0.7	0.4	0.3
	福祉用具貸与	33.5	36.0	35.6	37.2	39.3	40.4
	特定施設入所者生活介護	1.1	1.1	1.2	1.1	1.0	1.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

居宅サービス利用状況の推移



居宅サービス利用状況（令和3年）



(3) 地域密着型サービスの利用状況

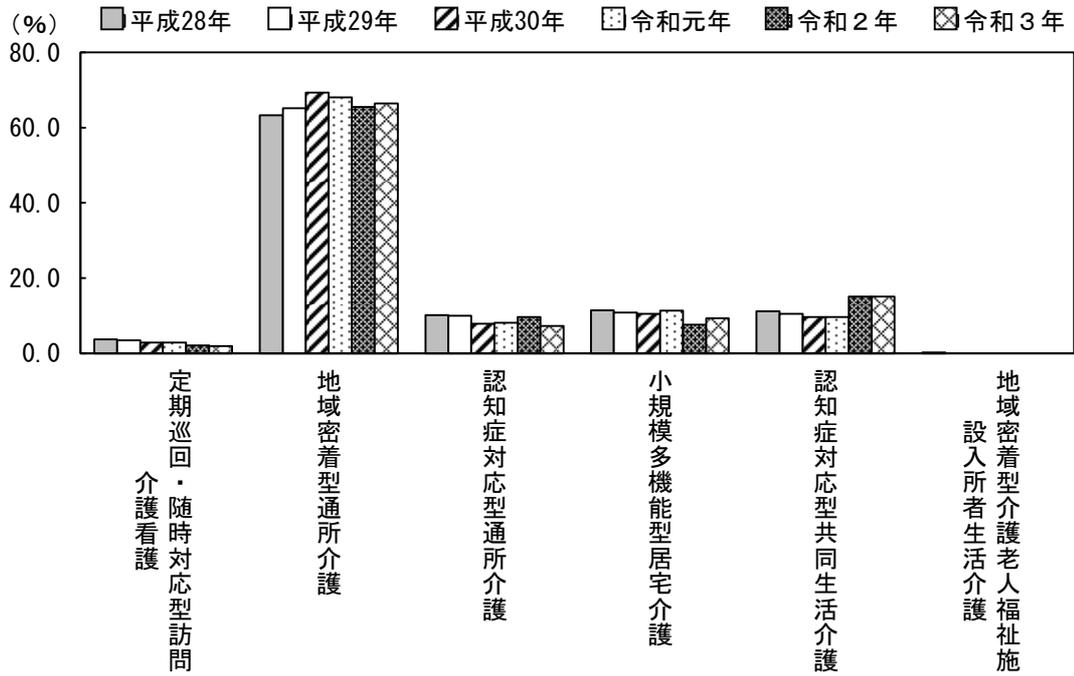
地域密着型サービスでは、地域密着型通所介護の利用が圧倒的に多くなっており、構成比では令和3年で66.4%を占めています。その他、市内に整備されている認知症対応型共同生活介護が15.1%、小規模多機能型居宅介護が9.3%、認知症対応型通所介護が7.3%の利用となっています。定期巡回・随時対応型訪問介護看護も整備されていますが、利用割合は2%程度となっています。

地域密着型サービス別の利用状況

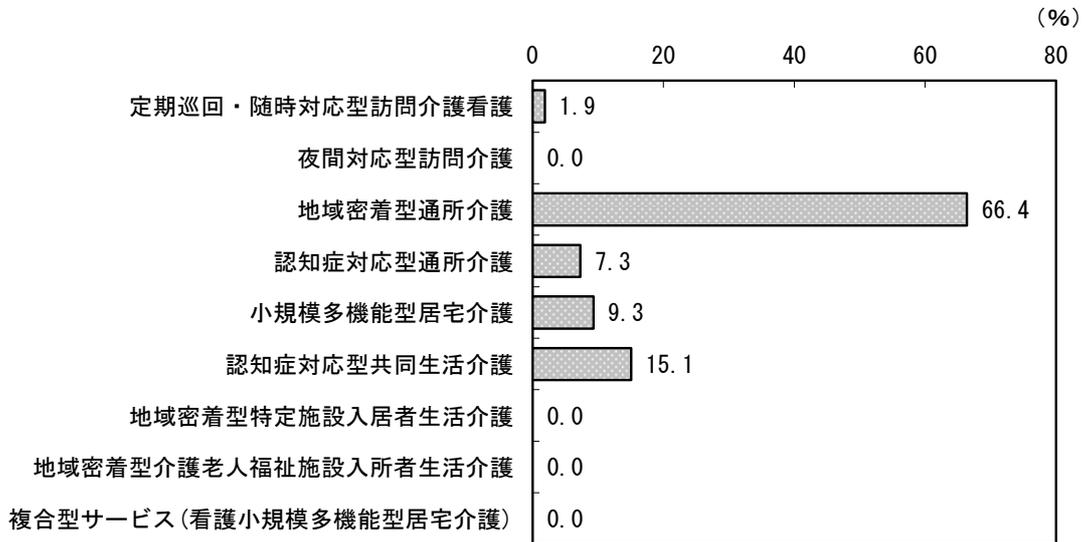
		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
件数 (件)	地域密着型サービス	518	572	592	613	615	670
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	19	20	17	18	13	13
	夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0
	地域密着型通所介護	328	373	410	417	403	445
	認知症対応型通所介護	53	57	46	50	59	49
	小規模多機能型居宅介護	59	62	62	69	47	62
	認知症対応型共同生活介護	58	60	57	59	93	101
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0	0	0	0	0
複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0	0	0	0	0	0	
構成比 (%)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3.7	3.5	2.9	2.9	2.1	1.9
	夜間対応型訪問介護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	63.3	65.2	69.3	68.0	65.5	66.4
	認知症対応型通所介護	10.2	10.0	7.8	8.2	9.6	7.3
	小規模多機能型居宅介護	11.4	10.8	10.5	11.3	7.6	9.3
	認知症対応型共同生活介護	11.2	10.5	9.6	9.6	15.1	15.1
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

地域密着型サービスの利用状況の推移



地域密着型サービスの利用状況（令和3年）



(4) 施設サービスの利用状況

施設サービスでは、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の利用が最も多く、令和3年には1か月あたり468人が利用し、施設サービス利用者の6割を占めています。

また、介護老人保健施設は297人で38.5%、介護医療院は7人で0.9%となっています。

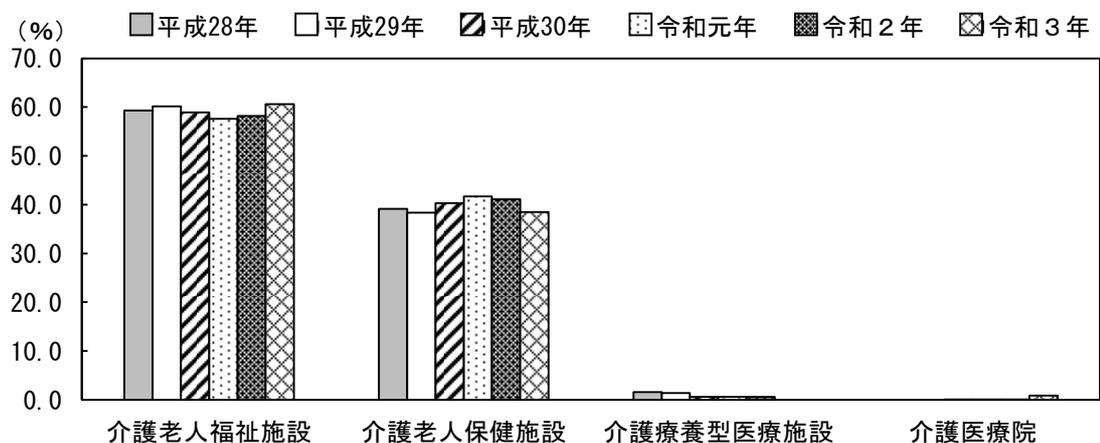
施設サービス利用者数は、概ね増加で推移してきましたが、令和3年では前年より減少しています。特に老人保健施設の利用者が41人と大きく減少しています。介護療養型医療施設は、制度上令和5年度末での廃止が決まっており、介護医療院への転換が進んでいます。

施設サービスの利用件数

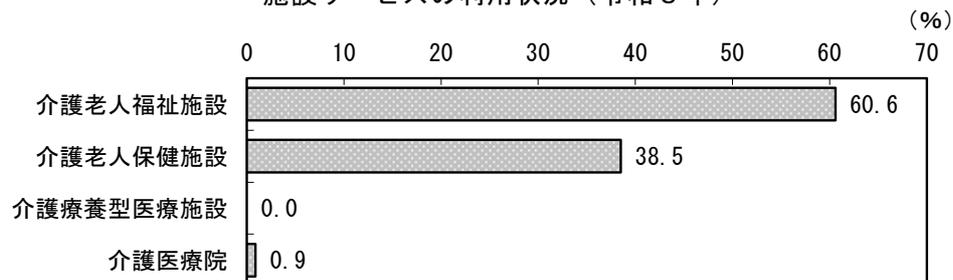
		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
件数 (件)	施設利用件数	804	794	794	816	822	772
	介護老人福祉施設	477	478	468	470	478	468
	介護老人保健施設	314	305	320	340	338	297
	介護療養型医療施設	13	11	5	5	5	0
	介護医療院	0	0	1	1	1	7
構成比 (%)	介護老人福祉施設	59.3	60.2	58.9	57.6	58.2	60.6
	介護老人保健施設	39.1	38.4	40.3	41.7	41.1	38.5
	介護療養型医療施設	1.6	1.4	0.6	0.6	0.6	0.0
	介護医療院	—	—	0.1	0.1	0.1	0.9

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

施設サービスの利用状況の推移



施設サービスの利用状況 (令和3年)



また、本市の介護老人福祉施設の入所待機者（いわゆる特養待機者）は、令和2年度で54人となっており、5年前の平成27年度と比べて19人減少しています。

単位：人

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
要介護3	30	17	26	18	27	24
要介護4	32	26	28	28	28	21
要介護5	11	5	8	14	9	9
合計	73	48	62	60	64	54

資料：沖縄県提供「特別養護老人ホームへの必要度が高い入所待機者数について（情報提供）」より

※申込者のうち、在宅で下記の必要度の高い理由に該当する者

必要度の高い者の理由

○介護をする者がいない

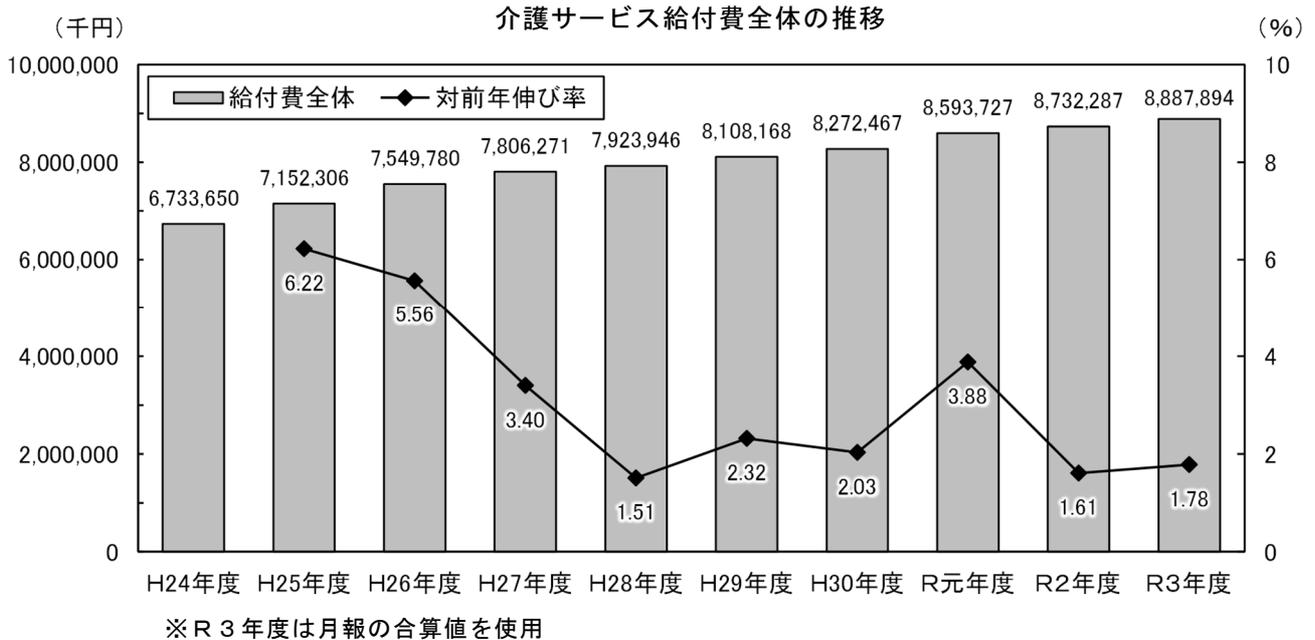
○介護をする者が「高齢」「障害」「疾病」等により十分な介護が困難なため

○介護者の身体的、精神的負担が大きく十分な介護が困難なため

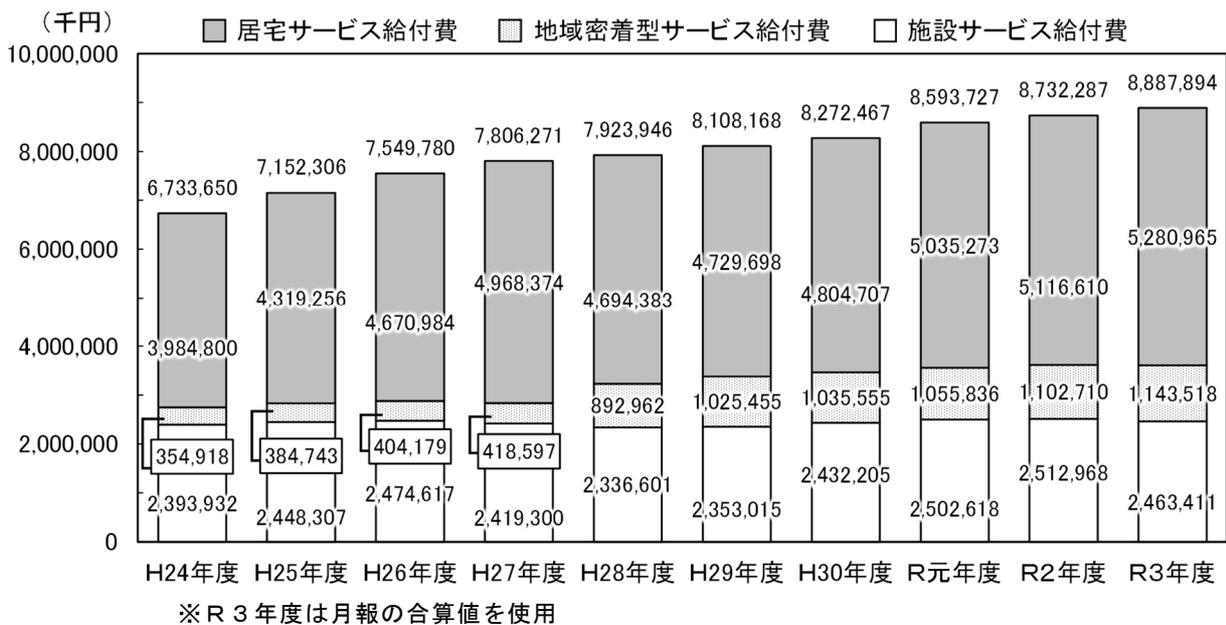
3. 介護保険給付費の状況

(1) 介護給付費全体の推移

居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスを合わせた介護サービス全体の給付費は、令和3年度まで一貫して増加しています。令和3年度の給付費は約89億円であり、前年度より約1億5千万円増となっています。対前年度伸び率は、令和2年度からは2%弱と緩やかになっています。

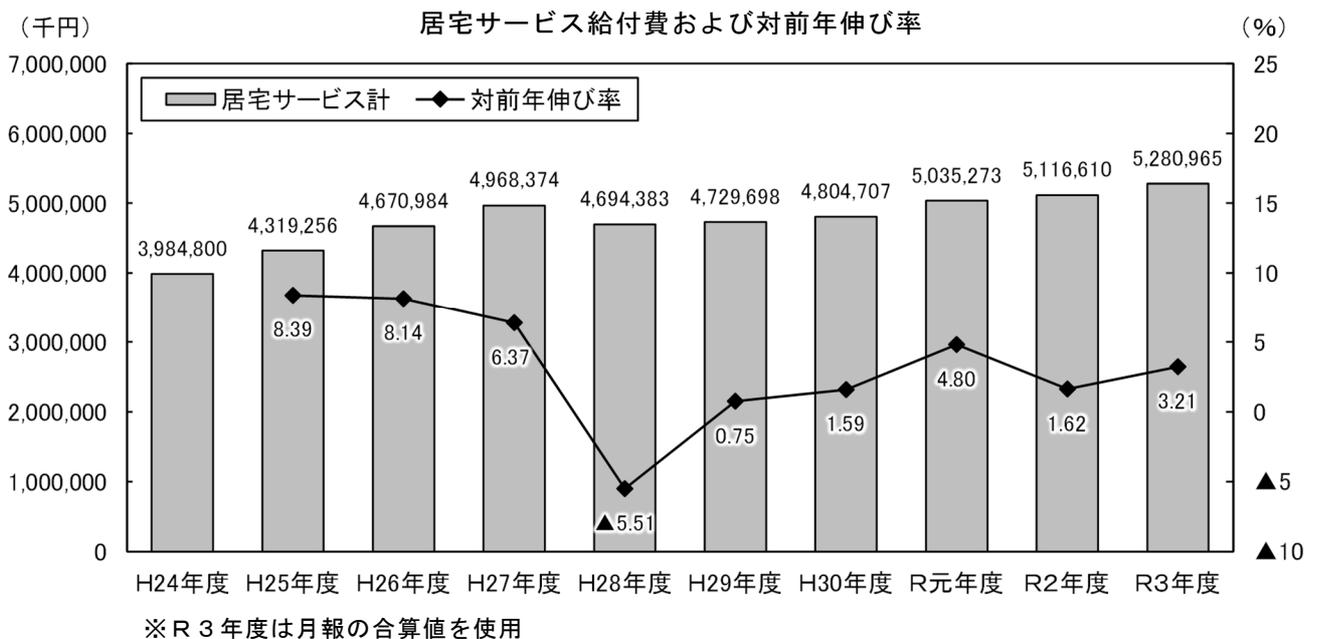


居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスの給付費

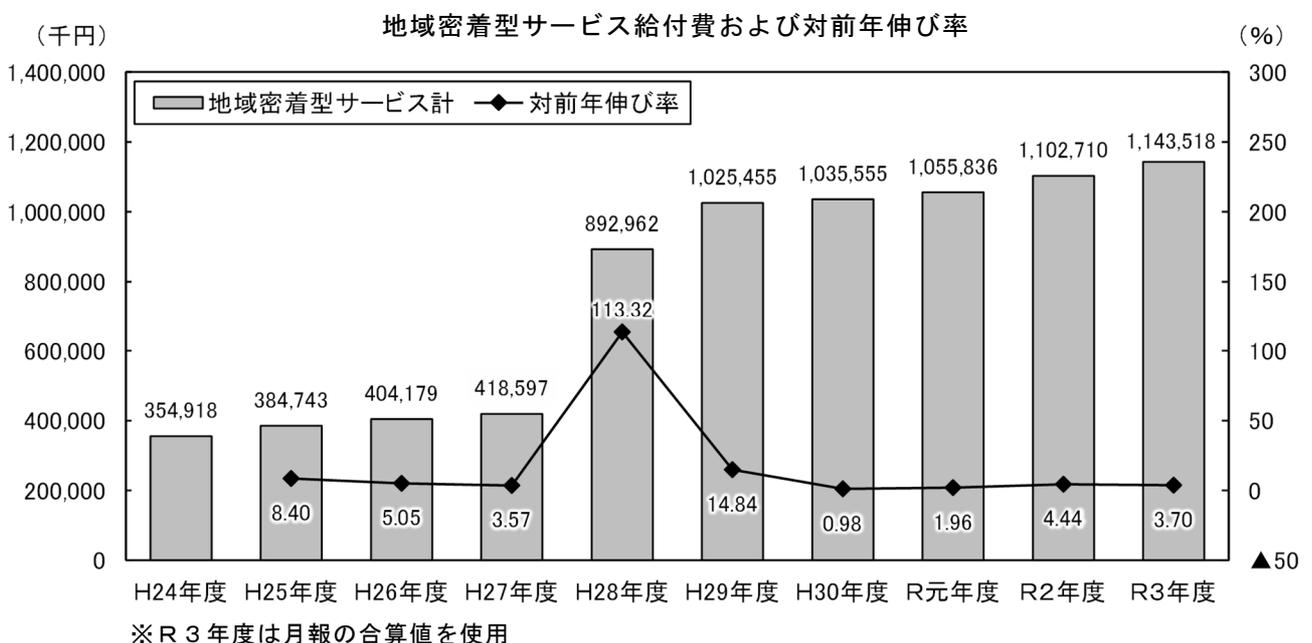


(2) 居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスの給付費

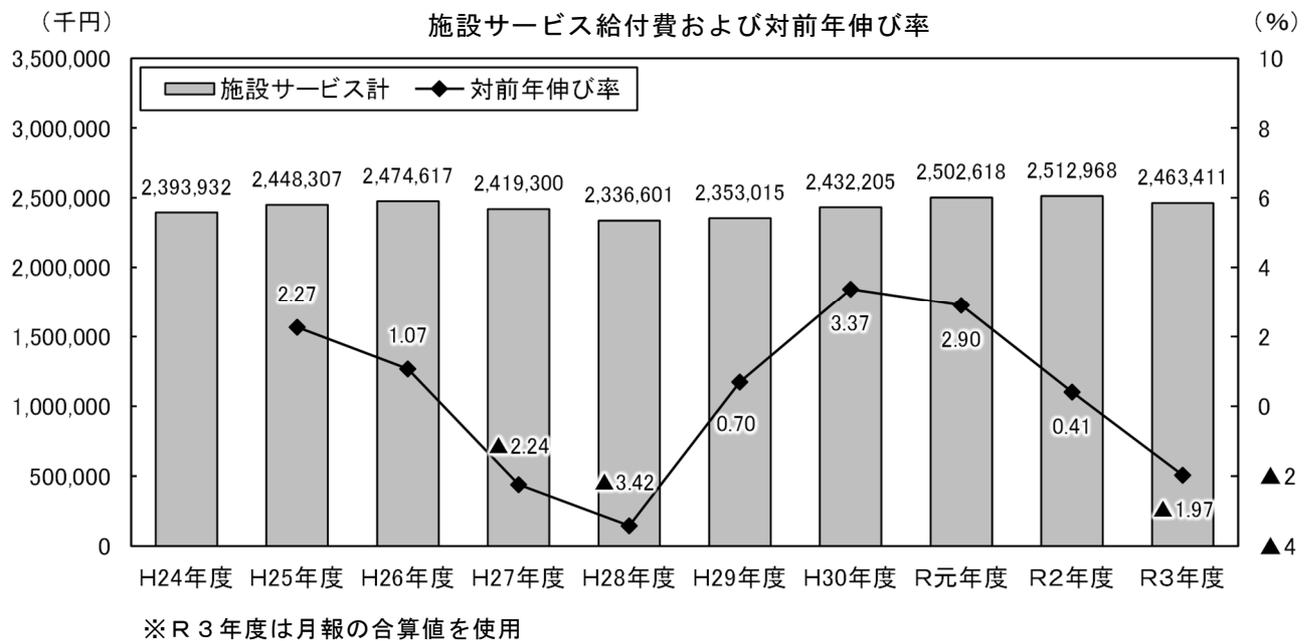
居宅サービスの給付費は、平成 27 年度まで一貫して増加し、平成 28 年度には通所介護の一部が地域密着型サービスに移行したことから減少しましたが、翌年の平成 29 年度以降、再度増加で推移しています。給付費は、平成 27 年度が 49 億円超、平成 28 年度が 47 億円弱に減少、その後増加し、令和 3 年度は 52 億円を超えています。対前年伸び率は、平成 26 年度以前は 8 % 台ですが、令和 3 年度では 3.21% となっています。



地域密着型サービスは、市町村が事業所指定を行うものであり、介護保険事業計画にもとづいて整備を行っています。給付費は、平成 28 年度は地域密着型通所介護が開始したことで 113.32% 給付費が伸び、9 億円弱となった後、毎年伸び続けています。令和 3 年度は 11 億円を超えています。



施設サービスの給付費は平成 28 年度を境に減少から増加に転じて推移していますが、令和 3 年度には前年度よりやや減少しています。令和 3 年度の給付費は約 25 億円です。対前年伸び率では、平成 30 年度の 3.37%が過去 10 年の中で最も高くなっています。



(3) 居宅サービス給付費の内訳

居宅サービスでは、通所系の給付費が圧倒的に大きく、令和3年度では約34億円と、居宅サービス給付費の64.2%を占めています。前項で掲載した施設サービス給付費(25億円)を上回っており、通所系サービスが給付費の増大につながっています。

令和2年度、令和3年度は、新型コロナウイルス感染予防の影響で、通所系サービスの給付費がやや減少、訪問系サービスの給付費が増加する傾向がみられます。

居宅サービス給付費

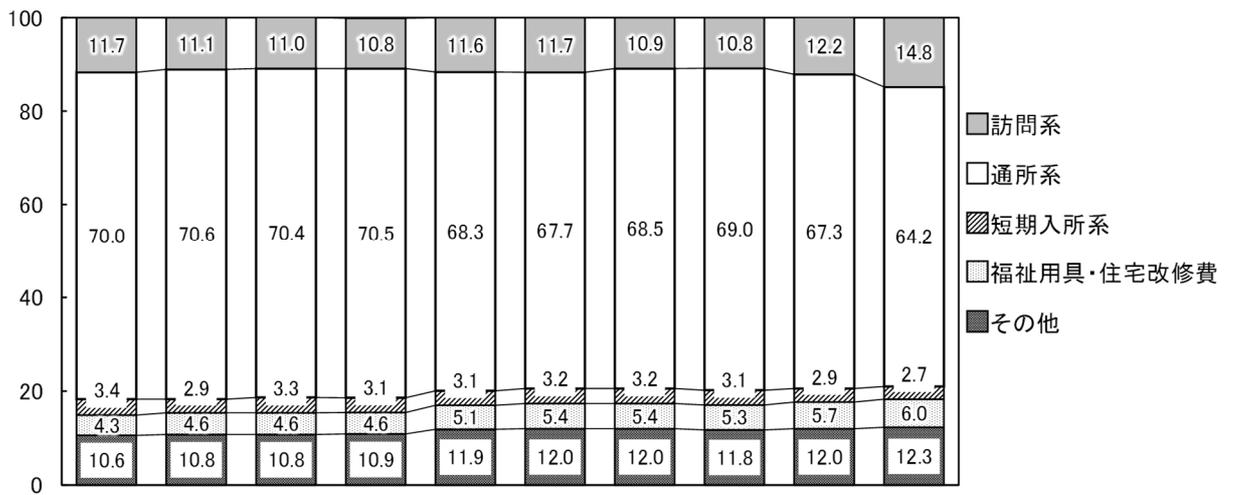
単位：千円

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
訪問系	464,261	478,360	512,302	536,113	542,621	552,476	524,518	545,702	621,789	781,639
通所系	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920	3,442,219	3,391,737
短期入所系	134,130	127,323	152,959	155,783	145,274	152,181	151,958	156,330	147,062	141,666
福祉用具・ 住宅改修費	172,904	200,297	213,000	230,209	240,756	255,892	259,070	266,913	290,054	316,199
その他	423,956	464,929	505,372	541,876	560,736	565,534	576,976	594,407	615,486	649,725
居宅サ ービス計	3,984,800	4,319,256	4,670,984	4,968,374	4,694,383	4,729,698	4,804,707	5,035,273	5,116,610	5,280,965
伸び率 (対前年度)	-	8.39	8.14	6.37	▲5.51	0.75	1.59	4.80	1.62	3.21

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和3年度は月報の合計値）

居宅サービス給付費の構成比

(%)



H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度

※R3年度は月報の合算値を使用

7) 訪問系サービス

訪問系サービスの給付費を要介護度別にみると、要介護4の給付費が最も高く、他の介護度より突出しています。これに次いで要介護5、要介護3が高く、重度者で給付費が高い傾向となっています。令和3年度では要介護4と要介護5を合わせた給付費が52.2%と半数を超えています。

要介護度別の推移をみると、要介護1、要介護2、要介護4、要介護5で、令和元年度以降、給付の伸びが大きく、特に令和3年度の伸びは顕著となっています。中でも要介護4では、令和2年度、令和3年度の給付費が急激に伸びています。また、要介護3の給付費は、令和2年度までやや減少で推移していましたが、令和3年度では他の介護度と同様に急増しています。新型コロナウイルス感染予防のため通所系サービスの利用を控え、訪問系サービスの利用にニーズが移行したことが、訪問系サービス増加の一因と考えられます。

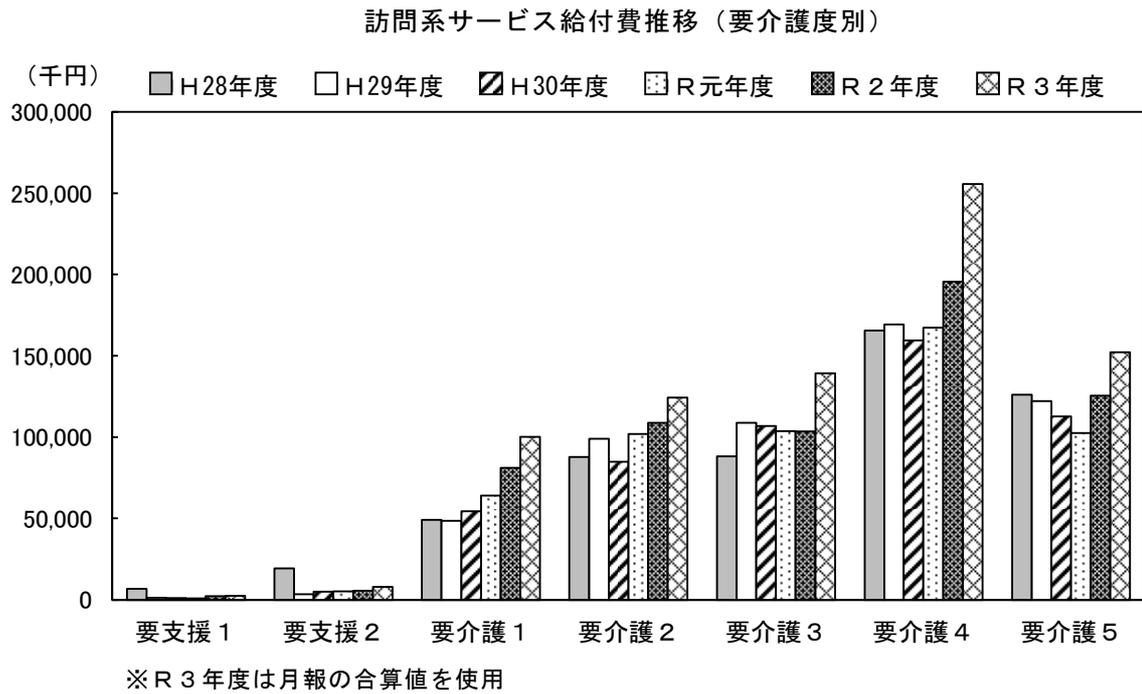
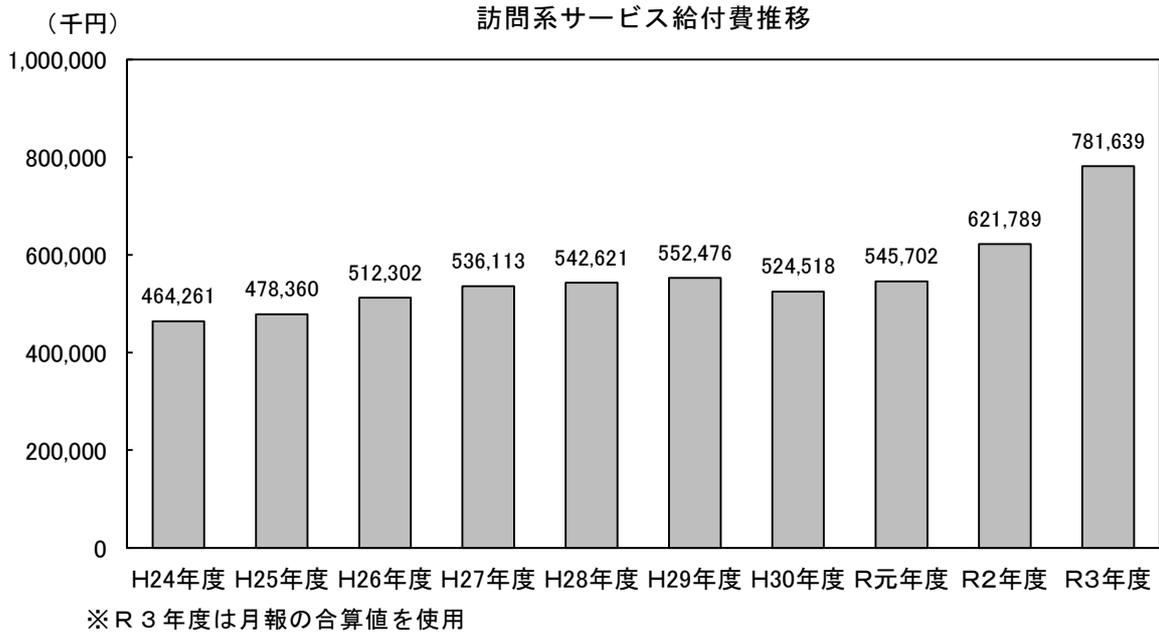
(要支援1と要支援2の給付費が平成28年度以降急減しているのは、訪問介護の要支援が地域支援事業の「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行したことによります。)

訪問系サービス給付費

単位：千円

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
要支援1	11,352	11,736	13,199	13,559	6,779	1,190	1,144	841	2,194	2,434
要支援2	31,057	33,189	33,911	37,477	19,309	3,612	4,923	5,247	5,516	8,006
要介護1	57,668	57,078	55,026	46,420	49,163	48,592	54,510	63,995	80,979	100,041
要介護2	69,167	71,397	77,058	85,404	87,813	98,982	84,875	101,911	108,699	124,417
要介護3	65,814	65,384	83,644	89,563	88,069	108,779	106,846	103,710	103,380	139,061
要介護4	97,432	115,580	128,280	147,612	165,441	169,240	159,482	167,421	195,489	255,438
要介護5	131,771	123,997	121,184	116,078	126,048	122,083	112,739	102,576	125,530	152,242
計	464,261	478,360	512,302	536,113	542,621	552,476	524,518	545,702	621,789	781,639
要介護4と 5の占有率	49.4%	50.1%	48.7%	49.2%	53.7%	52.7%	51.9%	49.5%	51.6%	52.2%

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和3年度は月報の合計値）



1) 通所系サービス

通所系サービスの給付費を要介護度別にみると、各年度とも要介護2～要介護4で、他の介護度より給付費が高くなっています。要介護4は平成30年度から、要介護3は令和2年度からそれぞれ給付費が8億円を超える状況にあります。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染予防のため、通所系サービスの利用を控える傾向がみられますが、要介護1と要介護3では、給付費が減少する傾向はみられず、一貫して増加しています。

要介護2～要介護4の割合をそれぞれみると、令和3年度では、要介護2が21.0%、要介護3が25.6%、要介護4が24.9%であり、これら3つの介護度で通所介護の70%を超えています。

(要支援1、要支援2の給付費が平成28年度以降で急減しているのは、通所介護の要支援が地域支援事業の「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行したことによります、また、各介護度で平成28年度に一旦減少しているのは、通所介護の一部が地域密着型通所介護に移行したことによります。)

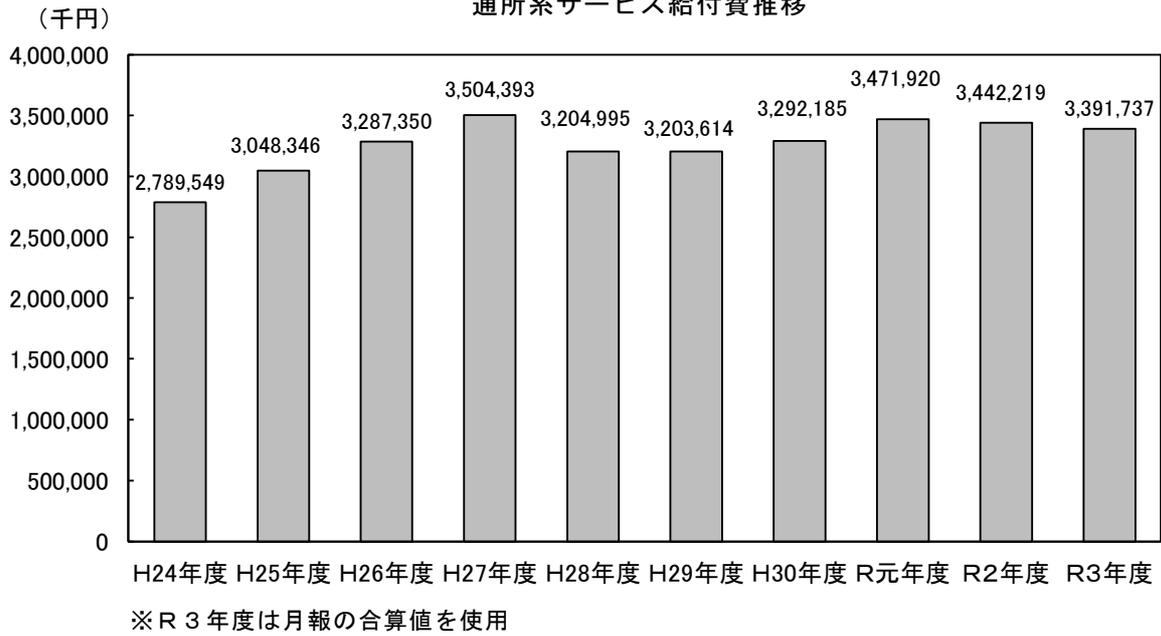
通所系サービス給付費

単位：千円

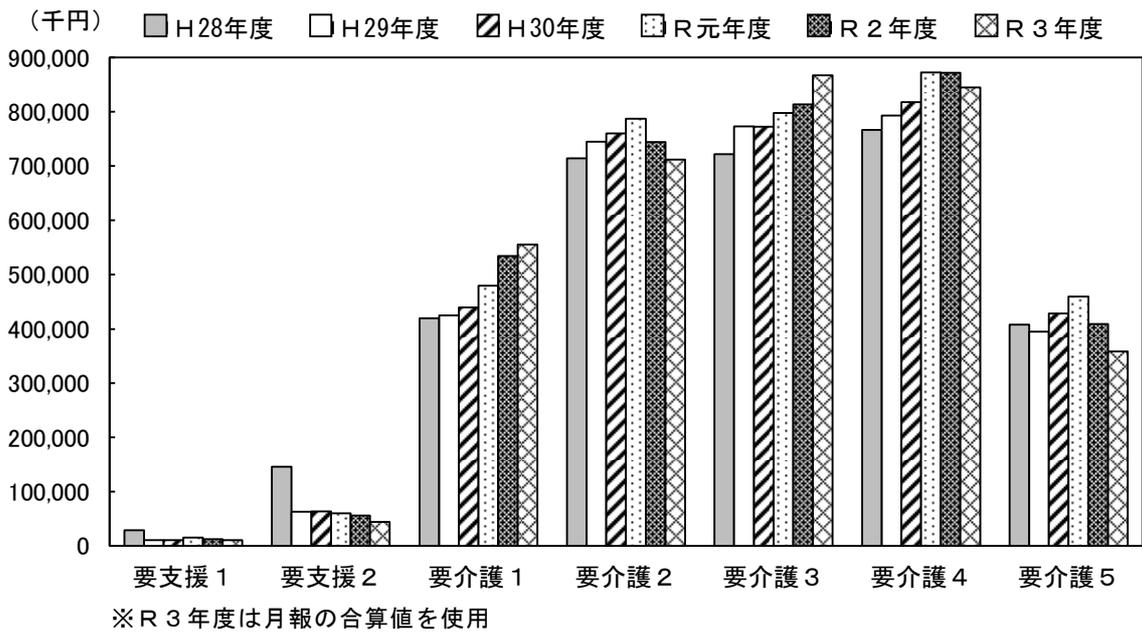
	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
要支援1	56,314	63,749	71,909	56,977	29,014	10,068	10,811	15,457	12,747	10,309
要支援2	221,103	234,761	241,741	223,379	146,106	63,179	63,501	59,852	55,628	43,672
要介護1	433,629	447,230	433,020	472,487	419,347	425,019	439,551	479,354	534,448	555,362
要介護2	621,364	692,581	717,094	764,289	714,413	744,776	759,905	787,034	744,476	712,137
要介護3	569,978	643,140	729,456	750,050	721,857	772,818	772,206	797,867	814,165	867,034
要介護4	552,924	592,344	693,671	792,267	766,795	792,918	817,643	872,804	872,182	844,967
要介護5	334,238	374,540	400,459	444,943	407,462	394,836	428,568	459,551	408,574	358,257
計	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,204,995	3,203,614	3,292,185	3,471,920	3,442,219	3,391,737
要介護2 の占有率	22.3%	22.7%	21.8%	21.8%	22.3%	23.2%	23.1%	22.7%	21.6%	21.0%
要介護3 の占有率	20.4%	21.1%	22.2%	21.4%	22.5%	24.1%	23.5%	23.0%	23.7%	25.6%
要介護4 の占有率	19.8%	19.4%	21.1%	22.6%	23.9%	24.8%	24.8%	25.1%	25.3%	24.9%

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和3年度は月報の合計値）

通所系サービス給付費推移



通所系サービス給付費推移 (要介護度別)



(4) 地域密着型サービス給付費の内訳

地域密着型サービスのサービス別給付費をみると、平成 28 年度は通所介護から一部事業所が移行した地域密着型通所介護が開始しており、地域密着型サービスのうち 50%強はこのサービスの給付費(令和 3 年度で約 6 億円)で占められています。

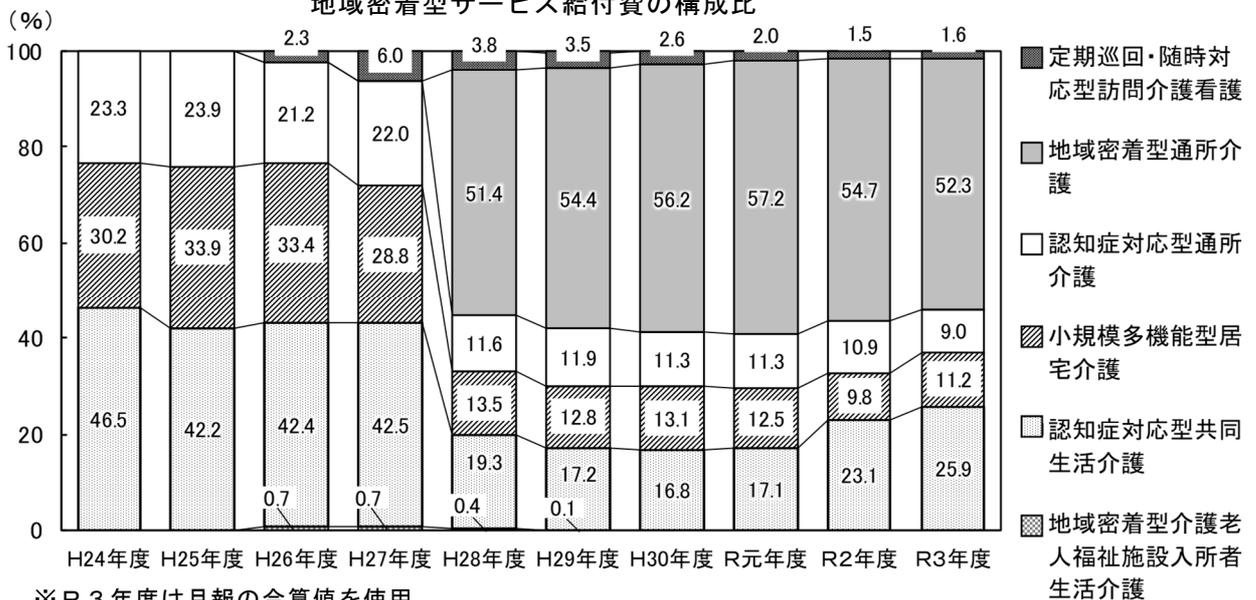
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)は順次整備が進められており、令和 2 年度と 3 年度で給付費がそれまでの 1 億 7,000 万円～1 億 8,000 万円程度から 2 億 5,000 万円～3 億円程度へと増加しています。その他、小規模多機能型居宅介護が 1 億 2,000 万円～1 億 3,000 万円程度、認知症対応型通所介護が 1 億円～1 億 2,000 万円程度で推移しています。定期巡回・随時対応型訪問介護看護も実施していますが、利用は減少傾向にあり、令和 2 年度、3 年度では 2,000 万円を下回っています。

地域密着型サービス給付費

単位：千円

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	9,265	25,265	33,848	36,368	26,921	20,716	16,831	18,499
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	0	0	0	0	459,387	557,907	581,983	603,447	603,363	598,303
認知症対応型通所介護	82,523	92,075	85,616	92,051	103,676	122,472	117,380	119,664	119,661	102,872
小規模多機能型居宅介護	107,301	130,314	135,159	120,467	120,114	130,998	135,660	131,949	107,715	127,748
認知症対応型共同生活介護	165,094	162,355	171,233	177,761	172,706	176,590	173,611	180,060	255,139	296,096
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	2,905	3,053	3,231	1,121	0	0	0	0
複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型サービス計	354,918	384,743	404,179	418,597	892,962	1,025,455	1,035,555	1,055,836	1,102,710	1,143,518
伸び率(対前年度)	—	8.40	5.05	3.57	113.32	14.84	0.98	1.96	4.44	3.70

地域密着型サービス給付費の構成比



(5) 施設サービス給付費の内訳

施設サービスのサービス別給付費をみると、介護老人福祉施設は概ね 13 億円台で推移しており、令和元年度以降は 14 億円前後の給付費となっています。介護老人保健施設は平成 29 年度までは 9 億円台の給付費でしたが、平成 30 年度以降は 10 億円を超えています。介護療養型医療施設は、制度上、令和 5 年度末で完全廃止となるため、利用者および給付費は減少しています。また、介護療養型医療施設の転換先として、平成 30 年度より、長期的な医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者を対象とした介護医療院が新しく創設されました。令和 3 年度は 1,800 万円の給付費となっています。

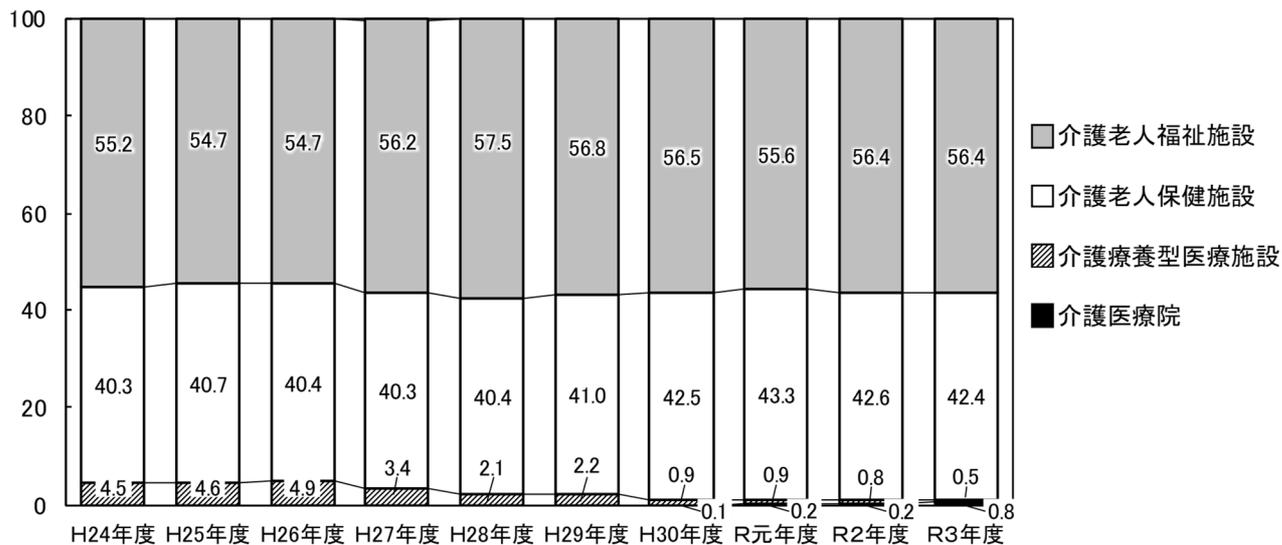
施設サービス給付費

単位：千円

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
介護老人福祉施設	1,320,546	1,338,267	1,354,819	1,360,615	1,343,270	1,337,288	1,374,461	1,391,347	1,416,891	1,388,346
介護老人保健施設	965,556	996,326	998,869	976,134	943,993	963,762	1,032,751	1,084,577	1,070,548	1,044,980
介護療養型医療施設	107,830	113,713	120,929	82,551	49,338	51,965	22,844	22,072	21,177	11,333
介護医療院							2,149	4,623	4,351	18,752
施設サービス計	2,393,932	2,448,307	2,474,617	2,419,300	2,336,601	2,353,015	2,432,205	2,502,618	2,512,968	2,463,411
伸び率 (対前年度)	—	2.27	1.07	▲ 2.24	▲ 3.42	0.70	3.37	2.90	0.41	▲ 1.97

(%)

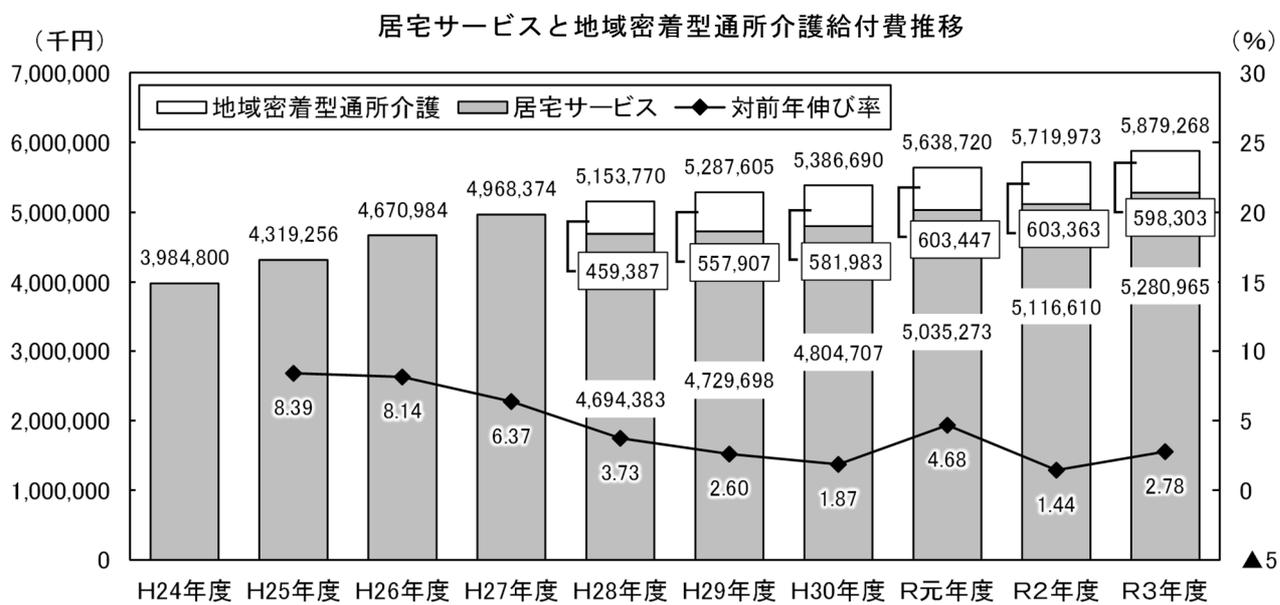
施設サービス給付費の構成比



※ R 3 年度は月報の合算値を使用

(6) 居宅サービス・地域密着型通所介護の給付費

居宅サービスの給付費は、平成 28 年度では前年度より減少していますが、これは通所介護事業所の一部が地域密着型通所介護に移行したことが一因となっています。実際、居宅サービスの給付費に地域密着型通所介護の給付費を合わせると平成 28 年度は約 51 億 5 千万円、令和元年度では、約 56 億円となり、平成 27 年度の居宅サービス給付費を上回っています。その後も、着実にこの給付費は増加を続け、令和 3 年度には約 59 億円に上っています。



※ R 3 年度は月報の合算値を使用

(7) 通所介護と地域密着型通所介護

通所介護と地域密着型通所介護を合わせた給付費(令和3年度)についてみると、通所介護は約28億円、地域密着型通所介護は約6億円であり、合計約34億円に上ります。推移をみると、平成24年度比較で13億5千万円(66.7%)と大幅な増額となっており、対前年度伸び率は、平成25年度の14.34%増から逡減し、平成28年度から令和元年度までは5%前後の増でしたが、令和2年度は1.18%、令和3年度は▲1.15%と減少となっています。新型コロナウイルス感染症の影響によるものと見込まれます。

また、要介護度別に給付費の伸びをみると、令和3年度においても要介護1と要介護3は増加を続けています。

通所介護および地域密着型通所介護の給付費が大きく、本市における介護給付の特徴となっています。通所介護利用が多い要因の把握とその対応策について検討する必要があります。

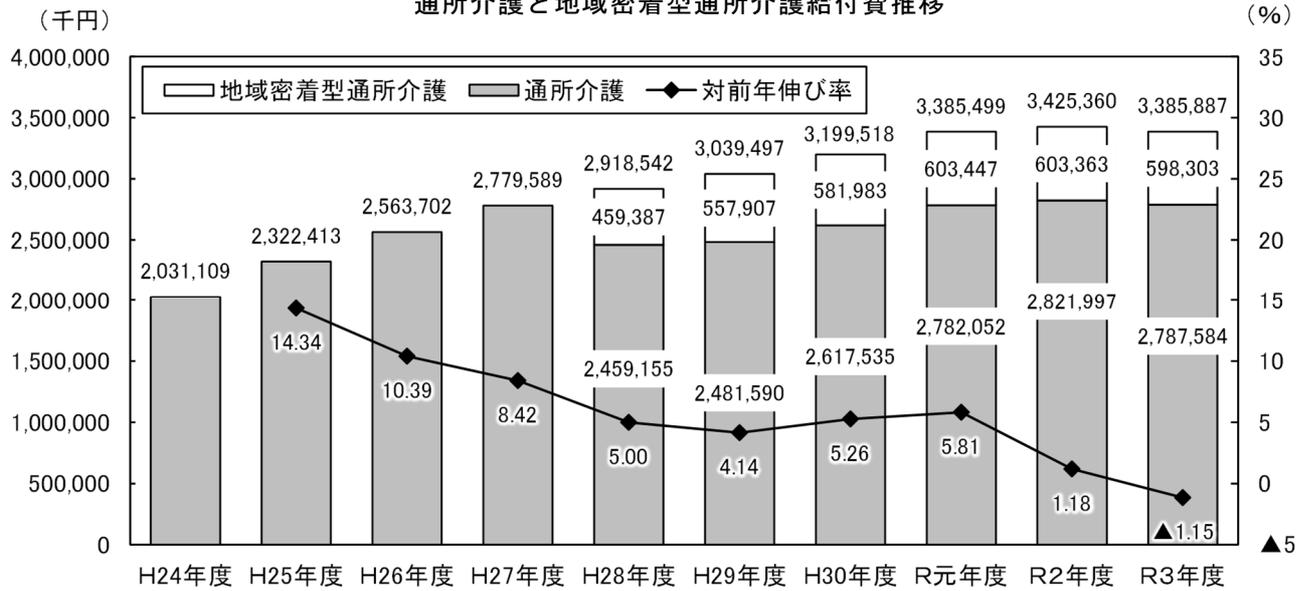
通所介護および地域密着型通所介護の給付費

単位：千円

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
通所 介護	要支援1	38,932	47,491	52,943	43,790	18,772	19	0	0	0	0
	要支援2	145,978	163,513	168,845	158,946	77,702	▲145	▲37	0	0	0
	要介護1	297,649	327,891	332,424	365,481	329,364	337,886	353,567	376,399	427,088	439,427
	要介護2	428,191	510,538	547,264	591,219	529,568	566,755	598,163	624,037	607,169	571,567
	要介護3	418,421	499,268	583,571	606,662	566,366	611,409	622,806	657,730	684,278	734,884
	要介護4	444,762	477,550	570,295	641,836	609,401	644,536	684,833	740,220	748,570	732,325
	要介護5	257,176	296,161	308,361	371,655	327,981	321,130	358,204	383,667	354,891	309,381
	計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	2,459,155	2,481,590	2,617,535	2,782,052	2,821,997	2,787,584
地域 密着 型 通所 介護	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	要介護1	0	0	0	0	45,493	51,954	72,891	77,920	88,380	89,909
	要介護2	0	0	0	0	97,467	123,513	111,187	111,134	114,280	112,627
	要介護3	0	0	0	0	103,530	131,417	149,248	172,994	152,749	165,651
	要介護4	0	0	0	0	126,449	148,770	136,049	146,559	155,795	154,728
	要介護5	0	0	0	0	86,448	102,253	112,608	94,840	92,160	75,375
	計	0	0	0	0	459,387	557,907	581,983	603,447	603,363	598,303
合計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	2,918,542	3,039,497	3,199,518	3,385,499	3,425,360	3,385,887	
前年伸び率	—	14.34	10.39	8.42	5.00	4.14	5.26	5.81	1.18	▲1.15	

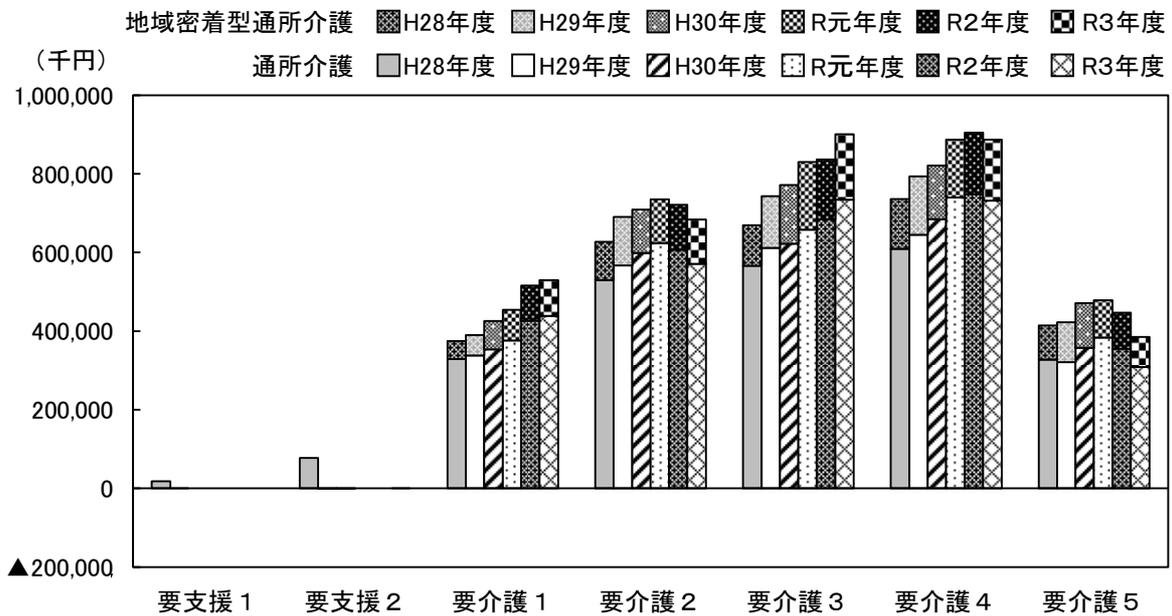
資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（令和3年度は月報の合計値）

通所介護と地域密着型通所介護給付費推移



※ R 3 年度は月報の合算値を使用

通所介護と地域密着型通所介護給付費推移 (要介護度別)

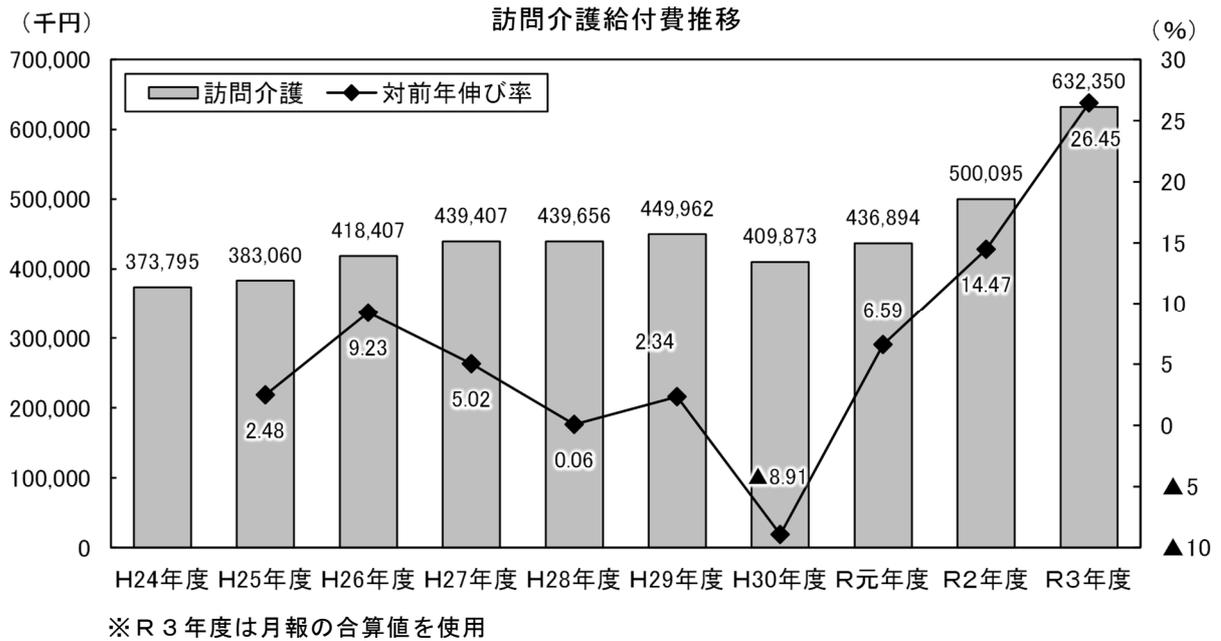


※ R 3 年度は月報の合算値を使用

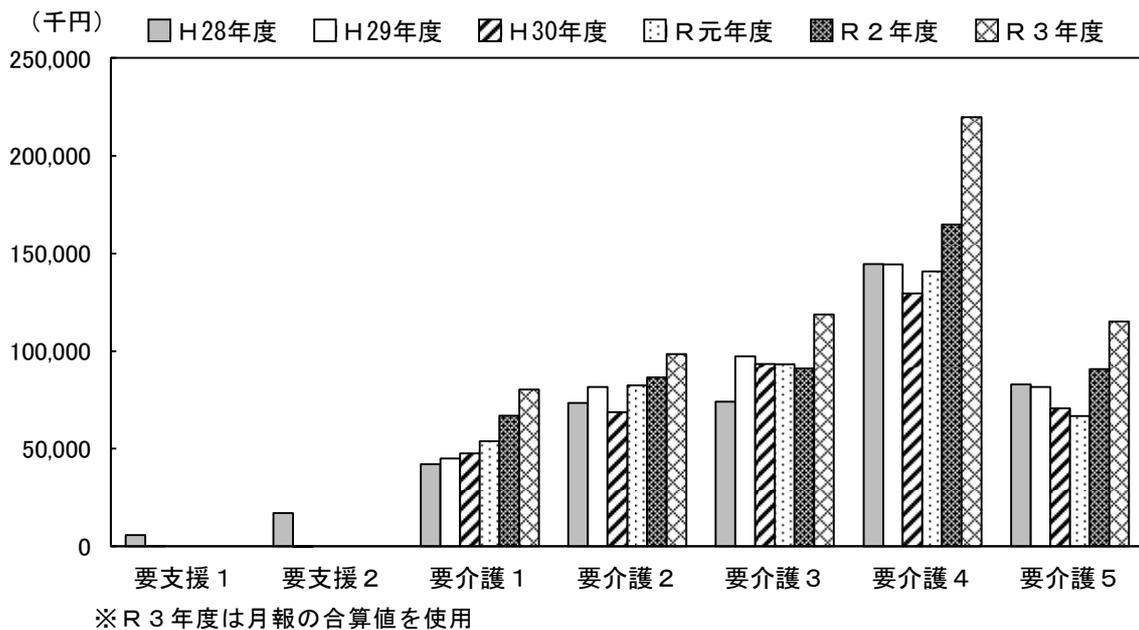
(8) 訪問介護給付費

訪問介護の給付費(令和3年度)は約6億円であり、推移をみると、平成30年度以降急激に増加しています。特に、令和2年度以降の伸びが大きく、令和2年度は前年比14.47%、令和3年度は26.45%伸びています。新型コロナウイルス感染症の影響により、通所系サービスの利用を控え、訪問系サービスの利用に移行したニーズの変化がみられます。

また、要介護度別に給付費の伸びをみると、令和3年度の要介護4の伸びが顕著となっています。



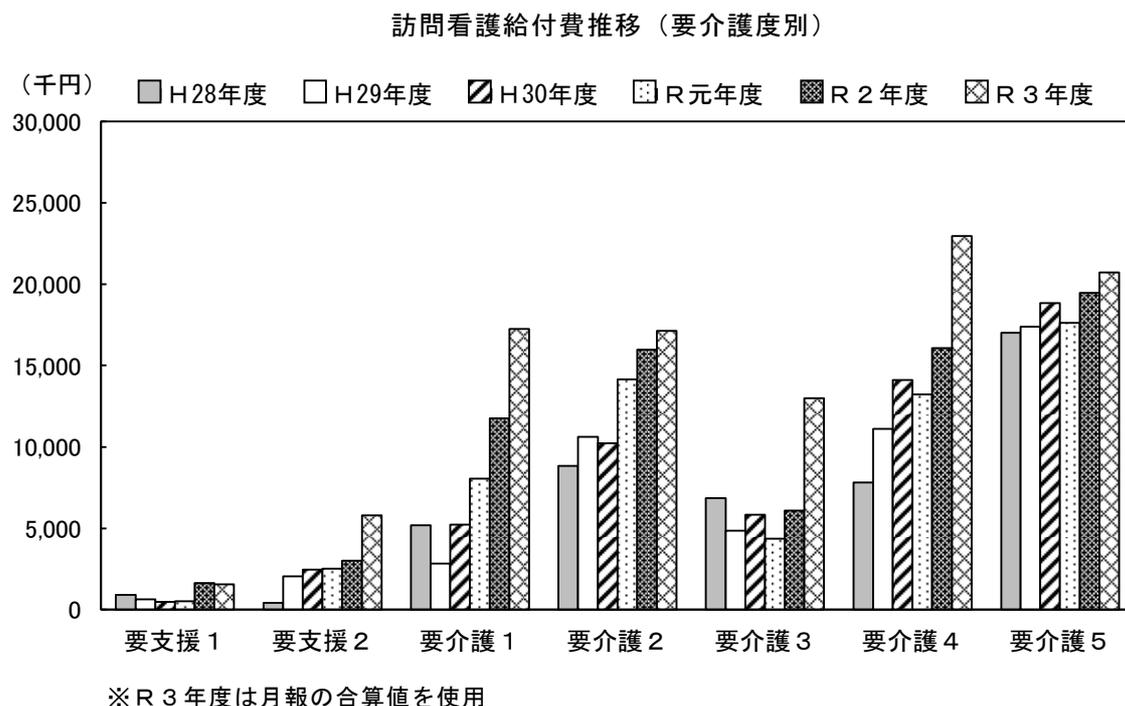
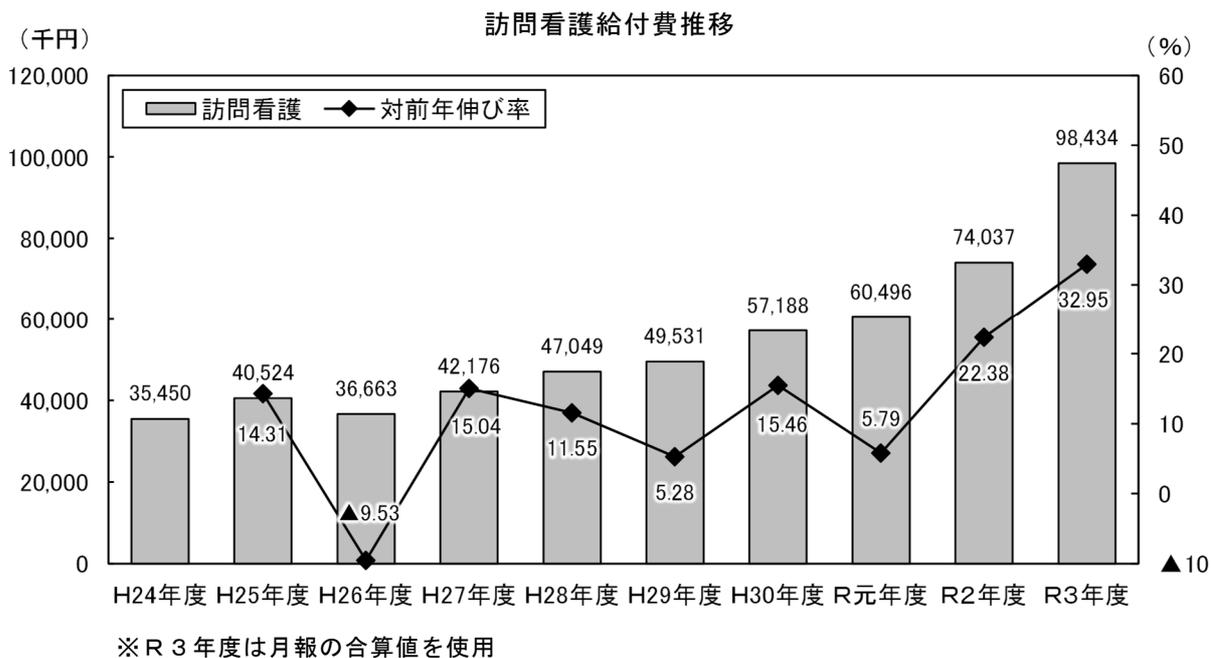
訪問介護給付費推移 (要介護度別)



(9) 訪問看護給付費

訪問看護の給付費(令和3年度)は約1億円であり、推移をみると、平成30年度以降で大きく増加しています。特に、令和2年度は前年度より22.38%、令和3年度は32.95%の伸びとなっています。新型コロナウイルス感染症の影響により、通所系サービスの利用を控え、訪問系サービスの利用に移行したニーズの変化がみられます。

また、要介護度別に給付費の伸びをみると、令和3年度の要介護1、要介護3、要介護4の伸びが顕著であり、最も給付費が高いのは要介護4となっています。



(10) 他保険者との比較

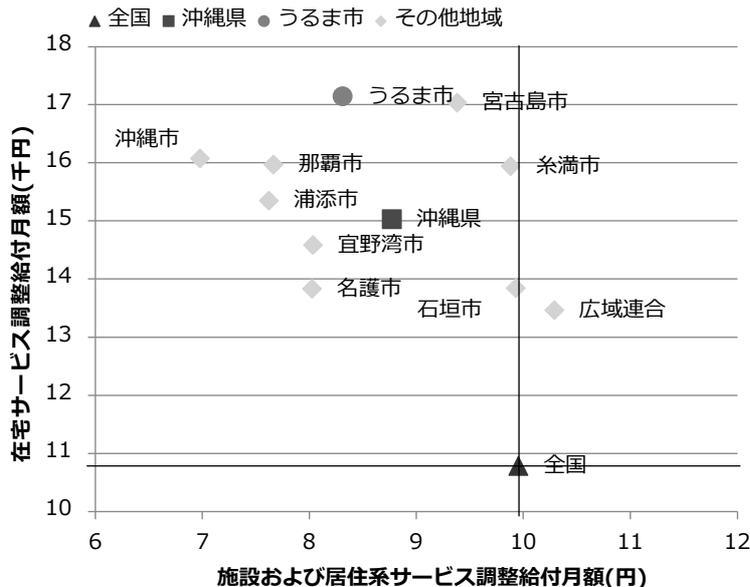
①第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス・施設および居住系サービス）

7) 近隣保険者との比較

令和2年時点における本市の第1号被保険者1人あたり給付月額を近隣保険者と比べると、在宅サービスは1位、施設および居住系サービスは7位に位置しています。在宅サービスと施設および居住系サービスを足した金額も宮古島市、糸満市に次いで3位で、県内でも1人あたり給付月額の高い保険者となっています。

第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス・施設および居住系サービス）

単位：円



	住系給付月額	施設および居住系給付月額	計
全国	9,955	10,786	20,741
沖縄県	8,770	15,032	23,802
うるま市	8,312	17,143	25,455
那覇市	7,665	15,968	23,633
宜野湾市	8,034	14,585	22,619
浦添市	7,621	15,348	22,969
糸満市	9,883	15,944	25,827
沖繩市	6,977	16,076	23,053
名護市	8,026	13,835	21,861
宮古島市	9,381	17,034	26,415
石垣市	9,931	13,841	23,772
広域連合	10,290	13,463	23,753

(時点) 令和2年(2020年)

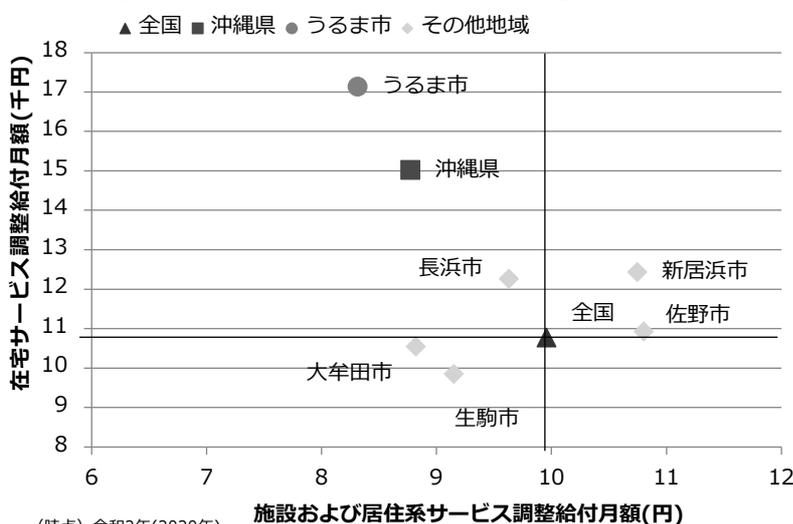
(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

1) 人口規模が近い保険者との比較

令和2年時点における本市の第1号被保険者1人あたり給付月額を、本市と人口規模が近い全国の保険者を比べると、在宅サービスが非常に高く、施設および居住系サービスは6位であるものの、在宅サービスと施設および居住系サービスを合わせた額は1位で、1人あたり給付月額の高い保険者となっています。

第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス・施設および居住系サービス）

単位：円

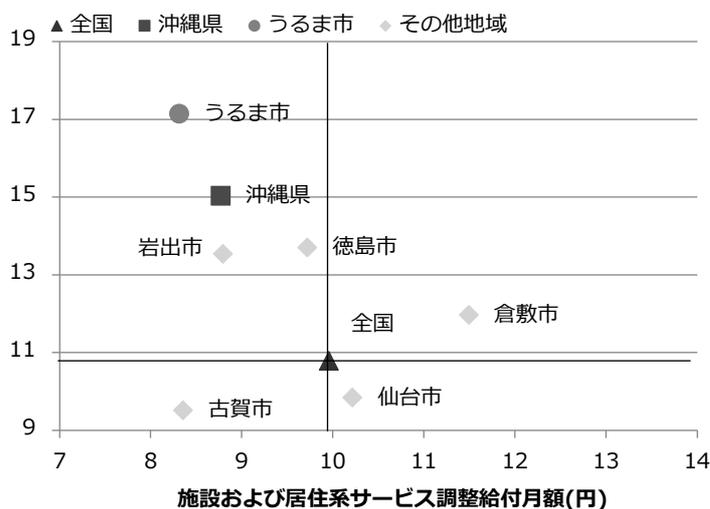


ウ) 人口密度が近い保険者との比較

令和2年時点における本市の第1号被保険者1人あたり給付月額を、本市と人口密度が近い全国の保険者を比べると、在宅サービスが最も高く、施設および居住系サービスは6位に位置しています。非常に高い在宅サービスの影響により、在宅サービスと施設および居住系サービスを合わせた1人あたり給付月額は、最も高くなっています。

第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス・施設および居住系サービス）

単位：円



	施設および居住系給付月額	在宅給付月額	計
全国	9,955	10,786	20,741
沖縄県	8,770	15,032	23,802
うるま市	8,312	17,143	25,455
仙台市	10,214	9,845	20,059
古賀市	8,355	9,516	17,871
徳島市	9,719	13,707	23,426
岩出市	8,794	13,543	22,337
倉敷市	11,495	11,971	23,466

(時点) 令和2年(2020年)

(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

イ) 高齢化率が近い保険者との比較

令和2年時点における本市の第1号被保険者1人あたり給付月額を、本市と高齢化率が近い全国の保険者を比べると、在宅サービスが大幅に高く、施設および居住系サービスは6位に位置しています。在宅サービスと施設および居住系サービスを合わせた給付月額は、在宅サービスが非常に高いことから1位で、1人あたり給付月額の高い保険者となっています。

第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス・施設および居住系サービス）

単位：円



	施設および居住系給付月額	在宅給付月額	計
全国	9,955	10,786	20,741
沖縄県	8,770	15,032	23,802
うるま市	8,312	17,143	25,455
目黒区	9,669	10,747	20,416
竹富町	10,516	11,513	22,029
小金井市	9,777	9,346	19,123
日進市	8,544	10,791	19,335
草津市	9,579	11,659	21,238

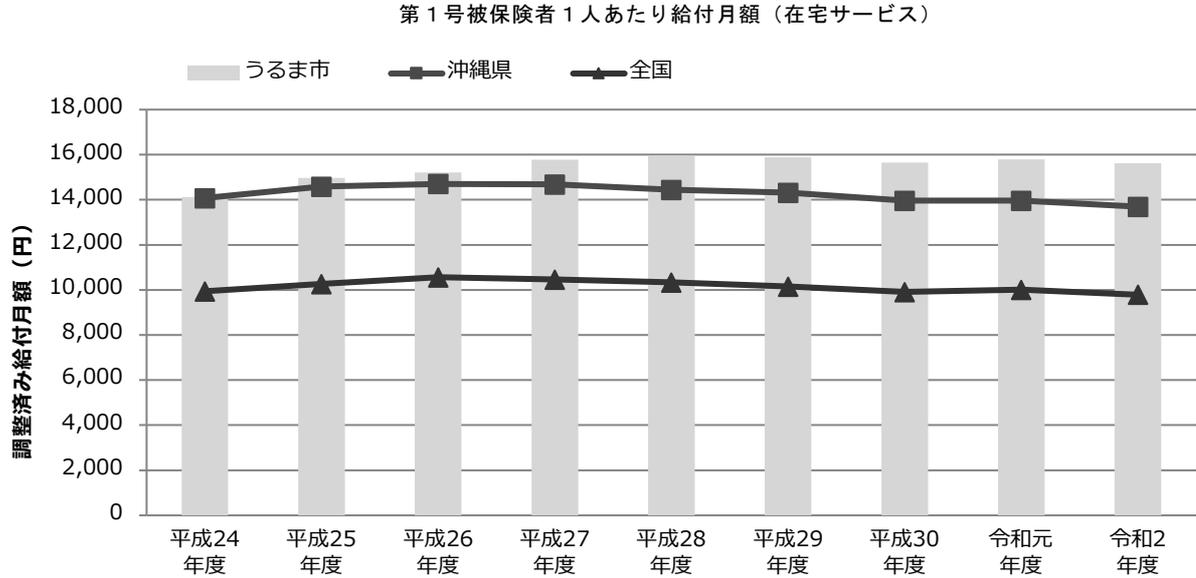
(時点) 令和2年(2020年)

(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

②第1号被保険者1人あたり給付月額（在宅サービス）の推移

本市の第1号被保険者1人あたり給付月額について、在宅サービスの推移をみると、本市では、平成24年度から平成28年度まで増加傾向にありますが、その後はやや減少しており、令和2年度では15,618円となっています。

沖縄県も本市とほぼ同様の推移となっており、平成27年度以降前年度比割れが続いて推移しています。



(注目する地域) うるま市

(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

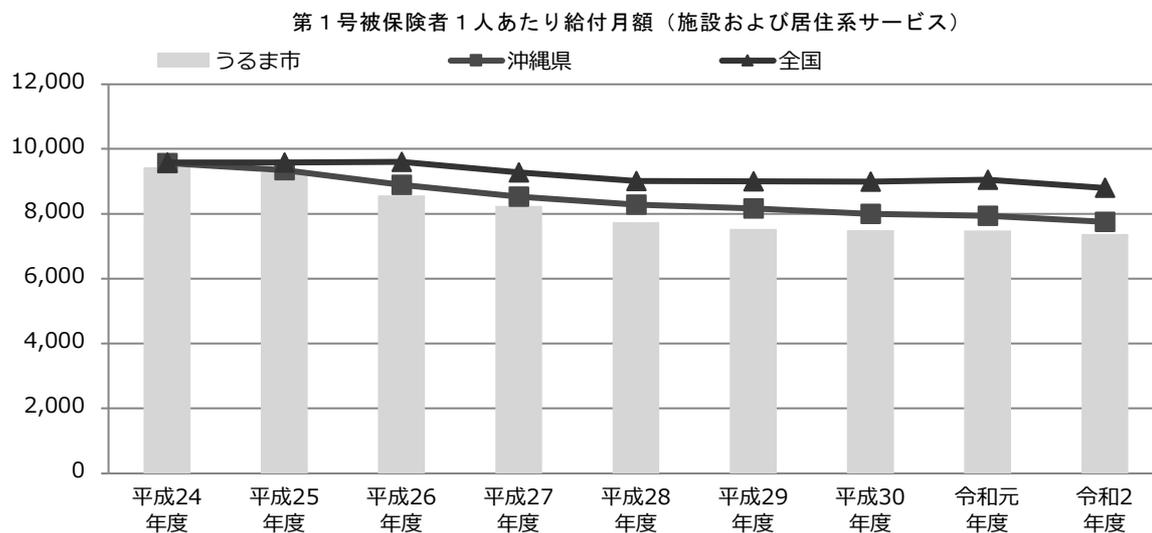
単位：円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
うるま市	14,113	14,961	15,213	15,773	15,931	15,891	15,642	15,796	15,618
前年比	—	848	252	560	158	▲40	▲249	154	▲178
沖縄県	14,075	14,592	14,711	14,681	14,441	14,312	13,965	13,961	13,700
前年比	—	517	119	▲30	▲240	▲129	▲347	▲4	▲261
全国	9,939	10,263	10,566	10,464	10,331	10,158	9,912	10,010	9,797
前年比	—	324	303	▲102	▲133	▲173	▲246	98	▲213

③第1号被保険者1人あたり給付月額（施設および居住系サービス）の推移

本市の第1号被保険者1人あたり給付月額について、施設サービスの推移をみると、本市では、減少傾向の推移が続いています。

沖縄県でも、本市同様、減少傾向が続いています。全国では平成27年度以降減少傾向にありましたが、令和元年度に一時的に増加に転じています。



(注目する地域) うるま市

(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

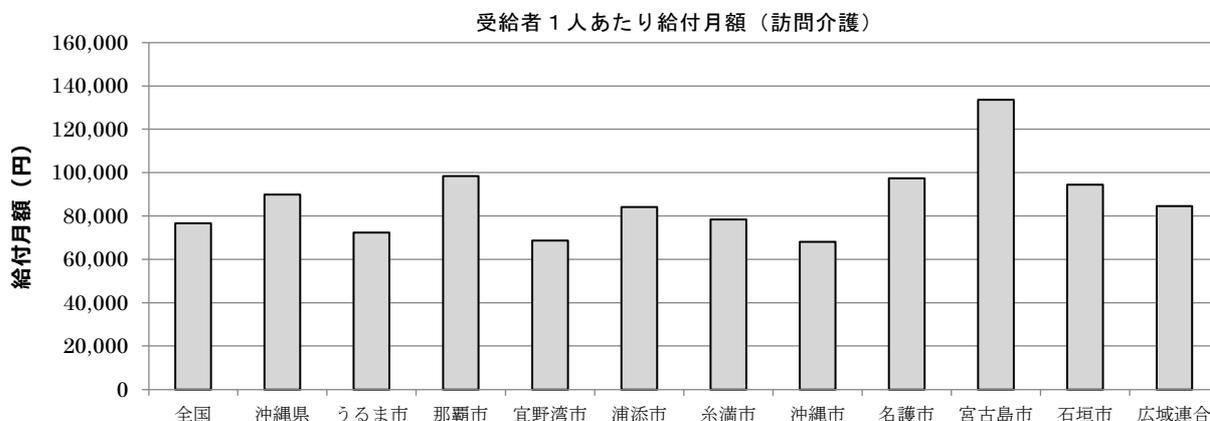
単位：円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
うるま市	9,429	9,275	8,562	8,238	7,743	7,537	7,492	7,487	7,379
前年比	—	▲154	▲713	▲324	▲495	▲206	▲45	▲5	▲108
沖縄県	9,563	9,347	8,890	8,528	8,278	8,163	8,000	7,939	7,749
前年比	—	▲216	▲457	▲362	▲250	▲115	▲163	▲61	▲190
全国	9,578	9,584	9,602	9,272	9,013	8,995	8,992	9,045	8,800
前年比	—	6	18	▲330	▲259	▲18	▲3	53	▲245

④受給者 1 人あたり給付月額（訪問介護）

7) 近隣保険者との比較

訪問介護の受給者 1 人あたり給付月額を県内保険者と比べると、本市より高い保険者が多く、本市は第 8 位に位置しています。



(時点) 令和4年(2022年)

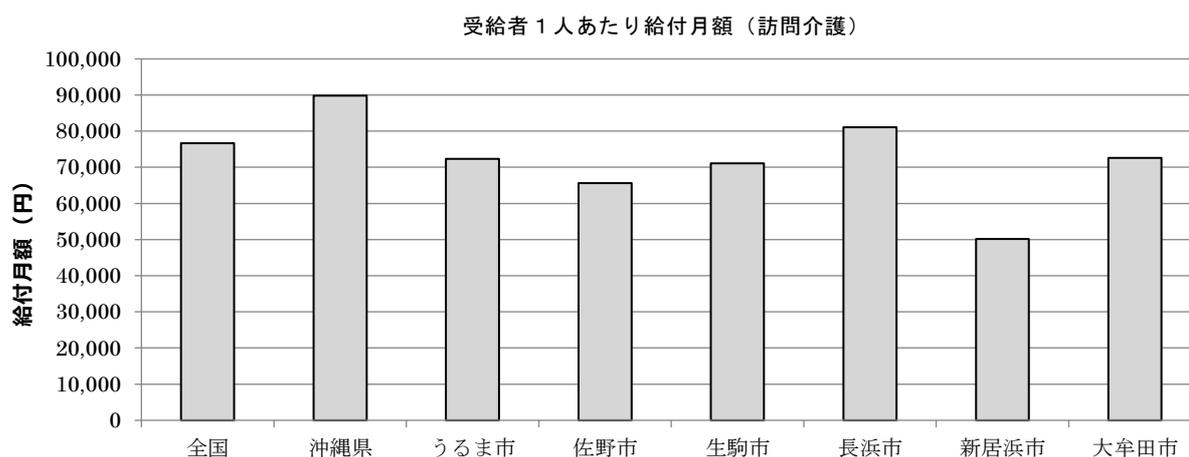
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3.4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
訪問介護	76,628	89,796	72,341	98,425	68,717	84,153	78,388	68,068	97,387	133,637	94,460	84,522
対うるま市	4,287	17,455	—	26,084	▲ 3,624	11,812	6,047	▲ 4,273	25,046	61,296	22,119	12,181

1) 人口規模が近い保険者との比較

人口規模が近い全国の保険者と比べると、訪問介護の受給者 1 人あたり給付月額は第 3 位に位置しております。



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3.4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

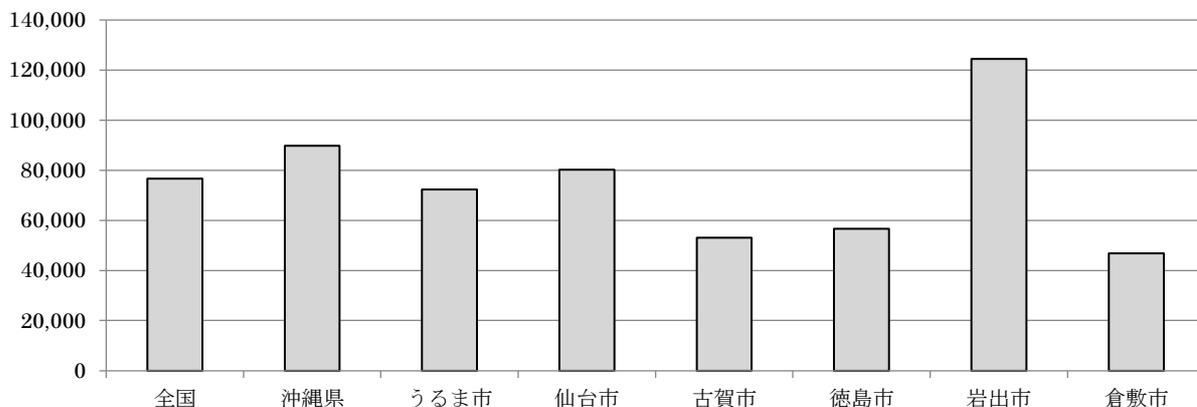
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
訪問介護	76,628	89,796	72,341	65,580	71,102	81,090	50,138	72,608
対うるま市	4,287	17,455	—	▲ 6,761	▲ 1,239	8,749	▲ 22,203	267

ウ) 人口密度が近い保険者との比較

人口密度が近い全国の保険者と比べると、訪問介護の受給者1人あたり給付月額が第3位に位置しております。

受給者1人あたり給付月額（訪問介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

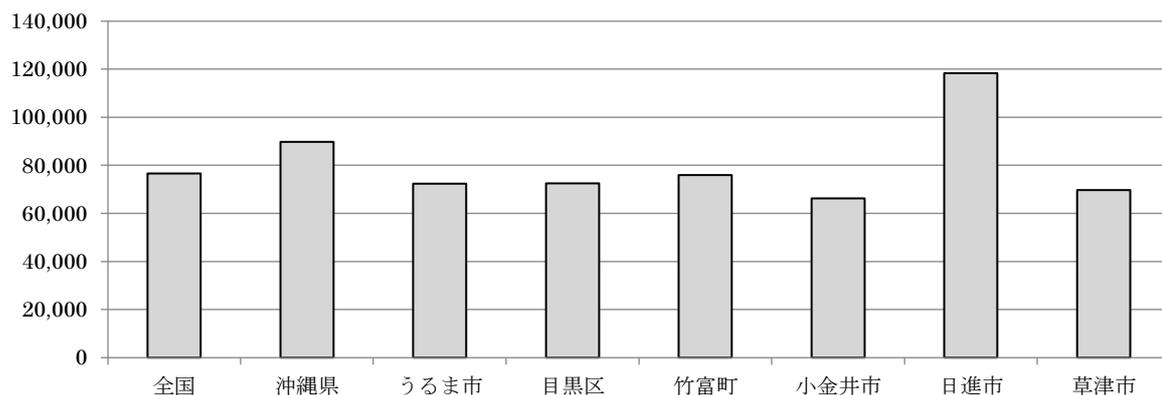
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市
訪問介護	76,628	89,796	72,341	80,241	53,085	56,640	124,453	46,870
対うるま市	4,287	17,455	—	7,900	▲ 19,256	▲ 15,701	52,112	▲ 25,471

エ) 高齢化率が近い保険者との比較

高齢化率が近い全国の保険者と比べると、訪問介護の受給者1人あたり給付月額は第6位に位置しています。

受給者1人あたり給付月額（訪問介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

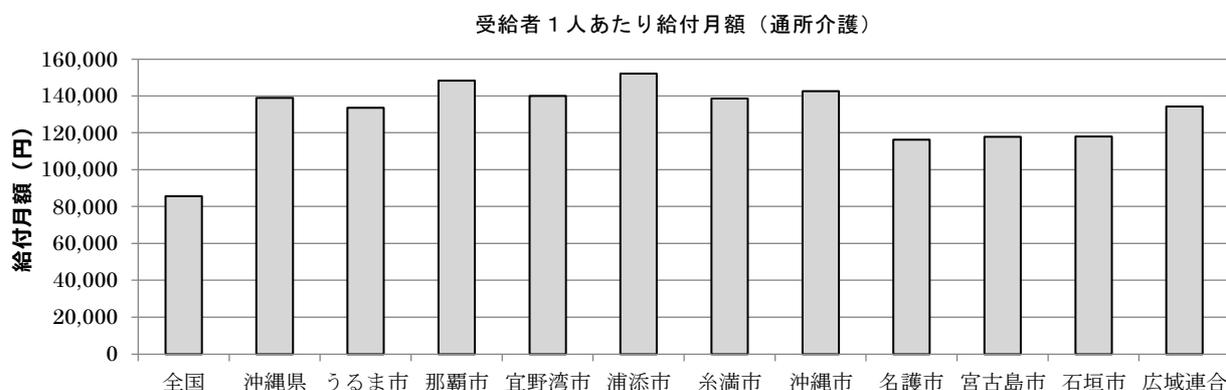
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
訪問介護	76,628	89,796	72,341	72,454	75,947	66,294	118,273	69,696
対うるま市	4,287	17,455	—	113	3,606	▲ 6,047	45,932	▲ 2,645

⑤受給者1人あたり給付月額（通所介護）

7) 近隣保険者との比較

通所介護の受給者1人あたり給付月額を県内保険者と比べると、本市より高い保険者が多く、第7位に位置しています。また、全国と比べ、県内保険者の通所介護の受給者1人あたり給付月額が非常に高いことがわかります。



(時点) 令和4年(2022年)

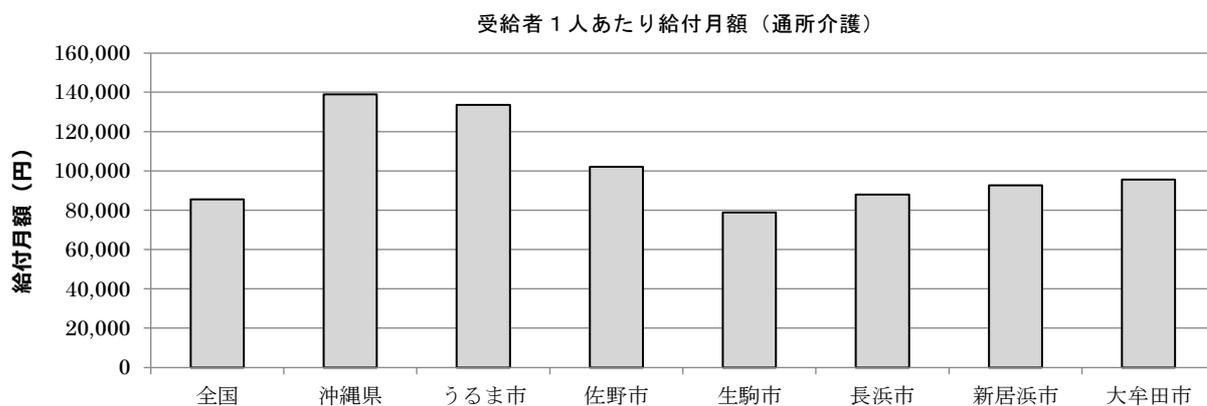
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
通所介護	85,506	138,926	133,615	148,259	139,971	152,026	138,631	142,466	116,155	117,876	117,998	134,288
対うるま市	▲ 48,109	5,311	—	14,644	6,356	18,411	5,016	8,851	▲ 17,460	▲ 15,739	▲ 15,617	673

7) 人口規模が近い保険者との比較

人口規模が近い全国の保険者と比べると、通所介護の受給者1人あたり給付月額は第1位に位置しており、他保険者より大幅に高くなっています。最も差のある保険者より54,811円高くなっています。



(時点) 令和4年(2022年)

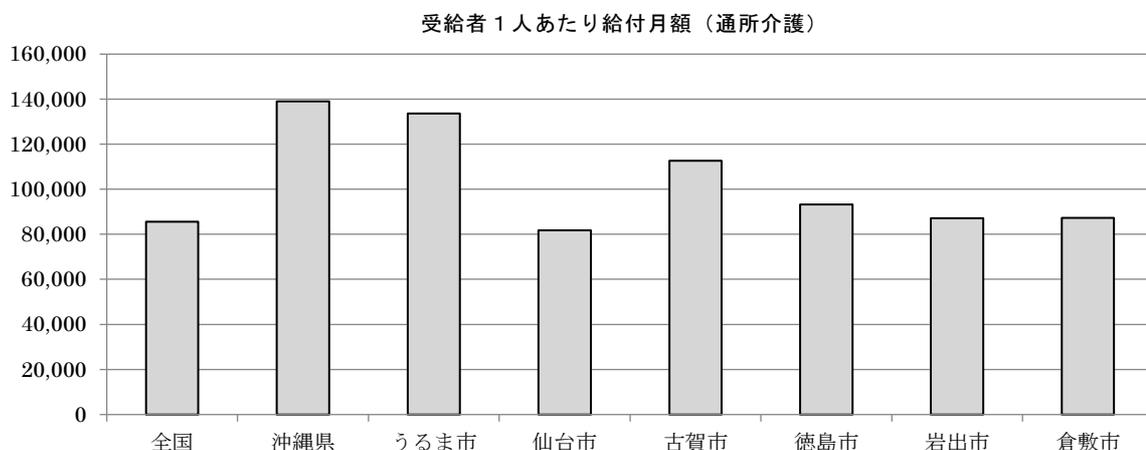
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
通所介護	85,506	138,926	133,615	102,096	78,804	87,983	92,597	95,625
対うるま市	▲ 48,109	5,311	—	▲ 31,519	▲ 54,811	▲ 45,632	▲ 41,018	▲ 37,990

ウ) 人口密度が近い保険者との比較

人口密度が近い全国の保険者と比べると、通所介護の受給者1人あたり給付月額が第1位に位置しており、他保険者より大幅に高くなっています。最も差のある保険者より51,842円高いです。



(時点) 令和4年(2022年)

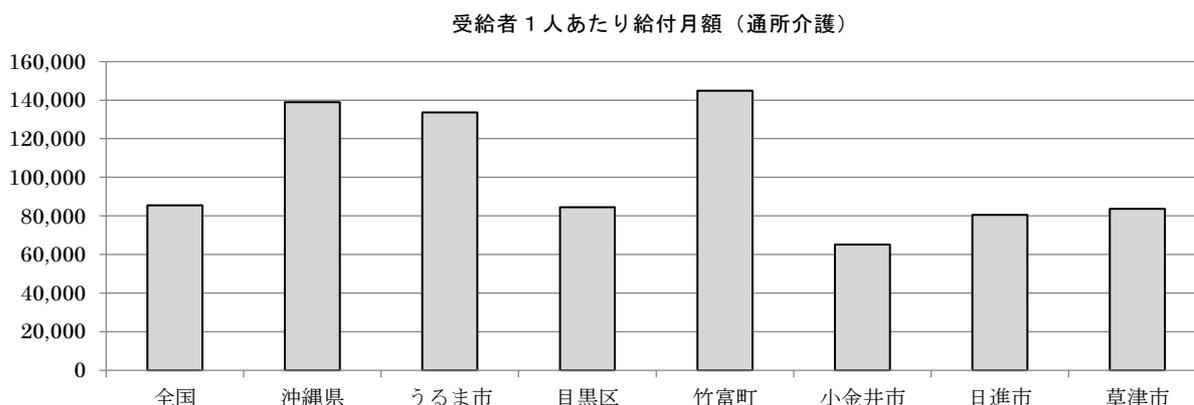
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市
通所介護	85,506	138,926	133,615	81,773	112,606	93,283	87,140	87,287
対うるま市	▲ 48,109	5,311	—	▲ 51,842	▲ 21,009	▲ 40,332	▲ 46,475	▲ 46,328

イ) 高齢化率が近い保険者との比較

高齢化率が近い全国の保険者と比べると、通所介護の受給者1人あたり給付月額は竹富町に次いで、第2位に位置しており、県外保険者より大幅に高くなっています。最も差のある保険者より68,464円高くなっています。



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

単位：円

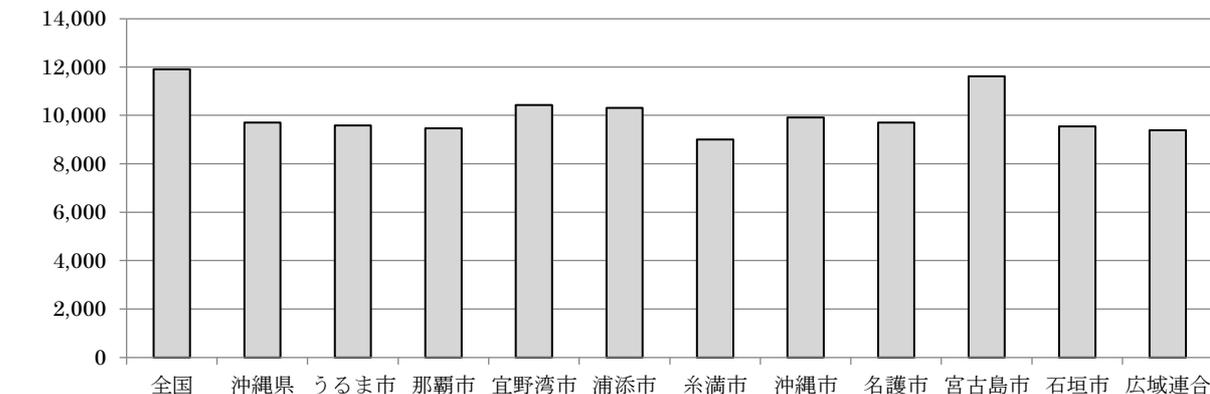
	全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
通所介護	85,506	138,926	133,615	84,497	144,834	65,151	80,474	83,635
対うるま市	▲ 48,109	5,311	—	▲ 49,118	11,219	▲ 68,464	▲ 53,141	▲ 49,980

⑥受給者1人あたり給付月額（福祉用具貸与）

7) 近隣保険者との比較

在宅サービスの中で利用率の高い福祉用具貸与について、受給者1人あたり給付月額を県内保険者と比べると、本市より高い保険者が多く、本市は第6位に位置しています。また、全国に比べ、県内保険者の福祉用具貸与給付額は低くなっており、本市では全国より2,325円下回っています。

受給者1人あたり給付月額（福祉用具貸与）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

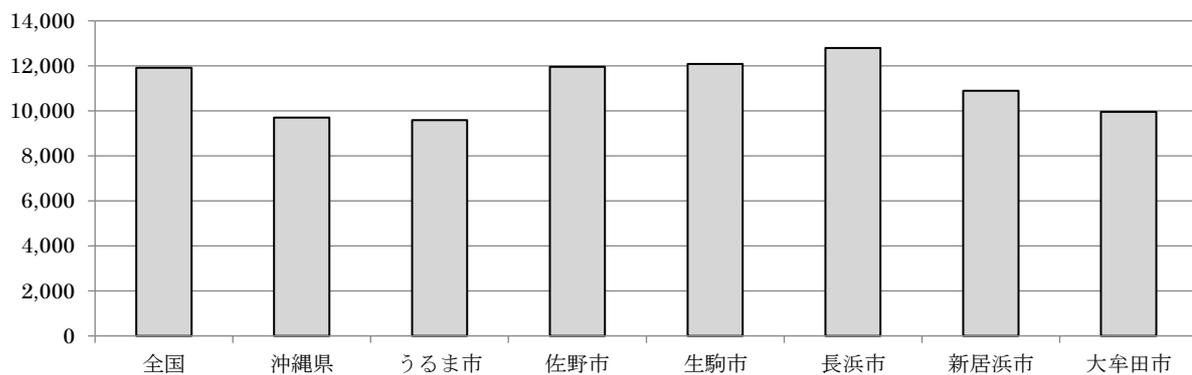
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
福祉用具貸与	11,910	9,700	9,585	9,468	10,432	10,311	9,009	9,917	9,705	11,614	9,544	9,389
対うるま市	2,325	115	—	▲117	847	726	▲576	332	120	2,029	▲41	▲196

1) 人口規模が近い保険者との比較

人口規模が近い全国の保険者と比べると、福祉用具貸与の受給者1人あたり給付月額は、本市が一番低くなっています。最も差のある保険者より3,208円低いです。

受給者1人あたり給付月額（福祉用具貸与）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

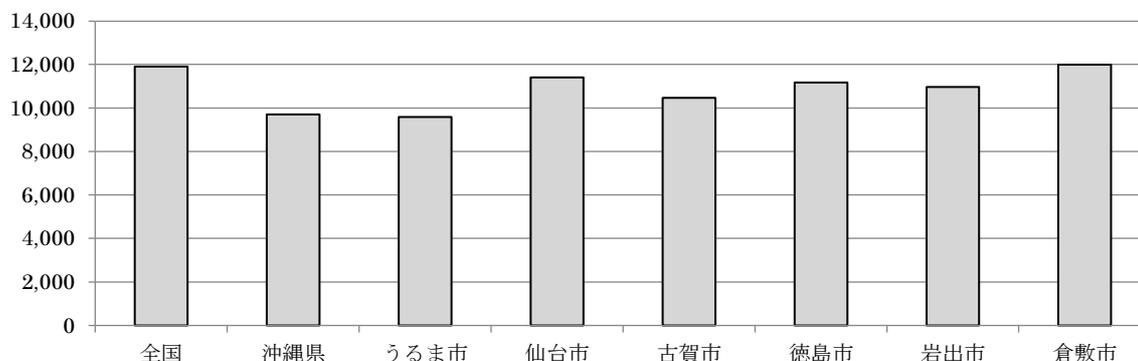
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
福祉用具貸与	11,910	9,700	9,585	11,954	12,078	12,793	10,888	9,952
対うるま市	2,325	115	—	2,369	2,493	3,208	1,303	367

ウ) 人口密度が近い保険者との比較

人口密度が近い全国の保険者と比べると、福祉用具貸与の受給者1人あたり給付月額は、6保険者の中で市が一番低くなっています。最も差のある保険者より2,412円低いです。

受給者1人あたり給付月額（福祉用具貸与）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

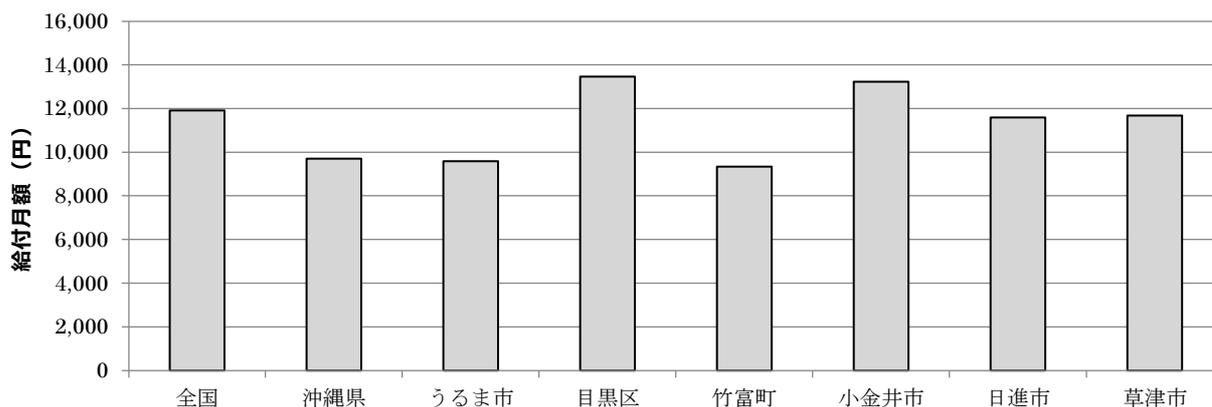
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市
福祉用具貸与	11,910	9,700	9,585	11,403	10,467	11,162	10,958	11,997
対うるま市	2,325	115	—	1,818	882	1,577	1,373	2,412

イ) 高齢化率が近い保険者との比較

高齢化率が近い全国の保険者と比べると、福祉用具貸与の受給者1人あたり給付月額は、第5位に位置しています。最も差のある保険者より3,874円低いです。

受給者1人あたり給付月額（福祉用具貸与）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

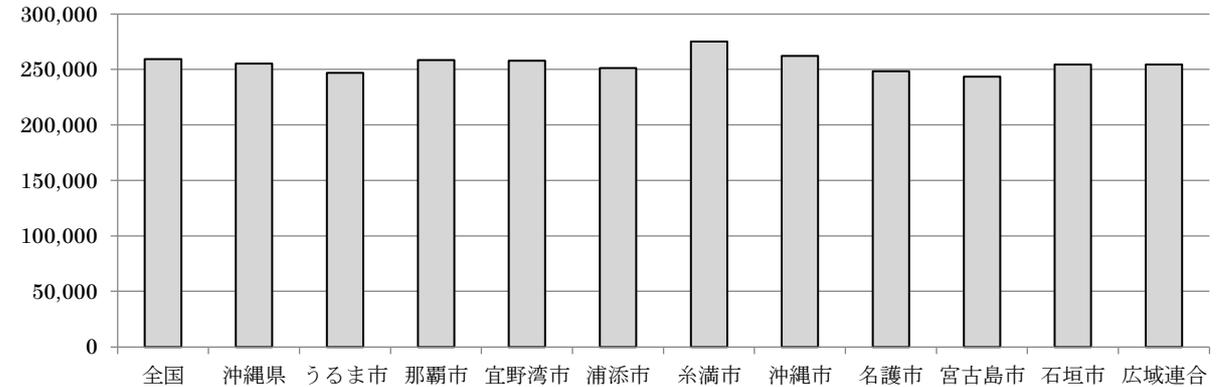
	全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
福祉用具貸与	11,910	9,700	9,585	13,459	9,336	13,218	11,594	11,680
対うるま市	2,325	115	—	3,874	▲ 249	3,633	2,009	2,095

⑦受給者1人あたり給付月額（認知症対応型共同生活介護）

7) 近隣保険者との比較

居住系サービスである認知症対応型共同生活介護について、受給者1人あたり給付月額を県内保険者と比べると、本市は宮古島市に次いで低く、一番高い糸満市との差は28,282円となっています。また、全国と比べても低く、12,510円の差があります。

受給者1人あたり給付月額（認知症対応型共同生活介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

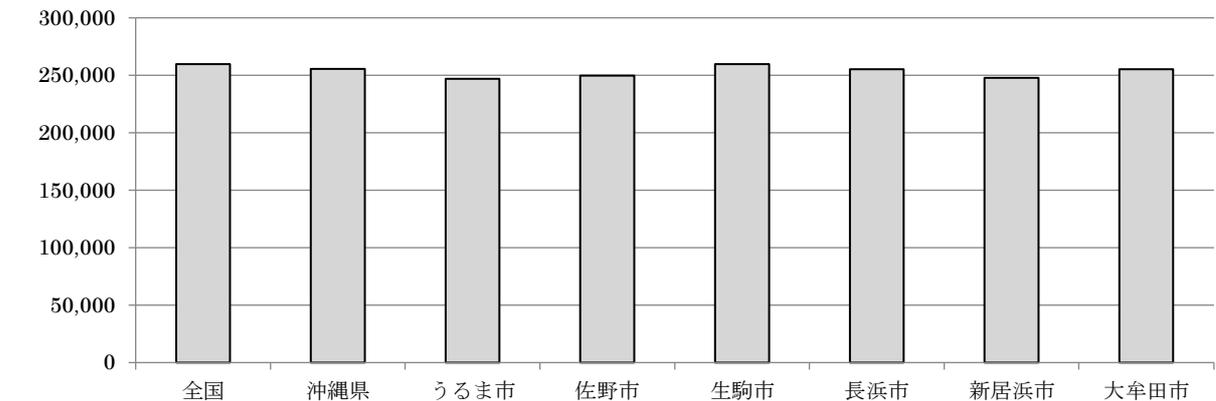
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
共同生活介護	259,455	255,359	246,945	258,453	257,874	251,289	275,227	262,263	248,274	243,567	254,385	254,560
対うるま市	12,510	8,414	—	11,508	10,929	4,344	28,282	15,318	1,329	▲3,378	7,440	7,615

7) 人口規模が近い保険者との比較

人口規模が近い全国の保険者と比べると、認知症対応型共同生活介護の受給者1人あたり給付月額は6保険者の中で本市が最も低くなっています。

受給者1人あたり給付月額（認知症対応型共同生活介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

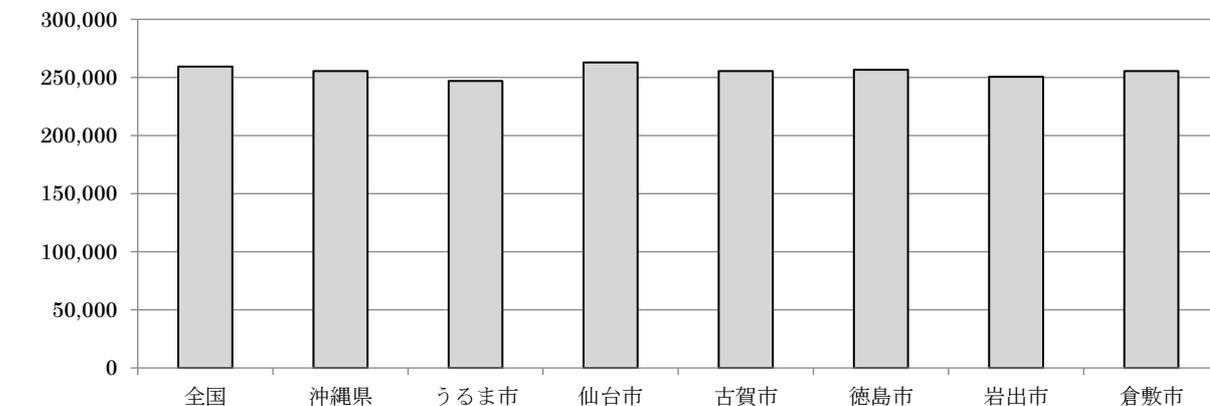
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
共同生活介護	259,455	255,359	246,945	249,545	259,557	255,172	247,704	255,145
対うるま市	12,510	8,414	—	2,600	12,612	8,227	759	8,200

ウ) 人口密度が近い保険者との比較

人口密度が近い全国の保険者と比べると、認知症対応型共同生活介護の受給者1人あたり給付月額は6保険者の中で市が最も低くなっています。

受給者1人あたり給付月額（認知症対応型共同生活介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

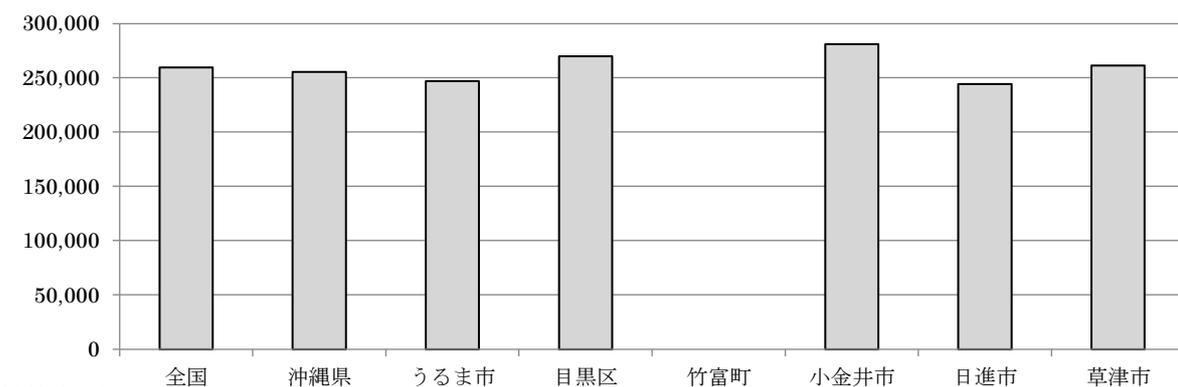
単位：円

	全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市
共同生活介護	259,455	255,359	246,945	263,004	255,598	256,646	250,544	255,352
対うるま市	12,510	8,414	—	16,059	8,653	9,701	3,599	8,407

イ) 高齢化率が近い保険者との比較

高齢化率が近い全国の保険者と比べると、認知症対応型共同生活介護の受給者1人あたり給付月額は6保険者の中で本市が第4位に位置しています。

受給者1人あたり給付月額（認知症対応型共同生活介護）



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

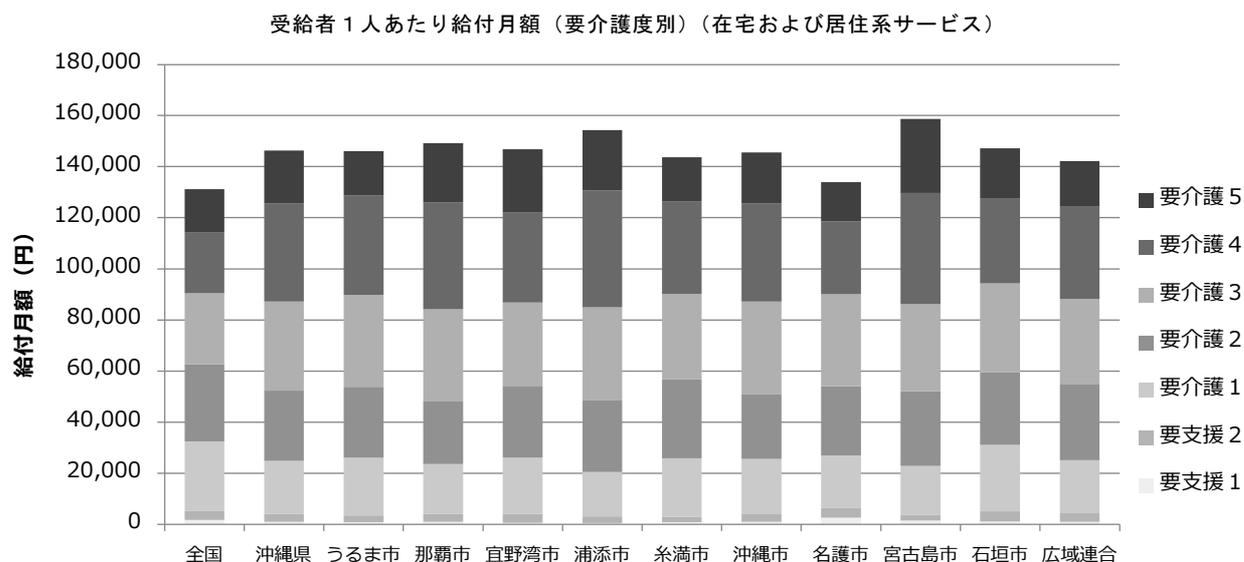
	全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
共同生活介護	259,455	255,359	246,945	269,807	0	280,928	244,274	261,211
対うるま市	12,510	8,414	—	22,862	▲ 246,945	33,983	▲ 2,671	14,266

⑧受給者1人あたり給付月額（要介護度別）（在宅および居住系サービス）

7) 近隣保険者との比較

在宅および居住系サービスの受給者1人あたり給付月額を要介護度別にみると、県内他保険者と比べると、概ね中位に位置しています。

全国と比べると、要介護3以上の重い介護度で本市の方が高くなっており、特に要介護4は15,220円高いです。本市は全国より中・重度者での利用が多い状況にあります。



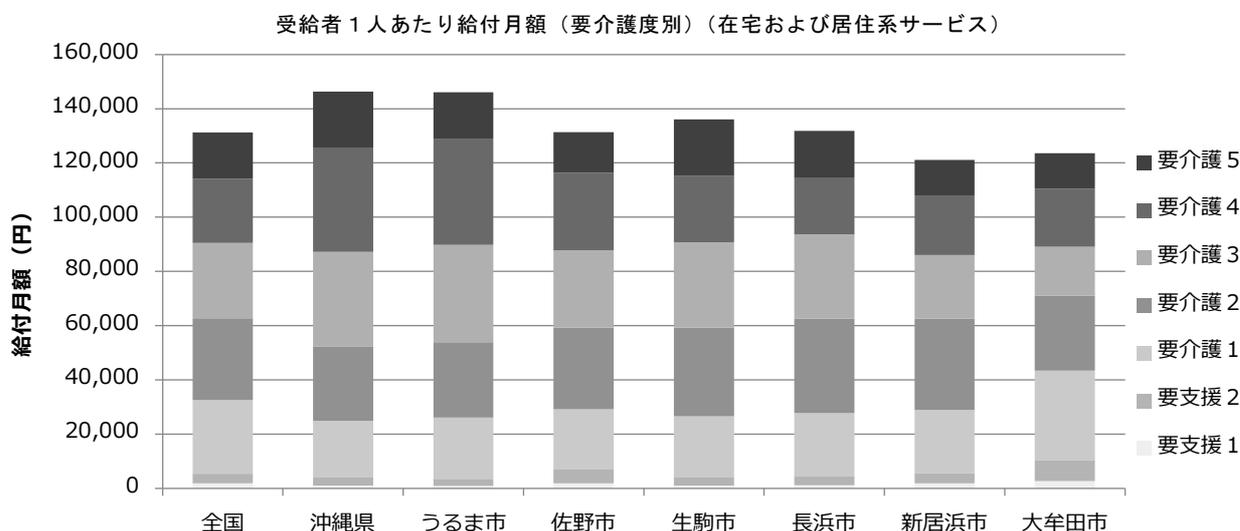
(時点) 令和4年(2022年)
 (出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

		全国	沖縄県	うるま市	那覇市	宜野湾市	浦添市	糸満市	沖縄市	名護市	宮古島市	石垣市	広域連合
在宅および居住系サービス	要支援1	1,796	1,005	874	963	667	469	847	1,010	2,634	1,474	1,150	926
	要支援2	3,592	3,129	2,552	3,180	3,455	2,615	2,026	3,250	3,772	2,125	3,968	3,429
	要介護1	27,120	20,714	22,678	19,441	21,985	17,424	22,960	21,299	20,631	19,217	25,936	20,727
	要介護2	30,253	27,486	27,721	24,559	28,050	28,146	30,815	25,255	27,050	29,281	28,349	29,572
	要介護3	27,678	34,906	35,950	36,055	32,723	36,302	33,570	36,387	35,972	34,159	34,958	33,514
	要介護4	23,785	38,453	39,005	41,693	35,267	45,690	36,075	38,478	28,471	43,452	33,035	36,073
	要介護5	17,008	20,589	17,273	23,282	24,703	23,657	17,430	19,852	15,434	28,942	19,739	17,874
	計	131,232	146,282	146,053	149,173	146,850	154,303	143,723	145,531	133,964	158,650	147,135	142,115
対うるま市	要支援1	922	131	—	89	▲207	▲405	▲27	136	1,760	600	276	52
	要支援2	1,040	577	—	628	903	63	▲526	698	1,220	▲427	1,416	877
	要介護1	4,442	▲1,964	—	▲3,237	▲693	▲5,254	282	▲1,379	▲2,047	▲3,461	3,258	▲1,951
	要介護2	2,532	▲235	—	▲3,162	329	425	3,094	▲2,466	▲671	1,560	628	1,851
	要介護3	▲8,272	▲1,044	—	105	▲3,227	352	▲2,380	437	22	▲1,791	▲992	▲2,436
	要介護4	▲15,220	▲552	—	2,688	▲3,738	6,685	▲2,930	▲527	▲10,534	4,447	▲5,970	▲2,932
	要介護5	▲265	3,316	—	6,009	7,430	6,384	157	2,579	▲1,839	11,669	2,466	601
	計	1,796	1,005	—	963	667	469	847	1,010	2,634	1,474	1,150	926

1) 人口規模が近い保険者との比較

人口規模が近い全国の保険者と比べると、受給者1人あたり給付月額、要支援や要介護1・要介護2では他保険者と比べ、低い傾向にあります。要介護3以上では本市が最も高くなっています。



(時点) 令和4年(2022年)

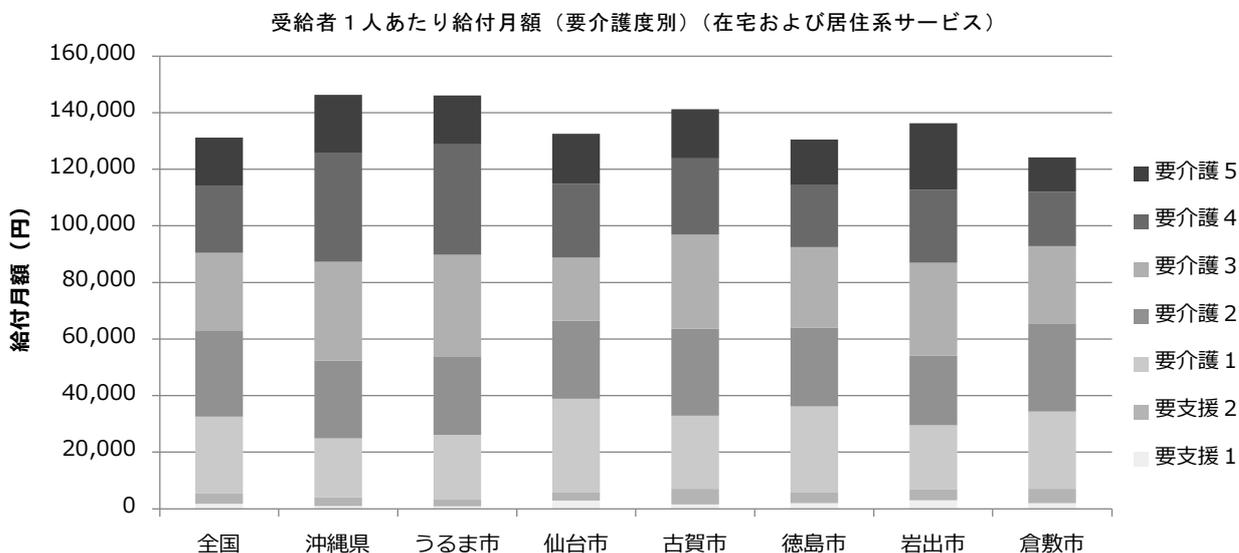
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

		全国	沖縄県	うるま市	佐野市	生駒市	長浜市	新居浜市	大牟田市
在宅および居住系サービス	要支援1	1,796	1,005	874	1,860	1,010	1,094	1,861	2,597
	要支援2	3,592	3,129	2,552	4,974	2,907	3,154	3,610	7,825
	要介護1	27,120	20,714	22,678	22,314	22,609	23,499	23,459	32,937
	要介護2	30,253	27,486	27,721	30,091	32,784	34,861	33,658	27,698
	要介護3	27,678	34,906	35,950	28,547	31,458	31,080	23,493	17,986
	要介護4	23,785	38,453	39,005	28,625	24,633	20,746	21,912	21,493
	要介護5	17,008	20,589	17,273	14,997	20,618	17,346	13,162	13,028
	計	131,232	146,282	146,053	131,408	136,019	131,780	121,155	123,564
対うるま市	要支援1	922	131	—	986	136	220	987	1,723
	要支援2	1,040	577	—	2,422	355	602	1,058	5,273
	要介護1	4,442	▲ 1,964	—	▲ 364	▲ 69	821	781	10,259
	要介護2	2,532	▲ 235	—	2,370	5,063	7,140	5,937	▲ 23
	要介護3	▲ 8,272	▲ 1,044	—	▲ 7,403	▲ 4,492	▲ 4,870	▲ 12,457	▲ 17,964
	要介護4	▲ 15,220	▲ 552	—	▲ 10,380	▲ 14,372	▲ 18,259	▲ 17,093	▲ 17,512
	要介護5	▲ 265	3,316	—	▲ 2,276	3,345	73	▲ 4,111	▲ 4,245
	計	▲ 14,821	229	—	▲ 14,645	▲ 10,034	▲ 14,273	▲ 24,898	▲ 22,489

ウ) 人口密度に近い保険者との比較

人口密度に近い全国の保険者と比べると、受給者1人あたり給付月額、要支援や要介護1・要介護2では他保険者と比べ、低い傾向にあります。要介護3以上では本市が最も高くなっています。



(時点) 令和4年(2022年)

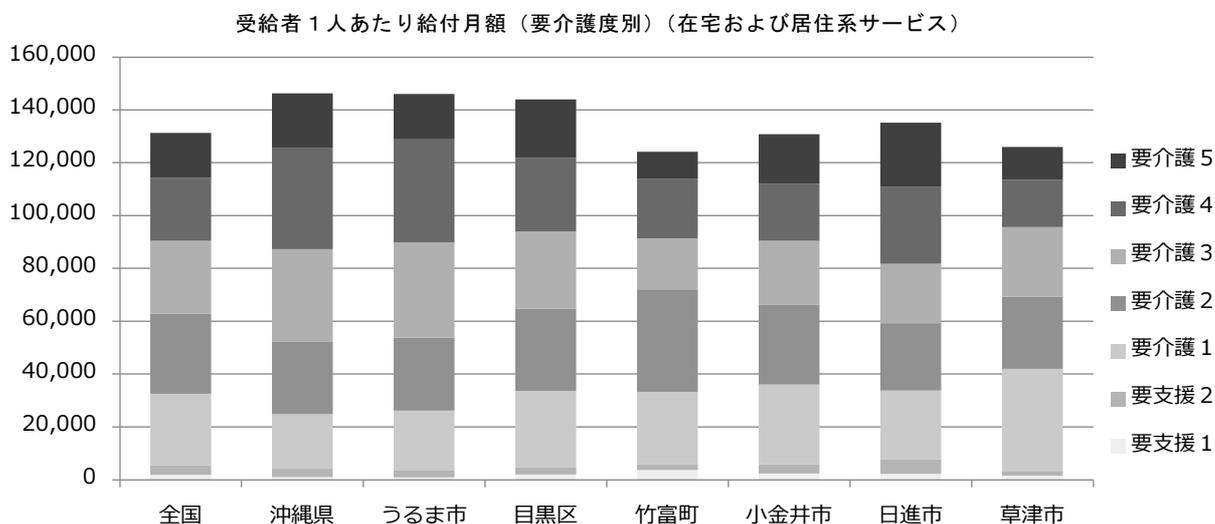
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

単位：円

		全国	沖縄県	うるま市	仙台市	古賀市	徳島市	岩出市	倉敷市
在宅および居住系サービス	要支援1	1,796	1,005	874	2,822	1,482	1,954	3,037	1,999
	要支援2	3,592	3,129	2,552	3,100	5,567	4,011	3,873	5,025
	要介護1	27,120	20,714	22,678	32,971	25,885	30,159	22,550	27,368
	要介護2	30,253	27,486	27,721	27,487	30,623	27,953	24,608	30,865
	要介護3	27,678	34,906	35,950	22,315	33,319	28,397	32,831	27,592
	要介護4	23,785	38,453	39,005	26,075	26,920	21,845	25,866	19,178
	要介護5	17,008	20,589	17,273	17,739	17,479	16,127	23,466	12,174
	計	131,232	146,282	146,053	132,509	141,275	130,446	136,231	124,201
対うるま市	要支援1	922	131	—	1,948	608	1,080	2,163	1,125
	要支援2	1,040	577	—	548	3,015	1,459	1,321	2,473
	要介護1	4,442	▲ 1,964	—	10,293	3,207	7,481	▲ 128	4,690
	要介護2	2,532	▲ 235	—	▲ 234	2,902	232	▲ 3,113	3,144
	要介護3	▲ 8,272	▲ 1,044	—	▲ 13,635	▲ 2,631	▲ 7,553	▲ 3,119	▲ 8,358
	要介護4	▲ 15,220	▲ 552	—	▲ 12,930	▲ 12,085	▲ 17,160	▲ 13,139	▲ 19,827
	要介護5	▲ 265	3,316	—	466	206	▲ 1,146	6,193	▲ 5,099
	計	▲ 14,821	229	—	▲ 13,544	▲ 4,778	▲ 15,607	▲ 9,822	▲ 21,852

I) 高齢化率が近い保険者との比較

高齢化率が近い全国の保険者と比べると、受給者1人あたり給付月額は、要支援1・要支援2・要介護1については本市の方が低い傾向にあります。要介護2・要介護3・要介護4は、ほとんどにおいて本市の方が高くなっており、特に要介護4でその差が大きくなっています。



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

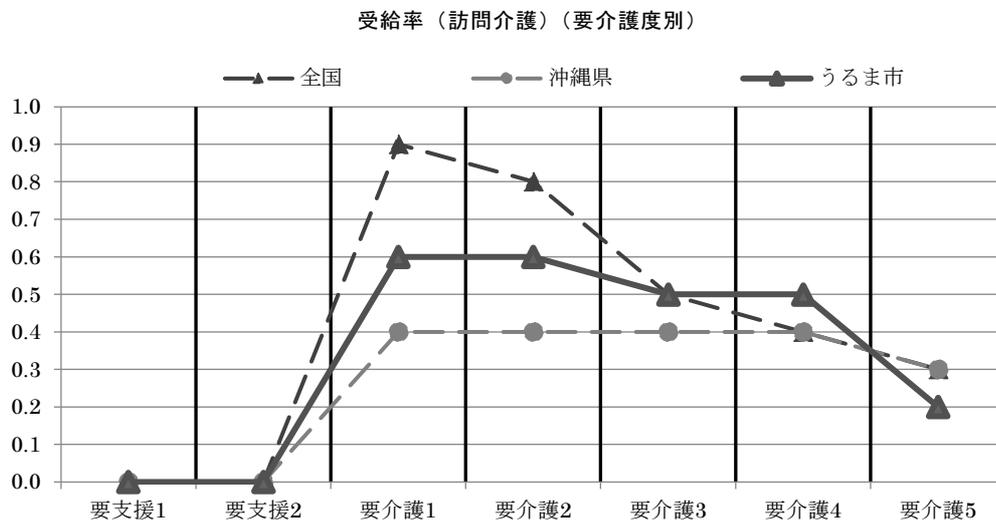
単位：円

		全国	沖縄県	うるま市	目黒区	竹富町	小金井市	日進市	草津市
在宅および居住系サービス	要支援1	1,796	1,005	874	2,002	3,603	2,269	2,218	1,430
	要支援2	3,592	3,129	2,552	2,767	2,073	3,391	5,592	1,881
	要介護1	27,120	20,714	22,678	28,806	27,523	30,413	25,952	38,679
	要介護2	30,253	27,486	27,721	31,054	38,896	29,998	25,481	27,283
	要介護3	27,678	34,906	35,950	29,284	19,338	24,341	22,521	26,366
	要介護4	23,785	38,453	39,005	27,854	22,519	21,685	29,217	17,820
	要介護5	17,008	20,589	17,273	22,159	10,180	18,628	24,115	12,501
	計	131,232	146,282	146,053	143,926	124,132	130,725	135,096	125,960
対うるま市	要支援1	922	131	—	1,128	2,729	1,395	1,344	556
	要支援2	1,040	577	—	215	▲ 479	839	3,040	▲ 671
	要介護1	4,442	▲ 1,964	—	6,128	4,845	7,735	3,274	16,001
	要介護2	2,532	▲ 235	—	3,333	11,175	2,277	▲ 2,240	▲ 438
	要介護3	▲ 8,272	▲ 1,044	—	▲ 6,666	▲ 16,612	▲ 11,609	▲ 13,429	▲ 9,584
	要介護4	▲ 15,220	▲ 552	—	▲ 11,151	▲ 16,486	▲ 17,320	▲ 9,788	▲ 21,185
	要介護5	▲ 265	3,316	—	4,886	▲ 7,093	1,355	6,842	▲ 4,772
	計	▲ 14,821	229	—	▲ 2,127	▲ 21,921	▲ 15,328	▲ 10,957	▲ 20,093

⑨ 受給率（要介護度別）

7) 訪問介護

訪問介護の受給率をみると、本市では、要介護4以外で全国より低い傾向にありますが、要介護1から要介護4までについては沖縄県より高くなっています。

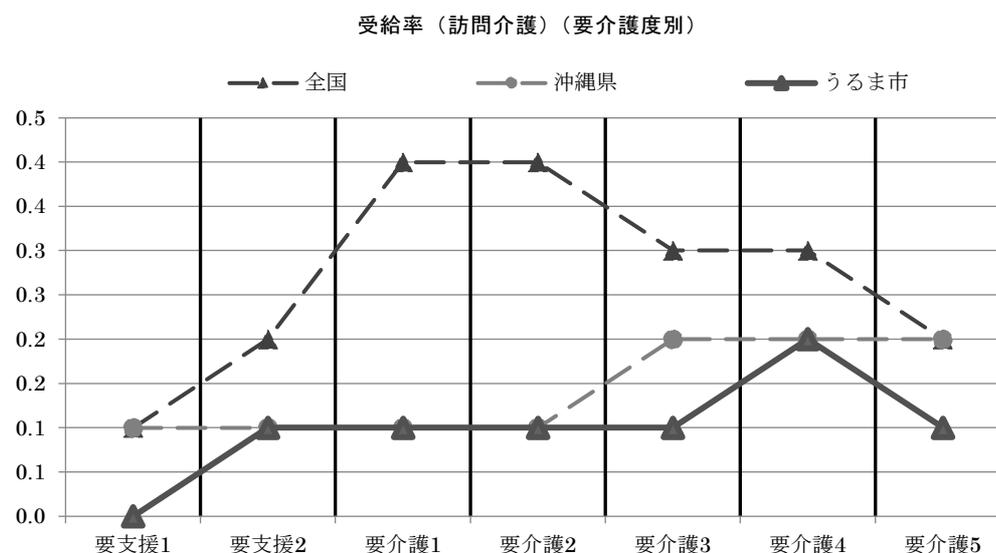


（時点）令和4年(2022年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

1) 訪問看護

訪問看護の受給率をみると、本市では、要介護4以外で全国より低い傾向にありますが、要介護1から要介護4までについては沖縄県より高くなっています。

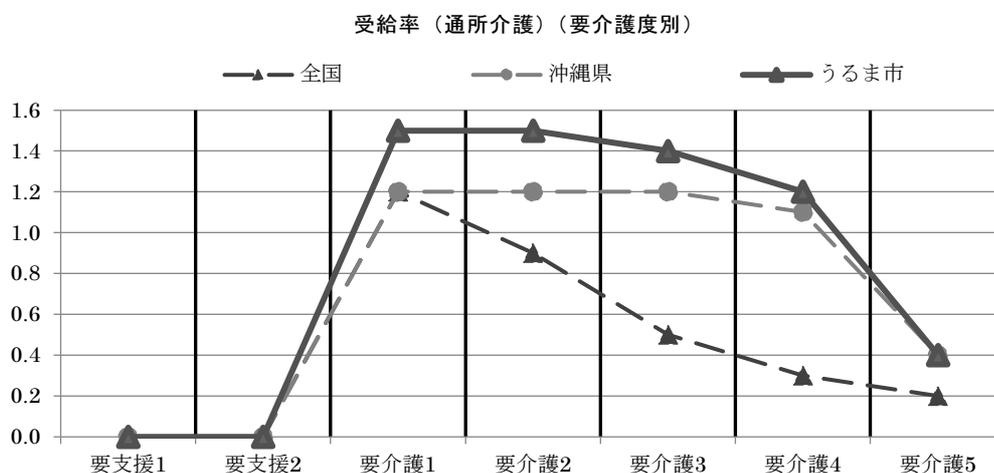


（時点）令和4年(2022年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

ウ) 通所介護

通所介護の受給率をみると、本市では、要介護は全国・沖縄県より高く、また要介護5についても、沖縄県とともに全国より高くなっています。特に本市は要介護2・要介護3・要介護4で全国との差が大きく、中重度者での通所介護利用が多いことがわかります。

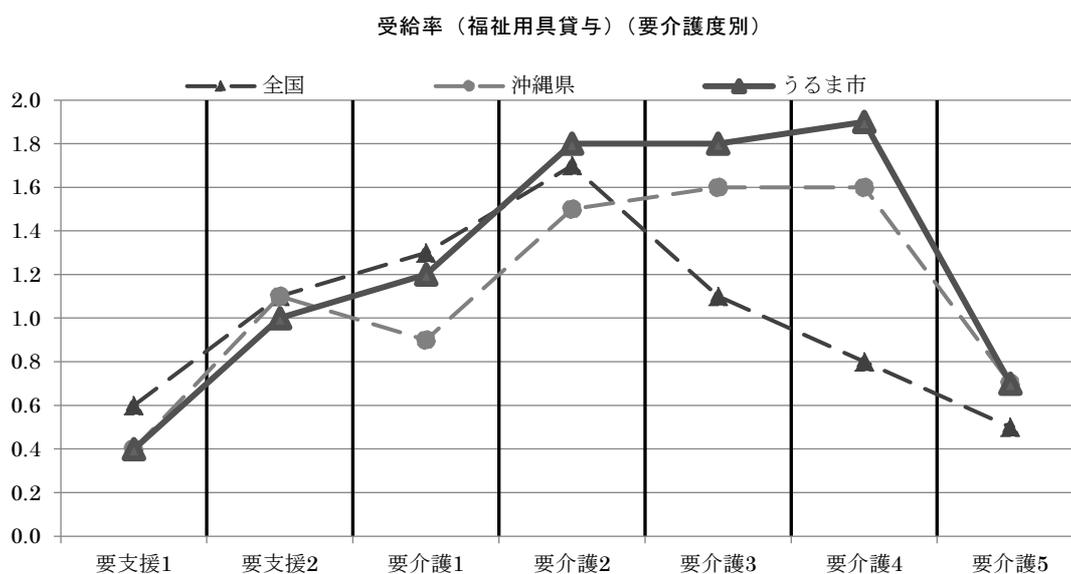


(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

エ) 福祉用具貸与

福祉用具貸与の受給率をみると、本市では、要介護3から要介護4の受給率が最も高くなっています。中重度者での福祉用具貸与の利用が全国と比較して多いことがわかります。



(時点) 令和4年(2022年)

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

第2章 高齢者を取り巻く状況や課題のまとめ

まとめ1. 高齢者の人口や世帯

【(後期高齢者数が増大する時期に突入。介護を必要とする高齢者の増加、一人暮らし高齢者の増加への対応)】

【介護を必要としない高齢者を増やすための対策の検討】

- ・本市の高齢者人口は増加を続けている。令和4年の高齢者数は29,024人、高齢化率は23.1%であり、全国値(29.0%)より低い、着実に増加している。団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年(令和7年)には高齢者人口は3万人を超え、高齢化率は24.2%になると見込まれる。
- ・高齢者人口(令和3年10月1日現在)を圏域別にみると、最も高齢化率が高いのは与勝東地区の31.2%であり、次いで与勝西地区の27.1%となっている。最も低いのは具志川南地区の18.2%である。圏域で高齢化率に差がみられる。
- ・高齢者のうち、後期高齢者(75歳以上)になると、介護を必要とする割合が高まる。第9期計画期間では、後期高齢者が増加する見込みとなっている。特に、令和8年以降は、高齢者に占める後期高齢者の割合が前期高齢者を上回り、その後、一貫して急増を続けていくと予測される。全国と比較して後期高齢者の増加率は非常に高いため、介護保険サービスの利用量、給付費は大きく伸びると見込まれる。
- ・世帯構成をみると、一人暮らし高齢者(高齢者単身世帯)が増加している。令和2年の一人暮らし高齢者は8,672世帯で、総世帯(54,315世帯)の16.0%を占め、また高齢者のいる世帯(20,389世帯)の中では42.5%を占めており、高齢者の半数近くが一人暮らしという状況にある。

- 後期高齢者の増加に対応できる介護保険サービスの基盤整備が必要である。
- 介護を必要としない高齢者を増やすための、介護予防以前の健康づくりや生きがいづくりなどの取組を推進する必要がある。
- 一人暮らし高齢者の増加が著しく、高齢者の孤立対策(見守りや支え合い)の強化のほか、家族がいない場合等には、認知症状により判断能力が不十分な人のために後見人を立てる成年後見が必要ともなり、成年後見に対応する体制の強化が必要である。

まとめ 2. 高齢者の活動の状況

【元気であるために、高齢者の就労機会、生きがいの機会づくりの検討】

- ・令和2年においては、就労している高齢者数は4,951人で、高齢者の17.7%を占める。就労者数は増加傾向にあり、労働者全体に占める高齢者の割合も上昇しており、11.8%と1割を超えている。しかし、県では高齢者の就労率が21.7%と、本市より高い。
- ・老人クラブの加入者数は年々減少しており、平成30年度の7,389人が令和3年度には6,061人となっている。また、単位老人クラブの休会は令和3年度で18か所となっている。特に、与勝東地区では7か所が休会している。

- 高齢者の就労は生きがい対策ともなるため、雇用の場の確保も必要である。
- 高齢者の活動機会である老人クラブの活性化やその他の生きがい活動などについて、今後のあり方を検討する必要がある。

まとめ 3. 要介護認定の状況

【重度の認定者が全国と比べて多く、軽度の認定者が少ない。重度者が多い要因の把握と対応策の検討が必要】

【非課税等の所得が低い層で認定者が多く、介護度も重度者が多い。所得が低い層が介護状態に陥る要因の把握が必要】

(認定者、認定率)

- ・令和3年10月現在の要支援・要介護認定者数は5,553人であり、年々増加している。認定者の8割以上が後期高齢者で占められている。
- ・認定率は、平成27年の20.1%と比べて減少傾向となっている。令和3年は18.9%で、県とは同程度あるが、全国の17.9%より高い。また、認定率は前期高齢者の5.4%に対し、後期高齢者が35.3%となっており、75歳以上の後期高齢者で介護が必要となる割合が急増する。後期高齢者の認定率は、平成28年度以降、33%台で僅かな上昇で推移していたが、令和3年では対前年比1.4%の伸びとなった。

(要介護度別の認定率)

- ・本市では、中・重度者の占める割合が全国より高い。要介護3～要介護5は本市では44.4%であるのに対し、全国では34.5%となっている。軽度者(要支援および要介護1)は、本市では38.1%であるのに対し、県は39.3%、全国は48.6%であり、県や全国を下回っている。

(所得段階(課税・非課税)と認定者数の関係)

- ・所得段階別に被保険者数や認定者数をみると、被保険者数は、非課税世帯(第1段階～第3段階)が44.5%と半数近くを占めている。中でも第1段階が29.7%を占める。
- ・認定者に占める非課税世帯は65.5%であり、第1段階では46.6%となっている。
- ・認定率は、第6段階以上が10%前後であるのに対し、低所得者層(第1段階～第5段階)での認定率が高い。また、非課税世帯と課税世帯で認定率を比べると、非課税世帯の認定率は24.7%、課税世帯の認定率は10.4%であり、その差は約2.4倍となっている。
- ・要介護3以上の認定者に占める非課税世帯の割合は69.9%であり、非課税世帯で重度者が多いことがわかる。

(他保険者との比較)

- ・本市の認定率は、県内保険者(多良間村、与那国町、竹富町を除く)の中で最も高い。要介護度別にみると、要介護1から要介護4で、本市の方が高く、多くの介護度で県内の他保険者よりも認定率が高いことがわかる。本市と人口規模、人口密度、高齢化率が近い全国の他保険者を比較すると、認定率は本市の方が比較的高く位置している。
- ・本市では、全国より軽度者(要支援1～要介護2)の認定率は低いものの、重度者(要介護3以上)の認定率が高い位置にある。県内の他保険者と比べると、重度認定率は最も高いほか、軽度認定率も2位に位置している。また、本市と人口規模、人口密度、高齢化率が近い全国の他保険者と比較すると、いずれも重度認定率は本市が最も高い位置にあり、軽度認定率は低くなっている。全国的にみて、本市は、重度認定率が非常に高い保険者であることがわかる。

- 非課税世帯における要介護者の割合が高い要因の分析や、この層に対する介護予防や重度化防止、あるいは高齢となる前又は介護認定となる前の健康づくり・健康管理の取組を検討する必要がある。
- 全国的にみて、本市の保険料は高くなっているが、介護保険サービスを利用する認定者の要介護度が、給付費単価の高い重度に偏っていることで、保険料も高くなる構造となっている。より一層の介護予防重度化防止対策が必要である。
- また、重度化してから要介護認定を受ける人がどの程度を占めるか、新規申請時での認定状況を確認することも必要である。その状況によっては、高齢となる前又は介護認定となる前の生活習慣、健康管理等の面での市民へのアプローチを一層強化するなど、対策を検討する必要がある。

まとめ 4. 介護保険給付費の状況

【介護保険サービスの給付費は、居宅サービスが大半を占めている。重度者での利用増が大きな要因となっている。】

【特養待機者が存在する中で、施設・居住系サービスの給付費は減少がみられる。施設ニーズに対応する整備の必要性を確認する必要がある】

(総給付費)

- ・介護保険サービスの総給付費は、令和3年度まで一貫して増加している。平成28年度が約79億円だったのに対し、令和3年度は89億円近くまで伸びている。新型コロナウイルス感染予防のためここ数年は介護保険サービスの休止、利用控えなどがみられたものの、給付費の伸びがとどまることはない状況となっている。
- ・給付費の中では居宅サービスの占める割合が圧倒的に高く、令和3年度では59.4%となっている。地域密着型サービスは12.9%で対前年度増加、施設サービスは27.7%で対前年度減少している。
- ・本市の第1号被保険者1人あたり給付月額(令和2年時点)を県内の他保険者と比べると、在宅サービス、施設および居住系サービスを合わせた金額は、宮古島市、糸満市に次いで3位であり、県内でも1人あたり給付月額の高い保険者となっている。
- ・本市と人口規模、人口密度、高齢化率が近い全国の他保険者と1人あたり月額給付費を比較すると、いずれにおいても本市は在宅サービスの月額が圧倒的に高く、施設および居住系サービスの月額が最も低い保険者となっている。給付費が在宅サービスに偏っており、重度者での利用のほか、週の利用回数も多くなっていることがうかがえる。
- ・施設および居住系サービスの第1号被保険者1人あたり給付月額は、平成24年以降一貫して減少している。全国でも減少で推移しているが、本市の方が低く推移している。

- 特養待機者が存在する中、施設および居住系サービスの給付費が減少しており、施設ニーズに対応する整備量の確保が必要である。現時点における特養待機者数を把握し、必要とする人が必要なサービスを利用できるよう、施設整備を検討する必要がある。
- 介護保険制度が始まった平成12年当初、沖縄県では施設サービスの利用率が高くなっていた。国の政策や県の方針として、給付費が比較的割高となる施設サービスについては、その整備や利用率を抑え、居宅サービスの利用による在宅介護を中心とした介護保険を推進してきたが、通所介護をはじめとする事業所の増加と居宅サービス利用ニーズの上昇等により、居宅サービスの給付費が増加し、給付費全体を押し上げている。各種介護保険サービスの適正利用を推進していく必要がある。

【通所介護と地域密着型通所介護の給付費が、総給付費の4割近くを占めている。全国比で1.56倍の給付費であり、重度者での受給率も全国を大きく上回っている。】

【通所介護の適正利用について、実態把握と検証が必要である。】

(通所介護、地域密着型通所介護の給付費)

- ・給付費の中では、通所介護の占める割合が高い。令和3年度では、給付費の31.4%を占めている。また、通所介護に地域密着型通所介護を合わせると、給付費の38.1%と約4割を占める。新型コロナウイルス感染予防のために利用を控えるケースがみられると言われているが、令和2年度まで給付費は伸びている。平成24年度比較では、13億5千万円(66.7%)と大幅な増額となっている。
- ・通所介護の給付費を要介護度別にみると、要介護1と要介護3で、毎年給付費が増加している。また、要介護3と要介護4では、給付費が他の介護度より高く、令和3年度では、それぞれ7億円を超えている。重度者での通所介護給付費の占める割合が大きい。
- ・本市の通所介護の受給者1人あたり給付月額(令和4年時点)は、133,615円で、県平均を5,311円下回っているが、全国の85,506円を48,109円も上回っており、1.56倍の差がある。本市と人口規模、人口密度、高齢化率が近い全国の他保険者と比較すると、いずれにおいても本市の給付月額が高く、多くの保険者で4万円前後又は5万円前後の差がある。本市のサービス利用が通所介護に偏っていることがうかがえる。

- 令和3年度においては、通所介護の給付費は若干の減少となっているが、新型コロナウイルス感染状況による利用動向を注視しながら、第9期の給付費を見込む必要がある。
- 通所介護の受給率は、いずれの介護度でも全国より高く、特に要介護2、要介護3、要介護4で全国を大幅に上回っており、中重度者での通所介護の利用が多いことがわかる。全国では要介護1や要介護2での利用が多く、重度者での利用は低い。本市は、認定者をみても重度が全国より高いため、介護予防や重度化防止の推進・強化が必要である。

【新型コロナウイルスの影響により、通所利用から訪問系サービス利用に移行する傾向がみられる。今後もこの動向が続くか見極める必要がある。】

【全国では、要介護1、要介護2の受給率が高いが、本市では軽度者での受給率は低くとどまっている。軽度からサービス利用することで重度化防止につながるか、検証が必要である。】

(訪問介護の給付費)

- ・訪問介護の給付費(令和3年度)は約6億円である。給付費は、令和2年度以降の伸びが大きく、対前年度比較、令和2年度は14.47%増、令和3年度は26.45%増となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、人が集まる通所系サービスの利用を控え、訪問系サービスの利用にニーズが変化していることがうかがえる。

- ・訪問介護の給付費を要介護度別にみると、令和3年度は、要介護3、要介護4、要介護5で、前年度からの給付費の伸びが大きい。特に要介護4の給付費の伸びは顕著である。
- ・本市の訪問介護の受給者1人あたり給付月額(令和4年時点)は、72,341円で、県の89,796円、全国の76,628円を下回っている。本市と人口規模、人口密度、高齢化率が近い全国の他保険者と比較しても中位となっている。(
- ・訪問介護の受給率を要介護度別にみると、本市では、要介護4以外で全国、県より低くなっている。特に、要介護1と要介護2での受給率が全国を大きく下回っており、軽度者での利用が低いことがわかる。

【訪問看護の給付費は顕著に伸びているが、全国より受給率が低い。全国平均でみられる軽度からの訪問看護利用について、重度化防止等の効果を検証する必要がある。】

【在宅介護の維持のため、訪問看護や訪問診療等の在宅医療も不可欠であり、供給量の確保が課題である。】

(訪問看護の給付費)

- ・訪問看護も令和2年度以降、給付費が顕著に伸びている。令和3年度の給付費は約1億円で、対前年度比較、令和2年度は22.38%増、令和3年度は32.95%増となっている。訪問介護と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まる通所系サービスの利用を控え、訪問系サービスの利用にニーズが変化したことが、給付費増の一因と考えられる。
- ・訪問看護の給付費を要介護度別にみると、令和3年度では、要介護1のほか、要介護3、要介護4といった重度者での増加が顕著である。
- ・本市の訪問看護の受給率は、すべての要介護度において全国より低くなっている。全国では要介護1、要介護2での受給率が他の介護度より高く、軽度者での訪問看護利用で、全国との大きな違いがみられる。

- 在宅介護を継続するためには、訪問看護や訪問診療といった在宅医療の充実が併せて必要である。訪問看護の給付費増加は、事業所の増加や在宅介護のニーズが高まった事が要因となっているか、実態把握する必要がある。また実態把握は、令和3年度の特養等施設サービスの利用減少の影響も含めて確認する必要がある。
- 訪問系サービスの利用ニーズは、通所系サービスの利用控えが影響していると考えられるが、今後、この傾向が継続するのか、あるいは通所系サービスの利用に転換していくのか、このあたりを見極めて、第9期の給付費を見込む必要がある。

第3章 うるま市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告

第1節 高齢者の実態把握調査について

1. 調査の目的

老人福祉法第20条の8の規定等に基づく高齢者福祉計画を策定する上で、高齢者の生活状況や活動状況などの必要な基礎資料を得るとともに、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態を把握することを目的としています。

2. 調査の概要

調査実施期間：令和4年11月14日～令和4年12月5日

調査方法：郵送による配布・回収

調査対象者：市内在住の65歳以上の高齢者（要介護1～5の認定者以外）

回収状況：配布数：4,300件 回収数：2,624件（回収率：61.0%）

調査内容：厚労省より示された日常生活圏域ニーズ調査設問項目をベースに独自項目を追加して作成

3. 報告書の見方

- 図表中の「n数(number of case)」は集計対象者総数あるいは回答限定者設問の限定条件に該当する人数を示しています。
- グラフ中の「%」は小数点第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問(1つだけに○をつけるもの)であっても合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるもの)は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、文字数が多い場合は要約して記載する場合があります。
- クロス集計の場合、表側の項目に無回答があった場合、無回答を省くため、合計しても100%にならない場合があります。
- 経年比較の調査年度は、「第7期(前々回)」は平成28年度調査、「第8期(前回)」は令和元年度調査、「第9期(今回)」は令和4年度調査となります。

4. リスク判定方法

本報告書では、調査票の各設問より、運動器の機能低下や転倒リスクなどの「身体機能リスク判定」を行い、介護に陥りやすい高齢者の状態分析を行っています。各リスクと判定方法は以下のとおりです。

(1) 運動器の機能の低下

下記の設問で3問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(2) 転倒リスク

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(3) 閉じこもり傾向

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(4) 低栄養傾向

下記の設問で、BMIが18.5未満となり、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
身長・体重	身長・体重から算出されるBMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5未満の場合、低栄養が疑われる
6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

(5) 口腔機能低下

下記の設問で2問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

(6) 認知機能低下

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

(7) IADL(手段的自立度)の低下

下記の設問で、5点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

IADLは、外出や買物など、自立した日常生活を送るために必要な能力の判断基準となります。

設問内容	選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点
自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 1点 2. できるけどしていない 1点 3. できない 0点

(8) うつ傾向

下記の設問で1問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

(9) 知的能動性の低下

下記の設問で、4点満点中、2点以下を「低下」として評価します。

知的能動性は、探索、創作、余暇活動などの知的な活動をすることです。

設問内容	選択肢
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
新聞を読んでいますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
本や雑誌を読んでいますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点

(10) 社会的役割の低下

下記の設問で、4点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

社会的役割は、仲間と会食の機会を持ったり、地域の活動に参加したりするなど、地域で社会的な役割を果たすことです。

設問内容	選択肢
友人の家を訪ねていますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
病人を見舞うことができますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点

第2節 調査結果

1. 回答者の基本属性等

(1) 性別、年齢

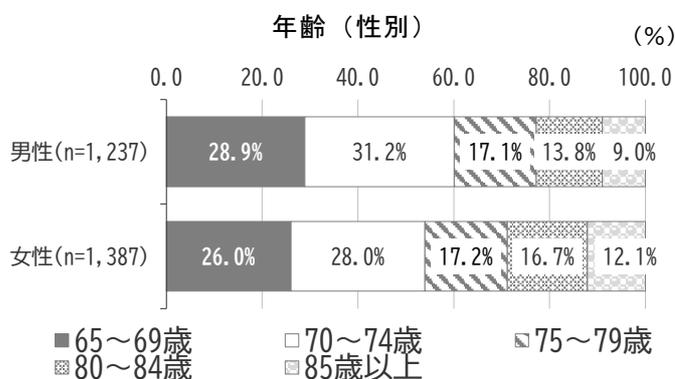
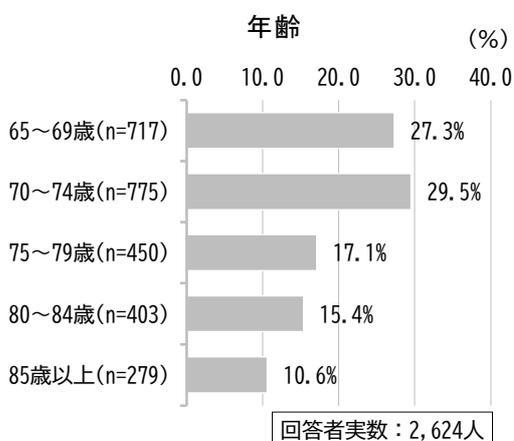
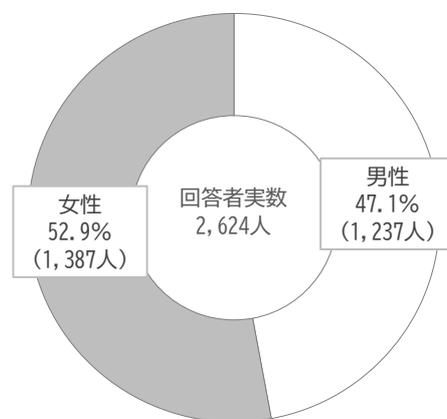
調査対象者の性別は、「男性」が47.1%、「女性」が52.9%で、女性の方が多くなっています。

年齢は、「65～69歳」が27.3%、「70～74歳」が29.5%で、これらを合わせた前期高齢者(65歳以上75歳未満)の占める割合が56.8%と、半数を超えています。また、前期高齢者は男性の方が多く、後期高齢者は女性の方が多くなっています。

年齢について圏域別に見ると、すべての圏域で前期高齢者が多くなっています。

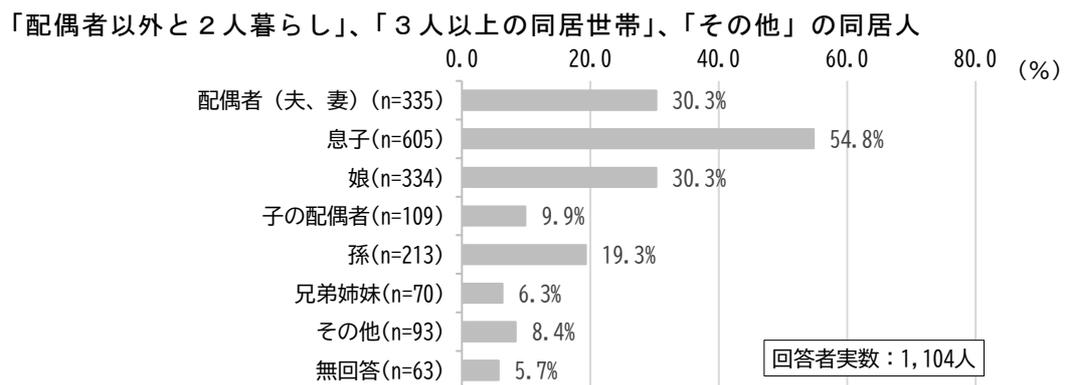
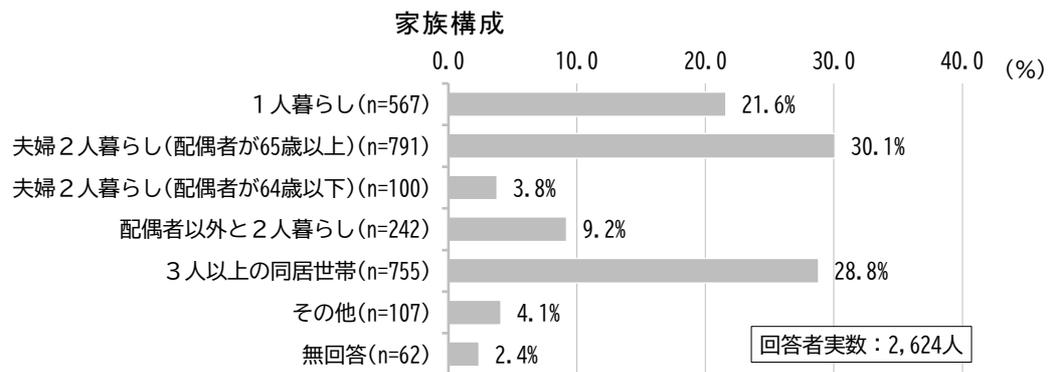
年齢（性別、圏域別）

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	100.0% (2,624人)	56.8% (1,492人)	43.1% (1,132人)
男性	47.1% (1,237人)	60.1% (743人)	39.9% (494人)
女性	52.9% (1,387人)	54.0% (749人)	46.0% (638人)
石川地区	15.6% (410人)	57.3% (235人)	42.7% (175人)
具志川北地区	15.3% (402人)	55.5% (223人)	44.5% (179人)
具志川東地区	14.4% (379人)	55.4% (210人)	44.6% (169人)
具志川西地区	15.5% (408人)	54.7% (223人)	45.3% (185人)
具志川南地区	16.9% (444人)	59.0% (262人)	41.0% (182人)
与勝西地区	12.5% (328人)	62.2% (204人)	37.8% (124人)
与勝東地区	9.6% (252人)	53.2% (134人)	46.8% (118人)



(2) 家族構成

家族構成を見ると、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」が30.1%で最も高く、また、「3人以上の同居世帯」が28.8%でこれに次いで高くなっています。「1人暮らし」は21.6%となっています。「配偶者以外と2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」の同居人については、「息子」が54.8%で最も高く、「配偶者(夫、妻)」、「娘」がそれぞれ30.3%、「孫」が19.3%となっています。



前回からの経年比較(介護保険事業計画の第8期から第9期の期間比較)を見ると「1人暮らし」が2.5ポイント上がっているほか、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」も前回より上がっており、その他の家族構成は、横ばいか微減しています。

家族構成(経年比較)

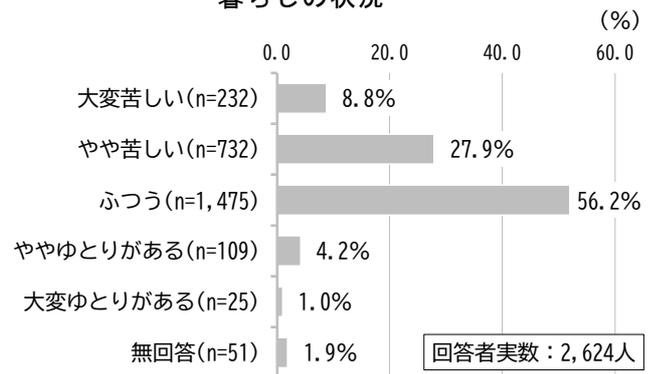
	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
1人暮らし	461 (19.1)	567 (21.6)	2.5
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	689 (28.5)	791 (30.1)	1.6
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	92 (3.8)	100 (3.8)	0.0
配偶者以外と2人暮らし	227 (9.4)	242 (9.2)	▲0.2
3人以上の同居世帯	748 (31.0)	755 (28.8)	▲2.2
その他	98 (4.1)	107 (4.1)	0.0
無回答	100 (4.1)	62 (2.4)	▲1.7

(3) 暮らしの状況（経済的に見て）

経済的な面での暮らしの状況を尋ねました。最も高いのは「ふつう」の56.2%と6割近くを占めていますが、「大変苦しい」、「やや苦しい」をあわせた“苦しい”という回答が36.7%と4割近くを占め、経済的な負担を感じている人も多いことがわかります。

前々回からの経年比較を見ると「大変苦しい」、「やや苦しい」は前回、前々回の調査時点より微増ではありますが増える傾向が見られます。

暮らしの状況



暮らしの状況（経年比較）

	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
大変苦しい	201 (8.0)	193 (8.0)	232 (8.8)	0.8
やや苦しい	633 (25.2)	662 (27.4)	732 (27.9)	0.5
ふつう	1,473 (58.6)	1,396 (57.8)	1,475 (56.2)	▲1.6
ややゆとりがある	120 (4.8)	98 (4.1)	109 (4.2)	0.1
大変ゆとりがある	19 (0.8)	23 (1.0)	25 (1.0)	0.0
無回答	68 (2.7)	43 (1.8)	51 (1.9)	0.1

性別で見ると、回答の構成比に男女差はあまりありませんが、「ふつう」という回答は女性の方が若干高く、また生活が“苦しい”という回答は男性の方で僅かに高くなっています。

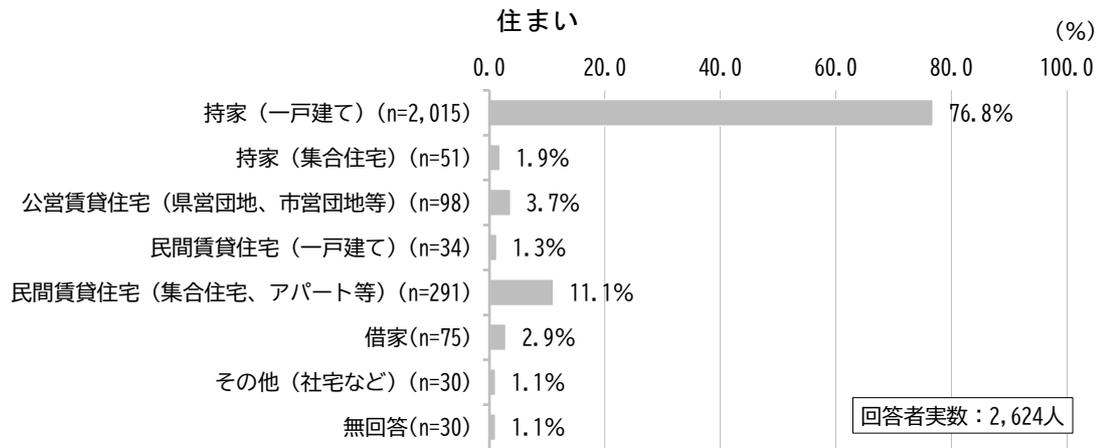
年齢別では、“苦しい”は「65歳～69歳」から「75歳～79歳」の間で高く、40%近くを占めます。「80歳～84歳」と「85歳以上」では30%前後です。

暮らしの状況（性別、年齢別）

	回答者実数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
男性	1,237人	9.6% (119人)	28.5% (353人)	54.4% (673人)	4.4% (55人)	1.2% (15人)	1.8% (22人)
女性	1,387人	8.1% (113人)	27.3% (379人)	57.8% (802人)	3.9% (54人)	0.7% (10人)	2.1% (29人)
65歳～69歳	717人	9.6% (69人)	28.5% (204人)	55.5% (398人)	4.2% (30人)	0.8% (6人)	1.4% (10人)
70歳～74歳	775人	10.3% (80人)	29.0% (225人)	53.0% (411人)	4.0% (31人)	1.3% (10人)	2.3% (18人)
75歳～79歳	450人	7.8% (35人)	31.1% (140人)	54.2% (244人)	4.2% (19人)	0.4% (2人)	2.2% (10人)
80歳～84歳	403人	8.4% (34人)	23.6% (95人)	61.8% (249人)	4.2% (17人)	0.5% (2人)	1.5% (6人)
85歳以上	279人	5.0% (14人)	24.4% (68人)	62.0% (173人)	4.3% (12人)	1.8% (5人)	2.5% (7人)

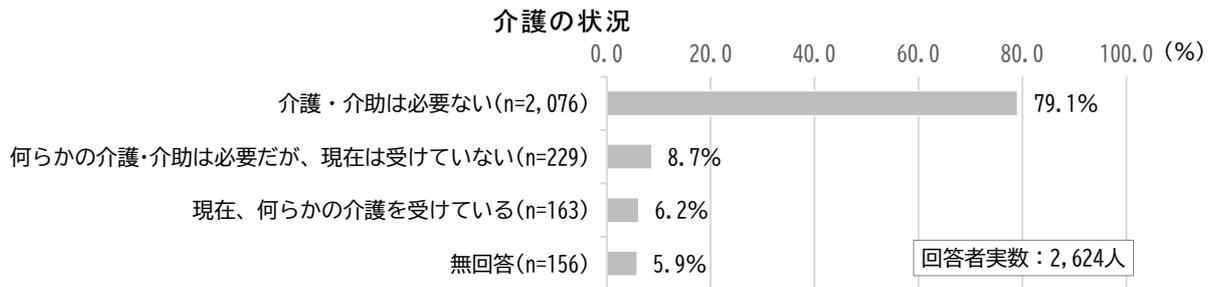
(4) 住まい

住まいについては、「持家(一戸建て)」が76.8%で圧倒的に高くなっています。



(5) 介護の状況

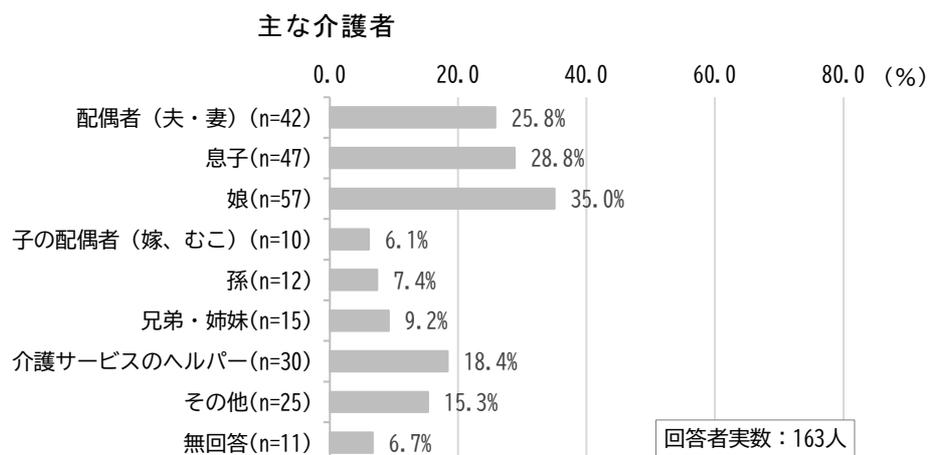
介護について見ると、「介護・介助は必要ない」が 79.1%となっています。本調査の対象者が要介護1～5を除いた在宅の高齢者（一般高齢者と要支援者）であることから、介護を必要とする割合は低いものと考えられます。比較的元気な高齢者への調査ではありますが、約15%が介護や介助を必要としており、介護認定を受けていないが介護を必要としている人が一定数見られることがわかります。また、介護が必要で介護を受けている割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向となっています。



介護の状況（年齢別）

	回答者実数	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
65歳～69歳	717人	87.7% (629人)	4.5% (32人)	2.5% (18人)	5.3% (38人)
70歳～74歳	775人	85.2% (660人)	5.8% (45人)	3.9% (30人)	5.2% (40人)
75歳～79歳	450人	80.9% (364人)	9.6% (43人)	3.1% (14人)	6.4% (29人)
80歳～84歳	403人	69.5% (280人)	12.9% (52人)	10.7% (43人)	6.9% (28人)
85歳以上	279人	51.3% (143人)	20.4% (57人)	20.8% (58人)	7.5% (21人)

「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の主な介護者をみると、「娘」（35.0%）、「息子」（28.8%）、「配偶者（夫・妻）」（25.8%）の順となり、近親者の割合が高くなっています。

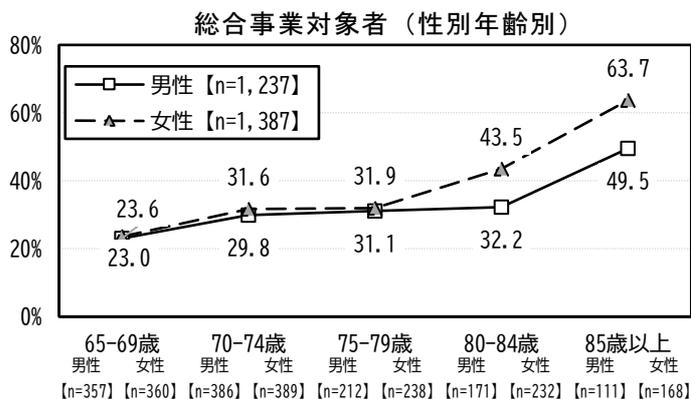
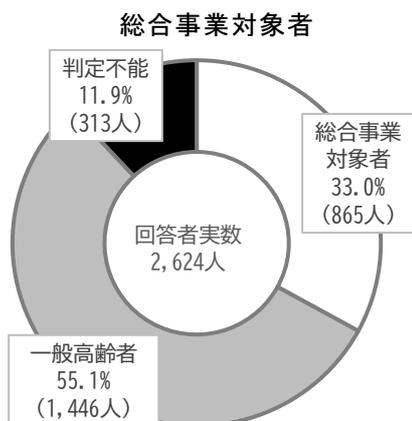


(6) 総合事業対象者

第8期計画策定の際には、調査結果より身体機能低下者を集計し、これを総合事業対象者として要介護状態に陥るおそれのある人の把握を行いました。本調査においてもこの対象を把握し、集計しています（総合事業対象者にも概ね相当すると考えられるため。）。

総合事業対象者について見ると、対象となる人は33.0%で3割余りとなっています。

性別年齢別で見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるるとともにこの割合が上昇しており、75歳～79歳では男女ともに約3割、80歳以上になると男女で差が開き始め、女性では80歳～84歳で43.5%、85歳以上では63.7%と大半を占めています。



前々回調査以降を経年比較で見ると、総合事業対象者の割合は前々回から前回で一旦減少していますが、今回は前回調査時より4.6ポイント上昇しています。介護予防の取組が望まれる高齢者が増加していることがわかります。

総合事業対象者（経年比較）

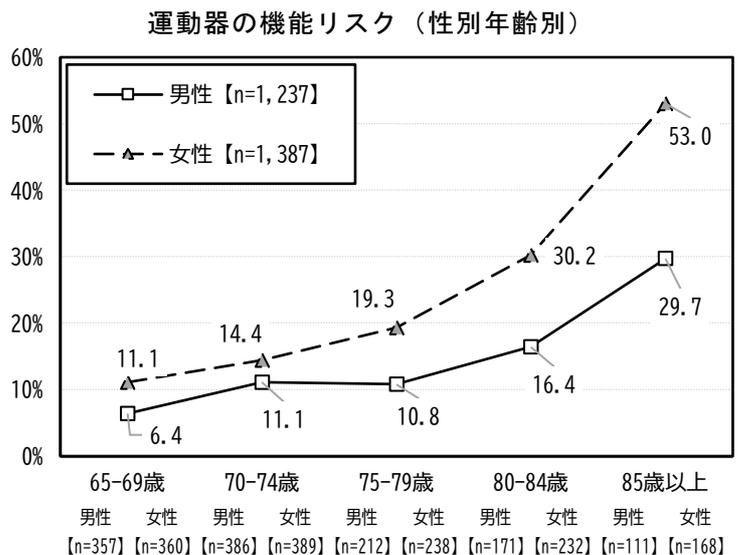
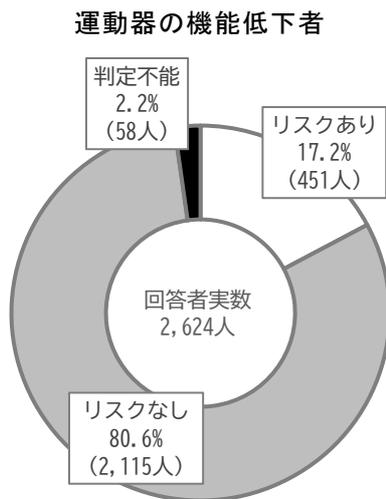
	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
総合事業対象者	824 (32.8)	686 (28.4)	865 (33.0)	4.6
一般高齢者	1,690 (67.2)	1,565 (64.8)	1,446 (55.1)	▲9.7
判定不能	0 (0.0)	164 (6.8)	313 (11.9)	5.1

2. 体を動かすことについて

(1) 運動器の機能低下者（リスク者）

運動器のリスク者は17.2%で2割弱となっています。

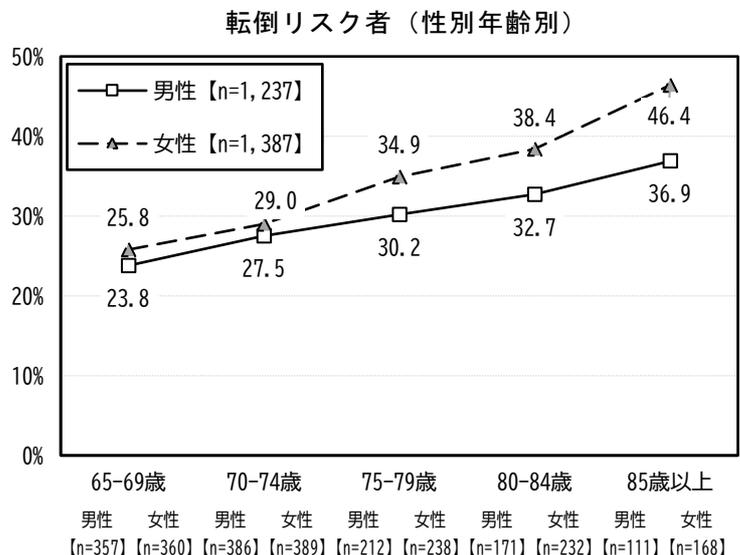
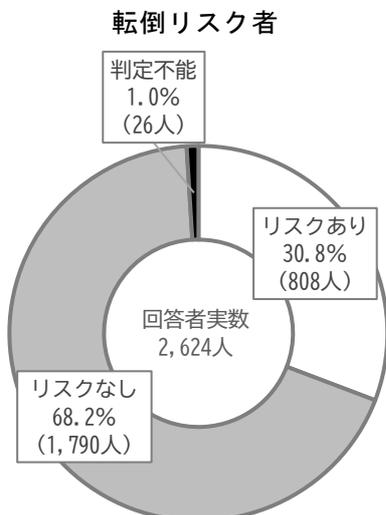
性別年齢別で見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男性では80歳～84歳で1割半ば、85歳以上では3割弱を占め、女性では70歳～74歳で1割半ば、80歳～84歳では約3割、85歳以上では5割半ばを占めています。



(2) 転倒リスク者

転倒のリスク者は30.8%で約3割となっています。

性別年齢別で見ると、男性に比べて女性の方がやや高く、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男性では75歳～79歳で約3割、85歳以上では3割半ばとなります。女性も年齢が上がるにつれてリスク者の割合が高くなり、85歳以上では4割半ばを占めています。



転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で不安を感じている方が多く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で31.1%、「リスクなし」で10.4%とその差が大きくなっています。

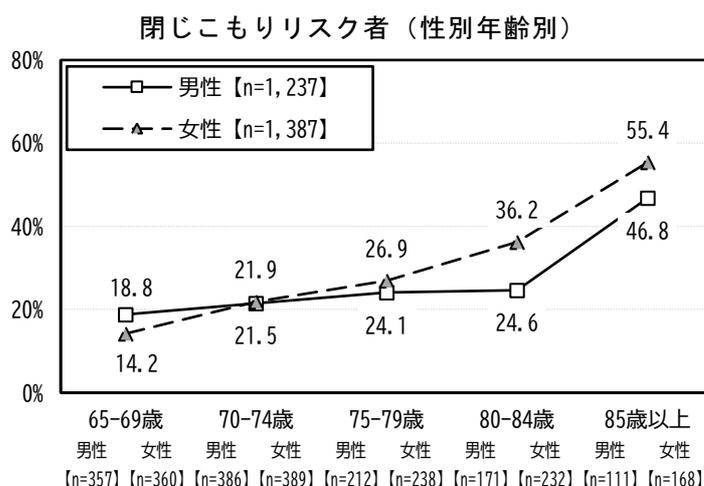
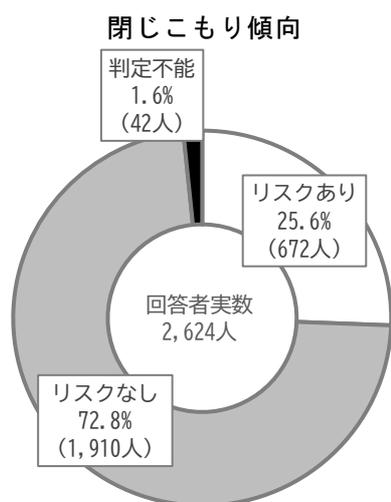
転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別）

	回答者実数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
リスクあり	808人	31.1% (251人)	46.0% (372人)	15.6% (126人)	6.6% (53人)	0.7% (6人)
リスクなし	1,790人	10.4% (186人)	32.1% (574人)	27.8% (497人)	28.3% (507人)	1.5% (26人)

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

閉じこもりのリスク者は25.6%で2割半ばとなっています。

性別年齢別で見ると、年齢が上がるとともにリスク者の割合は上昇しており、80歳～84歳では男性が2割半ば、女性が3割半ばとなり、85歳以上では、男性が4割半ば、女性が5割半ばとなっています。



外出回数の減少について、閉じこもりリスクの有無別に見ると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は、「リスクあり」で65.5%、「リスクなし」で28.1%となっています。

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別）

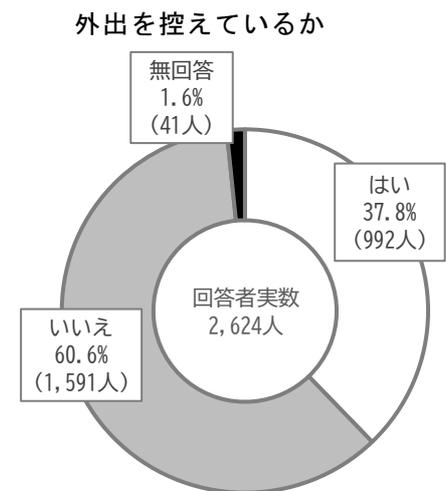
	回答者実数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
リスクあり	672人	23.5% (158人)	42.0% (282人)	20.7% (139人)	10.9% (73人)	3.0% (20人)
リスクなし	1,910人	2.8% (53人)	25.3% (484人)	29.7% (567人)	41.6% (794人)	0.6% (12人)

(4) 外出の状況

① 外出を控えているか

外出を控えているか尋ねたところ、「はい」が37.8%、「いいえ」が60.6%となっています。

年齢別に見ると、外出を控えている人は年齢が上がるるとともに高くなっており、79歳までは3割半ばですが、80歳～84歳では4割余り、85歳以上では5割半ばに達しています。

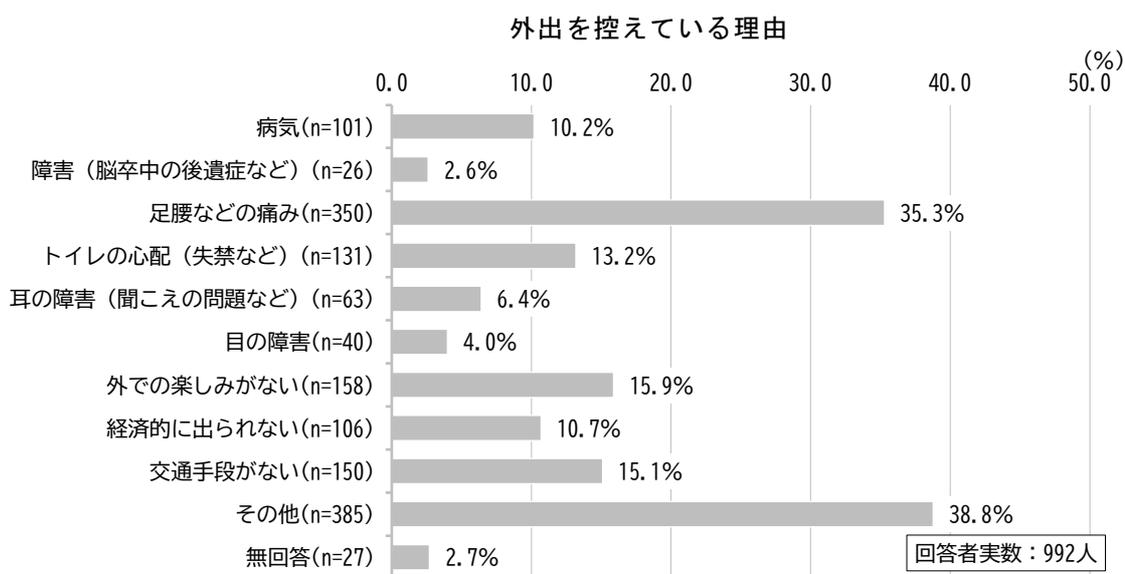


外出を控えているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	717人	32.5% (233人)	66.2% (475人)	1.3% (9人)
70歳～74歳	775人	35.5% (275人)	63.5% (492人)	1.0% (8人)
75歳～79歳	450人	34.4% (155人)	63.8% (287人)	1.8% (8人)
80歳～84歳	403人	41.7% (168人)	56.3% (227人)	2.0% (8人)
85歳以上	279人	57.7% (161人)	39.4% (110人)	2.9% (8人)

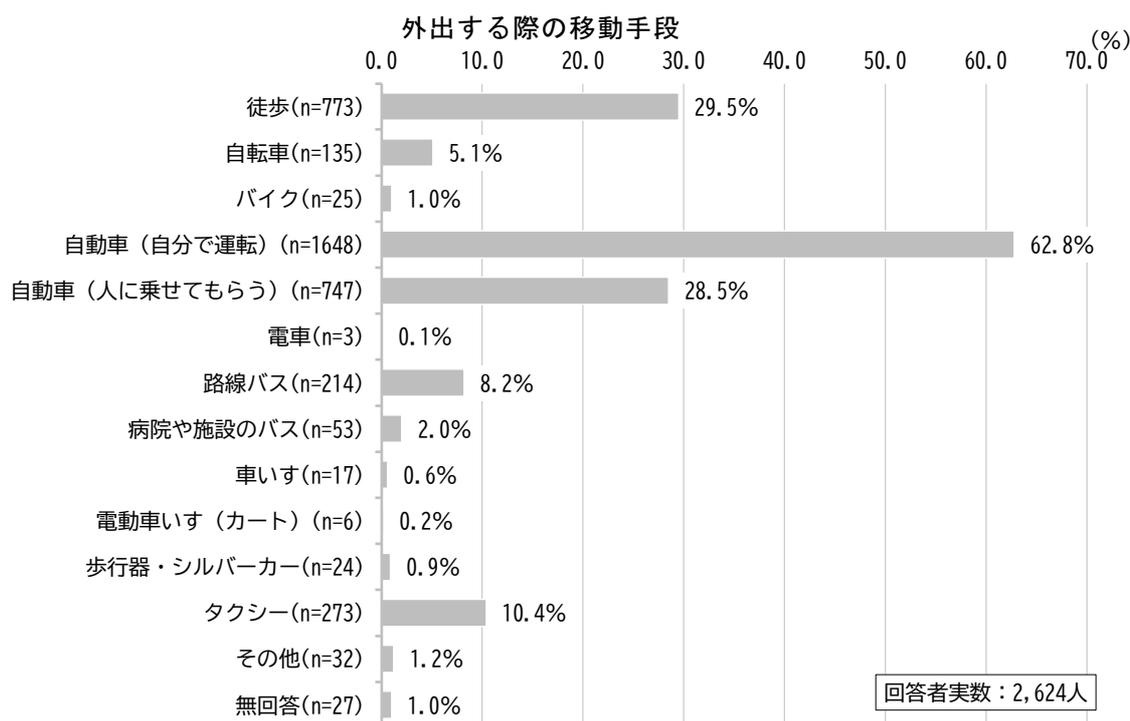
②外出を控えている理由

外出を控えている理由を見ると、「足腰などの痛み」の35.3%が非常に高いほか、「外での楽しみがない」が15.9%、「交通手段がない」が15.1%といずれも1割半ばとなっています。また、今回の調査では「その他」が38.8%と選択肢の中では最も高くなっていました。内容としては、新型コロナウイルス感染予防のために外出を控えたという声が85%を占めており、新型コロナウイルス感染症の影響が外出控えに大きな影響を与えていることがわかります。



③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が62.8%で最も高く、6割強を占めています。また、「徒歩」(29.5%)、と「自動車(人に乗せてもらう)」(28.5%)がそれぞれ約3割で比較的高く、その他の移動手段はそれぞれ15%未満となっています。

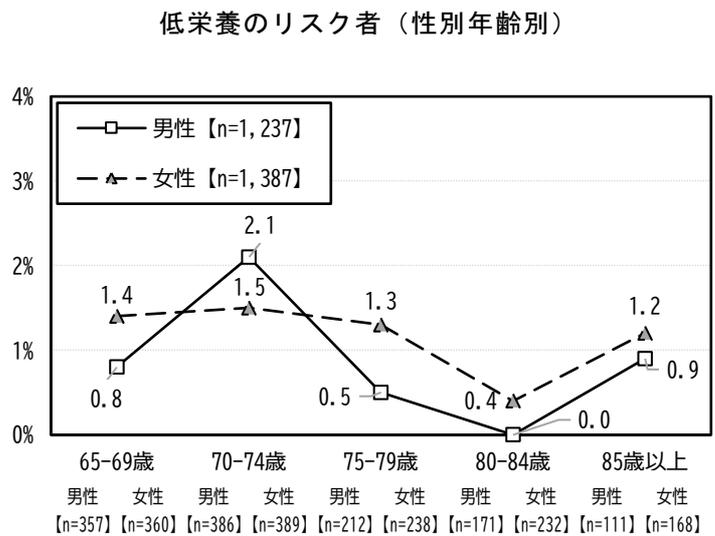
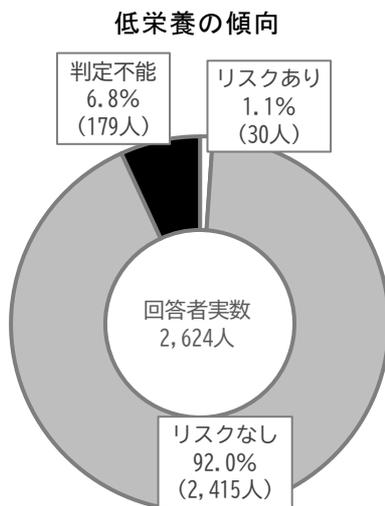


3. 食べることについて

(1) 低栄養の傾向（リスク者）

低栄養のリスク者は1.1%で非常に低くなっています。

性別年齢別で見ると、70歳～74歳では男性の方が高く、他の年齢は女性の方が高くなっています。

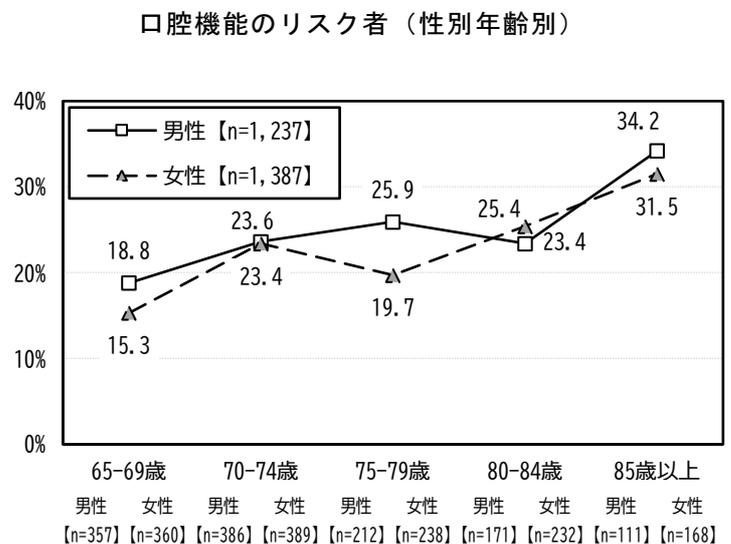
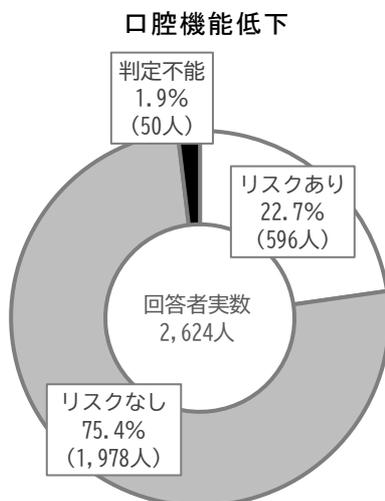


(2) 口腔機能低下

① 口腔機能低下者（リスク者）

口腔機能のリスク者は22.7%で2割強となっています。

性別年齢別で見ると、男女差はあまりなく、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しており、84歳までは2割程度、85歳以上では約3割を占めています。

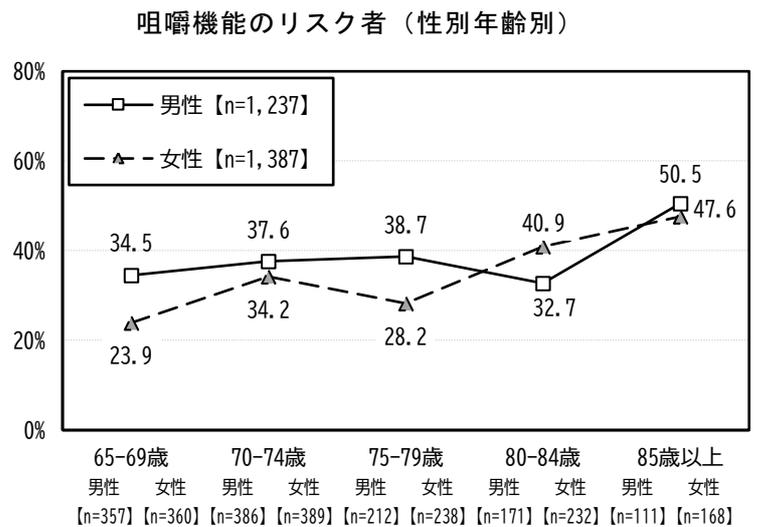
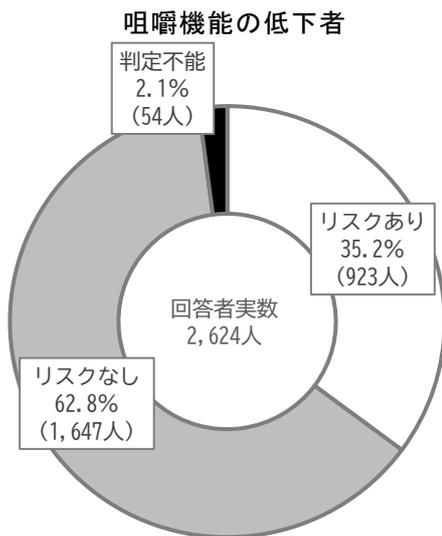


②咀嚼機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

咀嚼機能のリスク者は35.2%で3割半ばとなっています。

性別年齢別で見ると、65～79歳までは男性の方がリスク者が高く、80～84歳では女性の方がやや高くなっています。また男性では65～84歳まで約3割で推移するものの、85歳以上では5割強となっています。女性では、65歳～69歳の2割余りが85歳以上では4割半ばへと伸びています。

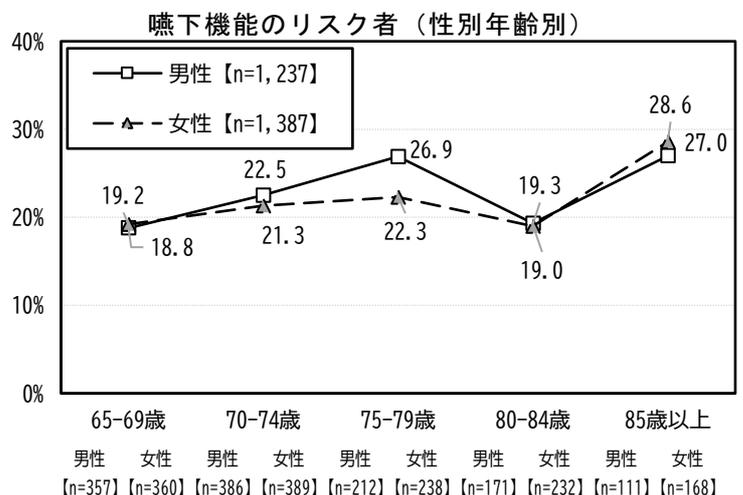
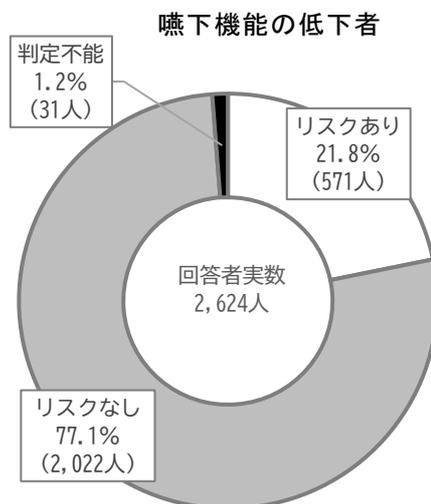


③嚥下機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

嚥下機能のリスク者は21.8%で2割余りとなっています。

性別年齢別で見ると、男女及び年齢による大きな差は見られませんが、75歳～79歳では、男女差がやや開いています。

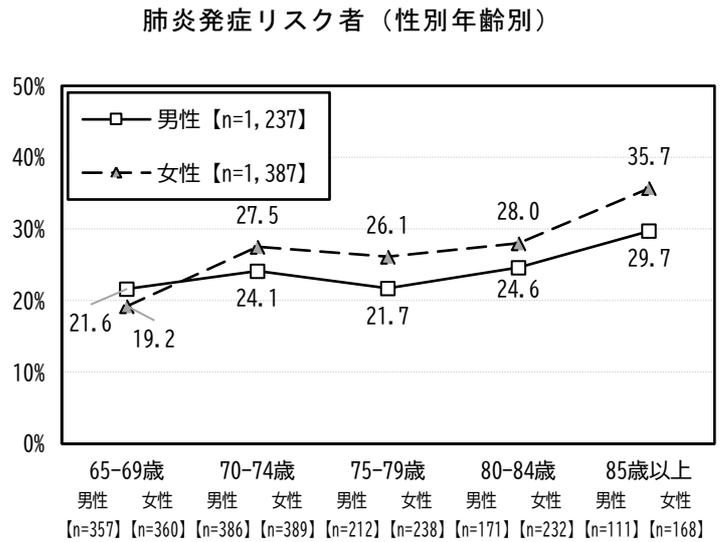
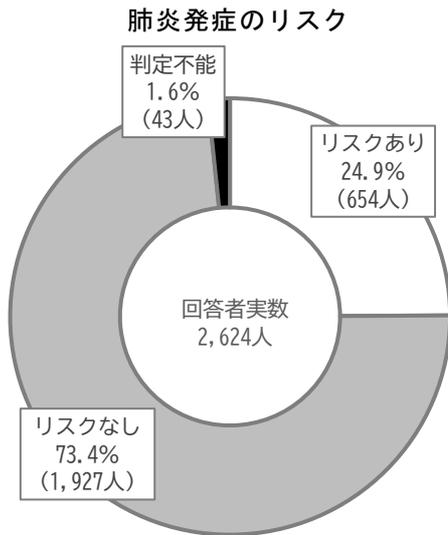


④肺炎発症リスク者

口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握しました。

肺炎発症リスク者は24.9%で2割半ばとなっています。

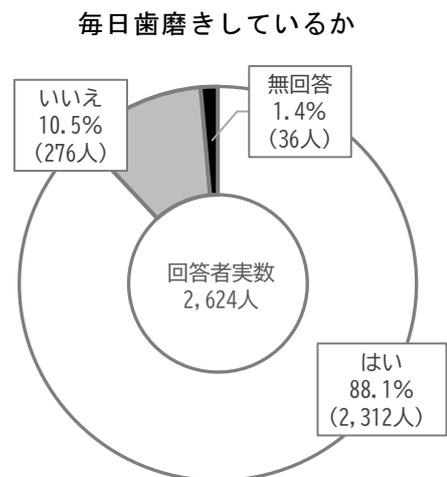
性別年齢別で見ると、70歳以降で女性の方が男性より高くなっています。85歳以上では女性は3割半ば、男性は約3割となっています。



(3) 歯の健康

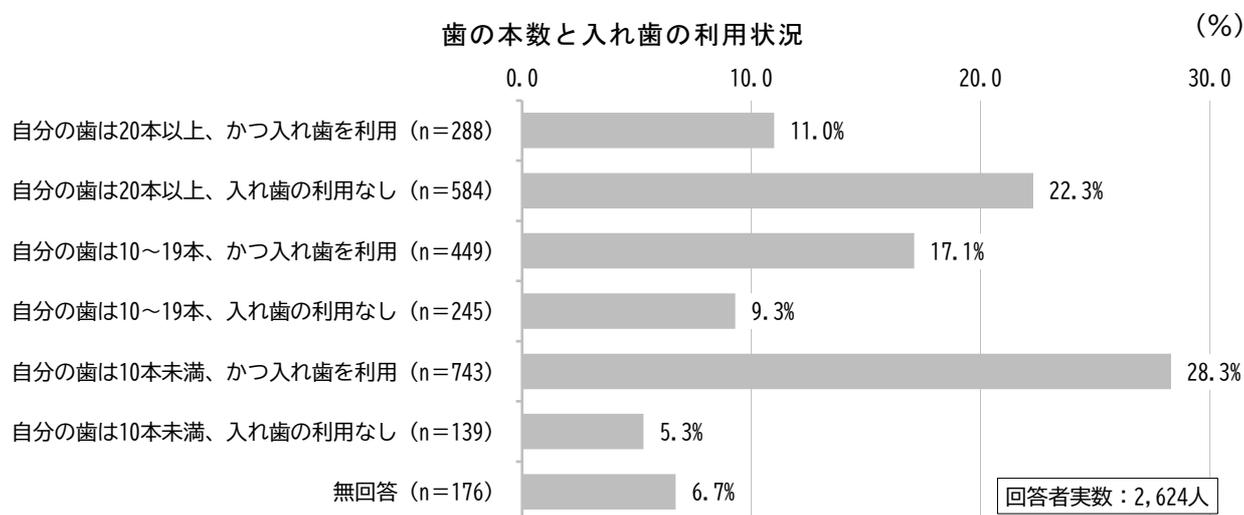
①歯磨きの習慣

毎日の歯磨きをしている人は88.1%となり、9割近くを占めています。



②歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用について見ると、「自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用」が28.3%で最も高くなっています。歯が20本以上ある人は33.3%、入れ歯を利用していない人は36.9%で、それぞれ3割台となっています。



年齢別に見ると、75歳以上は「歯は10本未満で入れ歯を利用」が最も高く、年齢が上がるとともにこの割合が高くなっていく傾向にあり、65歳~69歳では19.2%ですが、75歳~79歳には29.6%、85歳以上では50.2%となっています。また、「歯は20本以上で入れ歯の利用なし」は、65歳~69歳で30.7%と3割余りを占めていますが、75歳~79歳では15.1%と2割を下回り、85歳以上では10.0%へと低下しています。

歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

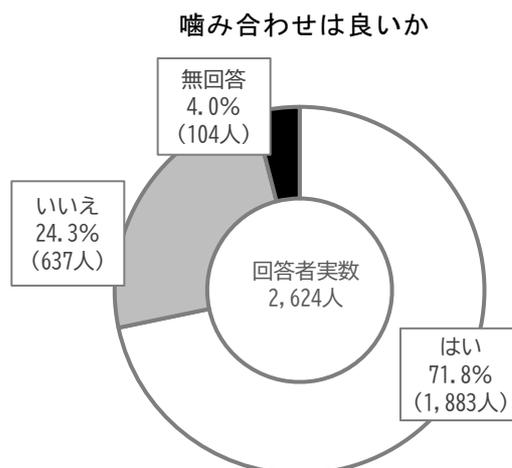
	回答者 実数	自分の歯は20本以上		自分の歯は10~19本		自分の歯は10本未満		無回答
		入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	
65歳~69歳	717人	11.4% (82人)	30.7% (220人)	18.3% (131人)	11.9% (85人)	19.2% (138人)	4.3% (31人)	4.2% (30人)
70歳~74歳	775人	11.7% (91人)	26.3% (204人)	16.0% (124人)	10.2% (79人)	23.2% (180人)	5.9% (46人)	6.6% (51人)
75歳~79歳	450人	12.2% (55人)	15.1% (68人)	20.2% (91人)	10.0% (45人)	29.6% (133人)	5.3% (24人)	7.6% (34人)
80歳~84歳	403人	10.9% (44人)	15.9% (64人)	15.4% (62人)	5.7% (23人)	37.7% (152人)	6.5% (26人)	7.9% (32人)
85歳以上	279人	5.7% (16人)	10.0% (28人)	14.7% (41人)	4.7% (13人)	50.2% (140人)	4.3% (12人)	10.4% (29人)

③ 噛み合わせは良いか

噛み合わせについて尋ねたところ、「はい(良い)」という回答は71.8%、「いいえ(悪い)」は24.3%で、7割の高齢者は噛み合わせの問題がないとしています。

年齢別に見ると、「はい」は80歳～84歳が75.4%を占めるものの、概ね約7割となっています。

前々回からの経年比較を見ると「いいえ」(噛み合わせが悪い)という回答が、前回調査時点より3.6ポイント上昇しています。



噛み合わせは良いか (年齢別)

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	717人	72.1% (517人)	24.4% (175人)	3.5% (25人)
70歳～74歳	775人	69.5% (539人)	26.3% (204人)	4.1% (32人)
75歳～79歳	450人	72.0% (324人)	24.9% (112人)	3.1% (14人)
80歳～84歳	403人	75.4% (304人)	19.6% (79人)	5.0% (20人)
85歳以上	279人	71.3% (199人)	24.0% (67人)	4.7% (13人)

噛み合わせは良いか (経年比較)

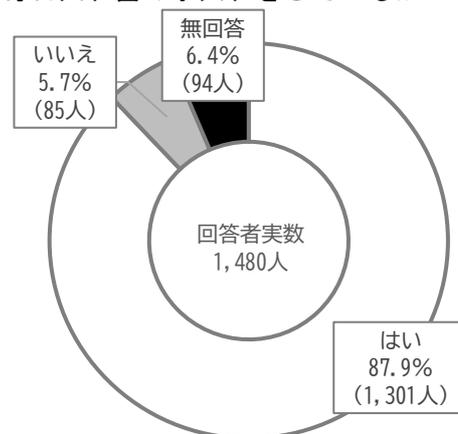
	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
はい	1,804 (71.8)	1,803 (74.7)	1,883 (71.8)	▲2.9
いいえ	590 (23.5)	499 (20.7)	637 (24.3)	3.6
無回答	120 (4.8)	113 (4.7)	104 (4.0)	▲0.7

④毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」が87.9%、「いいえ」が5.7%で、ほとんどの人が毎日手入れしていると回答しています。

年齢別に見ると、いずれも「はい」という回答が9割前後を占めています。

毎日入れ歯の手入れをしているか



毎日入れ歯の手入れをしているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	351人	87.7% (308人)	5.1% (18人)	7.1% (25人)
70歳～74歳	395人	87.3% (345人)	5.8% (23人)	6.8% (27人)
75歳～79歳	279人	86.7% (242人)	6.8% (19人)	6.5% (18人)
80歳～84歳	258人	90.7% (234人)	5.0% (13人)	4.3% (11人)
85歳以上	197人	87.3% (172人)	6.1% (12人)	6.6% (13人)

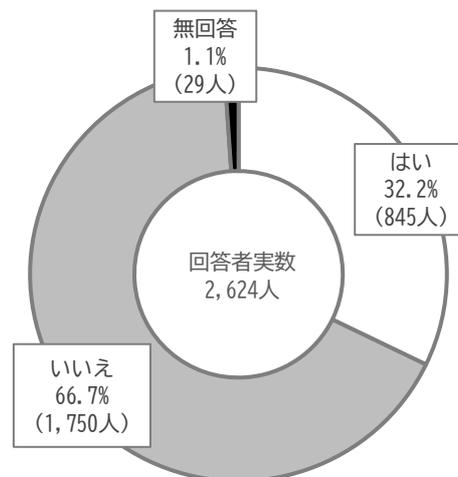
(4) 歯科医院の受診

① 歯科医院の受診状況

歯科医院を受診しているか尋ねたところ、「はい」が32.2%、「いいえ」が66.7%となっており、3割余りが歯科を受診しています。

リスク者割合との関係を見ると、歯科医院を受診していないと回答した人では、多くの項目でリスク者割合が受診している人よりも高くなっています。特に、「知的能動性の低下」、「閉じこもり傾向」、「IADLの低下」、「社会的役割の低下」で、その差が大きいです。

歯科医院の受診状況



リスク者割合の比較（歯科医院の受診別）

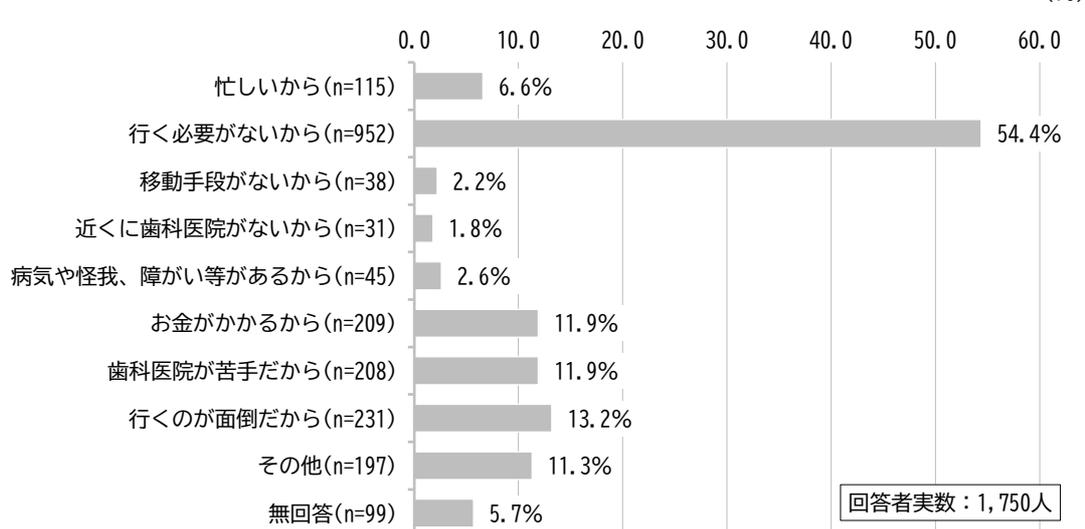
	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
はい (受診している)	845人	31.6% (267人)	15.0% (127人)	29.0% (245人)	19.4% (164人)	0.7% (6人)	23.6% (199人)
いいえ (受診していない)	1,750人	33.9% (593人)	18.3% (321人)	31.7% (555人)	28.9% (505人)	1.4% (24人)	22.5% (394人)

		うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
はい (受診している)	845人	35.5% (300人)	39.2% (331人)	11.6% (98人)	42.5% (359人)	53.1% (449人)
いいえ (受診していない)	1,750人	37.8% (662人)	36.2% (634人)	19.3% (338人)	56.6% (990人)	61.4% (1,074人)

② 歯科医院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に歯科医院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が54.4%と圧倒的に高くなっています。「行くのが面倒だから」が13.2%となっており、「お金がかかるから」、「歯科医院が苦手だから」がそれぞれ11.9%となっています。

歯科医院を受診していない理由



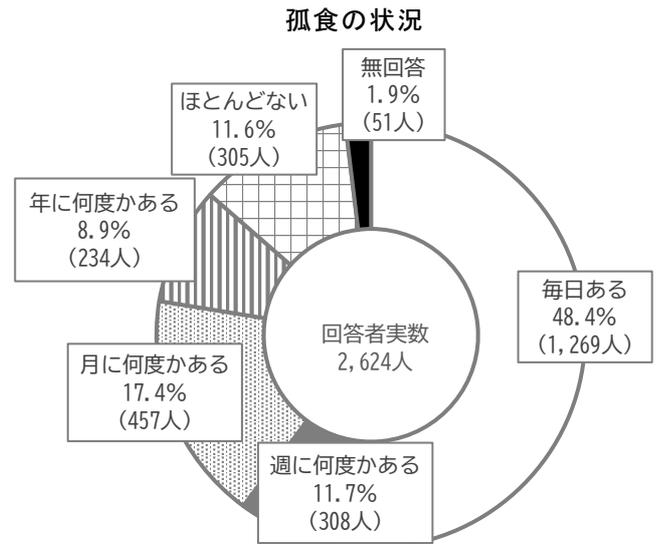
(5) 孤食の状況

だれかと食事をとる機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

誰かと食事をとる機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」が48.4%で約半数を占めています。「週に何度かある」は11.7%で、これら2つを合わせると、比較的共食できる状況にある高齢者は6割程度となっています。

「年に何度かある」が8.9%、「ほとんどない」が11.6%で、孤食にある高齢者が20.5%であるほか、「月に何度かある」の17.4%も合わせると、孤食または孤食傾向にある高齢者が37.9%と3割半ばを占めています。

性別で見ると、孤食の高齢者は男性が24.9%、女性が16.7%で、やや男性の方が高くなっています。また、年齢別で見ると、概ね年齢が上がるるとともに孤食や孤食傾向の割合が高くなっています。



孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男性	1,237人	49.2% (609人)	8.7% (108人)	14.8% (183人)	9.3% (115人)	15.6% (193人)	2.3% (29人)
女性	1,387人	47.6% (660人)	14.4% (200人)	19.8% (274人)	8.6% (119人)	8.1% (112人)	1.6% (22人)
65歳～69歳	717人	53.6% (384人)	11.3% (81人)	15.6% (112人)	7.8% (56人)	10.5% (75人)	1.3% (9人)
70歳～74歳	775人	49.4% (383人)	11.5% (89人)	17.7% (137人)	9.2% (71人)	11.0% (85人)	1.3% (10人)
75歳～79歳	450人	46.4% (209人)	11.6% (52人)	18.9% (85人)	9.8% (44人)	11.1% (50人)	2.2% (10人)
80歳～84歳	403人	40.7% (164人)	12.7% (51人)	19.6% (79人)	9.7% (39人)	14.4% (58人)	3.0% (12人)
85歳以上	279人	46.2% (129人)	12.5% (35人)	15.8% (44人)	8.6% (24人)	13.3% (37人)	3.6% (10人)

前々回からの経年比較を見ると、「ほとんどない」と「年に何度かある」は、前回、前々回より割合が僅かながら上がってきています。1人暮らし高齢者が増えてきたこと、新型コロナウイルス感染予防による人とふれあう機会の減少などが影響していると推察されます。

孤食の状況（経年比較）

	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
毎日ある	1,157 (46.0)	1,178 (48.8)	1,269 (48.4)	▲0.4
週に何度かある	396 (15.8)	289 (12.0)	308 (11.7)	▲0.3
月に何度かある	475 (18.9)	471 (19.5)	457 (17.4)	▲2.1
年に何度かある	202 (8.0)	190 (7.9)	234 (8.9)	1.0
ほとんどない	214 (8.5)	230 (9.5)	305 (11.6)	2.1
無回答	70 (2.8)	57 (2.4)	51 (1.9)	▲0.5

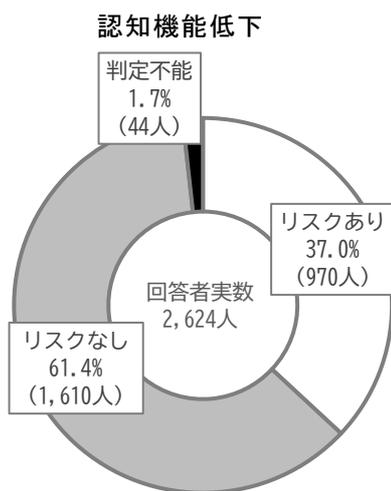
4. 毎日の生活について

(1) 認知機能

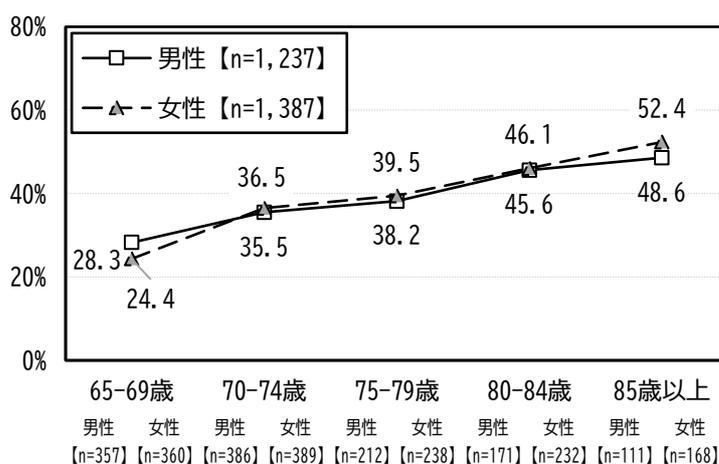
① 認知機能低下者（リスク者）

認知機能リスク者は37.0%で4割弱となっています。

性別年齢別で見ると、男女差による大きな差は見られませんが、65～69歳では男女とも2割台ですが、85歳以上では女性が5割余り、男性が5割弱となり、年齢が上がるるとともにリスク者の割合が上昇しています。

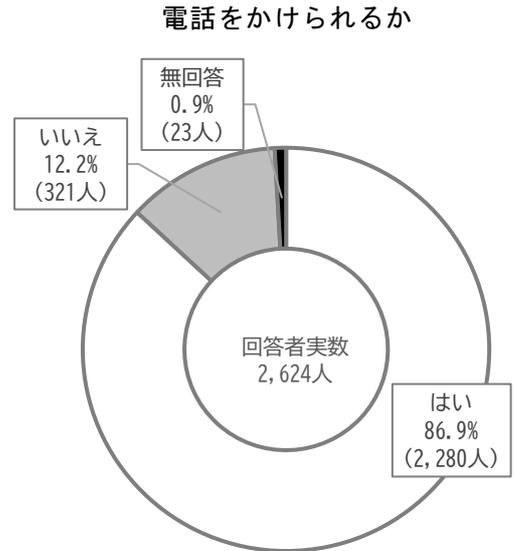


認知機能リスク者（性別年齢別）



②電話をかけられるか

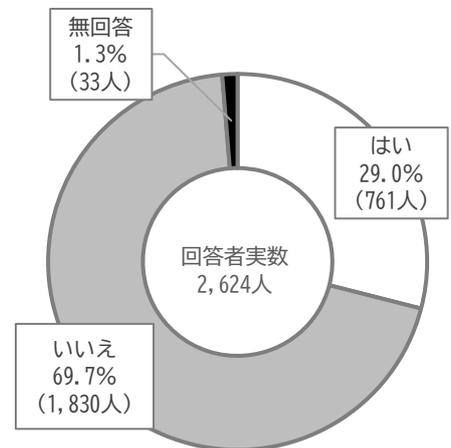
認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」が86.9%、「いいえ(かけられない)」が12.2%となっています。



③日付がわからない時があるか

認知機能に関連して、今日の日付がわからないときがあるか尋ねたところ、「はい(わからない時がある)」が29.0%、「いいえ(わからない時はない)」が69.7%となっています。

日付がわからない時があるか



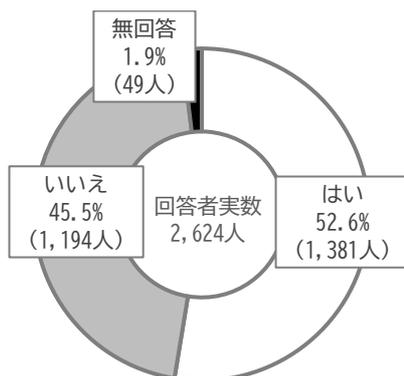
④物をしまった場所がわからなくなるか(独自項目)

認知機能に関連して、物をしまった場所がわからなくなるか尋ねました。

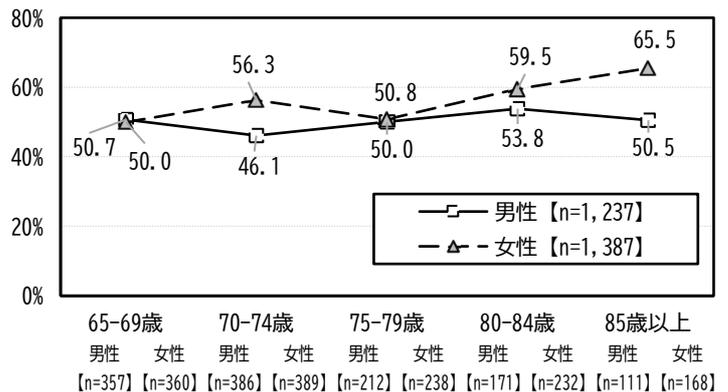
「はい(わからなくなることもある)」は52.6%、「いいえ(わからなくなることはない)」が45.5%で、「はい」が「いいえ」を僅かながら上回っています。

性別年齢別で見ると、ほとんどの年代で概ね男性より女性の方が「はい」の割合が高い傾向となっています。特に85歳以上で男女差は最大となり、15ポイントの差が開いています。

物をしまった場所がわからなくなるか



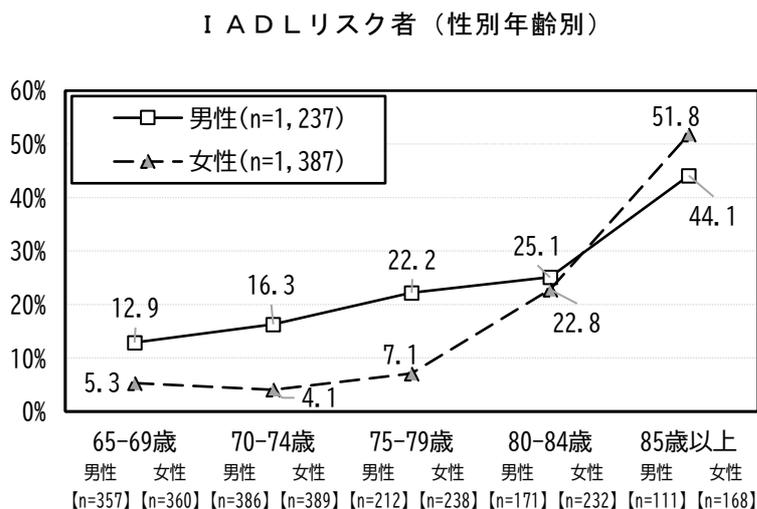
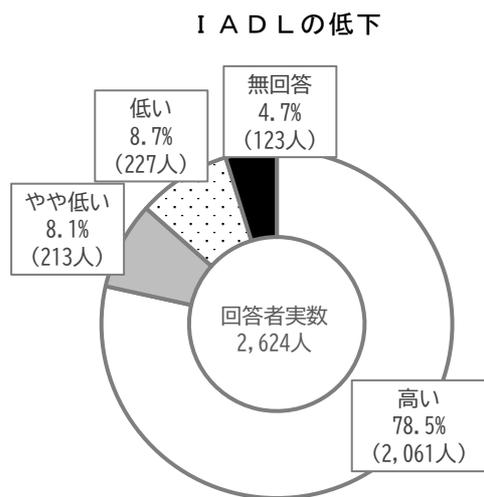
物をしまった場所がわからなくなる人の割合(性別年齢別)



(2) IADLの低下者（リスク者）

買い物や洗濯・掃除等といった「手段的日常生活動作」であるIADLのリスク者は16.8%で1割半ばとなっています。

性別年齢別で見ると、84歳までは男性の方が高く、85歳以上では、女性の方がリスク者が高い傾向にあります。また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっており、男性は、70～74歳の1割台が、85歳以上では4割半ばと、大きく伸びています。女性は、80～84歳で約2割まで上昇し、85歳以上では約5割に及び、男性を上回っています。

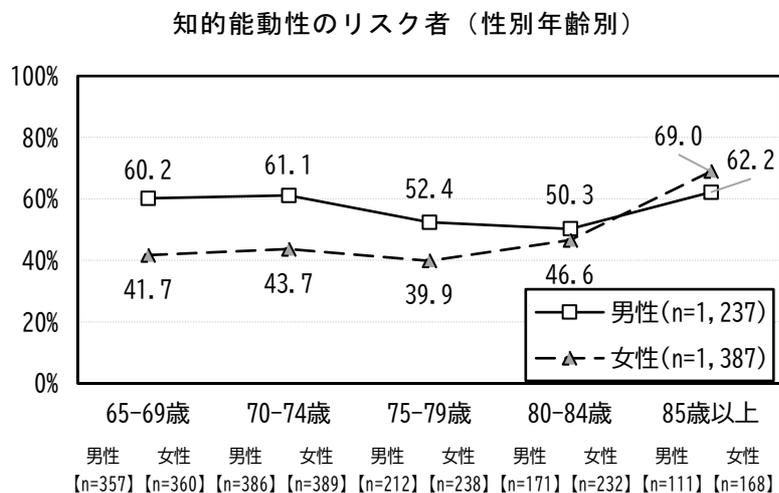
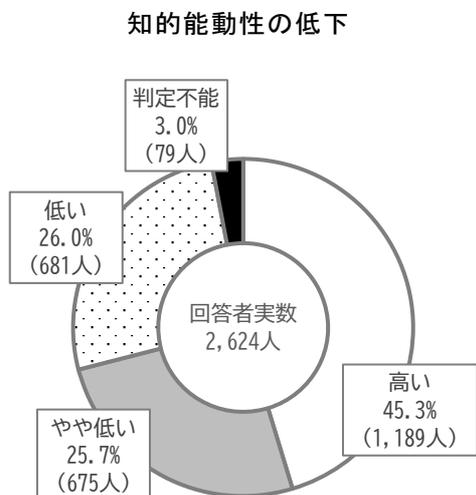


※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）

(3) 知的能動性の低下者（リスク者）

「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類はかけるか」などの能力である知的能動性のリスク者は51.7%で約5割に及んでいます。

性別年齢別で見ると、リスク者の割合は、男性が74歳までの6割台から、75～84歳の世代では5割台まで減少し、85歳以上では再び6割台に上昇しています。女性は74歳までの4割台から、75～79歳では4割弱まで減少し、85歳以上では7割弱に上昇しています。



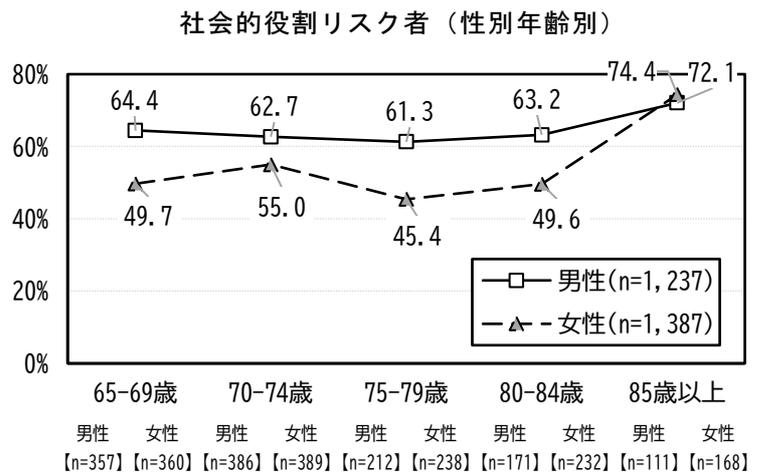
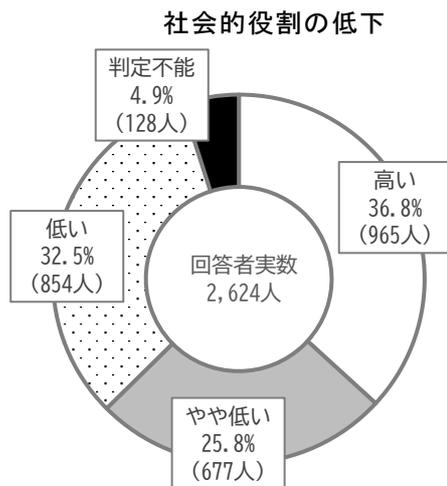
※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）

(4) 社会的役割の低下者（リスク者）

「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの行動意欲をみた社会的役割のリスク者は58.3%で6割近くとなっています。

性別年齢別で見ると、リスク者の割合は84歳までは男性の方が女性より高く、6割台で推移しています。85歳以上では、僅かながら女性が男性を上回っています。

前々回からの経年比較を見ると、「低い」「やや低い」の割合が、前回、前々回より上がってきています。



※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

社会的役割の低下（経年比較）

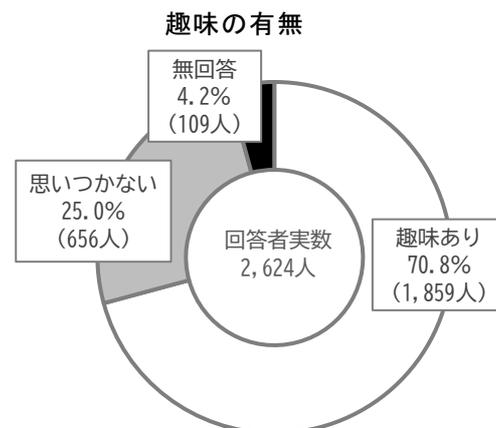
	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
高い	1,261 (50.2)	1,113 (46.1)	965 (36.8)	▲9.3
やや低い	577 (23.0)	590 (24.4)	677 (25.8)	1.4
低い	546 (21.7)	594 (24.6)	854 (32.5)	7.9
判定不能	130 (5.2)	118 (4.9)	128 (4.9)	0.0

(5) 趣味や生きがい

① 趣味の有無

趣味があるか訪ねたところ、「趣味あり」が70.8%、「思いつかない」が25.0%となっています。ほとんどの高齢者が趣味を持っていることがわかります。

前々回からの経年比較を見ると、「思いつかない」の割合が、前回、前々回より僅かながら上がってきています。



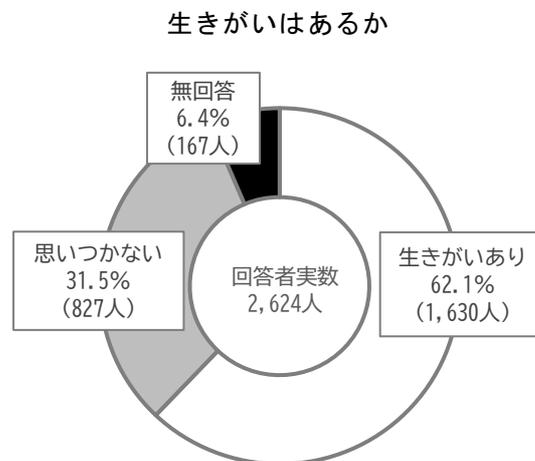
趣味の有無（経年比較）

	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
趣味あり	1,785 (71.0)	1,753 (72.6)	1,859 (70.8)	▲1.8
思いつかない	536 (21.3)	539 (22.3)	656 (25.0)	2.7
無回答	193 (7.7)	123 (5.1)	109 (4.2)	▲0.9

② 生きがいはあるか

生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいあり」は62.1%、「思いつかない」が31.5%となっています。生きがいのある高齢者が大半を占めていることがわかります。

前々回からの経年比較を見ると、「生きがいあり」の割合が、前回、前々回より下がっており、「思いつかない」が上がってきています。



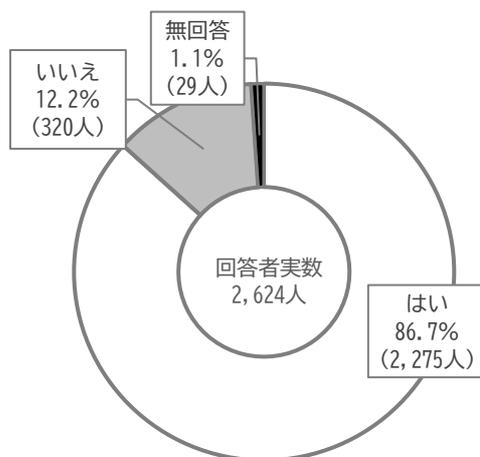
生きがいはあるか（経年比較）

	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
生きがいあり	1,609 (64.0)	1,581 (65.5)	1,630 (62.1)	▲3.4
思いつかない	614 (24.4)	644 (26.7)	827 (31.5)	4.8
無回答	291 (11.6)	190 (7.9)	167 (6.4)	▲1.5

③健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があるか訪ねたところ、「はい」は86.7%となり、関心のある高齢者が大半を占めていることがわかります。

健康についての記事や番組に関心があるか



5. 地域での活動について

(1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、「参加していない」という回答割合が非常に高く、全てにおいて4割を超えており、特に学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブは6割前後に及んでいます。全般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めていることがわかります。

社会参加を「週4回以上」行っているという回答では、「収入のある仕事」が高く、10.9%となっています。また、「スポーツ関係のグループやクラブ」は週数回、「趣味関係のグループ」は週1回や週数回参加している人が比較的高く、「自治会」は年に数回という回答が比較的高くなっています。

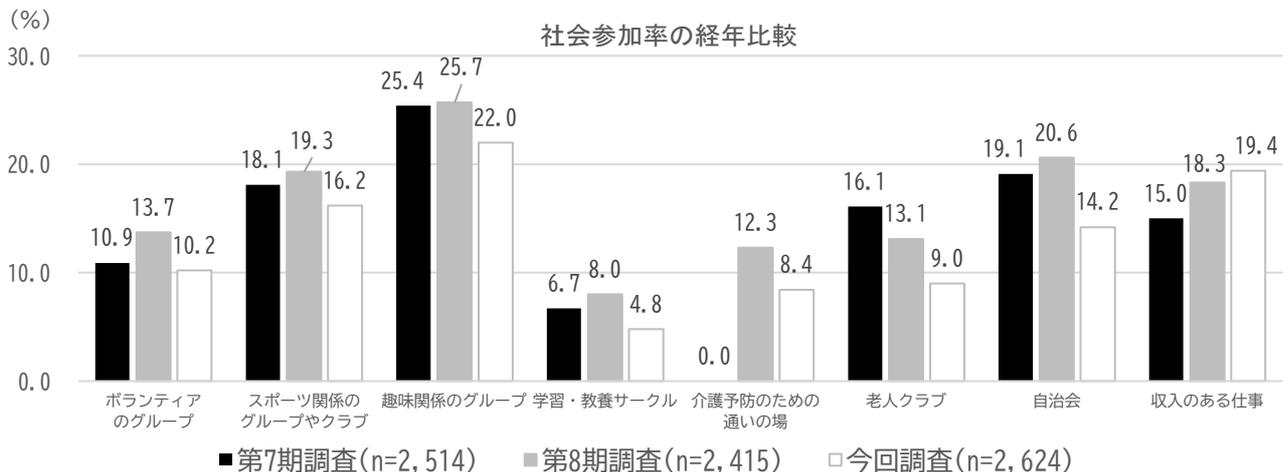
社会参加

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	0.9% (24人)	1.1% (30人)	1.3% (33人)	2.8% (74人)	4.1% (108人)	57.9% (1,519人)	31.9% (836人)
スポーツ関係のグループ やクラブ	2.0% (52人)	4.9% (128人)	2.5% (66人)	3.4% (90人)	3.4% (90人)	52.4% (1,375人)	31.4% (823人)
趣味関係のグループ	1.8% (47人)	3.9% (103人)	5.7% (149人)	6.5% (171人)	4.1% (107人)	49.6% (1,302人)	28.4% (745人)
学習・教養サークル	0.2% (4人)	0.8% (20人)	1.3% (33人)	1.2% (31人)	1.5% (39人)	60.3% (1,582人)	34.9% (915人)
介護予防のための 通いの場	0.7% (19人)	2.5% (66人)	2.1% (55人)	2.4% (63人)	0.6% (17人)	60% (1,574人)	31.6% (830人)
老人クラブ	0.5% (14人)	1.3% (34人)	0.6% (15人)	3.8% (100人)	2.8% (73人)	59.4% (1,559人)	31.6% (829人)
自治会	0.5% (12人)	0.7% (19人)	1.0% (25人)	3.3% (86人)	8.8% (231人)	54.1% (1,419人)	31.7% (832人)
収入のある仕事	10.9% (287人)	4.4% (115人)	1.1% (28人)	1.1% (29人)	1.9% (49人)	50.0% (1,313人)	30.6% (803人)

※回答者実数=2,624人

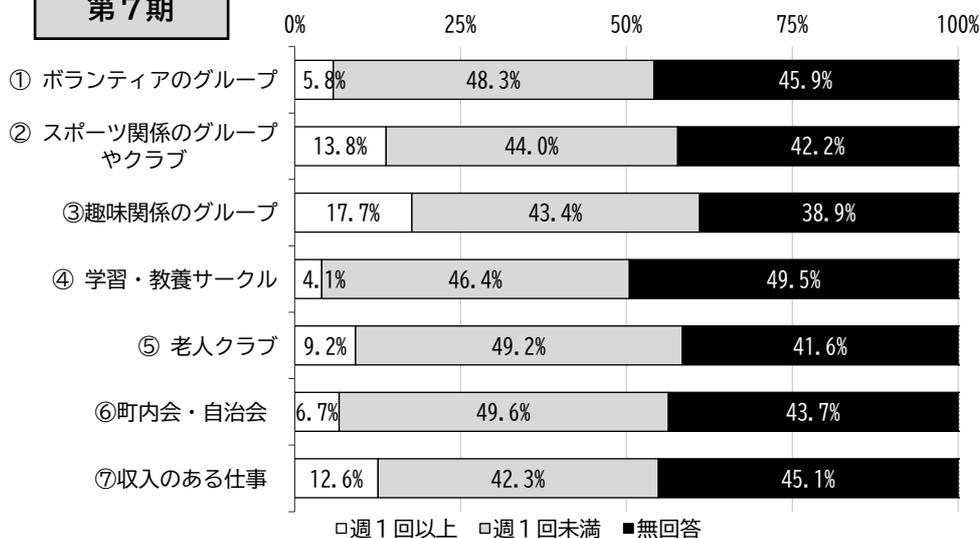
社会参加状況の経年変化

回数に関係なく参加しているという回答を以て「社会参加率」とし、前々回からの経年比較を見ると、「収入のある仕事」以外の社会参加率が前回、前々回を下回る傾向にあります。特に「自治会」の参加低下が大きいです。コロナ禍による外出控えがその一因とも推察されます。

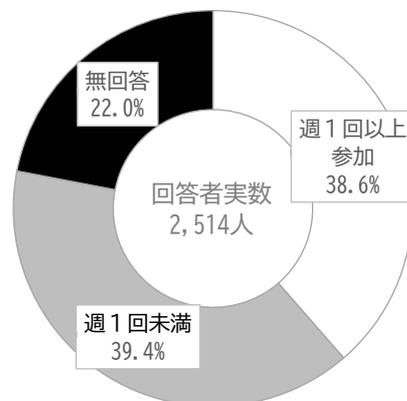


地域の活動に「週1回以上参加」する人は、第7期から第8期にかけて増加しましたが、第9期において減少しています。（「週1回未満」とは、月1回など、週回数で換算できない少なさを指します。）

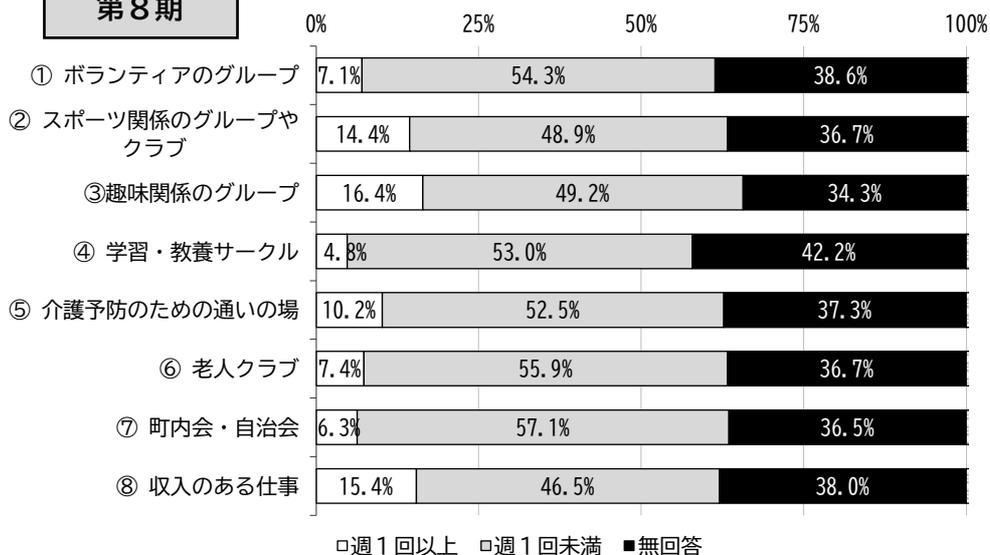
第7期



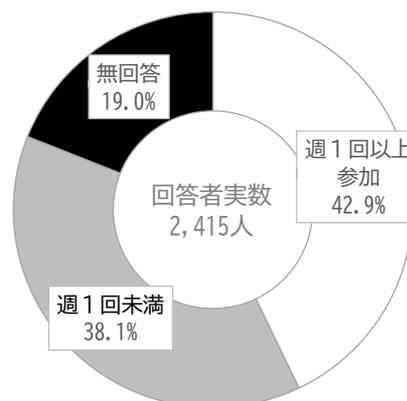
社会参加者



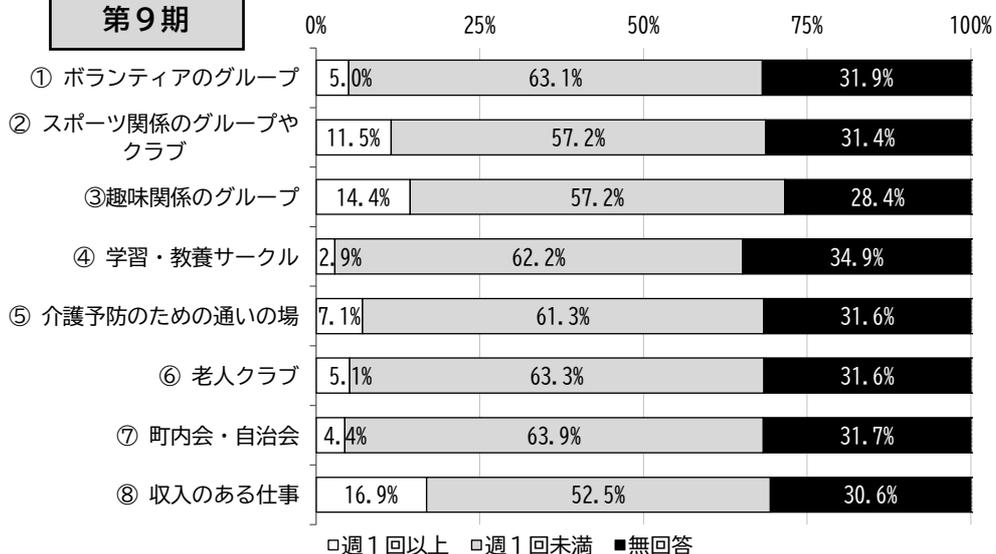
第8期



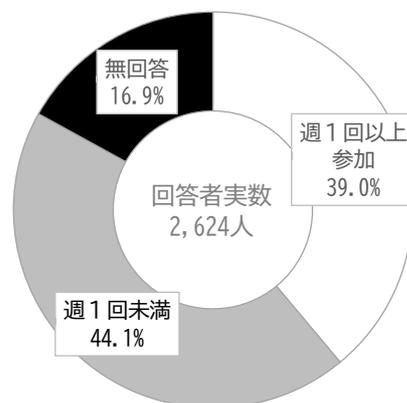
社会参加者

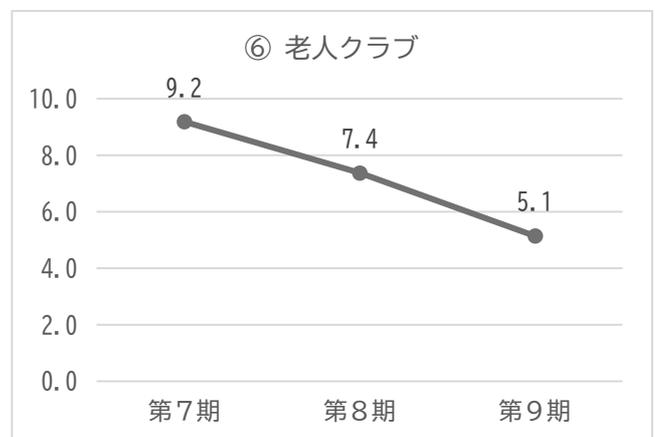
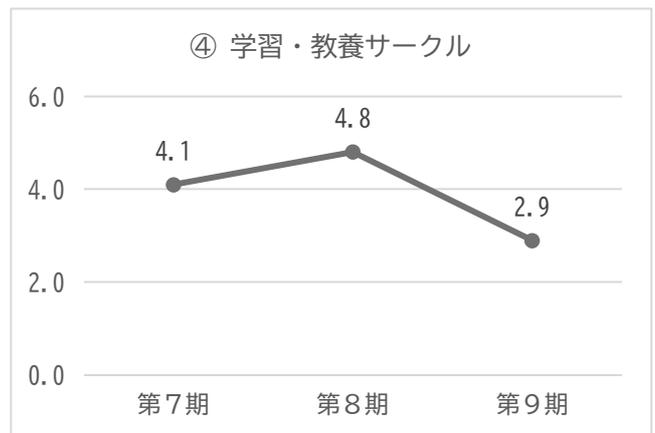
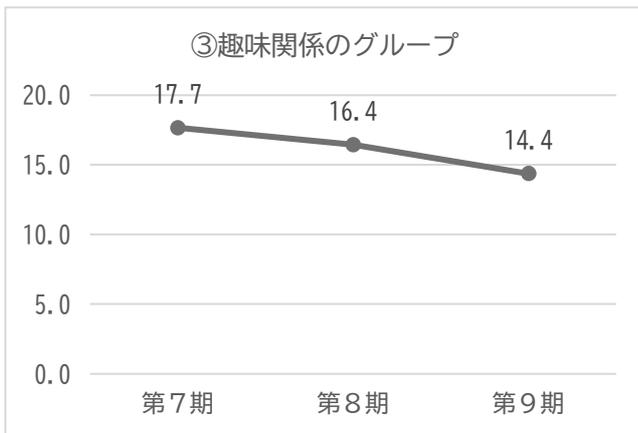
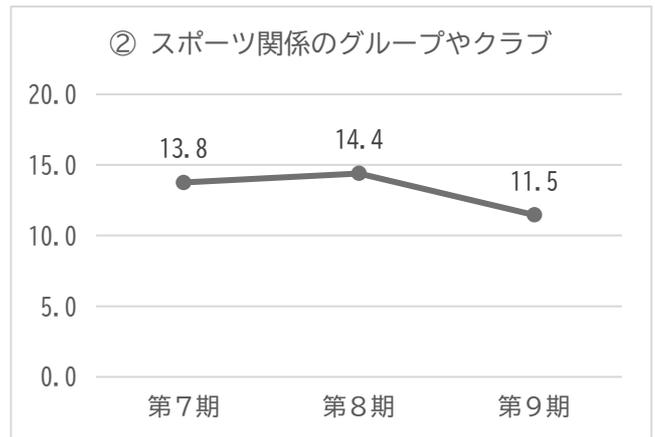
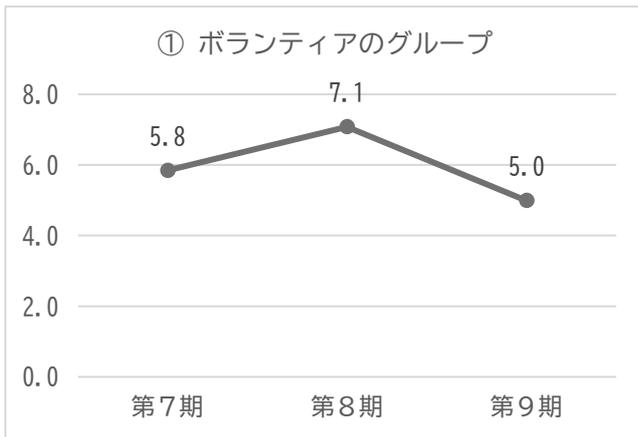


第9期

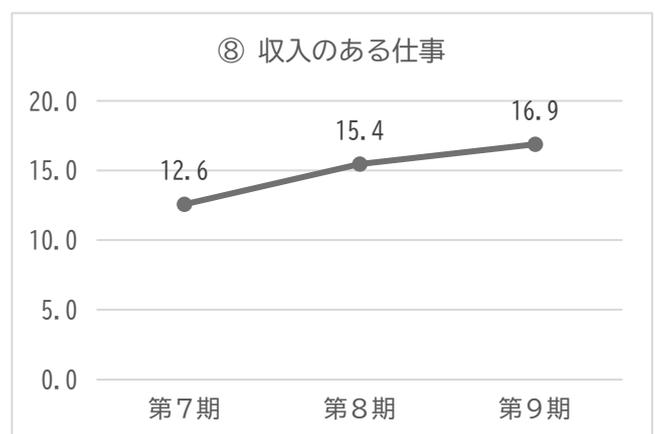
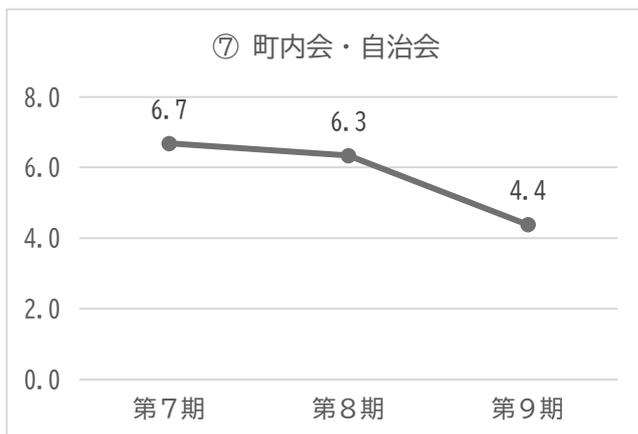


社会参加者





※「⑤介護予防のための通いの場」は8期より設問追加



(2) 地域づくりへの参加意向

① 地域づくりへ参加者として参加したいか

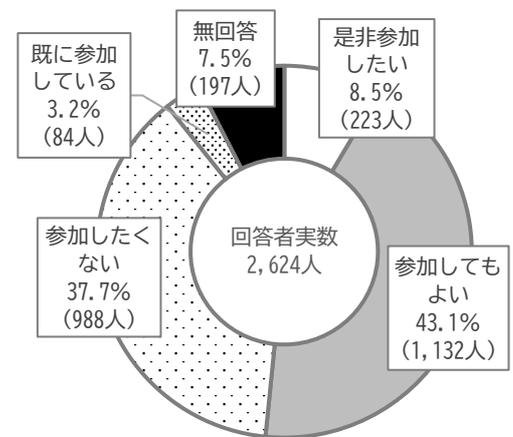
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」は8.5%、「参加してもよい」は43.1%で、これらを合わせると参加意向は51.6%となっています。

性別で見ると、男女とも「参加してもよい」が4割台ですが、やや男性の方が高いです。また、「是非参加したい」は男性が6.3%、女性が10.5%で女性の方がやや高くなっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、参加意向は男性が49.8%、女性が53.3%となり、若干女性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、「参加してもよい」の割合は年代が上がるとともに減少する傾向となっており、「参加してもよい」の割合は特に85歳以上ではそれ以前の年代よりも減少が大きくなっています。「参加してもよい」の割合は、65歳～79歳までの世代は4割台ですが、80歳以上では3割余りとなります。

圏域別では、各圏域での大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向は、石川地区が48.0%、具志川北地区が55.0%、具志川東地区が49.4%、具志川西地区が52.4%、具志川南地区が54.5%、与勝西地区が48.8%、与勝東地区が53.1%、具志川北地区が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ参加者として参加したいか



地域づくりへ参加者として参加したいか (性別、年齢別、圏域別)

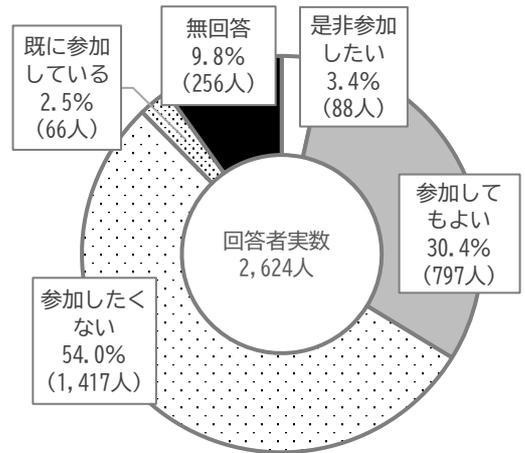
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
男性	1,237人	6.3% (78人)	43.5% (538人)	40.0% (495人)	2.9% (36人)	7.3% (90人)
女性	1,387人	10.5% (145人)	42.8% (594人)	35.5% (493人)	3.5% (48人)	7.7% (107人)
65歳～69歳	717人	6.8% (49人)	49.8% (357人)	37.1% (266人)	2.1% (15人)	4.2% (30人)
70歳～74歳	775人	7.1% (55人)	44.6% (346人)	39.6% (307人)	2.1% (16人)	6.6% (51人)
75歳～79歳	450人	11.3% (51人)	42.0% (189人)	32.9% (148人)	4.9% (22人)	8.9% (40人)
80歳～84歳	403人	13.4% (54人)	37.0% (149人)	33.3% (134人)	4.5% (18人)	11.9% (48人)
85歳以上	279人	5.0% (14人)	32.6% (91人)	47.7% (133人)	4.7% (13人)	10.0% (28人)
石川地区	410人	7.3% (30人)	40.7% (167人)	39.5% (162人)	5.1% (21人)	7.3% (30人)
具志川北地区	402人	8.2% (33人)	46.8% (188人)	35.1% (141人)	3.7% (15人)	6.2% (25人)
具志川東地区	379人	7.7% (29人)	41.7% (158人)	39.6% (150人)	3.7% (14人)	7.4% (28人)
具志川西地区	408人	8.3% (34人)	44.1% (180人)	37.3% (152人)	2.7% (11人)	7.6% (31人)
具志川南地区	444人	10.6% (47人)	43.9% (195人)	36.0% (160人)	2.0% (9人)	7.4% (33人)
与勝西地区	328人	10.1% (33人)	38.7% (127人)	39.0% (128人)	3.0% (10人)	9.1% (30人)
与勝東地区	252人	6.7% (17人)	46.4% (117人)	37.3% (94人)	1.6% (4人)	7.9% (20人)

②地域づくりへ企画・運営として参加したいか

地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」は3.4%、「参加してもよい」は30.4%で、これらを合わせると企画・運営への参加意向は33.8%となっています。前項の地域づくりへの参加意向(51.6%)と比べて低いことがわかります。

圏域別で見ると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた企画・運営への参加意向は、石川地区が31.7%、具志川北地区が34.8%、具志川東地区が32.2%、具志川西地区が33.3%、具志川南地区が34.5%、与勝西地区が35.1%、与勝東地区が35.3%となっており、「与勝東地区」や「与勝西地区」で参加意向が他圏域より僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
企画・運営として参加したいか



地域づくりへ企画・運営として参加したいか (圏域別)

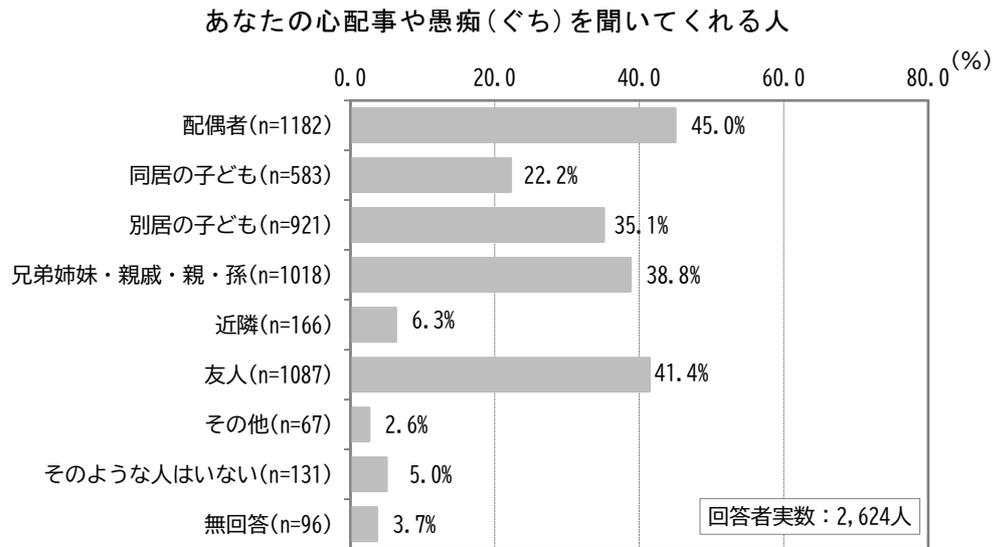
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
石川地区	410人	3.7% (15人)	28.0% (115人)	55.4% (227人)	3.7% (15人)	9.3% (38人)
具志川北地区	402人	2.5% (10人)	32.3% (130人)	51.7% (208人)	3.7% (15人)	9.7% (39人)
具志川東地区	379人	2.4% (9人)	29.8% (113人)	57% (216人)	2.1% (8人)	8.7% (33人)
具志川西地区	408人	2.9% (12人)	30.4% (124人)	54.7% (223人)	2.7% (11人)	9.3% (38人)
具志川南地区	444人	3.6% (16人)	30.9% (137人)	54.1% (240人)	2% (9人)	9.5% (42人)
与勝西地区	328人	5.5% (18人)	29.6% (97人)	51.8% (170人)	1.2% (4人)	11.9% (39人)
与勝東地区	252人	3.2% (8人)	32.1% (81人)	52.4% (132人)	1.6% (4人)	10.7% (27人)

6. たすけあいについて

(1) たすけあいの状況

① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

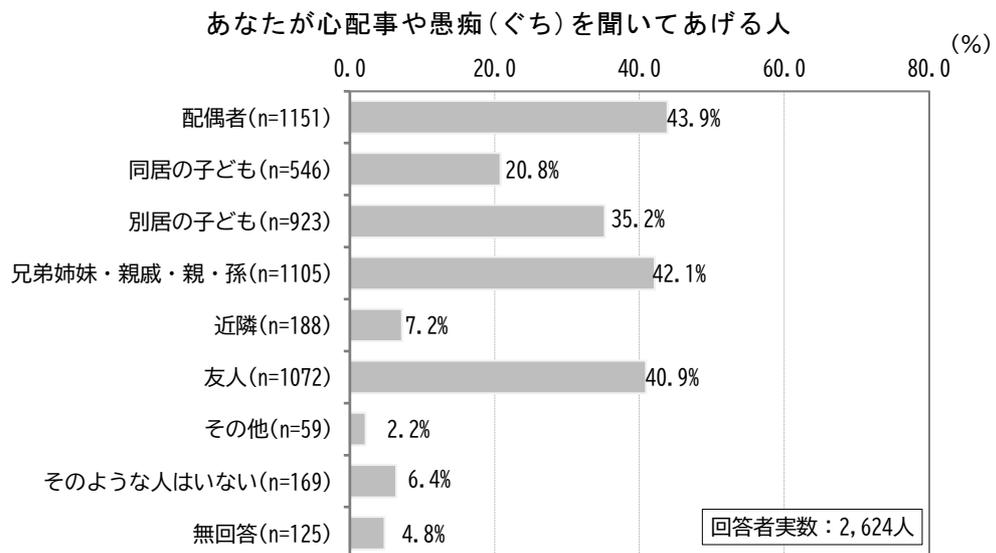
心配事や愚痴を聞いている人について尋ねたところ、「配偶者」が45.0%と最も高く、続いて、「友人」(41.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(38.8%)、「別居の子ども」(35.1%)となっています。



② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

上記項目とは反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、概ね「聞いてくれる人」の集計結果と同様の割合となっています。

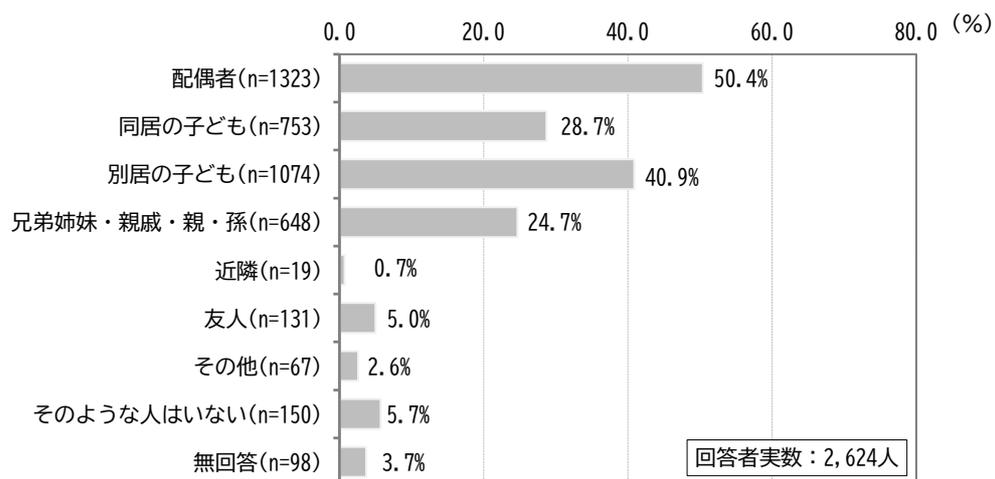
「配偶者」が43.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が42.1%、「友人」が40.9%でこれら3つが4割余りで高くなっています。また、「別居の子ども」も35.2%で比較的高いです。



③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

寝込んだときの看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」が 50.4%と半数以上を占め、次いで、「別居の子ども」が 40.9%となっており、これら2つが特に高くなっています。また、「同居の子ども」が 28.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 24.7%で、これら2つが2割余りで比較的高くなっています。

寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

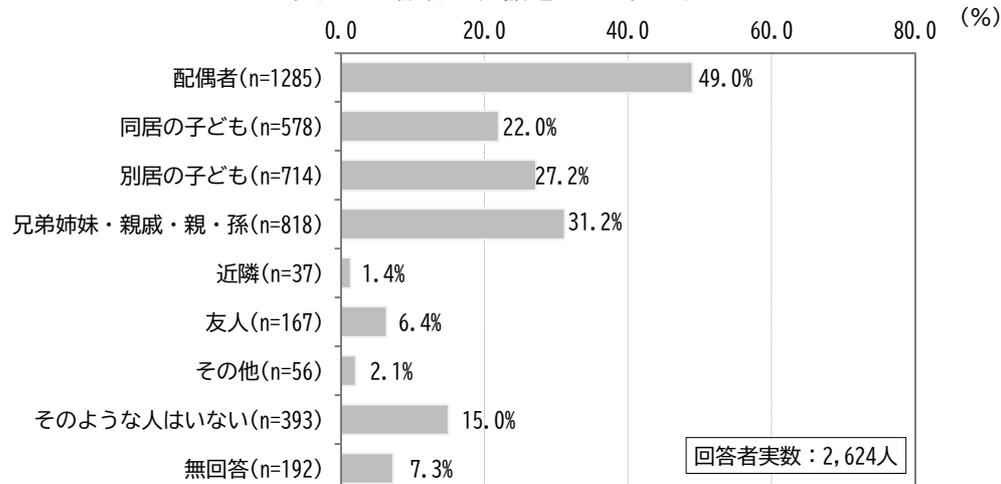


④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

上記項目とは反対に、寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねました。

「配偶者」が 49.0%と約半数を占め最も高くなっています。また、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 31.2%、「別居の子ども」が 27.2%、「同居の子ども」の 22.0%と続いています。

あなたが看病や世話をしてあげる人

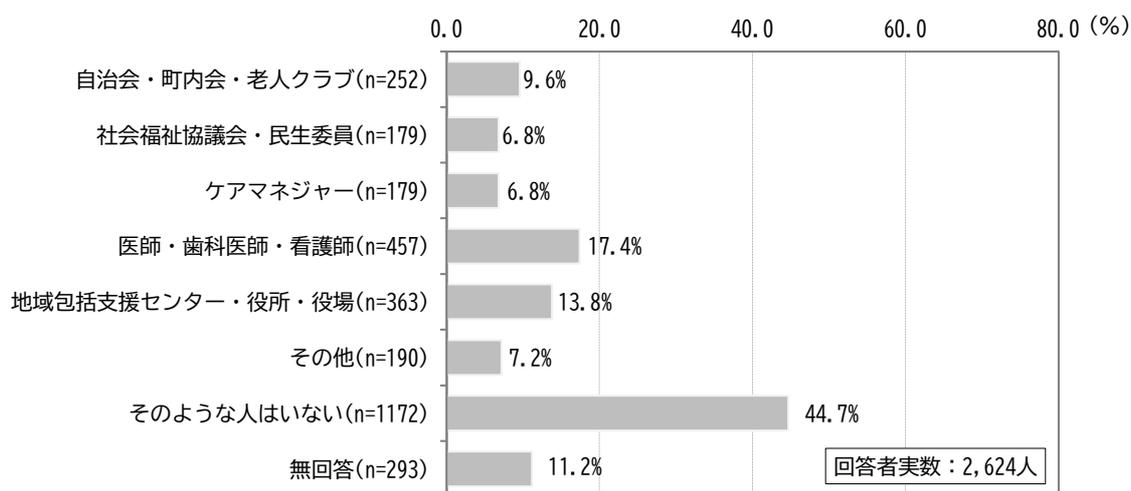


⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手について見ると、

「そのような人はいない」という回答が本設問で最も高く 44.7%を占めています。相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 17.4%で他の項目より高いほか、「地域包括支援センター・役所・役場」が 13.8%となっています。

何かあったときに相談する相手



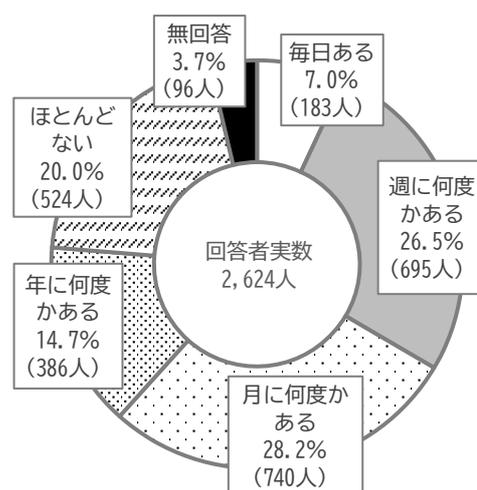
(2) 友人、知人との交流

①友人、知人と会う頻度

友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が 7.0%、「週に何度かある」が 26.5%で、これらを合わせると 3割半ばとなります。また、「月に何度かある」が 28.2%で、ここまでの回答を合わせると、友人・知人と会う機会が比較的高齢者が 6割を占めます。

反対に、「ほとんどない」が 20.0%、「年に何度かある」が 14.7%で、3割半ばは友人・知人とあまり会う機会がないことがわかります。

友人・知人と会う頻度

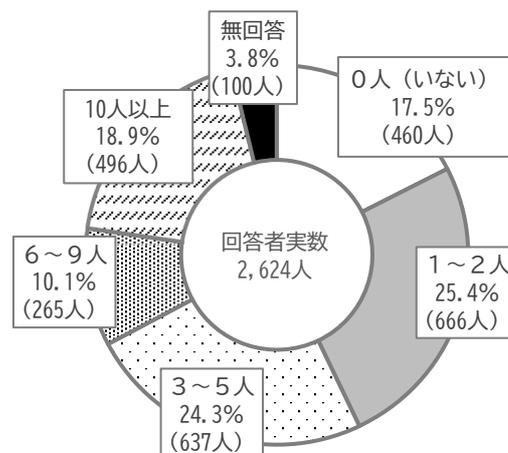


② 1か月間に何人の友人、知人と会ったか

この1か月の間に、何人の友人、知人に会ったかを尋ねたところ、「1～2人」が25.4%で最も高く、「3～5人」が24.3%、「10人以上」が18.9%でこれに続いています。

前々回からの経年比較を見ると、人数が6人以上では、減少傾向にあり、2人までは増加傾向にあります。

1か月間に何人の友人、知人と会ったか



1か月間に何人の友人、知人と会ったか (経年比較)

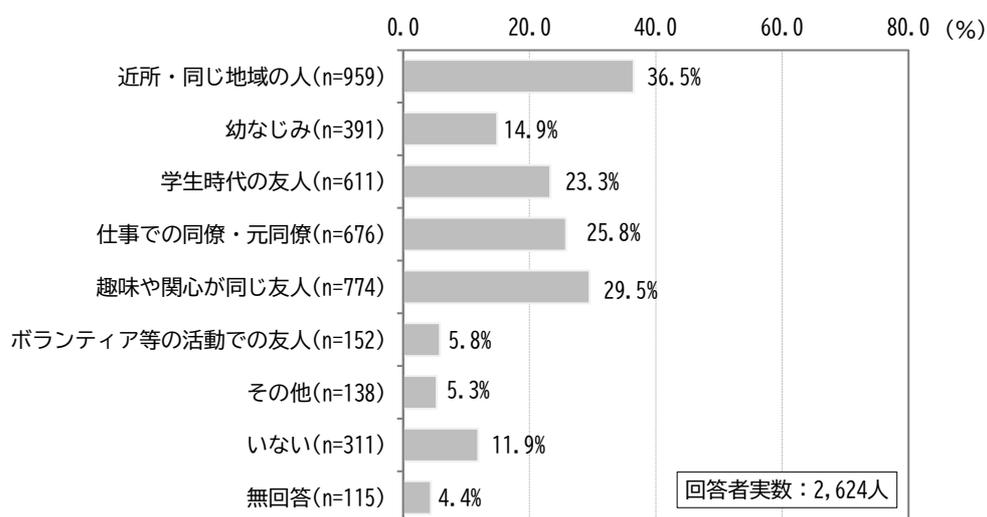
	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
0人(いない)	248 (9.9)	272 (11.3)	460 (17.5)	6.2
1～2人	511 (20.3)	520 (21.5)	666 (25.4)	3.9
3～5人	622 (24.7)	586 (24.3)	637 (24.3)	0.0
6～9人	304 (12.1)	296 (12.3)	265 (10.1)	▲2.2
10人以上	663 (26.4)	629 (26.0)	496 (18.9)	▲7.1
無回答	166 (6.6)	112 (4.6)	100 (3.8)	▲0.8

③よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人か尋ねたところ、「近所・同じ地域の人」が36.5%で最も高く、唯一3割を超えています。次いで「趣味や関心が同じ友人」が29.5%で約3割、「仕事での同僚・元同僚」が25.8%、「学生時代の友人」が23.3%でそれぞれ2割台となっています。

前々回からの経年比較を見ると、前々回から前回にかけては「幼なじみ」や「学生時代の友人」「仕事での同僚・元同僚」「ボランティア等の活動での友人」は増加し、他の項目は減少しています。しかし前回から今回にかけては全ての友人、知人関係で減少傾向にあり、特に「近所・同じ地域の人」と「趣味や関心が同じ友人」が他よりも減少率が高くなっています。

よく会う友人・知人との関係性



よく会う友人、知人との関係（経年比較）

	前々回 (7期)	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,514	2,415	2,624	
近所・同じ地域の人	1,089 (43.3)	990 (41.0)	959 (36.5)	▲4.5
幼なじみ	406 (16.1)	401 (16.6)	391 (14.9)	▲1.7
学生時代の友人	576 (22.9)	618 (25.6)	611 (23.3)	▲2.3
仕事での同僚・元同僚	675 (26.8)	715 (29.6)	676 (25.8)	▲3.8
趣味や関心が同じ友人	868 (34.5)	820 (34.0)	774 (29.5)	▲4.5
ボランティア等の活動での友人	164 (6.5)	171 (7.1)	152 (5.8)	▲1.3
その他	225 (8.9)	151 (6.3)	138 (5.3)	▲1.0
いない	186 (7.4)	193 (8.0)	311 (11.9)	3.9
無回答	145 (5.8)	123 (5.1)	115 (4.4)	▲0.7

7. 健康について

(1) 主観的健康感

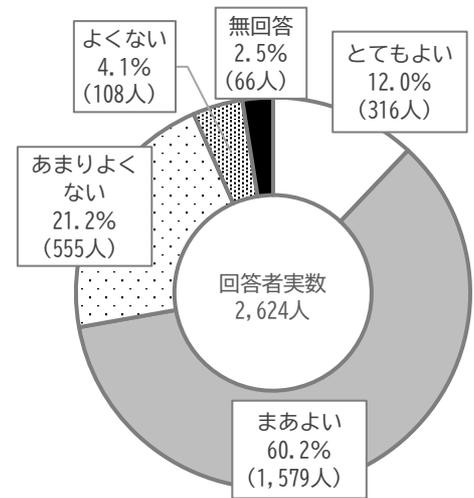
健康状態について尋ねたところ、「まあよい」が 60.2% で圧倒的に高くなっています。また、「とてもよい」は 12.0% で、これら 2 つを合わせると、約 7 割が健康と回答しています。

性別で見ると、この設問についての男女別の差はほとんどありません。

年齢別に見ると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“健康”は年齢が上がるとともに割合が減少する傾向にあります。“健康”は 65 歳～69 歳が 76.7%、70 歳～74 歳が 74.5%、85 歳以上では 59.5% と 6 割弱へと下がっています。また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“健康ではない”は年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、65 歳～69 歳では約 2 割ですが、85 歳以上では 3 割以上を占めています。

幸福度別に見ると、“健康”は 10 点(とても幸せ)が 86.4%、4 点～6 点(普通)が 63.5%、0 点(幸福ではない)が 22.3% となっており、幸福度が高いと“健康”と感じている割合が高くなります。反対に、“健康ではない”は 10 点が 12.5%、4 点～6 点が 35.1%、0 点が 77.7% で、幸福度が低いと“健康ではない”と答えた割合が高いです。

主観的健康感



主観的健康感 (性別、年齢別)

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
男性	1,237人	12.2% (151人)	59.9% (741人)	21.3% (264人)	4.0% (50人)	2.5% (31人)
女性	1,387人	11.9% (165人)	60.4% (838人)	21.0% (291人)	4.2% (58人)	2.5% (35人)
65歳～69歳	717人	13.9% (100人)	62.8% (450人)	18.0% (129人)	3.2% (23人)	2.1% (15人)
70歳～74歳	775人	12.0% (93人)	62.5% (484人)	20.9% (162人)	2.7% (21人)	1.9% (15人)
75歳～79歳	450人	11.1% (50人)	62.2% (280人)	19.1% (86人)	5.3% (24人)	2.2% (10人)
80歳～84歳	403人	13.6% (55人)	53.8% (217人)	23.6% (95人)	5.5% (22人)	3.5% (14人)
85歳以上	279人	6.5% (18人)	53.0% (148人)	29.7% (83人)	6.5% (18人)	4.3% (12人)

主観的健康感 (幸福度別)

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
0点 (幸福ではない)	18人	5.6% (1人)	16.7% (3人)	33.3% (6人)	44.4% (8人)	0.0% (0人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	136人	3.7% (5人)	34.6% (47人)	44.1% (60人)	15.4% (21人)	2.2% (3人)
4点～6点 (普通)	770人	3.6% (28人)	59.9% (461人)	29.6% (228人)	5.5% (42人)	1.4% (11人)
7点～9点 (やや幸せ)	1,043人	10.8% (113人)	70.3% (733人)	16.1% (168人)	2.0% (21人)	0.8% (8人)
10点 (とても幸せ)	488人	31.1% (152人)	55.3% (270人)	10.9% (53人)	1.6% (8人)	1.0% (5人)

(2) 主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答していただきました。

「10点」（とても幸せ）が18.6%、「5点」（普通）が19.1%、「8点」（幸せ）が17.2%と比較的高くなっています。

性別で見ると、「5点」は男性の方が女性より高く、また反対に「10点」は女性の方が高くなっています。幸福感は女性の方が男性より高い傾向が見られます。

年齢別に見ると、「5点」では年齢別の差はあまり見られませんが、「10点」では年齢が上がると割合も高くなる傾向にあり、65歳～69歳では1割半ばですが、85歳以上では2割半ばとなっています。

主観的幸福感（性別、年齢別）

	回答者 実数	0点 (幸福ではない)	1点	2点	3点	4点	5点
全体	2,624人	0.7% (18人)	0.6% (15人)	1.0% (27人)	3.6% (94人)	3.3% (87人)	19.1% (501人)
男性	1,237人	0.8% (10人)	0.7% (9人)	1.1% (13人)	4.4% (55人)	4.3% (53人)	20.0% (247人)
女性	1,387人	0.6% (8人)	0.4% (6人)	1% (14人)	2.8% (39人)	2.5% (34人)	18.3% (254人)
65歳～69歳	717人	0.8% (6人)	0.6% (4人)	1.4% (10人)	2.8% (20人)	4.3% (31人)	18.4% (132人)
70歳～74歳	775人	0.9% (7人)	0.8% (6人)	0.8% (6人)	4.3% (33人)	3.9% (30人)	20.5% (159人)
75歳～79歳	450人	0.2% (1人)	0.4% (2人)	0.7% (3人)	4.2% (19人)	2.4% (11人)	21.1% (95人)
80歳～84歳	403人	0.5% (2人)	0.7% (3人)	1.0% (4人)	2.7% (11人)	1.7% (7人)	16.6% (67人)
85歳以上	279人	0.7% (2人)	0.0% (0人)	1.4% (4人)	3.9% (11人)	2.9% (8人)	17.2% (48人)

	回答者 実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全体	2,624人	6.9% (182人)	13.4% (351人)	17.2% (451人)	9.2% (241人)	18.6% (488人)	6.4% (169人)
男性	1,237人	7.5% (93人)	12.9% (160人)	16.4% (203人)	7.9% (98人)	17.3% (214人)	6.6% (82人)
女性	1,387人	6.4% (89人)	13.8% (191人)	17.9% (248人)	10.3% (143人)	19.8% (274人)	6.3% (87人)
65歳～69歳	717人	6.8% (49人)	16.5% (118人)	18.3% (131人)	9.9% (71人)	16.2% (116人)	4.0% (29人)
70歳～74歳	775人	7.9% (61人)	13.4% (104人)	17.3% (134人)	7.1% (55人)	16.9% (131人)	6.3% (49人)
75歳～79歳	450人	6.2% (28人)	13.1% (59人)	17.6% (79人)	10.9% (49人)	16.7% (75人)	6.4% (29人)
80歳～84歳	403人	5.2% (21人)	9.9% (40人)	17.1% (69人)	10.2% (41人)	24.8% (100人)	9.4% (38人)
85歳以上	279人	8.2% (23人)	10.8% (30人)	13.6% (38人)	9.0% (25人)	23.7% (66人)	8.6% (24人)

(3) 人とふれあう機会

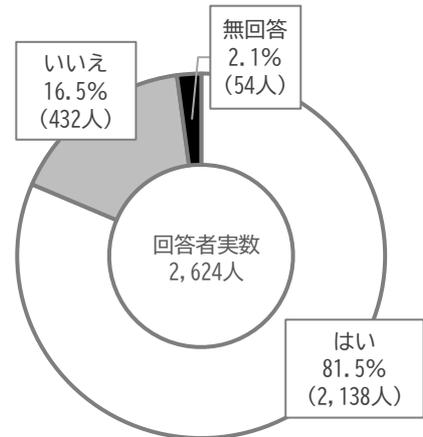
① 人とふれあう機会の有無

人とふれあう機会の有無について尋ねたところ、「はい」が81.5%と大半を占めています。

反対に、「いいえ」と答えた人が16.5%となっており、1割半ば程度の人が人とふれあう機会がないことがわかります。

前回からの経年比較を見ると、人とふれあう機会があった、という回答は減少しています。

人とふれあう機会の有無



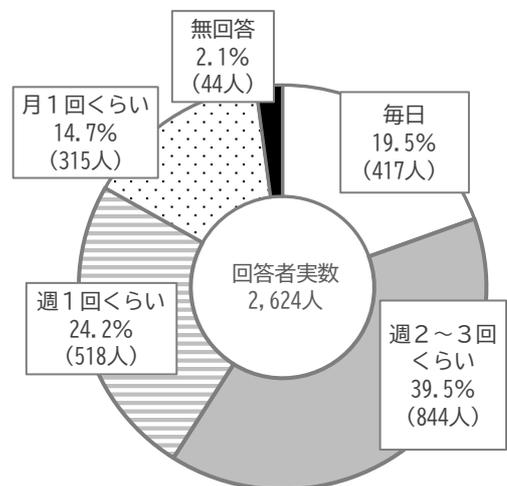
人とふれあう機会（経年比較）

	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
はい	2,062 (85.4)	2,138 (81.5)	▲3.9
いいえ	297 (12.3)	432 (16.5)	4.2
無回答	56 (2.3)	54 (2.1)	▲0.2

② 人とふれあう機会の頻度

人とふれあう機会の頻度については、「週2～3回」(39.5%)が最も多く、約4割を占めています。また、「週1回くらい」(24.2%)が2割余り、「毎日」(19.5%)が約2割となっています。

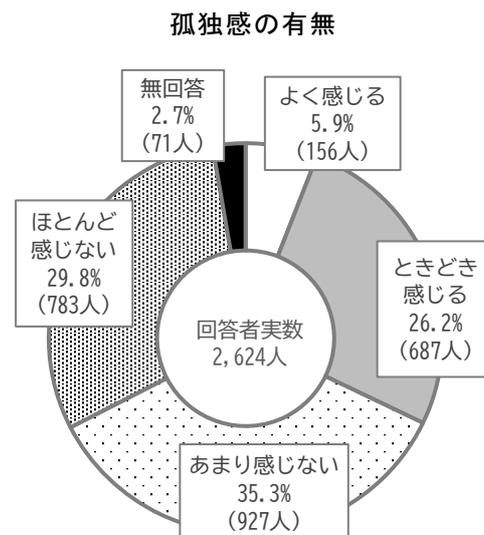
人とふれあう機会の頻度



(4) 孤独感の有無

孤独感については、「あまり感じない」(35.3%)と「ほとんど感じない」(29.8%)を合わせた“孤独感なし”の割合は65.1%となっています。反対に、「ときどき感じる」(26.2%)と「よく感じる」(5.9%)を合わせた“孤独感あり”は32.1%となっており、約3割が孤独を感じていることがわかります。

前回からの経年比較を見ると「ときどき感じる」が前回調査時点よりやや増加しています。



孤独感（経年比較）

	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
よく感じる	151 (6.3)	156 (5.9)	▲0.4
ときどき感じる	583 (24.1)	687 (26.2)	2.1
あまり感じない	865 (35.8)	927 (35.3)	▲0.5
ほとんど感じない	735 (30.4)	783 (29.8)	▲0.6
無回答	81 (3.4)	71 (2.7)	▲0.7

孤独感について主観的幸福度別で見ると、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」では孤独感を「よく感じる」、「1点～3点(やや幸福ではない)」では「ときどき感じる」と孤独を感じている割合が高く、反対に「7点～9点(やや幸せ)」では孤独を「あまり感じない」、「10点(とても幸せ)」では孤独を「ほとんど感じない」という割合が最も高くなっています。

孤独感の有無（幸福度別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
0点 (幸福ではない)	18人	66.7% (12人)	22.2% (4人)	5.6% (1人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	136人	25.7% (35人)	50.0% (68人)	18.4% (25人)	4.4% (6人)	1.5% (2人)
4点～6点 (普通)	770人	8.6% (66人)	42.1% (324人)	36.1% (278人)	11.6% (89人)	1.7% (13人)
7点～9点 (やや幸せ)	1,043人	1.4% (15人)	21.0% (219人)	44.2% (461人)	32.6% (340人)	0.8% (8人)
10点 (とても幸せ)	488人	1.6% (8人)	8.0% (39人)	23.8% (116人)	65.2% (318人)	1.4% (7人)

孤独感について家族構成別で見ると、孤独を「よく感じる」は、「1人暮らし」が最も高く13.9%あるほか、「ときどき感じる」が37.6%あり、これらを合わせると51.5%を占めます。

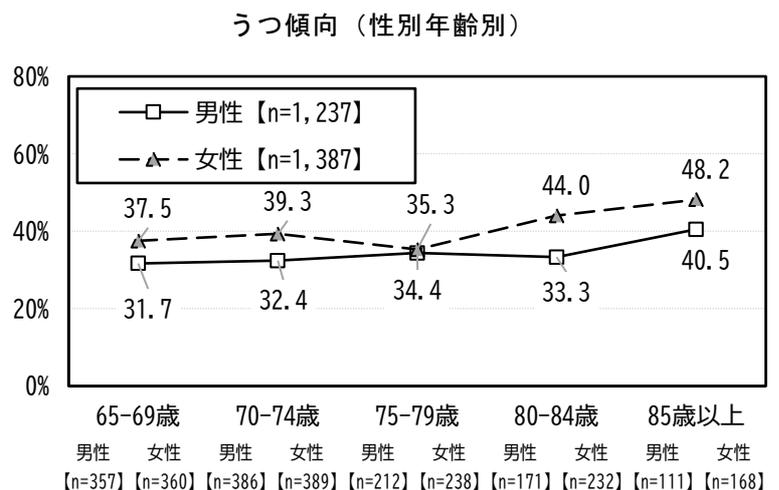
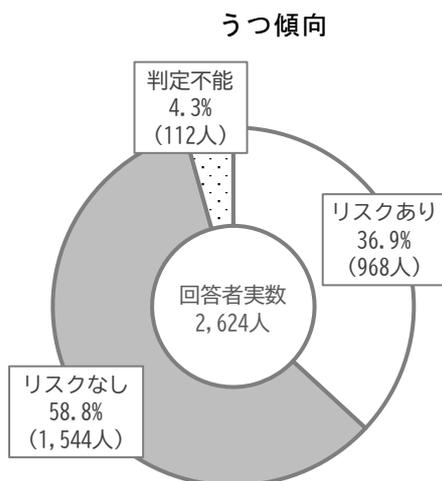
孤独感の有無（家族構成別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
1人暮らし	567人	13.9% (79人)	37.6% (213人)	33.2% (188人)	13.2% (75人)	2.1% (12人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	791人	2.9% (23人)	21.2% (168人)	38.8% (307人)	35.4% (280人)	1.6% (13人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	100人	3.0% (3人)	16.0% (16人)	39.0% (39人)	40.0% (40人)	2.0% (2人)
配偶者以外と 2人暮らし	242人	6.2% (15人)	34.3% (83人)	36.0% (87人)	21.1% (51人)	2.5% (6人)
3人以上の同居世帯	755人	2.5% (19人)	20.9% (158人)	35.2% (266人)	37.9% (286人)	3.4% (26人)
その他	107人	11.2% (12人)	28.0% (30人)	27.1% (29人)	32.7% (35人)	0.9% (1人)
無回答	62人	8.1% (5人)	30.6% (19人)	17.7% (11人)	25.8% (16人)	17.7% (11人)

(5) うつ傾向（リスク者）

うつ傾向のリスク者は36.9%で3割半ばとなっています。

性別年齢別で見ると、すべての年代で女性の方が高くなっています。男性は84歳までは3割台で推移しますが、85歳以上で約4割となっています。女性は75歳から79歳まではやや減少するものの、その後、85歳以上で5割弱まで上昇しています。



(6) 喫煙、飲酒の状況

① 喫煙の状況

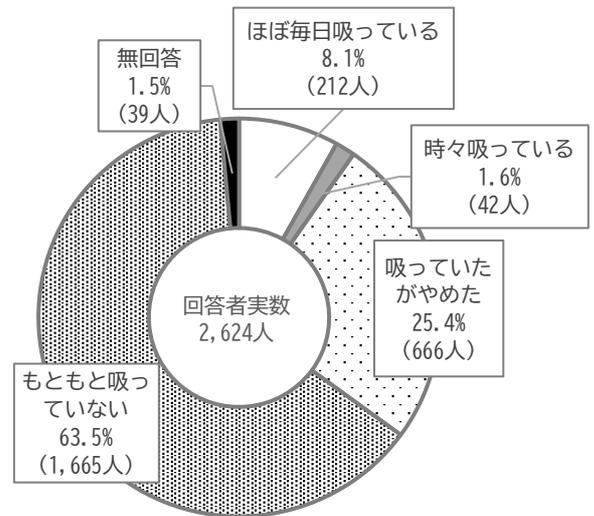
喫煙について見ると、「もともと吸っていない」が63.5%で、6割余りが喫煙の経験がないとしています。これに次いで「吸っていたがやめた」が25.4%で、これら2つを合わせると、現在喫煙していない高齢者が9割近くを占めます。

喫煙している高齢者は9.7%で、「ほぼ毎日吸っている」が8.1%、「時々吸っている」が1.6%となっています。

喫煙の状況を性別で見ると、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」、「吸っていたがやめた」はそれぞれ男性の方が高く、特に「吸っていたがやめた」は男性の45.4%を占めています。また、女性では「もともと吸っていない」が87.6%で、8割を超える女性が喫煙経験はないと回答しています。

年齢別で見ると、「ほぼ毎日吸っている」は65歳～69歳が13.1%で最も多く、それ以外の年代は10%未満となっています。また、「もともと吸っていない」は年齢が上がるとともに増加する傾向にあり、65歳～69歳では52.6%、85歳以上では73.8%となっています。

喫煙の状況



喫煙の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日 吸っている	時々 吸っている	吸っていたが やめた	もともと 吸っていない	無回答
男性	1,237人	14.1% (174人)	2.5% (31人)	45.4% (562人)	36.4% (450人)	1.6% (20人)
女性	1,387人	2.7% (38人)	0.8% (11人)	7.5% (104人)	87.6% (1,215人)	1.4% (19人)
65歳～69歳	717人	13.1% (94人)	2.5% (18人)	30.7% (220人)	52.6% (377人)	1.1% (8人)
70歳～74歳	775人	8.6% (67人)	2.1% (16人)	27.9% (216人)	60.1% (466人)	1.3% (10人)
75歳～79歳	450人	6.0% (27人)	0.9% (4人)	22.0% (99人)	69.3% (312人)	1.8% (8人)
80歳～84歳	403人	4.2% (17人)	0.7% (3人)	18.4% (74人)	75.4% (304人)	1.2% (5人)
85歳以上	279人	2.5% (7人)	0.4% (1人)	20.4% (57人)	73.8% (206人)	2.9% (8人)

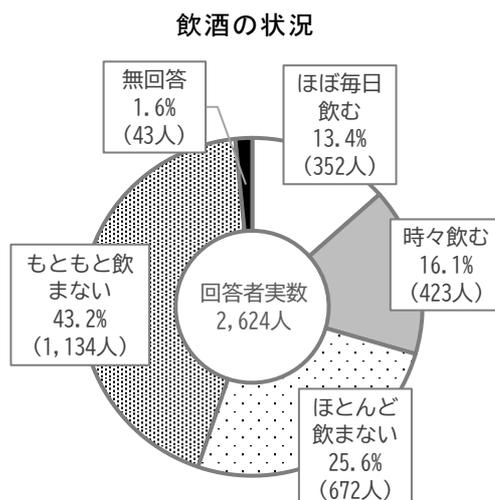
② 飲酒の状況

飲酒について見ると、「もともと飲まない」が43.2%で、次いで「ほとんど飲まない」が25.6%で、飲酒しない人とほとんど飲まない人を合わせると7割近くとなります。

「ほぼ毎日飲む」は13.4%、「時々飲む」は16.1%で、これら2つを合わせると飲酒する人は29.5%で約3割を占めています。

性別で見ると、「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」は男性の方が女性より高く、また「ほとんど飲まない」も男性の方がやや高くなっています。「もともと飲まない」は女性の方が高く、女性の6割半ばを占めています。

年齢別に見ると、飲酒者は65歳～69歳が最も高く、年齢が上がるとともに飲酒する割合は下がる傾向にあります。また、「ほとんど飲まない」は各世代の差はあまりなく、「もともと飲まない」は年代が上がると割合も上がっています。



飲酒の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど 飲まない	もともと 飲まない	無回答
男性	1,237人	25.1% (311人)	24.1% (298人)	30.6% (379人)	18.3% (226人)	1.9% (23人)
女性	1,387人	3.0% (41人)	9.0% (125人)	21.1% (293人)	65.5% (908人)	1.4% (20人)
65歳～69歳	717人	19.1% (137人)	22.7% (163人)	26.2% (188人)	31.0% (222人)	1.0% (7人)
70歳～74歳	775人	15.9% (123人)	14.5% (112人)	28.5% (221人)	39.5% (306人)	1.7% (13人)
75歳～79歳	450人	12.0% (54人)	16.4% (74人)	24.4% (110人)	44.7% (201人)	2.4% (11人)
80歳～84歳	403人	5.5% (22人)	11.9% (48人)	23.6% (95人)	57.6% (232人)	1.5% (6人)
85歳以上	279人	5.7% (16人)	9.3% (26人)	20.8% (58人)	62.0% (173人)	2.2% (6人)

(7) 疾病の状況

① 全体的な状況

疾病の状況を見ると、「高血圧」が 48.8%を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に高くなっています。高血圧以外では、「糖尿病」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」「高脂血症(脂質異常)」が1割台で比較的高いです。

疾病について、一般高齢者と総合事業対象者別に見ると、一般高齢者、総合事業対象者ともに「高血圧」の割合が最も高く、一般高齢者の4割半ば、総合事業対象者の5割強を占めています。また、総合事業対象者では、「目の病気」と「糖尿病」、「筋骨格の病気」が2割前後で一般高齢者より高くなっています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、糖尿病や目の病気の予防を元気なうちから行うことが肝要です。

疾病の状況（総合事業対象者一般高齢者別）

	回答者 実数	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の 病気(肺炎 や気管支 炎等)
全体	2,624人	15.1% (397人)	48.8% (1,280人)	3.0% (80人)	9.6% (253人)	15% (394人)	10.7% (280人)	5.0% (131人)
総合事業 対象者	865人	6.2% (54人)	52.7% (456人)	5.2% (45人)	12% (104人)	18.3% (158人)	12% (104人)	7.6% (66人)
一般高齢者	1,446人	19.8% (287人)	46.6% (674人)	1.8% (26人)	8.1% (117人)	13.2% (191人)	10.6% (153人)	3.7% (54人)

	回答者 実数	胃腸・肝 臓・胆の うの病気	腎臓・前立 腺の病気	筋骨格の 病気 (骨粗しょう 症、関節 症等)	外傷 (転倒・骨 折等)	がん (悪性新生物)	血液・免 疫の病気	うつ病
全体	2,624人	3.3% (87人)	6.7% (176人)	10.5% (275人)	3% (79人)	3.6% (94人)	1.3% (33人)	1.0% (27人)
総合事業 対象者	865人	5% (43人)	8.6% (74人)	19.0% (164人)	7.1% (61人)	6.4% (55人)	1.6% (14人)	1.8% (16人)
一般高齢者	1,446人	2.5% (36人)	6% (87人)	5.9% (85人)	1.0% (15人)	2.1% (31人)	1.2% (17人)	0.5% (7人)

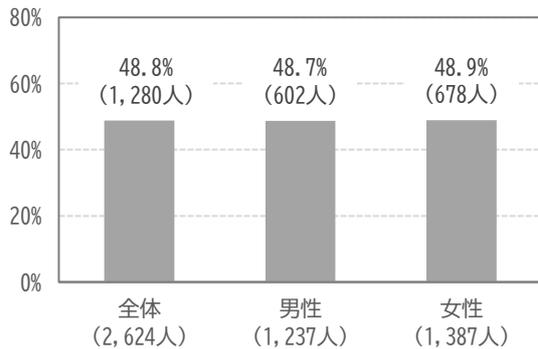
	回答者 実数	認知症 (アルツハイ マー病等)	パーキン ソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体	2,624人	1.3% (33人)	0.4% (10人)	16.2% (424人)	6.9% (181人)	10.6% (279人)	5.1% (133人)
総合事業 対象者	865人	2.4% (21人)	0.8% (7人)	20.0% (173人)	10.1% (87人)	13.4% (116人)	3.1% (27人)
一般高齢者	1,446人	0.4% (6人)	0.1% (1人)	13.7% (198人)	4.8% (69人)	9.6% (139人)	5.3% (77人)

② 高血圧

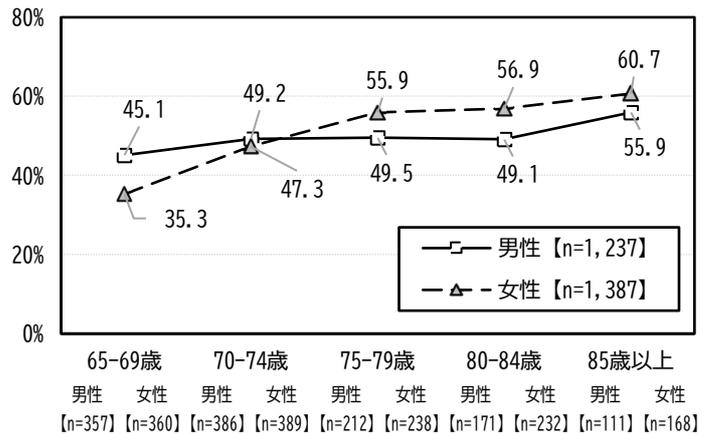
高血圧の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は48.7%、女性は48.9%で、男女の差はほとんどありません。

性別年齢別で見ると、男性は84歳までは4割台で推移し、85歳以上で5割半ばとなっています。女性では、65歳～69歳は3割半ばとなっていますが、年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、85歳以上では6割に及びます。

高血圧（性別）



高血圧（性別年齢別）

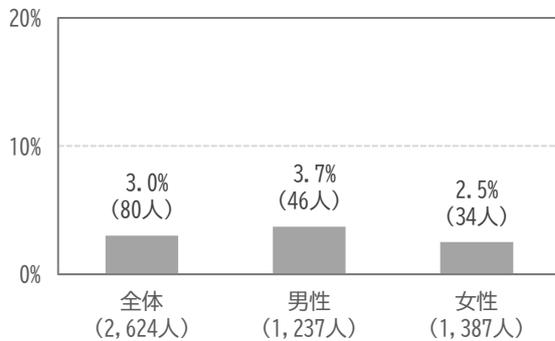


③ 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）

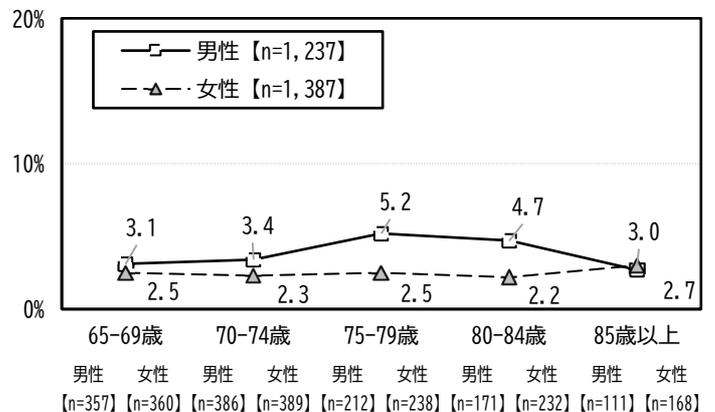
脳卒中の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は3.7%、女性は2.5%で、僅かながら男性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、男性は75～79歳が5.2%で最も高く、女性では、84歳までは2%台で推移しますが、85歳以上は3.0%にやや上昇します。

脳卒中（脳出血・脳梗塞等）（性別）



脳卒中（脳出血・脳梗塞等）（性別年齢別）

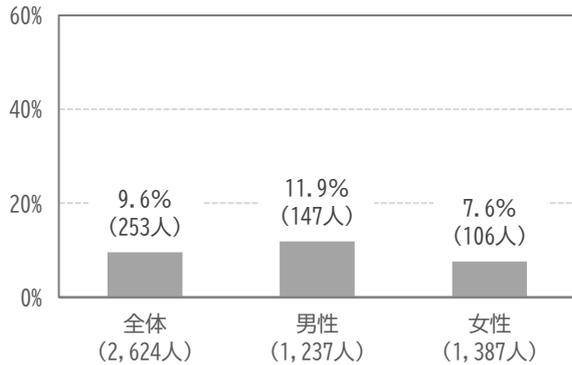


④心臓病

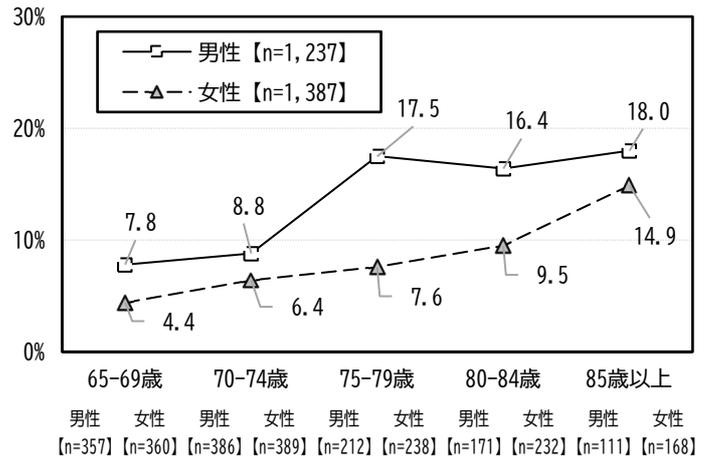
心臓病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は11.9%、女性は7.6%で、僅かながら男性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、男性は74歳までは1割未満ですが、75歳以降は1割半ばで推移しています。女性では、65~69歳では4.4%で、以降、年代が上がるとともに割合がやや高くなる傾向にあり、85歳以上は1割半ばとなります。

心臓病（性別）



心臓病（性別年齢別）

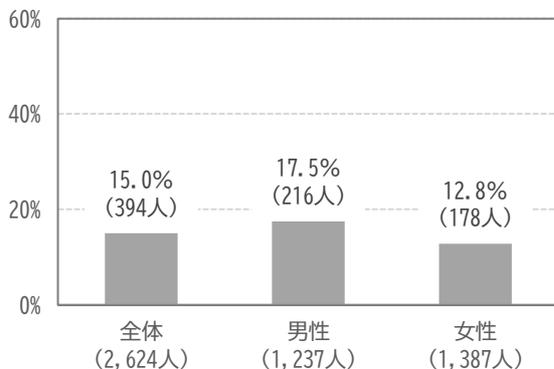


⑤糖尿病

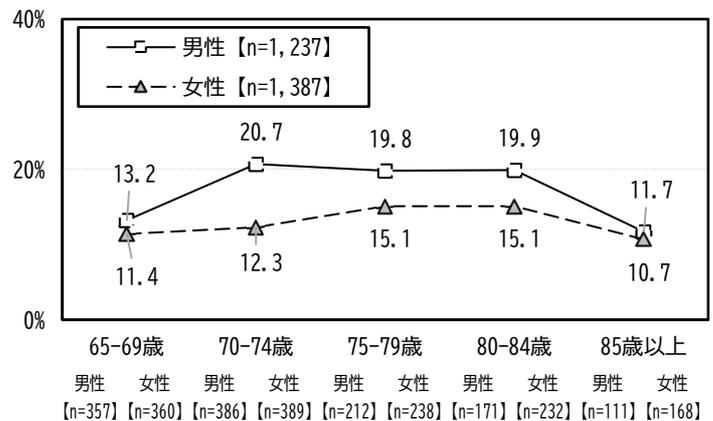
糖尿病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は17.5%、女性は12.8%で、やや男性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、男性は70~74歳の20.7%が最も高く、以降、年齢が上がると減少する傾向となっています。女性では、79歳まで年齢が上がるとともに割合が上昇する傾向で推移し、80歳~84歳では横ばい、85歳以上では10.7%に減少しています。

糖尿病（性別）



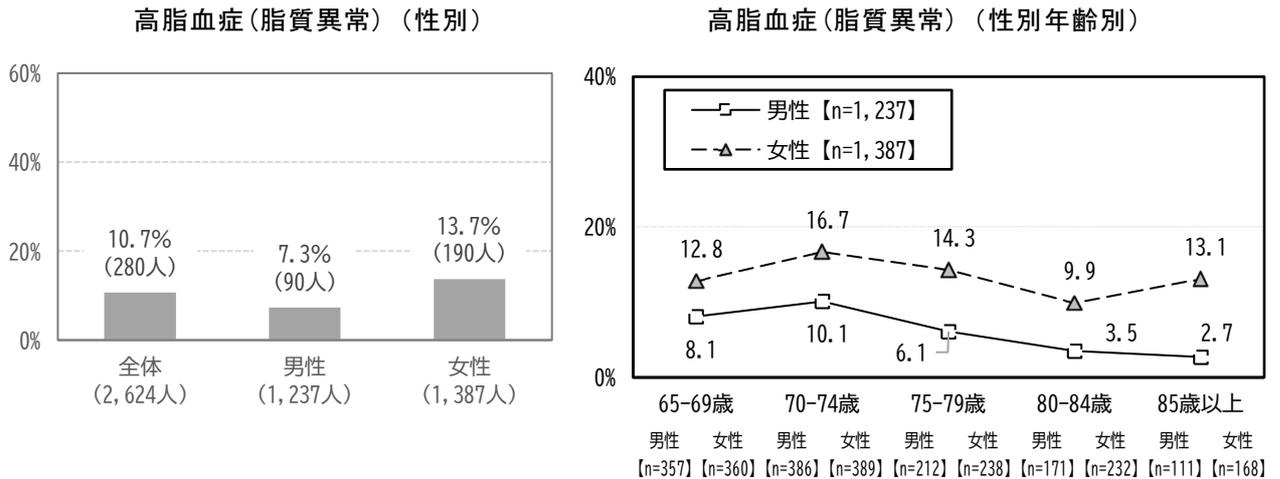
糖尿病（性別年齢別）



⑥高脂血症（脂質異常）

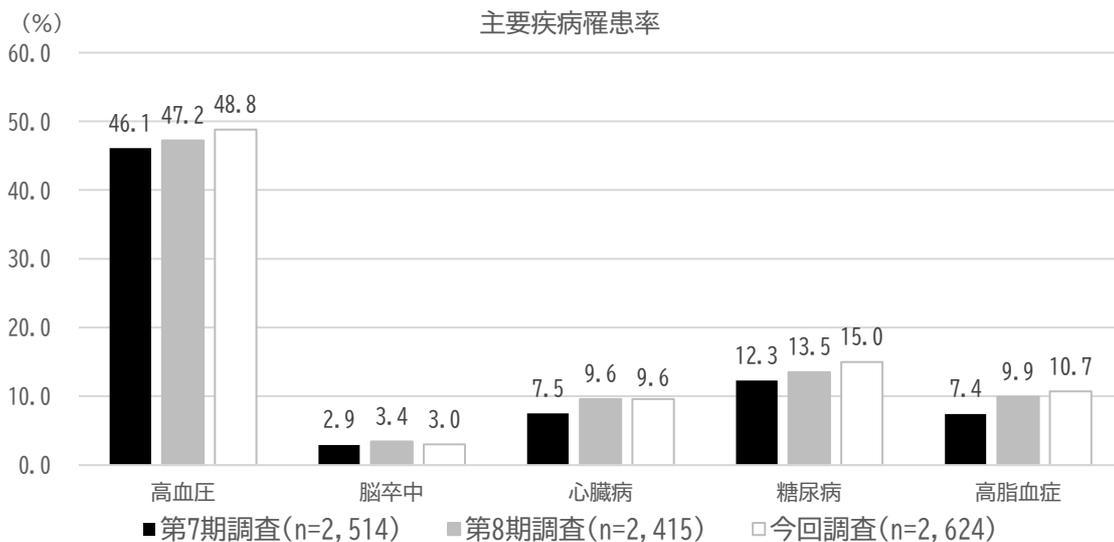
高脂血症の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は7.3%、女性は13.7%で、女性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、各年代とも女性の方が男性を上回っています。また、男女とも年代が上がる割合は概ね減少する傾向にありますが、女性の85歳以上は増加しています。男性は70~74歳では10.1%ですが、85歳以上では2.7%となっています。女性では、70~74歳の16.7%が80~84歳では9.9%に減少し、85歳以上では13.1%に再び上昇しています。



⑦疾病状況の経年比較

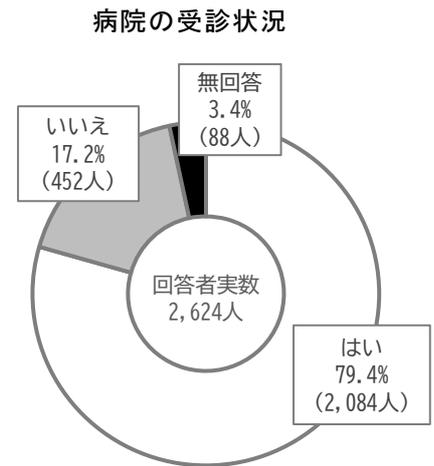
主要な疾病で過去の調査と比較すると、どの疾病も過去の調査と比較して罹患率に大きな差異はありませんが、高血圧・糖尿病・高脂血症については徐々に増加する傾向を示しています。高血圧は5割弱となっており、他の疾病と比較して高い罹患率となっています。



(8) 病院の受診

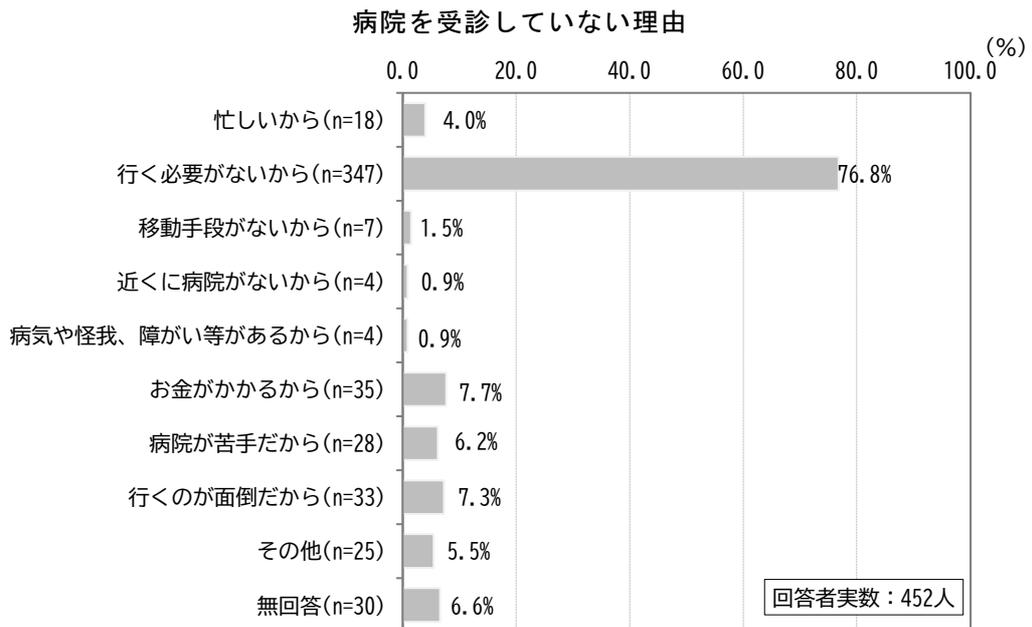
① 病院の受診状況

病院の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が79.4%、「いいえ(受診していない)」が17.2%となっており、8割弱が病院で治療を受けています。



② 病院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に病院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が76.8%と圧倒的に高くなっています。「お金がかかるから」が7.7%、「行くのが面倒だから」が7.3%とその他の理由は10%未満となっています。

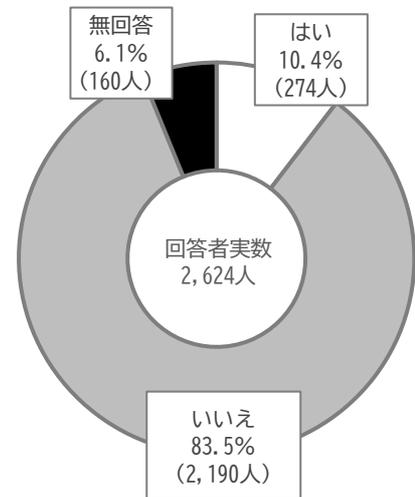


8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 家族に認知症の方がいるか

家族に認知症の方がいるか尋ねたところ、「いいえ」が 83.5%と大半を占めています。「はい」は 10.4%となっており、約 1 割の人が家族に認知症の方がいると答えています。

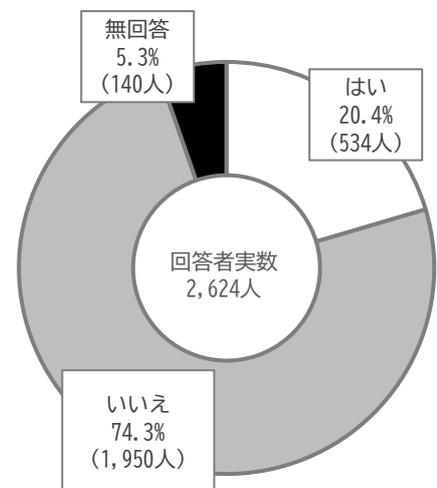
家族に認知症の方がいるか



(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口の認知について尋ねたところ、「はい(知っている)」という回答は 20.4%で、相談窓口を知っている人は、およそ 5 人に 1 人となっています。反対に、「いいえ(知らない)」は 74.3%で、7 割半ばの人は認知症に関する相談窓口について知らないと答えています。

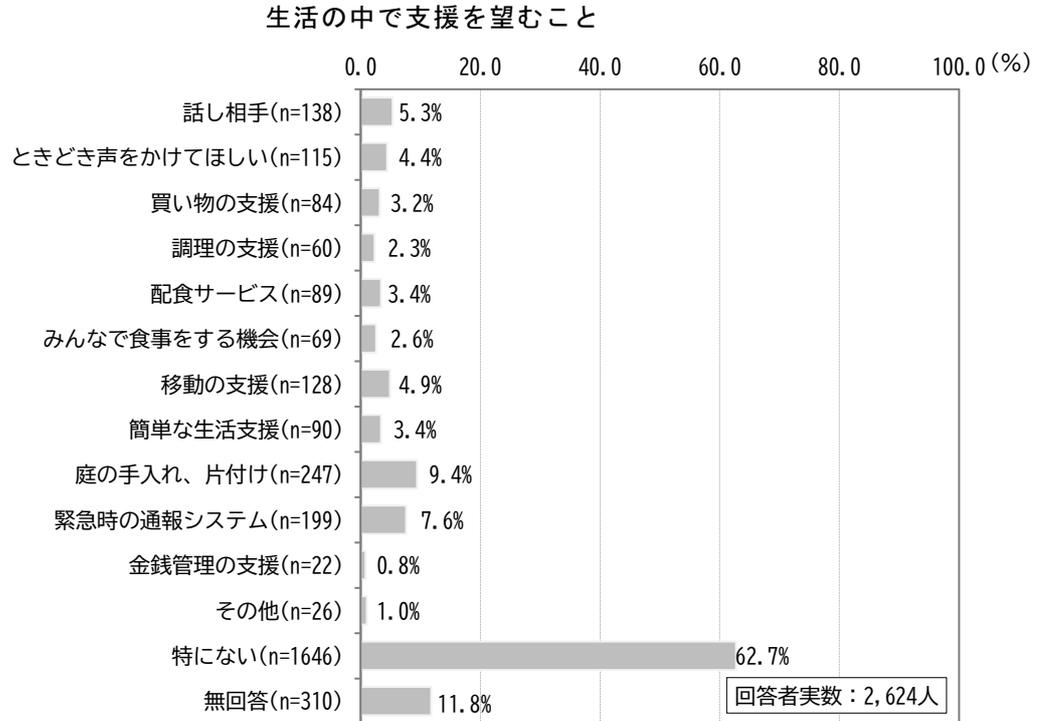
認知症に関する
相談窓口を知っているか



9. その他

(1) 生活の中で支援を望むこと

生活の中で支援を望むことを尋ねたところ、「庭の手入れ、片付け」(9.4%)、「緊急時の通報システム」(7.6%)が比較的高くなっています。なお、「特にない」という回答が約6割を占めています。



一般高齢者と総合事業対象者を比べると、支援を望む声は全般的に総合事業対象者の方で高くなっています。中でも、「話し相手」「庭の手入れ、片づけ(台風前後など)」や「移動の支援(送迎など)」、「簡単な生活支援」では、総合事業対象者と一般高齢者との差が7ポイント程度あり、他の支援希望との差より大きくなっています。

生活の中で支援を望むこと（総合事業対象者・一般高齢者別）

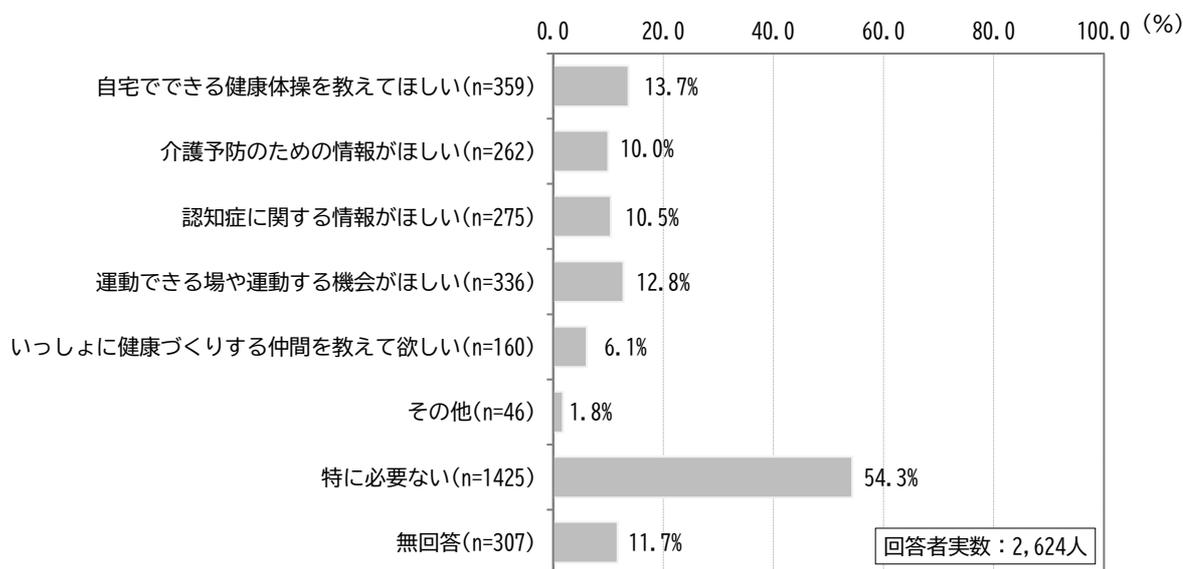
	回答者実数	話し相手	ときどき声をかけてほしい	買い物の支援 (買ってきてほしい)	調理の支援	配食サービス (食事の提供)	みんなで食事をする機会 (会食など)	移動の支援 (送迎など)
総合事業対象者	865人	9.6% (83人)	7.6% (66人)	6.8% (59人)	4.7% (41人)	7.2% (62人)	4.0% (35人)	9.5% (82人)
一般高齢者	1,446人	2.7% (39人)	2.4% (34人)	1.3% (19人)	1.2% (17人)	1.4% (20人)	1.8% (26人)	2.1% (31人)
「総合事業対象者」と「一般高齢者」の差		6.9	5.2	5.5	3.5	5.8	2.2	7.4

	回答者実数	簡単な生活支援 (ゴミ出し、掃除など)	庭の手入れ、片付け (台風前後など)	緊急時の通報システム	金銭管理の支援 (成年後見制度など)	その他	特にない	無回答
総合事業対象者	865人	8.0% (69人)	14.1% (122人)	11.2% (97人)	1.5% (13人)	1.4% (12人)	48.1% (416人)	12.5% (108人)
一般高齢者	1,446人	1.1% (16人)	6.6% (96人)	5.3% (77人)	0.4% (6人)	0.8% (12人)	73.6% (1064人)	9.1% (132人)
「総合事業対象者」と「一般高齢者」の差		6.9	7.5	5.9	1.1	0.6	-25.5	3.4

(2) 健康づくりや介護予防で支援を望むこと

健康づくりや介護予防で支援を望むことを尋ねたところ、「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が 13.7%で比較的高くなっています。なお、「特に必要ない」という回答が約5割を占めています。

健康づくりや介護予防で支援を望むこと



一般高齢者と総合事業対象者別に見ると、支援を望む声は全般的に総合事業対象者の割合が高く、「特に必要ない」という回答のみ総合事業対象者の方が一般高齢者を下回っています。一般高齢者と比べ、総合事業対象者の方が介護予防に関心があると見られます。

支援を望むこととしては、総合事業対象者では「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が最も高く 17.1%となっています。また、「認知症に関する情報がほしい」が 14.3%あり、これについては一般高齢者と比べて 5.7ポイント高く、項目の中では最も差があります。その他「介護予防のための情報がほしい」、「運動できる場や運動する機会がほしい」も総合事業対象者では1割半ばの割合となっています。

健康づくりや介護予防で支援を望むこと（総合事業対象者・一般高齢者別）

	回答者実数	自宅でできる健康体操を教えてほしい	介護予防のための情報がほしい	認知症に関する情報がほしい	運動できる場や運動する機会がほしい	いっしょに健康づくりする仲間を教えて欲しい	その他	特に必要ない	無回答
総合事業対象者	865人	17.1% (148人)	13.1% (113人)	14.3% (124人)	13.5% (117人)	7.4% (64人)	2% (17人)	45.2% (391人)	13.5% (117人)
一般高齢者	1,446人	11.5% (167人)	8.8% (127人)	9.0% (130人)	12.4% (180人)	5.3% (77人)	1.9% (27人)	61.5% (890人)	8.0% (115人)
「総合事業対象者」と「一般高齢者」の差		5.1	4.6	5.7	1.0	1.9	0.4	-13.6	2.7

(3) 相談先

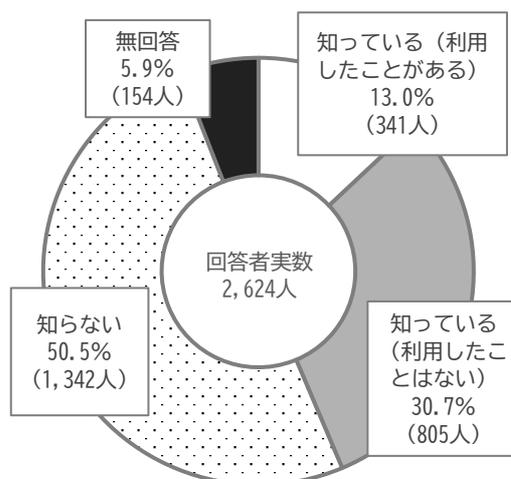
① 地域包括支援センター

介護や医療、保健、福祉など様々な側面から高齢者を支えるための総合相談ができる地域包括支援センターについて尋ねたところ、「知っている」の回答は43.7%で、そのうち実際に「利用したことがある」は13.0%となっています

また、地域包括支援センターを「知らない」と回答した割合は50.5%と半数以上を占めています。

周知度を前回調査と比較すると、「知っている」という回答は、僅かながら上がっています。

地域包括支援センター



地域包括支援センター（経年比較）

	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
知っている（利用したことがある）	280 (11.6)	341 (13.0)	1.4
知っている（利用したことはない）	726 (30.1)	805 (30.7)	0.6
知らない	1,236 (51.2)	1,324 (50.5)	▲0.7
無回答	173 (7.2)	154 (5.9)	▲1.3

※この設問は8期より追加

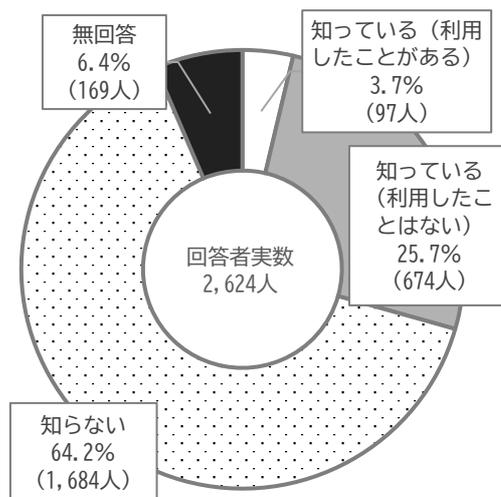
②ふれあい総合相談支援センター

身近な地域で健康や福祉に関する総合的な相談を受けたり、生活に必要な情報を入手することができる、ふれあい総合相談支援センターについて尋ねると、「知っている」と回答した人は29.4%で、そのうちの「利用したことがある」は3.7%となっています。

また、ふれあい総合支援センターについて「知らない」と回答した割合は64.2%と6割を占めています。

周知度を前回調査と比較すると、「知っている」という回答は、僅かながら下がっています。

ふれあい総合相談支援センター



ふれあい総合相談支援センター（経年比較）

	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
知っている (利用したことがある)	105 (4.3)	97 (3.7)	▲0.6
知っている (利用したことはない)	727 (30.1)	674 (25.7)	▲4.4
知らない	1,405 (58.2)	1,684 (64.2)	6.0
無回答	178 (7.4)	169 (6.4)	▲1.0

※この設問は8期より追加

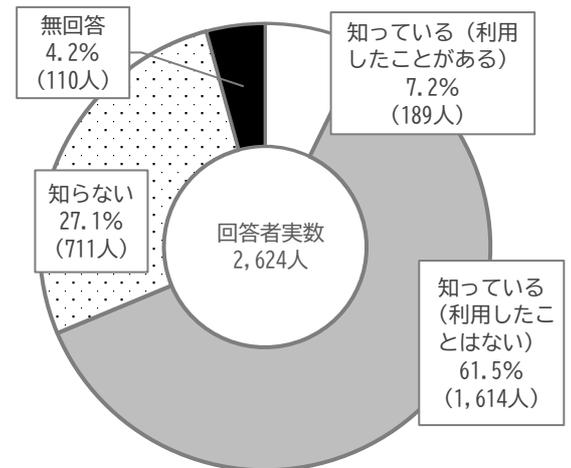
③ 民生委員・児童委員

地域の身近な相談相手として、生活に関する助言や福祉サービスの情報提供などの援助を行う民生委員・児童委員について尋ねると、「知っている」の回答が68.7%と7割近くを占め、そのうちの「利用したことがある」は7.2%となっています。

また、民生委員・児童委員について「知らない」と回答した割合は27.1%と3割弱となっています。

周知度を前回調査と比較すると、「知っている」という回答は、僅かながら上がっています。

民生委員・児童委員



民生委員・児童委員（経年比較）

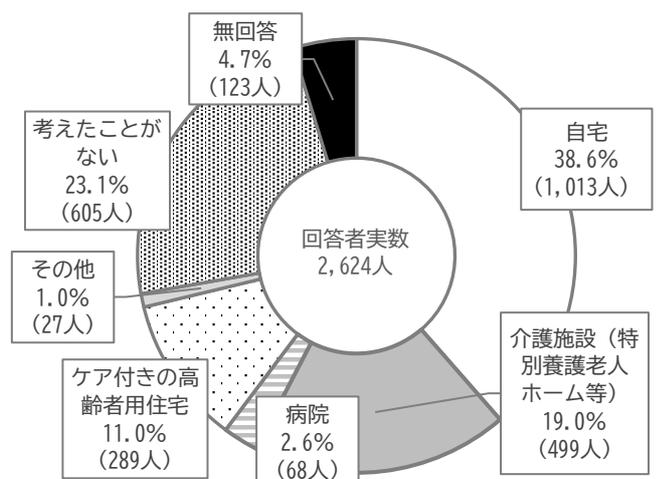
	前回 (8期)	今回 (9期)	前期比較
回答者実数	2,415	2,624	
知っている（利用したことがある）	156 (6.5)	189 (7.2)	0.7
知っている（利用したことはない）	1,401 (58.0)	1,614 (61.5)	3.5
知らない	705 (29.2)	711 (27.1)	▲2.1
無回答	153 (6.3)	110 (4.2)	▲2.1

※この設問は8期より追加

(4) 介護を受けたい場所

介護が必要になった場合に、介護を受けたい場所をみると、「自宅」が38.6%で最も高く、「介護施設（特別養護老人ホーム等）」が19.0%、「ケア付きの高齢者用住宅」が11.0%となっていますが、一方で「考えたことがない」が23.1%となり、2割を超える状況です。

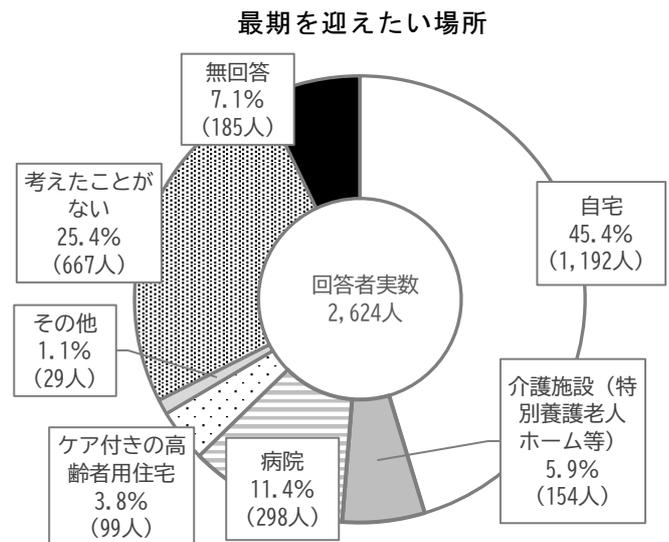
介護を受けたい場所



(5) 最期の迎え方について

① 最期を迎えたい場所

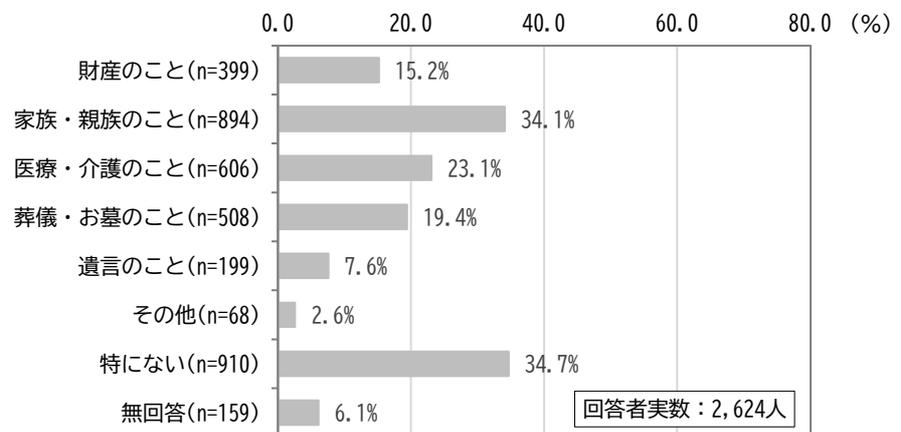
最期を迎えたい場所は、「自宅」が45.4%で最も高く、「病院」が11.4%となっていますが、一方で、4人に1人が「考えたことがない」と回答しています。



② 最期を迎える不安

最期を迎えるにあたり、不安に思うことについては、「家族・親族のこと」(34.1%)が3割半ば、「医療・介護のこと」(23.1%)が2割余り、「葬儀・お墓のこと」(19.4%)、「財産のこと」(15.2%)が2割弱となっています。なお、「特にない」が34.7%で最も高くなっています。

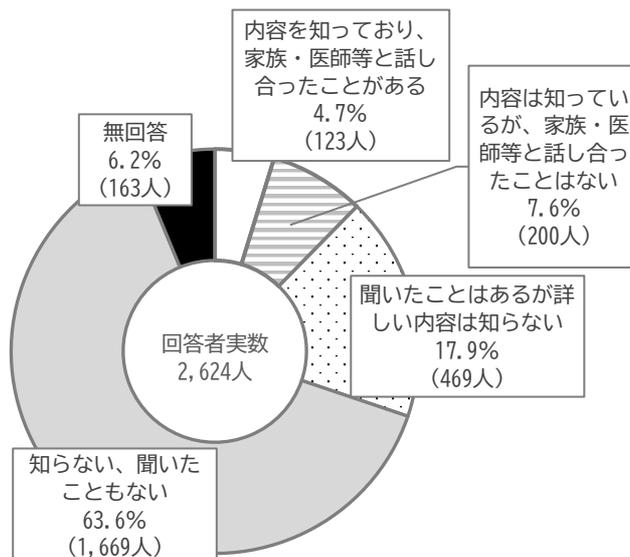
最期を迎えるにあたり、不安に思うこと



③人生会議について

人生会議の認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(63.6%)が6割を占めています。内容を知っている割合は12.3%に留まり、内容を知らない割合が81.5%と、大半を占めています。

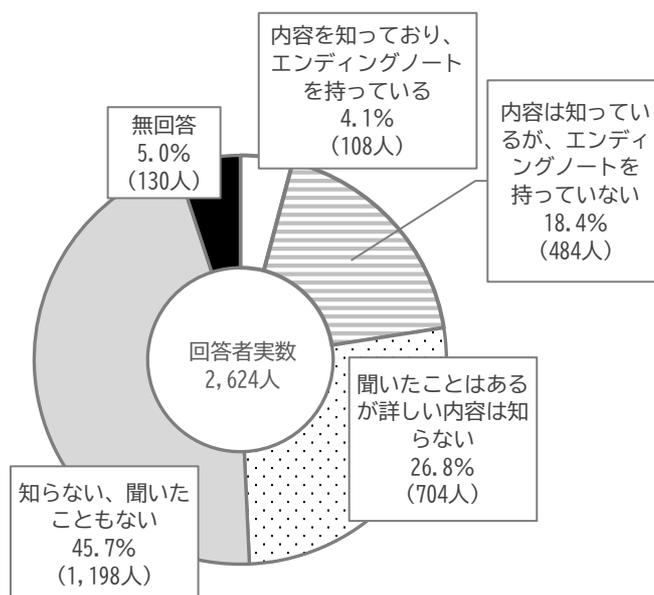
人生会議の認知状況



④エンディングノートの認知状況

エンディングノートの認知状況は、「知らない、聞いたこともない」(45.7%)が4割半ばで最も高く、エンディングノートを持っている割合は僅か4.1%となり、持っていない割合が約9割となっています。

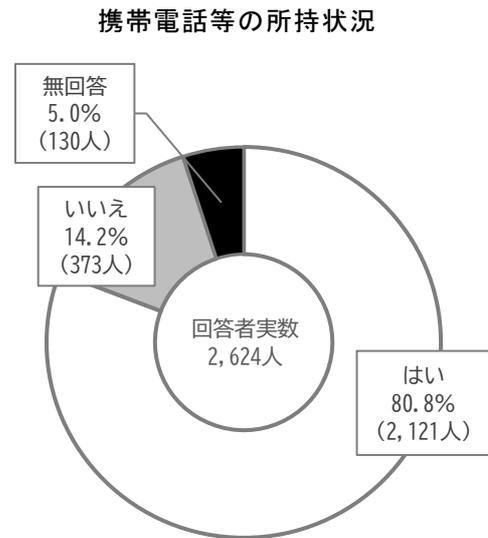
エンディングノートの認知状況



(6) 携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等について

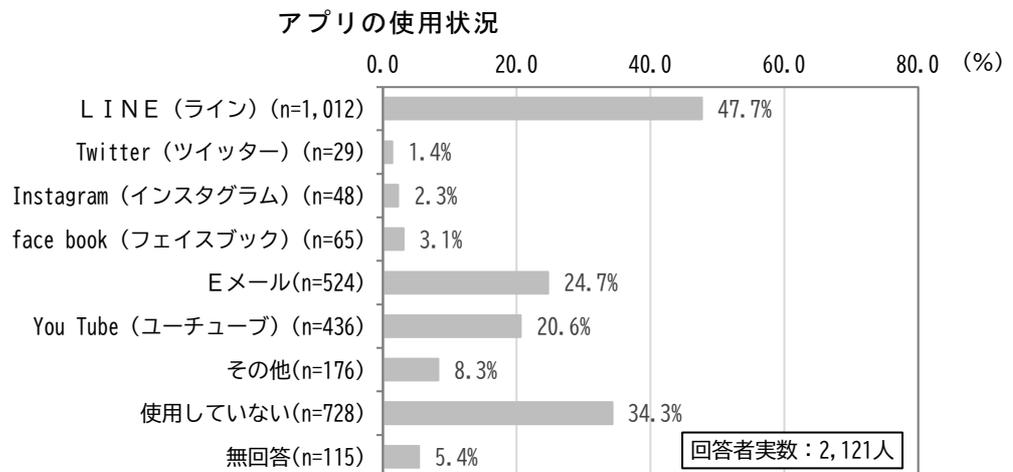
①所持状況

携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)やタブレット等の所持について、所持している割合は80.8%と、8割に及んでいます。



②アプリの使用状況

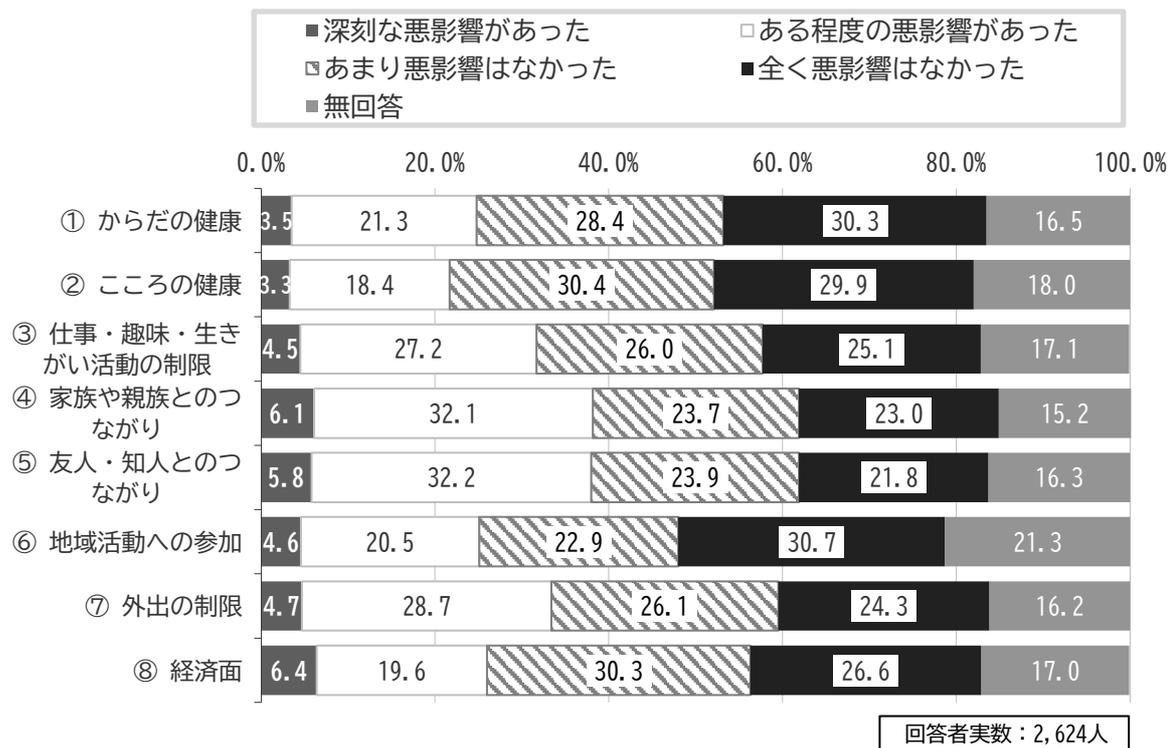
携帯電話等を所持している人のアプリ使用について、「LINE(ライン)」(47.7%)が約5割で最も高く、「Eメール」(24.7%)が2割半ば、「You Tube(ユーチューブ)」(20.6%)が約2割となっています。一方で、34.3%が「使用していない」状況です。



(7) 新型コロナウイルス禍による影響について

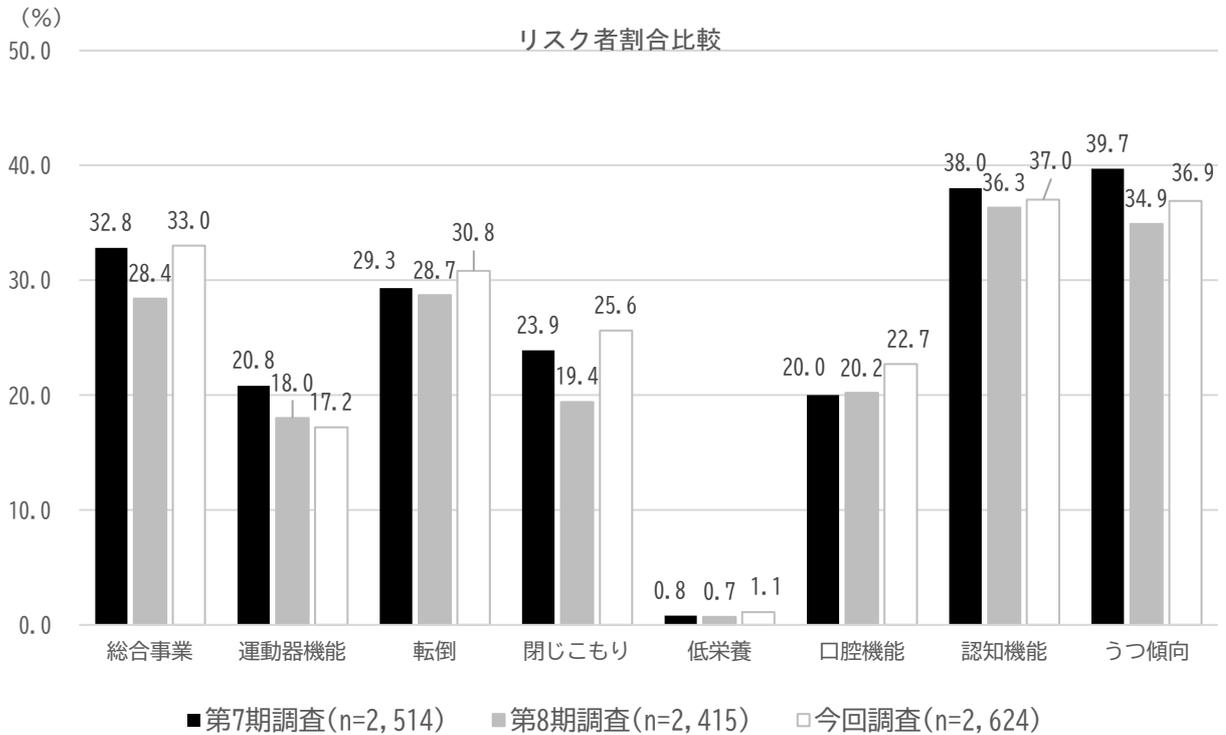
新型コロナウイルス禍による悪影響(「深刻な悪影響があった」と「ある程度の悪影響があった」の和)が最も高かったのは「④ 家族や親族とのつながり」(38.2%)で、次いで高かった「⑤ 友人・知人とのつながり」(38.0%)とともに、家族や友人等とのつながりに大きな影響があったことが分かります。

新型コロナウイルス禍の前と比べて日常生活に悪影響があったか



10. 身体機能リスク経年変化

主要なリスクについて、第7期（前々回調査）、第8期（前回調査）と比較すると、「運動器の機能」はリスク者割合が減少で推移していますが、多くの項目は、第7期（前々回）から第8期（前回）にかけて減少し、その後上昇に転じています。コロナ禍の影響による外出控え等で、身体機能が低下する高齢者が増えてものと思われる。



11. 圏域別リスク者等の状況

(1) 前期高齢者と後期高齢者

前期高齢者と後期高齢者の割合について圏域別に比べると、すべての圏域で前期高齢者が多くなっています。

前期高齢者後期高齢者

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	2,624 人	56.9% (1,492 人)	43.1% (1,132 人)
石川地区	410 人	57.3% (235 人)	42.7% (175 人)
具志川北地区	402 人	55.5% (223 人)	44.5% (179 人)
具志川東地区	379 人	55.4% (210 人)	44.6% (169 人)
具志川西地区	408 人	54.7% (223 人)	45.3% (185 人)
具志川南地区	444 人	59.0% (262 人)	41.0% (182 人)
与勝西地区	328 人	62.2% (204 人)	37.8% (124 人)
与勝東地区	252 人	53.2% (134 人)	46.8% (118 人)

(2) 総合事業対象者

要介護状態に陥る恐れのある総合事業対象者については、与勝東地区が7.5ポイントほど市全体の割合を上回り、具志川南地区は最も低くなっています。

総合事業対象者

	リスクあり
全体	33.0% (865 人)
石川地区	32.0% (131 人)
具志川北地区	31.6% (127 人)
具志川東地区	31.9% (121 人)
具志川西地区	34.3% (140 人)
具志川南地区	30.4% (135 人)
与勝西地区	33.2% (109 人)
与勝東地区	40.5% (102 人)

(3) 世帯の状況

世帯の状況を圏域別に見ると、「1人暮らし」は与勝東地区が24.6%で最も高く、次いで具志川北地区の22.9%となっています。「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」は具志川東地区が33.5%で最も高く、次いで具志川西地区の33.1%で他の圏域より高いです。また、「配偶者以外と2人暮らし」は石川地区が12.4%で最も高く、次いで与勝西地区の10.1%となっています。「3人以上の同居世帯」は、与勝西地区が他の圏域よりやや高くなっています。

世帯構成は、市全体と各圏域の大きな差はありませんが、わずかに圏域別の特徴が見られます。

世帯の状況

	回答者 実数	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	配偶者以外と2人暮らし	3人以上の同居世帯	その他	無回答
全体	2,624人	21.6% (567人)	30.1% (791人)	3.8% (100人)	9.2% (242人)	28.8% (755人)	4.1% (107人)	2.4% (62人)
石川地区	410人	21.5% (88人)	30.2% (124人)	2.9% (12人)	12.4% (51人)	28.8% (118人)	2.4% (10人)	1.7% (7人)
具志川北地区	402人	22.9% (92人)	26.4% (106人)	4.0% (16人)	10.0% (40人)	31.3% (126人)	3.7% (15人)	1.7% (7人)
具志川東地区	379人	19.0% (72人)	33.5% (127人)	2.9% (11人)	8.7% (33人)	26.9% (102人)	5.8% (22人)	3.2% (12人)
具志川西地区	408人	22.3% (91人)	33.1% (135人)	4.2% (17人)	7.8% (32人)	25.7% (105人)	4.7% (19人)	2.2% (9人)
具志川南地区	444人	21.4% (95人)	32.2% (143人)	5.9% (26人)	7.4% (33人)	27.9% (124人)	2.9% (13人)	2.3% (10人)
与勝西地区	328人	20.4% (67人)	26.2% (86人)	3.4% (11人)	10.1% (33人)	32.3% (106人)	4.6% (15人)	3% (10人)
与勝東地区	252人	24.6% (62人)	27.4% (69人)	2.8% (7人)	7.9% (20人)	29.4% (74人)	5.2% (13人)	2.8% (7人)

(4) 介助の状況

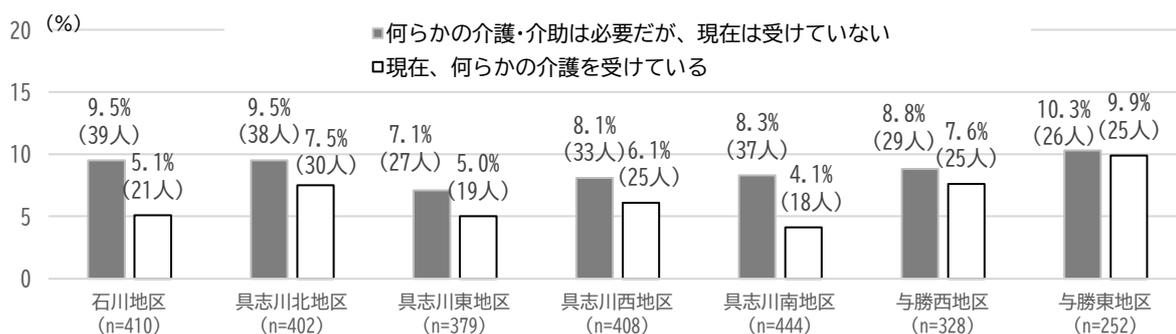
介助を必要としている人の割合について見ると、「何らかの介護を受けている」という回答は与勝東地区が9.9%で、他の圏域と比べて高くなっています。

「必要だが受けていない」という回答も、与勝東地区が10.3%でその他の圏域より高くなっています。

介助の状況

	回答者 実数	介護・介助は 必要ない	何らかの介護・介助 は必要だが、現在 は受けていない	現在、何らかの 介護を受けている	無回答
全体	2,624人	79.1% (2,076人)	8.7% (229人)	6.2% (163人)	5.9% (156人)
石川地区	410人	79.8% (327人)	9.5% (39人)	5.1% (21人)	5.6% (23人)
具志川北地区	402人	79.1% (318人)	9.5% (38人)	7.5% (30人)	4.0% (16人)
具志川東地区	379人	79.9% (303人)	7.1% (27人)	5.0% (19人)	7.9% (30人)
具志川西地区	408人	80.6% (329人)	8.1% (33人)	6.1% (25人)	5.1% (21人)
具志川南地区	444人	81.8% (363人)	8.3% (37人)	4.1% (18人)	5.9% (26人)
与勝西地区	328人	77.7% (255人)	8.8% (29人)	7.6% (25人)	5.8% (19人)
与勝東地区	252人	71.4% (180人)	10.3% (26人)	9.9% (25人)	8.3% (21人)

介助の状況



(5) 介護・介助が必要になった原因疾患

介護や介助が必要になった原因疾患を見ると、市全体では「その他*」が15.6%、「骨折・転倒」が13.5%、「高齢による衰弱」が13.3%の順で高くなっています。

圏域別では、具志川東地区、具志川西地区、与勝西地区では「その他」が1位となっていますが、石川地区、具志川西地区では「骨折・転倒」が、具志川北地区と具志川南地区では「心臓病」が1位となっており、複数の圏域で1位となる原因疾患はばらけています。具志川南地区では「心臓病」とならんで「視覚・聴覚障害」が1位となっており、与勝東地区では「高齢による衰弱」が1位となっています。

2位に位置する原因疾患のうち、複数の圏域に登場するのは「骨折・転倒」と「高齢による衰弱」、「その他」となっています。

※「その他」には、関節リウマチ、頸椎損傷、骨粗しょう症、統合失調症などが挙げられている。

介護・介助が必要になった原因疾患

	1位	2位	3位
うるま市	その他 15.6% (61人)	骨折・転倒 13.5% (53人)	高齢による衰弱 13.3% (52人)
石川地区	骨折・転倒 16.7% (10人)	その他 15.0% (9人)	関節の病気(リウマチ等) 高齢による衰弱 13.3% (8人)
具志川北地区	心臓病 骨折・転倒 14.7% (10人)	糖尿病 その他 13.2% (9人)	関節の病気(リウマチ等) 視覚・聴覚障害 10.3% (7人)
具志川東地区	その他 19.6% (9人)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 骨折・転倒 10.9% (5人)	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等) 視覚・聴覚障害 高齢による衰弱 8.7% (4人)
具志川西地区	骨折・転倒 その他 15.5% (9人)	高齢による衰弱 13.8% (8人)	心臓病 12.1% (7人)
具志川南地区	心臓病 視覚・聴覚障害 18.2% (10人)	高齢による衰弱 その他 16.4% (9人)	関節の病気(リウマチ等) 糖尿病 12.7% (7人)
与勝西地区	その他 18.5% (10人)	関節の病気(リウマチ等) 14.8% (8人)	骨折・転倒 13.0% (7人)
与勝東地区	高齢による衰弱 25.5% (12人)	骨折・転倒 17.6% (9人)	関節の病気(リウマチ等) その他 11.8% (6人)

(6) 就労、外出・移動の状況

仕事をしている高齢者は、市全体では 19.4% となっています。圏域別に見ると、具志川南地区が 21.4%、与勝西地区が 20.4% と他圏域に比べて高くなっています。

外出を比較的多くしている人(週 1 回以上の外出者)は、市全体では 89.3% となっています。圏域別に見ると、具志川北地区、具志川西地区、具志川南地区が市の値を上回っています。

買い物をしている人の割合は、市全体では 81.0% となっています。圏域別に見ると、石川地区、具志川北地区、具志川東地区、具志川西地区、具志川南地区で市の値よりやや高いです。

移動手段について見ると、市全体では「自動車(自分で運転)」が 62.8% で 6 割近くを占め、「徒歩」(29.5%) と「自動車(人に乗せてもらう)」(28.5%) がそれぞれ 3 割弱となっています。圏域別に見ると、各圏域とも「自動車(自分で運転)」がもっとも高く、特に石川地区、具志川東地区、具志川南地区では市全体の値を上回っています。また、第 2 位には、具志川東地区、与勝西地区、与勝東地区では「自動車(人に乗せてもらう)」が、石川地区、具志川北地区、具志川西地区、具志川南地区は「徒歩」となっており、地域差が見られます。

就労、外出・移動の状況

	回答者 実数	仕事をして いる人	週 1 回以上 の外出者	買い物 (できるし、 している)	移動手段		
					1 位	2 位	3 位
全体	2,624 人	19.4% (508 人)	89.3% (2,343 人)	81.0% (2126 人)	自動車 (自分で運転) 62.8% (1,648 人)	徒歩 29.5% (773 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 28.5% (747 人)
石川地区	410 人	18.8% (77 人)	88.5% (363 人)	82.2% (337 人)	自動車 (自分で運転) 63.4% (260 人)	徒歩 32.2% (132 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 29.0% (119 人)
具志川北地区	402 人	18.4% (74 人)	92.3% (371 人)	83.1% (334 人)	自動車 (自分で運転) 62.2% (250 人)	徒歩 30.3% (122 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 28.9% (116 人)
具志川東地区	379 人	19.5% (74 人)	87.9% (333 人)	81.5% (309 人)	自動車 (自分で運転) 63.6% (241 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 28.8% (109 人)	徒歩 23.7% (90 人)
具志川西地区	408 人	19.1% (78 人)	90.9% (371 人)	83.6% (341 人)	自動車 (自分で運転) 62.5% (255 人)	徒歩 31.1% (127 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 27.0% (110 人)
具志川南地区	444 人	21.4% (95 人)	91.7% (407 人)	82.7% (367 人)	自動車 (自分で運転) 67.6% (300 人)	徒歩 34.9% (155 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 26.1% (116 人)
与勝西地区	328 人	20.4% (67 人)	87.2% (286 人)	76.8% (252 人)	自動車 (自分で運転) 60.4% (198 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 29.9% (98 人)	徒歩 24.4% (80 人)
与勝東地区	252 人	16.7% (42 人)	83.7% (211 人)	73.4% (185 人)	自動車 (自分で運転) 56.7% (143 人)	自動車(人に乗 せてもらう) 31.3% (79 人)	徒歩 26.6% (67 人)

(7) 地域活動への参加

各種地域活動への参加状況を圏域別に見ると、石川地区と具志川北地区では、市の平均を上回る地域活動が多く、石川地区が6つ、具志川北地区が7つとなっています。これに具志川西地区の4つ、具志川東地区と具志川南地区の3つ、与勝東地区の2つ、与勝西地区の1つが続いています。

市の平均を3ポイント以上上回っているのは、石川地区では「趣味関係のグループ」と「老人クラブ」、「自治会」、具志川北地区では「スポーツ関係のグループやクラブ」と「自治会」、具志川西地区では「趣味関係のグループ」、具志川南地区では「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。

与勝西地区では、「収入のある仕事」を除く全ての項目、与勝東地区では「介護予防のための通いの場」と「自治会」を除く全ての項目で市全体の値を下回っており、他圏域に比べて活動への参加がやや消極的な傾向がうかがえます。

地域活動への参加

	回答者 実数	ボラン ティアの グループ	スポー ツ関 係のグ ループ やク ラブ	趣味関 係のグ ループ	学習・教 養サー クル	介護予 防のた めの通 いの場	老人 クラブ	自治会	収入のあ る仕事
全体	2,624人	10.2% (269人)	16.2% (426人)	22.0% (577人)	4.8% (127人)	8.4% (220人)	9.0% (236人)	14.2% (373人)	19.4% (508人)
石川地区	410人	11.4% (47人)	15.6% (64人)	25.6% (105人)	6.1% (25人)	10.7% (44人)	14.1% (58人)	18.2% (75人)	18.8% (77人)
具志川北地区	402人	11.0% (44人)	19.6% (79人)	24.3% (98人)	7.2% (29人)	10.4% (42人)	10.7% (43人)	17.9% (72人)	18.4% (74人)
具志川東地区	379人	10.8% (41人)	15.6% (59人)	19.8% (75人)	4.8% (18人)	6.9% (26人)	10.1% (38人)	13.7% (52人)	19.5% (74人)
具志川西地区	408人	10.8% (44人)	16.7% (68人)	26.2% (107人)	4.9% (20人)	7.8% (32人)	6.1% (25人)	12.2% (50人)	19.1% (78人)
具志川南地区	444人	9.7% (43人)	20.2% (90人)	22.9% (102人)	4.1% (18人)	7.9% (35人)	8.1% (36人)	14.1% (63人)	21.4% (95人)
与勝西地区	328人	8.3% (27人)	12.2% (40人)	14.9% (49人)	3.1% (10人)	5.1% (17人)	4.8% (16人)	7.3% (24人)	20.4% (67人)
与勝東地区	252人	8.8% (22人)	10.3% (26人)	16.3% (41人)	2.8% (7人)	9.6% (24人)	8.0% (20人)	14.7% (37人)	16.7% (42人)

(8) リスク者割合の比較

リスク者の割合について見ると、市全体では、「社会的役割の低下」が最も高く58.3%、次いで「知的能動性の低下」の51.7%となっています。そのほか、「認知機能低下」と「うつ傾向」がそれぞれ4割弱で比較的高くなっています。

圏域別に見ると、石川地区では、「運動器の機能低下」、「転倒リスク」、「低栄養」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」、「認知機能低下」が、市の平均値と比べ高くなっています。

具志川北地区は、ほとんどのリスク項目において市全体よりも低いリスク者割合となっていますが、「うつ傾向」、「認知機能低下」では、市の平均値と比べ高くなっています。

具志川東地区も全般的に市全体の値よりも低いリスク者割合となっていますが、「閉じこもり傾向」、「口腔機能低下」、「IADLの低下」、「社会的役割の低下」では、市の平均値を上回

っています。

具志川西地区は、「総合事業対象者」、「運動器の機能低下」、「転倒リスク」、「うつ傾向」、「認知機能低下」「社会的役割の低下」で市の平均値を上回っています。

具志川南地区は、「低栄養」を除くリスク項目で市の平均値を下回っています。

与勝西地区は、11項目中7項目で市の平均値を上回っております。特に、「閉じこもり傾向」、「IADLの低下」、「知的能動性の低下」は他の圏域と比較して高くなっています。

与勝東地区は、全ての項目で市の平均値を上回っています。

リスク者割合の比較

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
全体	2,624人	33.0% (865人)	17.2% (451人)	30.8% (808人)	25.6% (672人)	1.1% (30人)	22.7% (596人)
石川地区	410人	32.0% (131人)	17.8% (73人)	32.0% (131人)	23.9% (98人)	1.7% (7人)	23.2% (95人)
具志川北地区	402人	31.6% (127人)	15.4% (62人)	28.1% (113人)	23.4% (94人)	0.2% (1人)	22.4% (90人)
具志川東地区	379人	31.9% (121人)	15.3% (58人)	30.1% (114人)	26.1% (99人)	0.8% (3人)	24.5% (93人)
具志川西地区	408人	34.3% (140人)	17.6% (72人)	30.9% (126人)	24.3% (99人)	0.7% (3人)	21.8% (89人)
具志川南地区	444人	30.4% (135人)	14.9% (66人)	29.5% (131人)	21.8% (97人)	1.1% (5人)	20.9% (93人)
与勝西地区	328人	33.2% (109人)	19.2% (63人)	29.9% (98人)	32.3% (106人)	2.1% (7人)	20.1% (66人)
与勝東地区	252人	40.5% (102人)	22.6% (57人)	37.7% (95人)	31.3% (79人)	1.6% (4人)	27.8% (70人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	2,624人	36.9% (968人)	37.0% (970人)	16.8% (458人)	51.7% (1,356人)	58.3% (1,531人)
石川地区	410人	37.1% (152人)	37.1% (152人)	12.9% (53人)	51.5% (211人)	58.5% (240人)
具志川北地区	402人	39.3% (158人)	38.6% (155人)	14.9% (60人)	50.2% (202人)	56.5% (227人)
具志川東地区	379人	34.6% (131人)	36.9% (140人)	18.2% (69人)	50.7% (192人)	57.0% (216人)
具志川西地区	408人	37.5% (153人)	40.7% (166人)	15.0% (61人)	48.0% (196人)	59.3% (242人)
具志川南地区	444人	36.0% (160人)	34.0% (151人)	13.7% (61人)	48.6% (216人)	58.1% (258人)
与勝西地区	328人	33.5% (110人)	32.0% (105人)	20.1% (66人)	56.7% (186人)	59.1% (194人)
与勝東地区	252人	40.9% (103人)	40.1% (101人)	27.8% (70人)	60.3% (152人)	60.7% (153人)

12. 世帯構成別リスク者等の状況

(1) 全体的な状況

世帯構成別に性別の状況を見ると、「一人暮らし」は女性が 51.7%を占め男性より高くなっています。また女性は「配偶者以外と 2 人暮らし」と「その他」(三世帯世帯等)においても男性より高いです。男性は、「夫婦 2 人暮らし(配偶者が 64 歳以下)」で 8 割を占め、女性より高くなっています。

前期・後期高齢者を世帯構成別に見ると、前期高齢者は「1 人暮らし」、「夫婦 2 人暮らし」、「3 人以上の同居世帯」、「その他」(三世帯世帯等)で高く、後期高齢者は「配偶者以外と 2 人暮らし」のみで高くなっています。

全体的な状況

	回答者実数	男性	女性	前期高齢者	後期高齢者
1 人暮らし	567 人	48.3% (274 人)	51.7% (293 人)	56.8% (322 人)	43.2% (245 人)
夫婦 2 人暮らし (配偶者が 65 歳以上)	791 人	52.2% (413 人)	47.8% (378 人)	55.9% (442 人)	44.1% (349 人)
夫婦 2 人暮らし (配偶者が 64 歳以下)	100 人	80.0% (80 人)	20.0% (20 人)	87.0% (87 人)	13.0% (13 人)
配偶者以外と 2 人暮らし	242 人	29.8% (72 人)	70.2% (170 人)	46.3% (112 人)	53.7% (130 人)
3 人以上の同居世帯	755 人	44.1% (333 人)	55.9% (422 人)	59.2% (447 人)	40.8% (308 人)
その他	107 人	34.6% (37 人)	65.4% (70 人)	56.1% (60 人)	43.9% (47 人)

(2) 外出の状況

週 1 回以上の外出者を世帯構成別に見ると、各世帯構成で大きな差はありませんが、「1 人暮らし」、「夫婦 2 人暮らし」で 9 割を超えており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

買い物について世帯構成別に見ると、買い物をしているという回答は、「1 人暮らし高齢者」が 88.2%で最も高く、次いで「夫婦 2 人暮らし(配偶者が 65 歳以上)」の 81.3%、「夫婦 2 人暮らし(配偶者が 64 歳以下)」の 80.0%の順となっています。

外出の状況

	回答者実数	週 1 回以上の外出者	買い物(できるし、している)
1 人暮らし	567 人	90.1% (511 人)	88.2% (500 人)
夫婦 2 人暮らし(配偶者が 65 歳以上)	791 人	92.4% (731 人)	81.3% (643 人)
夫婦 2 人暮らし(配偶者が 64 歳以下)	100 人	89.0% (89 人)	80.0% (80 人)
配偶者以外と 2 人暮らし	242 人	83.5% (202 人)	73.1% (177 人)
3 人以上の同居世帯	755 人	89.0% (672 人)	79.1% (597 人)
その他	107 人	85.0% (91 人)	77.6% (83 人)

(3) 転倒について

「転倒経験あり」という回答を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」で3割半ばとなっており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

「転倒の不安あり」という回答を世帯構成別に見ると、「配偶者以外と2人暮らし」で6割弱、「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」以外はいずれの世帯構成でも5割強と半数を超えています。

転倒について

	回答者実数	転倒経験 (あり)	転倒不安 (あり)
1人暮らし	567人	36.0% (204人)	56.6% (321人)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	791人	30.3% (240人)	50.3% (398人)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	100人	31.0% (31人)	45.0% (45人)
配偶者以外と2人暮らし	242人	29.8% (72人)	59.5% (144人)
3人以上の同居世帯	755人	26.2% (198人)	51.0% (385人)
その他	107人	33.6% (36人)	57.9% (62人)

(4) 地域活動への参加

地域活動への参加状況を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」は「学習・教養サークル」の項目で他の世帯よりも割合が低く、活動への参加が消極的な傾向となっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」では、「スポーツ関係のグループやクラブ」や「趣味関係のグループ」、「収入のある仕事」が2割強で高くなっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」では、「趣味関係のグループ」、「収入のある仕事」が3割と特に高くなっています。

「配偶者以外と2人暮らし」では、「学習・教養サークル」がほかの家族構成より高いですが、「ボランティアのグループ」をはじめ4つの活動で最も参加率が低くなっています。

「3人以上の同居世帯」では、「ボランティアのグループ」と「老人クラブ」では他の世帯構成よりも高くなっています。「その他」(三世代世帯等)では、「介護予防のための通いの場」と「自治会」では他の家族構成よりも高くなっています。

地域活動への参加

	回答者実数	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	老人クラブ	自治会	収入のある仕事
1人暮らし	567人	9.0% (51人)	13.4% (76人)	21.0% (119人)	3.5% (20人)	9.0% (51人)	9.0% (51人)	11.5% (65人)	18.3% (104人)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	791人	10.9% (86人)	20.5% (162人)	23.8% (188人)	5.7% (45人)	7.7% (61人)	8.7% (69人)	16.7% (132人)	20.7% (164人)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	100人	9.0% (9人)	17.0% (17人)	31.0% (31人)	6.0% (6人)	3.0% (3人)	6.0% (6人)	7.0% (7人)	34.0% (34人)
配偶者以外と2人暮らし	242人	8.3% (20人)	12.4% (30人)	16.1% (39人)	7.0% (17人)	9.9% (24人)	8.3% (20人)	12.8% (31人)	16.9% (41人)
3人以上の同居世帯	755人	11.5% (87人)	16.0% (121人)	22.5% (170人)	4.4% (33人)	8.1% (61人)	10.5% (79人)	15.0% (113人)	18.8% (142人)
その他	107人	10.3% (11人)	13.1% (14人)	23.4% (25人)	5.6% (6人)	15.0% (16人)	6.5% (7人)	16.8% (18人)	18.7% (20人)

(5) リスク者割合の比較

リスク者割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」では「転倒リスク」「低栄養」「知的能動性の低下」の3つの項目においてリスク者割合が最も高くなっています。特に、「知的能動性の低下」は約6割を占めています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」では、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」が比較的高くなっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」では、「口腔機能低下」「認知機能低下」「社会的役割の低下」が最も高くなっています。

「配偶者以外と2人暮らし」では、「総合事業対象者」や「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」「IADLの低下」が他の世帯構成よりも高くなっており、特に「閉じこもり傾向」は3割強と高く、2位の「その他」世帯と比較して7.8ポイントの開きがあります。

「その他」では、「うつ傾向」が他の世帯構成よりも最も高くなっています。

リスク者割合の比較（世帯別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1人暮らし	567人	37.0% (210人)	19.0% (108人)	36.0% (204人)	23.8% (135人)	2.6% (15人)	26.1% (148人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	791人	30.5% (241人)	14.9% (118人)	30.3% (240人)	24.4% (193人)	0.3% (2人)	22.0% (174人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	100人	36.0% (36人)	7.0% (7人)	31.0% (31人)	22.0% (22人)	0.0% (0人)	31.0% (31人)
配偶者以外と 2人暮らし	242人	37.6% (91人)	27.7% (67人)	29.8% (72人)	36.8% (89人)	1.2% (3人)	23.1% (56人)
3人以上の同居 世帯	755人	30.6% (231人)	15.0% (113人)	26.2% (198人)	24.5% (185人)	1.2% (9人)	20.1% (152人)
その他	107人	34.6% (37人)	23.4% (25人)	33.6% (36人)	29.0% (31人)	0.0% (0人)	19.6% (21人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
1人暮らし	567人	43.6% (247人)	38.8% (220人)	14.5% (82人)	64.6% (366人)	60.8% (345人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	791人	34.5% (273人)	38.2% (302人)	15.3% (121人)	43.2% (342人)	57.3% (453人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	100人	30.0% (30人)	41.0% (41人)	13.0% (13人)	62.0% (62人)	72.0% (72人)
配偶者以外と 2人暮らし	242人	40.9% (99人)	40.1% (97人)	26.9% (65人)	53.3% (129人)	64.5% (156人)
3人以上の同居 世帯	755人	32.5% (245人)	32.6% (246人)	16.8% (127人)	49.4% (373人)	55.0% (415人)
その他	107人	45.8% (49人)	37.4% (40人)	21.5% (23人)	47.7% (51人)	53.3% (57人)

13. 歯の健康状況別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

歯の健康状況別にリスク者割合を見ると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、「歯は10本未満」の方が「歯は10本以上」よりリスク者割合が高い項目が多くなっています。特に「運動器の機能低下」や「転倒リスク」では高くなっています。

また、入れ歯の利用の有無については、「入れ歯の利用なし」の方が「入れ歯を利用している」に比べてリスク者割合が高くなっています。

歯のかみ合わせが悪いと様々なリスクを抱える傾向があることや、自分の歯が10本以下でもリスクを抱える割合が比較的高いことが見受けられ、歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえます。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

		回答者 実数	総合事業 対象者	運動器の 機能低下	転倒 リスク	閉じこも り傾向	低栄養の 傾向	口腔機能 低下	
かみ合わせ	良い	1,883人	25.3% (477人)	13.7% (258人)	26.8% (504人)	22.8% (430人)	0.7% (14人)	16.0% (301人)	
	悪い	637人	55.1% (351人)	26.7% (170人)	42.4% (270人)	33.3% (212人)	2.5% (16人)	43.3% (276人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	24.8% (65人)	9.7% (28人)	30.6% (88人)	19.8% (57人)	1% (3人)	16% (46人)
		入れ歯の 利用なし	527人	27.3% (144人)	10.4% (61人)	22.8% (133人)	19.3% (113人)	0.5% (3人)	16.1% (94人)
	自分の歯は 10～19本	入れ歯を 利用	409人	33.7% (138人)	13.6% (61人)	27.6% (124人)	22.7% (102人)	0.7% (3人)	23.4% (105人)
		入れ歯の 利用なし	229人	34.5% (79人)	17.6% (43人)	31% (76人)	23.7% (58人)	1.2% (3人)	20% (49人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	43.9% (307人)	24.8% (184人)	36.5% (271人)	31.0% (230人)	1.7% (13人)	28.8% (214人)
		入れ歯の 利用なし	122人	57.4% (70人)	28.8% (40人)	38.8% (54人)	33.8% (47人)	2.2% (3人)	36.7% (51人)

		回答者 実数	うつ傾向	認知機能 低下	IADL の低下	知的能動 性の低下	社会的役 割の低下	
かみ合わせ	良い	1,883人	32.3% (609人)	32.7% (615人)	14.9% (280人)	48.1% (905人)	55.3% (1,042人)	
	悪い	637人	52.0% (331人)	50.4% (321人)	22.0% (140人)	62.5% (398人)	68.3% (435人)	
入れ歯の 状況	自分の歯は 20本以上	入れ歯を 利用	262人	34% (98人)	33.3% (96人)	8.0% (23人)	42.7% (123人)	50.3% (145人)
		入れ歯の 利用なし	527人	34.2% (200人)	33.2% (194人)	10.3% (60人)	45.7% (267人)	56.8% (332人)
	自分の歯は 10～19本	入れ歯を 利用	409人	37.4% (168人)	36.5% (164人)	15.4% (69人)	43.4% (195人)	60.1% (270人)
		入れ歯の 利用なし	229人	30.6% (75人)	31.8% (78人)	14.7% (36人)	52.7% (129人)	61.6% (151人)
	自分の歯は 10本未満	入れ歯を 利用	699人	39.8% (296人)	42.8% (318人)	23.6% (175人)	60.2% (447人)	59.1% (439人)
		入れ歯の 利用なし	122人	46.0% (64人)	38.1% (53人)	28.8% (40人)	69.8% (97人)	71.9% (100人)

14. 社会参加別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合を社会参加別で見ると、「介護予防のための通いの場」は、9項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「総合事業対象者」や「認知機能低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」は4割台を占めています。

「収入のある仕事」では、「社会的役割の低下」が5割強と最も高く、「知的能動性の低下」も5割弱と比較的高くなっています。

リスク者割合の比較（社会参加別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ボランティアのグループ	269人	19.0% (51人)	7.8% (21人)	26.0% (70人)	11.5% (31人)	1.1% (3人)	14.5% (39人)
スポーツ関係のグループやクラブ	426人	18.5% (79人)	6.6% (28人)	22.1% (94人)	9.6% (41人)	0.0% (0人)	15.5% (66人)
趣味関係のグループ	577人	21.3% (123人)	9.5% (55人)	27.4% (158人)	13.2% (76人)	0.7% (4人)	16.1% (93人)
学習・教養サークル	127人	24.4% (31人)	8.7% (11人)	29.9% (38人)	7.9% (10人)	0.8% (1人)	19.7% (25人)
介護予防のための通いの場	220人	40.5% (89人)	25.9% (57人)	34.1% (75人)	23.2% (51人)	0.0% (0人)	25.5% (56人)
老人クラブ	236人	27.5% (65人)	13.1% (31人)	33.5% (79人)	19.1% (45人)	0.0% (0人)	18.2% (43人)
自治会	373人	21.4% (80人)	9.7% (36人)	29.0% (108人)	15.8% (59人)	0.3% (1人)	15.8% (59人)
収入のある仕事	508人	24.6% (125人)	5.5% (28人)	25.0% (127人)	11.4% (58人)	1.4% (7人)	20.7% (105人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ボランティアのグループ	269人	31.2% (84人)	38.7% (104人)	6.7% (18人)	33.5% (90人)	36.1% (97人)
スポーツ関係のグループやクラブ	426人	29.1% (124人)	30.0% (128人)	6.8% (29人)	37.3% (159人)	41.8% (178人)
趣味関係のグループ	577人	30.3% (175人)	34.7% (200人)	8.1% (47人)	38.0% (219人)	39.0% (225人)
学習・教養サークル	127人	30.7% (39人)	37.0% (47人)	7.1% (9人)	25.2% (32人)	31.5% (40人)
介護予防のための通いの場	220人	37.3% (82人)	49.1% (108人)	21.4% (47人)	42.3% (93人)	44.1% (97人)
老人クラブ	236人	32.2% (76人)	46.2% (109人)	15.3% (36人)	36.0% (85人)	40.7% (96人)
自治会	373人	29.8% (111人)	40.2% (150人)	12.9% (48人)	39.9% (149人)	42.4% (158人)
収入のある仕事	508人	29.1% (148人)	31.5% (160人)	7.3% (37人)	47.6% (242人)	52.2% (265人)

15. 幸福度、主観的健康感、生きがいの有無別リスク者の状況

(1) 主観的幸福度別リスク者割合の比較

リスク者割合を幸福度別で見ると、「0点(幸福ではない)」では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっています。「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」、「うつ傾向」などは、8割を超えています。

また、「0点(幸福ではない)」のリスク者割合は、「10点(とても幸せ)」と比較すると「うつ傾向」では73.3ポイントの上昇、「総合事業対象者」では51.8ポイントの上昇となっています。

リスク者割合の比較（幸福度別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
0点 (幸福ではない)	18人	77.8% (14人)	55.6% (10人)	44.4% (8人)	72.2% (13人)	0.0% (0人)	38.9% (7人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	136人	59.6% (81人)	31.6% (43人)	44.1% (60人)	33.8% (46人)	3.7% (5人)	51.5% (70人)
4点～6点 (普通)	770人	39.4% (303人)	21.2% (163人)	35.7% (275人)	29.5% (227人)	1.4% (11人)	27.1% (209人)
7点～9点 (やや幸せ)	1,043人	26.3% (274人)	13.2% (138人)	28.1% (293人)	21.5% (224人)	0.5% (5人)	18.1% (189人)
10点 (とても幸せ)	488人	26.0% (127人)	12.3% (60人)	21.1% (103人)	20.1% (98人)	1.0% (5人)	18.4% (80人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
0点 (幸福ではない)	18人	88.9% (16人)	72.2% (13人)	50.0% (9人)	94.4% (17人)	83.3% (15人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	136人	83.1% (113人)	58.8% (80人)	22.1% (30人)	73.5% (100人)	81.6% (111人)
4点～6点 (普通)	770人	53.1% (409人)	42.3% (326人)	20.4% (157人)	59.5% (458人)	69.6% (536人)
7点～9点 (やや幸せ)	1,043人	28.6% (298人)	32.2% (346人)	12.7% (132人)	44.5% (464人)	52.2% (544人)
10点 (とても幸せ)	488人	15.6% (76人)	29.9% (146人)	15.4% (75人)	45.9% (224人)	46.1% (225人)

(2) 主観的健康感別リスク者割合の比較

リスク者割合を主観的健康感別で見ると、健康ではない（「よくない」、「あまりよくない」）は、全項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「よくない」においては10項目で最も高く、「社会的役割の低下」が8割強、「知的能動性の低下」、「うつ傾向」は7割強に及んでいます。

リスク者割合の比較（主観的健康感）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
とてもよい	316人	15.2% (48人)	3.5% (11人)	14.2% (45人)	13.6% (43人)	0.3% (1人)	12% (38人)
まあよい	1,579人	23.7% (375人)	9.1% (143人)	25.5% (402人)	21.3% (336人)	0.8% (12人)	17.1% (270人)
あまりよくない	555人	60.9% (338人)	40.0% (222人)	51.5% (286人)	38.9% (216人)	1.6% (9人)	39.6% (220人)
よくない	108人	76.9% (83人)	61.1% (66人)	47.2% (51人)	54.6% (59人)	6.5% (7人)	50.0% (54人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
とてもよい	316人	15.5% (49人)	22.2% (70人)	9.2% (29人)	38.9% (123人)	39.9% (126人)
まあよい	1,579人	31.3% (494人)	32.2% (508人)	13.2% (209人)	50.0% (790人)	55.5% (876人)
あまりよくない	555人	58.6% (325人)	54.6% (303人)	25.8% (143人)	60.9% (338人)	71.9% (399人)
よくない	108人	72.2% (78人)	59.3% (64人)	46.3% (50人)	71.3% (77人)	82.4% (89人)

(3) 生きがいの有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を生きがいの有無別で見ると、生きがいが無い(「思いつかない」)は、全項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「社会的役割の低下」が8割弱、「知的能動性の低下」は7割弱、「うつ傾向」は5割強に及んでいます。

リスク者割合の比較 (生きがいの有無別)

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
生きがいあり	1,630人	27.9% (454人)	14.0% (228人)	27.5% (449人)	20.6% (336人)	1.0% (16人)	18.9% (308人)
思いつかない	827人	43.0% (356人)	23.3% (193人)	36.5% (302人)	34.8% (288人)	1.3% (11人)	30.6% (253人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
生きがいあり	1,630人	29.5% (481人)	33.7% (549人)	13.6% (221人)	43.7% (712人)	50.2% (818人)
思いつかない	827人	52.5% (434人)	43.5% (360人)	23.9% (198人)	68.2% (564人)	77.0% (637人)

16. 孤独・孤食の状況別リスク者の状況

(1) 孤独感のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤独感の有無別で見ると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が非常に高くなっています。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」で割合が高いです。

リスク者割合の比較（孤独感の有無別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
よく感じる	156人	60.3% (94人)	36.5% (57人)	45.5% (71人)	40.4% (63人)	3.2% (5人)	45.5% (71人)
ときどき感じる	687人	45.1% (310人)	24.3% (167人)	38.6% (265人)	33.6% (231人)	1.7% (12人)	33.6% (231人)
あまり感じない	927人	27.5% (255人)	13.5% (125人)	27.4% (254人)	22.3% (207人)	0.9% (8人)	18.1% (168人)
ほとんど感じない	783人	22.9% (179人)	11.0% (86人)	24.0% (188人)	19.0% (149人)	0.4% (3人)	14% (110人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
よく感じる	156人	88.5% (138人)	60.3% (94人)	24.4% (9人)	72.4% (42人)	78.8% (123人)
ときどき感じる	687人	66.1% (454人)	46% (316人)	21.3% (69人)	57.9% (180人)	66.7% (458人)
あまり感じない	927人	27.2% (252人)	35.2% (326人)	13.9% (71人)	50.7% (245人)	55.7% (516人)
ほとんど感じない	783人	13.7% (107人)	26.8% (210人)	14.3% (62人)	43.4% (194人)	49.8% (390人)

(2) 孤食のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤食の状況別で見ると、転倒リスクを除く全ての項目について、だれかと食事をともにする機会が「ほとんどない」と回答した人でリスク者割合が高くなっています。特に「総合事業対象者」、「運動器の機能低下」、「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」、「口腔機能低下」では、「年に何度かある」よりも10ポイント以上高いです。

リスク者割合の比較（孤食の状況別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
毎日ある	1,269人	30.6% (388人)	14.8% (188人)	29.2% (371人)	24.2% (307人)	0.8% (10人)	21.2% (269人)
週に何度かある	308人	35.1% (108人)	22.4% (69人)	33.4% (103人)	22.4% (69人)	1.3% (4人)	23.4% (72人)
月に何度かある	457人	30.0% (137人)	14.2% (65人)	29.3% (134人)	22.5% (103人)	1.3% (6人)	21.4% (98人)
年に何度かある	234人	29.9% (70人)	15.0% (35人)	34.6% (81人)	29.9% (70人)	1.3% (3人)	20.9% (49人)
ほとんどない	305人	47.2% (144人)	26.6% (81人)	32.8% (100人)	36.1% (110人)	2.3% (7人)	32.1% (98人)

		うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
毎日ある	1,269人	32.3% (410人)	35.9% (456人)	16.9% (215人)	46.7% (593人)	56.5% (717人)
週に何度かある	308人	38.3% (118人)	37.7% (116人)	17.9% (55人)	53.2% (164人)	56.5% (174人)
月に何度かある	457人	36.5% (167人)	36.3% (166人)	10.7% (49人)	50.1% (229人)	45.7% (209人)
年に何度かある	234人	42.7% (100人)	37.6% (88人)	15.8% (37人)	56.8% (133人)	64.5% (151人)
ほとんどない	305人	51.5% (157人)	41.6% (127人)	24.3% (74人)	70.8% (216人)	85.2% (260人)

孤食の状況を孤独感別に見ると、孤独をよく感じる人では、誰かと食事をする機会が「ほとんどない」が27.6%となっています。孤食と孤独感の関係性が見られますが、1人暮らしで孤独を感じる人も多いこともあり、できるだけ人とのふれあい機会をつくるなど、孤立の状況をつくらないことが大切です。

孤食の状況（孤独感別）

	回答者実数	毎日ある	週に何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に何度かある	孤食の高齢者		
					年に何度かある	ほとんどない	
よく感じる	156人	21.8% (34人)	11.5% (18人)	21.8% (34人)	16.0% (25人)	27.6% (43人)	1.3% (2人)
ときどき感じる	687人	36.8% (253人)	14.6% (100人)	19.1% (131人)	11.6% (80人)	16.4% (113人)	1.5% (10人)
あまり感じない	927人	49.9% (463人)	11.9% (110人)	18.8% (174人)	9.2% (85人)	9.0% (83人)	1.3% (12人)
ほとんど感じない	783人	63.3% (496人)	9.6% (75人)	13.9% (109人)	5.0% (39人)	6.8% (53人)	1.4% (11人)

17. BMI別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合をBMI別で見ると、「低体重(やせ型)」は、全項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「社会的役割の低下」は約7割、「知的能動性の低下」が約6割と高くなっています

リスク者割合の比較 (BMI別)

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
低体重(やせ型)	93人	54.8% (51人)	21.5% (20人)	39.8% (37人)	31.2% (29人)	32.3% (30人)	32.3% (30人)
普通体重	1,390人	30.1% (419人)	14.0% (194人)	28.8% (401人)	25.4% (353人)	0.0% (0人)	22.9% (319人)
肥満	991人	34.2% (339人)	20.2% (200人)	31.6% (313人)	24.3% (241人)	0.0% (0人)	21.9% (217人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
低体重(やせ型)	93人	49.5% (46人)	47.3% (44人)	23.7% (22人)	59.1% (55人)	68.8% (64人)
普通体重	1,390人	37.9% (527人)	36.9% (513人)	17.6% (244人)	50.2% (698人)	57.7% (802人)
肥満	991人	34.8% (345人)	35.1% (348人)	13.5% (134人)	51.9% (514人)	58.6% (581人)

「低体重(やせ)」と体重の減少(調査時点から6か月間で2kgから3kgの体重減少)との関係を見ると、「はい(あった)」とする回答が32.3%を占めており、他のBMIと比べて高くなっています。体重減少により「低体重(やせ)」になったことが伺えます。

BMI別体重の減少(6か月間で2~3kg以上の体重減少があったか)

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
低体重 18.5未満	93人	32.3% (30人)	65.6% (61人)	2.2% (2人)
普通体重 18.5以上25.0未満	1,390人	18.3% (254人)	80.6% (1,121人)	1.1% (15人)
肥満(1度) 25.0以上30.0未満	804人	17.8% (143人)	81.0% (651人)	1.2% (10人)
肥満(2度) 30.0以上35.0未満	163人	20.2% (33人)	78.5% (128人)	1.2% (2人)
肥満(3度) 35.0以上40.0未満	18人	22.2% (4人)	77.8% (14人)	0.0% (0人)
肥満(4度) 40.0以上	6人	16.7% (1人)	83.3% (5人)	0.0% (0人)

肥満について、BMIを細分化し、肥満1度（軽度）から4度（重度）の4段階で見ると、運動器の機能低下については、「肥満1度」と「普通体重」のリスク者割合は2割以下ですが、「肥満2度」以上になるとリスク者割合が上昇し、「肥満3度」では5割、「肥満4度」になると8割を超えています。

転倒リスクについては、「普通体重」(28.8%)を除いてリスク者割合が3割を超えています。また、転倒リスクが高いのは「低体重」(39.8%)と「肥満(4度)」(66.7%)となっています。(肥満3度、肥満4度は該当者が少ないため、参考値として見る必要があります。)

BMI別運動器の機能低下リスクの状況

	回答者実数	運動器の機能低下	転倒リスク
低体重 18.5未満	93人	21.5% (20人)	39.8% (37人)
普通体重 18.5以上25.0未満	1,390人	14.0% (194人)	28.8% (401人)
肥満(1度) 25.0以上30.0未満	804人	17.8% (143人)	30.7% (247人)
肥満(2度) 30.0以上35.0未満	163人	26.4% (43人)	34.4% (56人)
肥満(3度) 35.0以上40.0未満	18人	50.0% (9人)	33.3% (6人)
肥満(4度) 40.0以上	6人	83.3% (5人)	66.7% (4人)

18. 喫煙・飲酒の有無別リスク者の状況

(1) 喫煙の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を喫煙の有無別で見ると、喫煙者(「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」)は、9項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、喫煙者の中でも「時々吸っている」において、「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」は約7割と高くなっています。

リスク者割合の比較(喫煙の有無別)

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ほぼ毎日吸っている	212人	37.7% (80人)	17.9% (38人)	31.1% (66人)	21.7% (46人)	4.2% (9人)	28.8% (61人)
時々吸っている	42人	42.9% (18人)	21.4% (9人)	45.2% (19人)	26.2% (11人)	4.8% (2人)	21.4% (9人)
吸っていたがやめた	666人	29.4% (196人)	12.9% (86人)	27.9% (186人)	23.6% (157人)	0.6% (4人)	22.4% (149人)
もともと吸っていない	1,665人	33.6% (559人)	18.7% (312人)	31.5% (524人)	26.8% (447人)	0.9% (15人)	22.3% (371人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ほぼ毎日吸っている	212人	42.0% (89人)	34.4% (73人)	19.3% (41人)	67.0% (142人)	66.0% (140人)
時々吸っている	42人	35.7% (15人)	35.7% (15人)	7.1% (3人)	69.0% (29人)	71.4% (30人)
吸っていたがやめた	666人	34.7% (231人)	37.5% (250人)	19.2% (128人)	60.1% (400人)	65.0% (433人)
もともと吸っていない	1,665人	37.7% (628人)	37.4% (622人)	15.9% (265人)	46.4% (772人)	54.6% (909人)

(2) 飲酒の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を飲酒状況別で見ると、全項目で飲酒者（「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」）よりも、飲酒をしない人の方がリスク者割合が高くなっています。

リスク者割合の比較（飲酒の有無別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ほぼ毎日飲む	352人	21.0% (74人)	5.7% (20人)	23.0% (81人)	19.6% (69人)	0.9% (3人)	18.8% (66人)
時々飲む	423人	22.7% (96人)	9.0% (38人)	26.0% (110人)	15.6% (66人)	0.9% (4人)	16.5% (70人)
ほとんど飲まない	672人	35.6% (239人)	15.6% (105人)	32.1% (216人)	25.9% (174人)	1.6% (11人)	26.2% (176人)
もともと飲まない	1,134人	39.0% (442人)	24.7% (280人)	34.2% (388人)	31.0% (352人)	1.1% (12人)	24.4% (277人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ほぼ毎日飲む	352人	33.8% (119人)	36.9% (130人)	12.8% (45人)	53.1% (187人)	58.2% (205人)
時々飲む	423人	28.8% (122人)	33.1% (140人)	12.8% (54人)	51.1% (216人)	55.6% (235人)
ほとんど飲まない	672人	38.1% (256人)	39.0% (262人)	16.5% (111人)	55.2% (371人)	61.5% (413人)
もともと飲まない	1,134人	40.7% (461人)	37.6% (426人)	19.7% (223人)	49.6% (563人)	57.6% (653人)

19. 暮らしの状況(経済的負担感)別リスク者等の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合を暮らしの状況(経済的負担感)別で見ると、「大変苦しい」や「やや苦しい」という回答では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「総合事業対象者」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」などで、経済的に「ふつう」や「ゆとりがある」という回答との差が大きくなっています。

リスク者割合の比較(暮らしの状況別)

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
大変苦しい	232人	49.6% (115人)	25.9% (60人)	38.4% (89人)	33.2% (77人)	1.3% (3人)	37.9% (88人)
やや苦しい	732人	41.8% (306人)	21.0% (154人)	39.1% (286人)	28.6% (209人)	1.6% (12人)	30.3% (222人)
ふつう	1,475人	27.1% (400人)	15.0% (221人)	26.0% (384人)	24.5% (361人)	0.9% (13人)	17.3% (255人)
ややゆとりがある	109人	23.9% (26人)	8.3% (9人)	25.7% (28人)	10.1% (11人)	0.9% (1人)	16.5% (18人)
大変ゆとりがある	25人	20.0% (5人)	12.0% (3人)	24.0% (6人)	20.0% (5人)	0.0% (0人)	12.0% (3人)

		うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
大変苦しい	232人	53.9% (125人)	43.5% (101人)	25.0% (58人)	66.8% (155人)	69.0% (160人)
やや苦しい	732人	44.8% (328人)	43.3% (317人)	17.2% (126人)	58.5% (428人)	63.0% (461人)
ふつう	1,475人	31.4% (463人)	32.5% (480人)	15.9% (235人)	46.8% (690人)	56.1% (828人)
ややゆとりがある	109人	25.7% (28人)	42.2% (46人)	12.8% (14人)	35.8% (39人)	45.0% (49人)
大変ゆとりがある	25人	24.0% (6人)	36.0% (9人)	16.0% (4人)	52.0% (13人)	48.0% (12人)

(2) 暮らしの状況(経済的負担感)別家族構成

暮らしの状況(経済的負担感)別で家族構成を見ると、「大変苦しい」という回答では、「1人暮らし」が36.6%であり、ほかの家族構成では「ややゆとりがある」、「大変ゆとりがある」が高い傾向にある中、「1人暮らし」では経済的負担感が高い傾向となっています。

暮らしの状況別家族構成

	回答者 実数	1人暮らし	夫婦2人 暮らし(配 偶者が65 歳以上)	夫婦2人 暮らし(配 偶者が64 歳以下)	配偶者以 外と2人 暮らし	3人以上 の同居世 帯	その他	無回答
全体	2,624人	21.6% (567人)	30.1% (791人)	3.8% (100人)	9.2% (242人)	28.8% (755人)	4.1% (107人)	2.4% (62人)
大変苦しい	232人	36.6% (85人)	23.7% (55人)	4.3% (10人)	6.9% (16人)	20.7% (48人)	6.5% (15人)	1.3% (3人)
やや苦しい	732人	24.5% (179人)	26.6% (195人)	3.8% (28人)	10.8% (79人)	27.0% (198人)	4.5% (33人)	2.7% (20人)
ふつう	1,475人	18.2% (269人)	32.6% (481人)	3.7% (55人)	9.1% (134人)	30.6% (452人)	3.6% (53人)	2.1% (31人)
ややゆとりが ある	109人	13.8% (15人)	35.8% (39人)	5.5% (6人)	8.3% (9人)	33.0% (36人)	3.7% (4人)	0.0% (0人)
大変ゆとりが ある	25人	16.0% (4人)	40.0% (10人)	0.0% (0人)	12.0% (3人)	24.0% (6人)	4.0% (1人)	4.0% (1人)

(3) 暮らし向きと口腔機能の状況との関係

暮らしの状況（経済的負担感）と歯の健康等、口腔機能状況との関係を把握しました。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったか尋ねたところ、「大変苦しい」では「はい」（食べにくくなった）が50.0%であるほか、「やや苦しい」で42.8%を占めており、ゆとりがあるという回答に比べて食べにくくなっている割合が高くなっています。

半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	35.2% (923人)	62.8% (1,647人)	2.1% (54人)
大変苦しい	232人	50.0% (116人)	48.3% (112人)	1.7% (4人)
やや苦しい	732人	42.8% (313人)	55.3% (405人)	1.9% (14人)
ふつう	1,475人	30.0% (442人)	67.9% (1,002人)	2.1% (31人)
ややゆとりが ある	109人	31.2% (34人)	68.8% (75人)	0.0% (0人)
大変ゆとりが ある	25人	12.0% (3人)	84.0% (21人)	4.0% (1人)

お茶や汁物等でむせることがあるか尋ねたところ、「はい」という回答が「大変苦しい」では28.9%、「やや苦しい」では27.7%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。

お茶や汁物等でむせることがありますか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	21.8% (571人)	77.1% (2,022人)	1.2% (31人)
大変苦しい	232人	28.9% (67人)	69.8% (162人)	1.3% (3人)
やや苦しい	732人	27.7% (203人)	71.2% (521人)	1.1% (8人)
ふつう	1,475人	18.3% (270人)	80.7% (1,190人)	1.0% (15人)
ややゆとりがある	109人	14.7% (16人)	84.4% (92人)	0.9% (1人)
大変ゆとりがある	25人	20.0% (5人)	76.0% (19人)	4.0% (1人)

口の乾きが気になるか尋ねたところ、「はい」という回答が「大変苦しい」では40.5%、「やや苦しい」では31.7%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。

口の渇きが気になりますか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	24.9% (654人)	73.4% (1,927人)	1.6% (43人)
大変苦しい	232人	40.5% (94人)	57.8% (134人)	1.7% (4人)
やや苦しい	732人	31.7% (232人)	66.9% (490人)	1.4% (10人)
ふつう	1,475人	19.7% (291人)	78.6% (1,160人)	1.6% (24人)
ややゆとりがある	109人	21.1% (23人)	78.9% (86人)	0.0% (0人)
大変ゆとりがある	25人	16.0% (4人)	80.0% (20人)	4.0% (1人)

歯磨きを毎日しているか尋ねたところ、「いいえ」という回答が「大変苦しい」では19.8%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。

歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	88.1% (2,312人)	10.5% (276人)	1.4% (36人)
大変苦しい	232人	78.9% (183人)	19.8% (46人)	1.3% (3人)
やや苦しい	732人	88.8% (650人)	9.4% (69人)	1.8% (13人)
ふつう	1,475人	89.4% (1,318人)	9.8% (144人)	0.9% (13人)
ややゆとりがある	109人	93.6% (102人)	5.5% (6人)	0.9% (1人)
大変ゆとりがある	25人	88.0% (22人)	8.0% (2人)	4.0% (1人)

歯のかみ合わせが良いか尋ねたところ、「いいえ」という回答が「大変苦しい」では43.5%、「やや苦しい」では31.7%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。

噛み合わせは良いですか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	71.8% (1,883人)	24.3% (637人)	4.0% (104人)
大変苦しい	232人	50.4% (117人)	43.5% (101人)	6.0% (14人)
やや苦しい	732人	64.2% (470人)	31.7% (232人)	4.1% (30人)
ふつう	1,475人	77.8% (1,147人)	18.9% (279人)	3.3% (49人)
ややゆとりがある	109人	89.0% (97人)	8.3% (9人)	2.8% (3人)
大変ゆとりがある	25人	92.0% (23人)	4.0% (1人)	4.0% (1人)

歯科医院を受診しているか尋ねたところ、「いいえ」という回答が「大変苦しい」では75.0%、「やや苦しい」では72.5%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。

現在、歯科医院を受診していますか

	回答者 実数	はい	いいえ	無回答
全体	2,624人	32.2% (845人)	66.7% (1,750人)	1.1% (29人)
大変苦しい	232人	24.1% (56人)	75.0% (174人)	0.9% (2人)
やや苦しい	732人	26.5% (194人)	72.5% (531人)	1.0% (7人)
ふつう	1,475人	35.2% (519人)	63.7% (939人)	1.2% (17人)
ややゆとりがある	109人	49.5% (54人)	50.5% (55人)	0.0% (0人)
大変ゆとりがある	25人	36.0% (9人)	64.0% (16人)	0.0% (0人)

歯科医院を受診してない理由を尋ねたところ、「行く必要がないから」という回答が全体的に高くなっています。この回答を暮らし向き（経済的）別に見ると、暮らし向きにゆとりがある人の方で割合が高く、暮らし向きが苦しくなるに従って低くなっています。また、「お金がかかるから」という回答は、暮らし向きが苦しい人の方で割合が高く、ゆとりがある人で低くなっています。

歯科医院を受診していない理由はなんですか

	回答者 実数	忙しいから	行く必要がないから	移動手段がないから	近くに歯科医院がないから	病気や怪我、障がい等があるから
全体	2,624人	6.6% (115人)	54.4% (952人)	2.2% (38人)	1.8% (31人)	2.6% (45人)
大変苦しい	232人	11.5% (20人)	38.5% (67人)	4.6% (8人)	3.4% (6人)	6.3% (11人)
やや苦しい	732人	6.6% (35人)	47.5% (252人)	2.6% (14人)	1.7% (9人)	3.2% (17人)
ふつう	1,475人	5.9% (55人)	60.1% (564人)	1.5% (14人)	1.4% (13人)	1.6% (15人)
ややゆとりがある	109人	3.6% (2人)	72.7% (40人)	3.6% (2人)	3.6% (2人)	1.8% (1人)
大変ゆとりがある	25人	0.0% (0人)	87.5% (14人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

	回答者 実数	お金がかかるから	歯科医院が苦手だから	行くのが面倒だから	その他	無回答
全体	2,624人	11.9% (209人)	11.9% (208人)	13.2% (231人)	11.3% (197人)	5.7% (99人)
大変苦しい	232人	35.1% (61人)	13.8% (24人)	16.7% (29人)	8.0% (14人)	3.4% (6人)
やや苦しい	732人	17.9% (95人)	15.6% (83人)	13.6% (72人)	13.6% (72人)	5.8% (31人)
ふつう	1,475人	5.6% (53人)	10.0% (94人)	12.8% (120人)	10.5% (99人)	5.4% (51人)
ややゆとりがある	109人	0.0% (0人)	9.1% (5人)	14.5% (8人)	12.7% (7人)	5.5% (3人)
大変ゆとりがある	25人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	6.3% (1人)	0.0% (0人)	6.3% (1人)

(4) 暮らしの状況（経済的負担感）と孤独感、生きがいとの関係

暮らしの状況（経済的負担感）と孤独感との関係を見ると、孤独を「よく感じる」という回答が「大変苦しい」では16.4%、「やや苦しい」では7.8%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。また、「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた「孤独を感じる」割合は、「大変苦しい」が45.7%、「やや苦しい」が38.9%、「ふつう」が27.9%、「ややゆとりがある」が19.2%、「大変ゆとりがある」が20.0%であり、経済的な負担を抱えている高齢者が孤独感も高いことがわかります。

孤独を感じるがありますか

	回答者 実数	よく感じる	ときどき 感じる	あまり感 じない	ほとんど 感じない	無回答
全体	2,624人	5.9% (155人)	26.2% (687人)	35.3% (926人)	29.8% (782人)	2.7% (71人)
大変苦しい	232人	16.4% (38人)	29.3% (68人)	30.6% (71人)	22.0% (51人)	1.7% (4人)
やや苦しい	732人	7.8% (57人)	31.1% (228人)	35.1% (257人)	22.3% (163人)	3.7% (27人)
ふつう	1,475人	3.6% (53人)	24.3% (358人)	36.4% (537人)	33.7% (497人)	2.0% (30人)
ややゆとりが ある	109人	0.9% (10人)	18.3% (20人)	33.0% (36人)	47.7% (52人)	0.0% (0人)
大変ゆとりが ある	25人	4.0% (1人)	16.0% (4人)	32.0% (8人)	44.0% (11人)	4.0% (1人)

暮らしの状況（経済的負担感）と生きがいとの関係を見ると、「思いつかない」という回答が「大変苦しい」では48.7%、「やや苦しい」では35.2%となっており、暮らし向きにゆとりがある人に比べて高くなっています。経済的負担感が高い人では、生きがいがないとみられる割合が高いことがわかります。

生きがいはありますか

	回答者 実数	生きがい あり	思いつか ない	無回答
全体	2,624人	62.1% (1630人)	31.5% (827人)	6.4% (167人)
大変苦しい	232人	47.8% (111人)	48.7% (113人)	3.4% (8人)
やや苦しい	732人	57.8% (423人)	35.2% (258人)	7.0% (51人)
ふつう	1,475人	65.4% (965人)	28.7% (423人)	5.9% (87人)
ややゆとりが ある	109人	84.4% (92人)	11.9% (13人)	3.7% (4人)
大変ゆとりが ある	25人	80.0% (20人)	8.0% (2人)	12.0% (3人)

20. 耳の病気の有無別リスク者等の状況

(1) リスク者割合の比較

リスク者割合を耳の病気の有無別で見ると、耳の病気が「ある」という回答では、ほぼ全ての項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「うつ傾向」、「認知機能低下」で差が大きいほか、「口腔機能低下」でも比較的差があります。

リスク者割合の比較（耳の病気の有無別）

	回答者実数	総合事業対象者	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ある	181人	49.6% (115人)	27.6% (50人)	40.3% (73人)	36.5% (66人)	1.1% (2人)	37.6% (68人)
ない	2,310人	41.8% (306人)	16.5% (382人)	29.9% (691人)	24.8% (573人)	1.2% (28人)	22.2% (513人)

		うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ある	181人	58.0% (105人)	58.0% (105人)	27.6% (50人)	61.3% (111人)	60.8% (110人)
ない	2,310人	35.9% (830人)	36.0% (831人)	16.3% (377人)	51.0% (1,178人)	58.4% (1,349人)

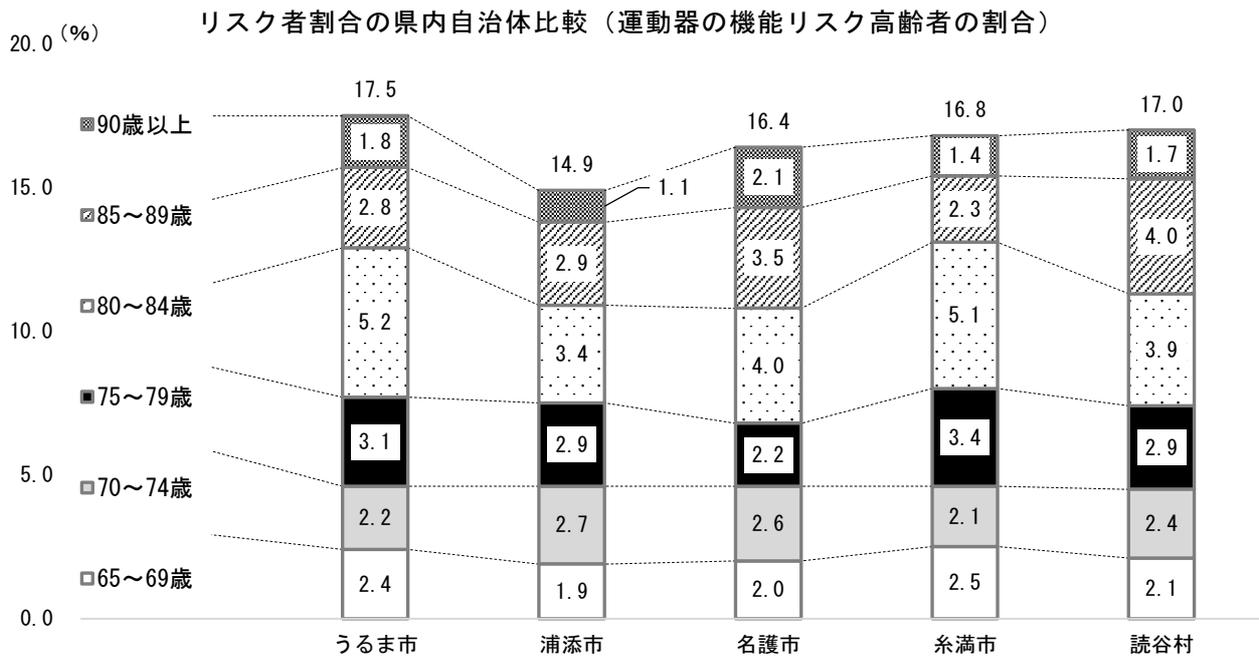
21. 県内他保険者のリスク者割合との比較

身体機能リスク者割合について、県内各市町村と比較を行いました。

県内5市町村の中では、うるま市は、「運動器の機能リスク」、「咀嚼機能リスク」、「認知機能リスク」で最も高くなっています。「IADLが低い」、「転倒リスク」では第1位の自治体と同程度のリスク割合であり、上記の項目においては、他市町村よりリスクのある高齢者が多いことがわかります。

また、「栄養改善リスク」では、5市町村の中で最もリスク割合が低くなっています。

なお、データは、令和2年の調査時点（第8期計画策定時点）のものとの比較です。国の「見える化システム」を活用してデータ比較していますが、比較できる市町村が本報告で示している5市町村のみとなっていましたので、これを考慮してグラフデータを見る必要があります。）

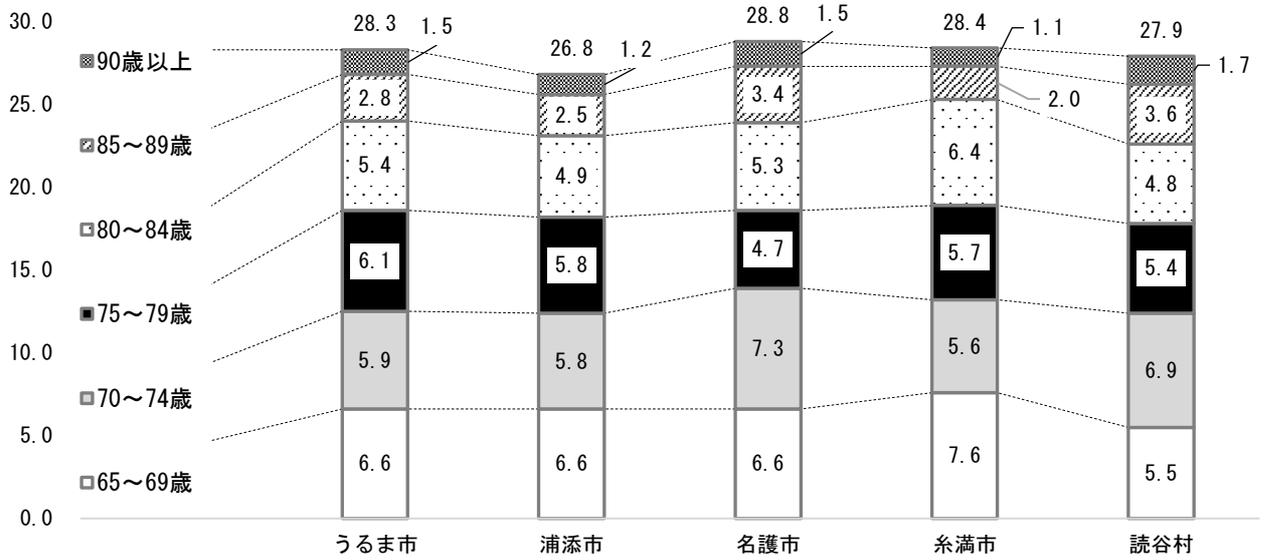


地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

※その他の一般高齢者、要支援者を除く総合事業対象者、要支援1、要支援2を表示（以下、同じ）

35.0 (%)

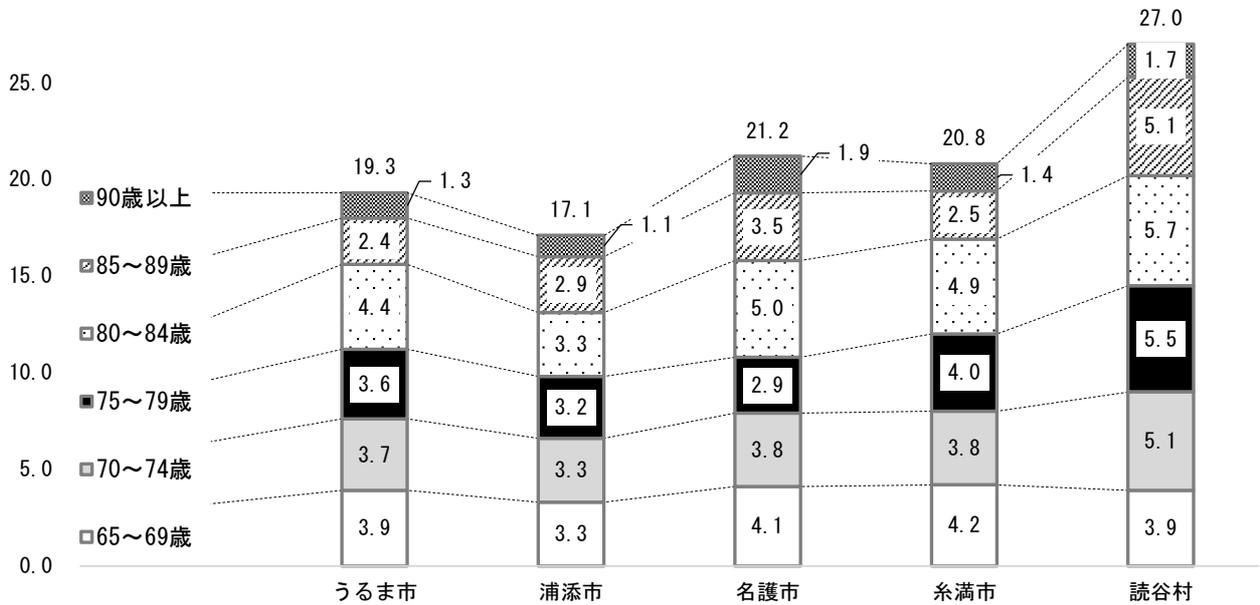
リスク者割合の県内自治体比較（転倒リスク高齢者の割合）



地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

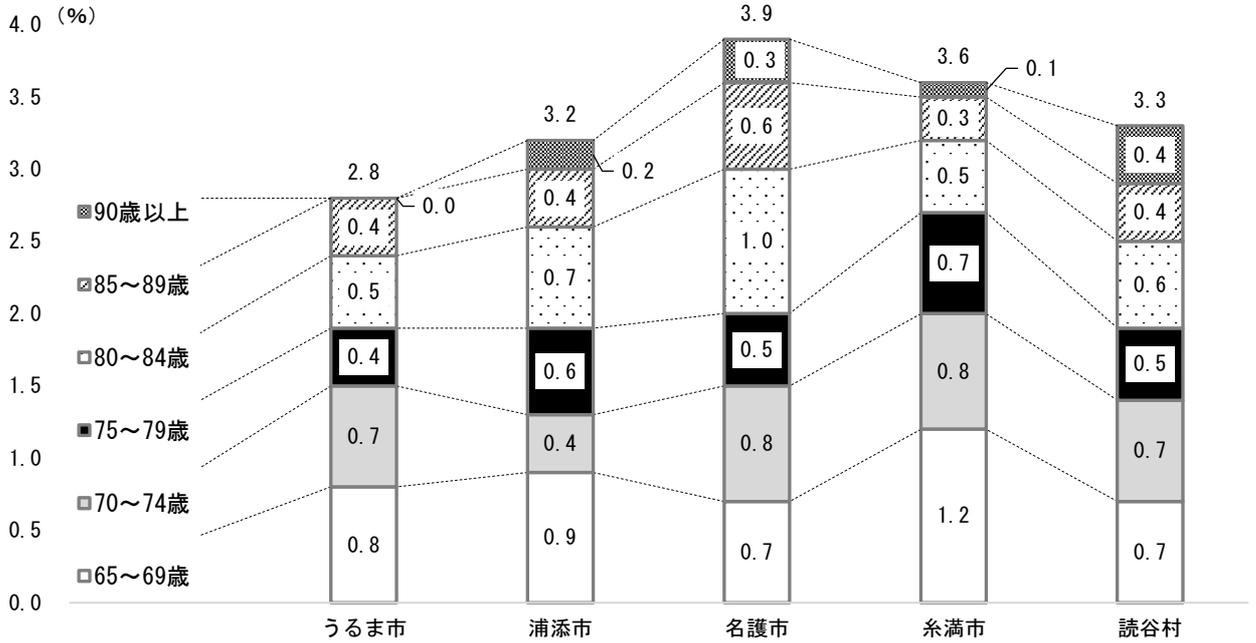
リスク者割合の県内自治体比較（閉じこもりリスク高齢者の割合）

30.0 (%)



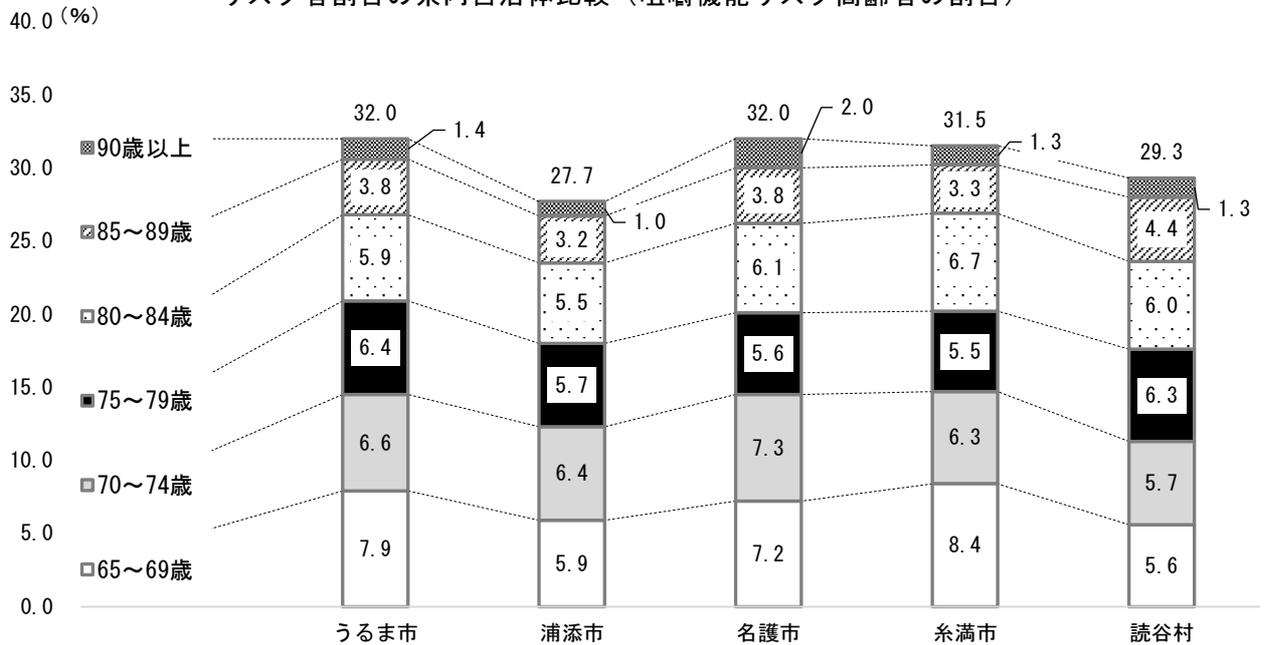
地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

リスク者割合の県内自治体比較（栄養改善リスク高齢者の割合）



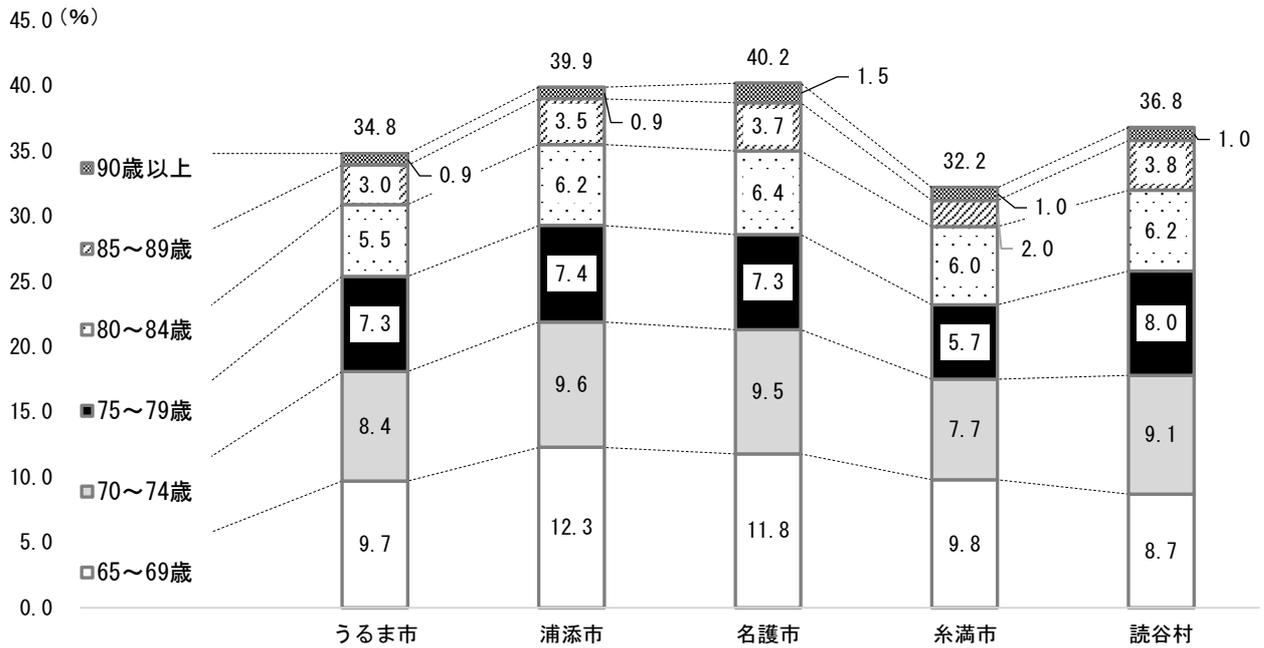
地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

リスク者割合の県内自治体比較（咀嚼機能リスク高齢者の割合）



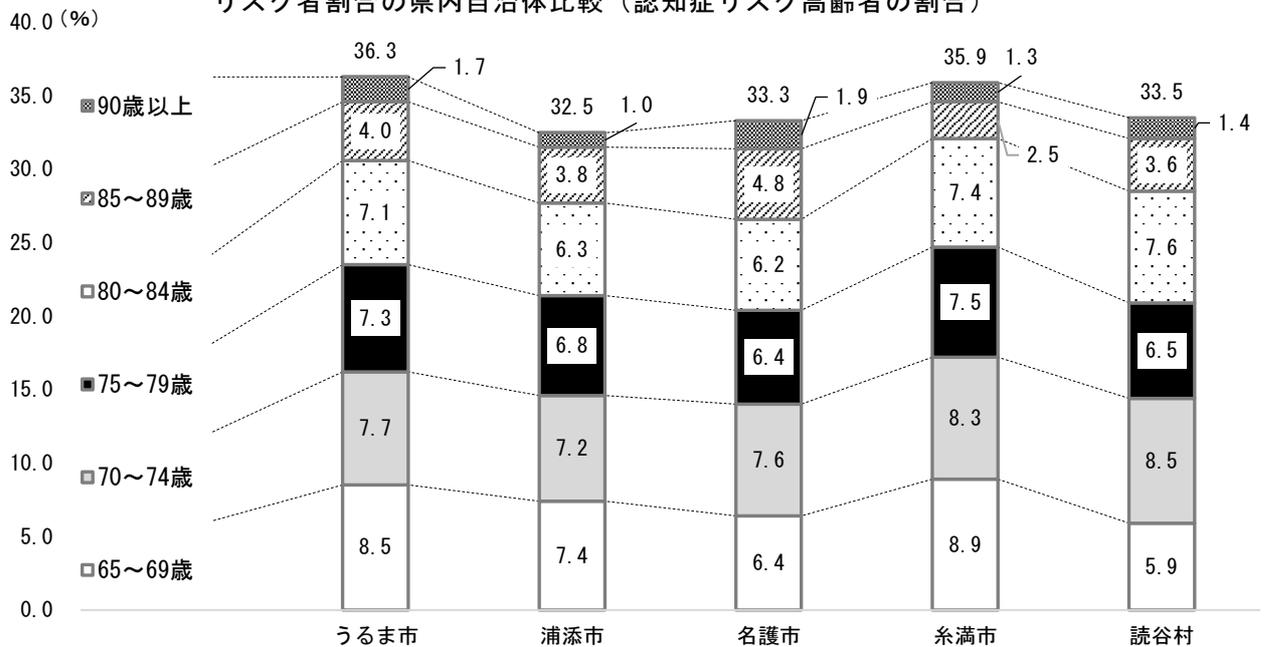
地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

リスク者割合の県内自治体比較（うつリスク高齢者の割合）



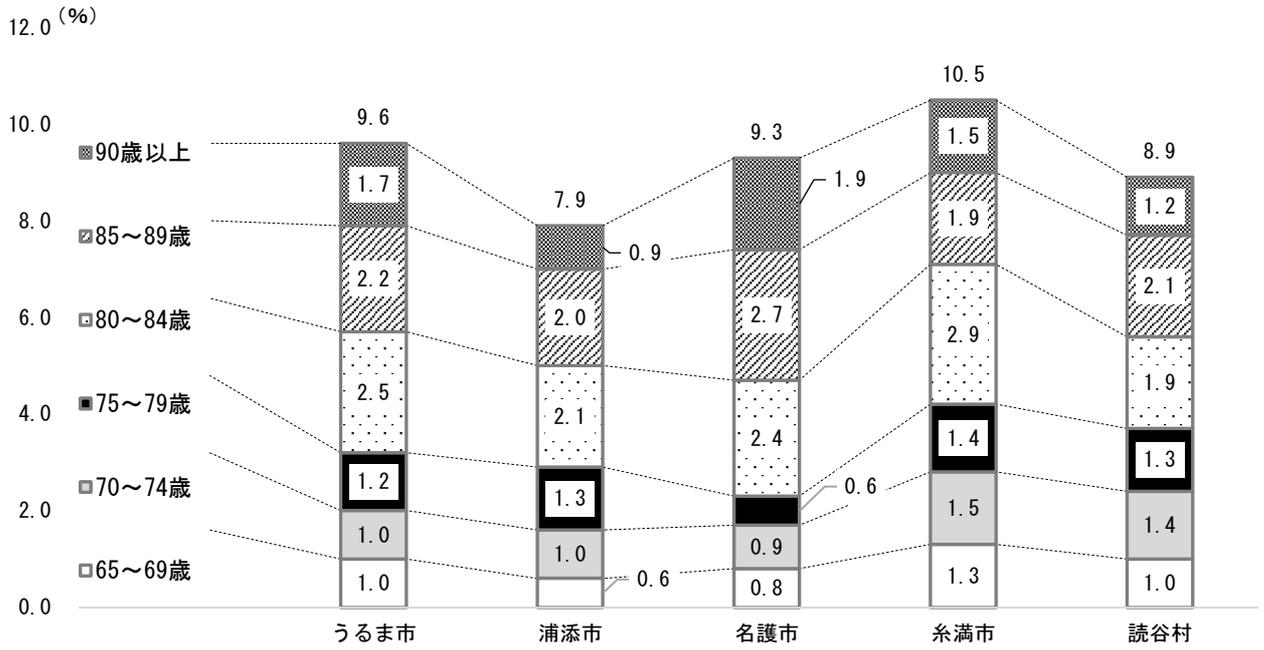
地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

リスク者割合の県内自治体比較（認知症リスク高齢者の割合）



地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

リスク者割合の県内自治体比較（IADLが低い高齢者の割合）



地域包括ケア「見える化」システム（令和2年）

22. うるま市日常生活圏域ニーズ調査より 自由回答のまとめ

(1) 自由回答の概要

うるま市日常生活圏域ニーズ調査（調査票名：「高齢者介護予防・日常生活把握調査」）では、市内に在住する65歳以上の高齢者（要介護者を除く）を対処としてアンケート調査を実施しました。アンケートでは、自由記述欄を設け、日頃困っていることや意見・要望などを自由に記載していただきました。

自由回答では、一人ひとりの高齢者が抱える「家庭での困りごと」、「将来への不安」について、日頃の状況をつぶさに記入されているものが増えていますが、困り事や要望としては、「経済的負担感」や「移動交通」に関する記入が多く見られます。

「経済的負担感」では生活保護、年金生活などで収入が少ない中、物価上昇の影響で生活が厳しいという声が多くなっています。

「移動交通」については、バスの路線や本数、停留所設置の利便性を求める声や、買い物への不安、免許返納の影響について声があります。

その他、「認知症予防」、「介護予防教室・健康づくりなど」、「趣味・生きがい」をはじめ、記入された内容について項目立てし、その主な内容について以下より記載しています。

(2) 主な記入内容の種類

経済的負担	自治会
移動交通	住まい
介護保険料	見守り
新型コロナウイルス感染症の影響	生活支援
将来、終活	情報入手
認知症予防	手続き
介護予防教室・健康づくりなど	重層的支援
趣味・生きがい	アンケート調査について
集いの場	その他
公共施設	

(3) 主な記入内容

① 経済的負担感

●年金が少ない、物価の上昇など、経済的な面での負担感に関する記入が最も多くなっています。

- ・経済面です。果たして年金だけで過ごせるのか不安はいっぱいです。施設へも安価で入所できるような料金であってほしいです。
- ・生活保護受けてますが、近ごろ物価高で以前より生活は苦しくなり、年明けにまた電気代がもっと上がるとテレビなどで知り不安になります。
- ・私も妻も娘の持病で通院しているが、収入が年金だけにもかかわらず年金は減ってくるし、物価高で支出が増えてきて生活がだんだんと厳しくなっている。
- ・年金だけでは生活が厳しい。光熱費、毎月の生活を維持するのがいっぱい、税金も負担が大です。
- ・年金が少ないので経済面が心配である。

② 移動交通

●バス利用、免許返納、買い物の心配など、移動・交通に関する記入が多くなっています。

- ・買い物に何人か集まってくるまで送り迎えしてくれたら助かる。
- ・自分が住んでいる所はバス等の交通手段がなく、将来車の運転が出来なくなったときの買い物等が心配である。
- ・これから高齢者社会になって免許返納等で移動する手段は、バス、タクシー、遠出も無理になって。石川～与那城（島々含む）バス停も細かく置き、車を持っていなくてもいつでもどこにでも行ける市内のバスの運行を希望したい。
- ・バスを乗って行動しますので、バスが時間通りに来ませんので 20 分～30 分位待つことがあるので大変です。バス停には腰掛もありませんので、今は足腰は大丈夫ですが、腰掛けがあったらいいのにネ。
- ・交通面が不便。高齢者の皆さんが運転免許証の返還とコロナ禍の影響で、引き籠もりになり、悪影響を及ぼしている。唯一の公共施設間連絡がバスの運行で助かっていますが、もう少しバス路線のない地域の運行を検討してもらいたい。
- ・令和 5 年 9 月には自動車免許証の期限切れとなる。その後の自身の動きがかなり制限され、食事の原料準備に支障がでる。集団買い付けに合流することになると思うが、そのことが気がかりでもある。
- ・車を持っていないのでとても不便です。タクシーは高すぎるので、しかし必要です。行政の力でなんとかありませんか？

③介護保険料

●介護保険料が高いという声が見られます。

- ・収入が無いので介護保険料を安くしてほしいです。
- ・年金の割には介護保険料が高いと思う。今もらっている年金では生活が難しい。何才まで働けばいいかと不安になります。
- ・介護保険料が高いと思います。できれば70才までは安くても良いと思います。私は60代で必要がなかったからです。まだまだ若いと思います。※収入は年金のみ（年金生活です）。

④新型コロナウイルス感染症の影響

●新型コロナウイルス感染症の影響で交流や身近な人に会うことができなかったという声が見られます。

- ・①コロナの関係で病院の面会ができず困っています。②友人とカラオケにも食事にも行けず残念です。③親族の家に行くのも気をつかう。④行事ごととも縮小されてしまった。
- ・コロナ禍に入り、全く人と会話がなく1日を過ごすことが多くなり不安を感じる。
- ・配偶者がコロナで仕事を失う。コロナ倒産で収入が年金のみで生活が苦しい。年で仕事が見つからない。
- ・コロナが始まって以来、ミニデイも行けない中、参加していた対象者もひきこもって体調が悪くなったり、介護施設への通所等、かつてあった賑わいを取り戻すのに苦慮している。
- ・コロナ禍で習い事ができなくなり、友達との交流もなくなり、孫たちともなかなか会えず、本当に寂しい思いでした。

⑤将来、終活

●高齢者としての「将来」を心配する声、終活に関連する声が見られます。

- ・今の時代は高齢者が将来心配な世の中である。もっと将来安心して住める時代にしてほしい。お金のない年寄りには心配である。
- ・今後の生活に不安がないわけではありませんが、具体的な対応策は考えていません。そろそろ将来の生活設計を考えなければと思う今日この頃です。
- ・エンディングノートはどこで手に入りますか。
- ・この調査票が来て、エンディングノートことを以前友達に聞いていて、私も書いておくことにしようと思っていましたが、また考えさせられました。今元気なうちに子供たちのために書いておこうと考えました。嫁たちにはたくさんの言葉を感謝して書いておきたいと思いました。
- ・①エンディングノートの入手できる場所②遺言書の書き方③公証人役場の利用の仕方。墓をどうするかについても少し悩んでおります。
- ・(エンディングノート、人生会議)の質問は年寄へ聞くのはちょっときついものがありました。考えてはいるはずだが、死の向き合いをすすめているようで…人それぞれと思うが、こんなのを聞いている意味は何だろうと…そんなことより、もっと福祉を充実してほしいです。

⑥ 認知症予防

●家族、自分のために、認知症の予防に関する情報を求める声が見られます。

- ・認知症になる前や体が不自由になり介護が必要になる前の生活指導や運動指導等、地域の取組や支援活動があればいいなと思います。(転ばぬ先の杖)
- ・高齢者でも体力年齢まだまだ大丈夫。今の健康を維持したいと思っています。年だからゆっくり軽い運動ではなく筋力や持久力、認知症予防する場所が欲しいです。
- ・要認知症予防の講話と体操を行っていただき、ミニデイ参加者から好評だった。認知症の方との付き合い方や支援等についても取り入れてはどうでしょうか。
- ・今後、自分自身も体が不自由になることがあったらどうすればいいか、知っておく必要があると思った。
- ・認知症にならないように、今からどんなことをやっていけばいいのか定期的に学習会のようなものがあれば参加したいと思う。
- ・認知症状が少しあり、これ以上進行しないようにデイケア等の施設を使用したいと考えています。どちらへ相談したらいいのか教えていただけますか。

⑦介護予防教室・健康づくりなど

●ミニデイなどの生きがい・介護予防の場、健康づくりの場の情報提供や参加枠の増を求める声などが見られます。

- ・現在交代でミニディー包括センターの活動を楽しんでいます。無理なく気軽に参加できるので楽しみです。家庭菜園からとれる野菜を料理することも楽しみです。
- ・74歳までの健康体操の事は知っているが、75歳以上の教室（運動）を教えてください。
- ・市内の公民館や諸施設で展開されている健康づくり活動は本当に高齢者向けの効果的な楽しい運動で参加者が喜び感謝している者の1人である。自由、気楽に（？）参加できるウォーキング等もとり入れ、自主活動へと結びつけていけば、寝たきり予防へとつながってゆく。ポイントは言うまでもなく、いかに継続してゆくか？や学びの場（例えば国保の情報提供など）も大切になってくる。
- ・老後を健康に注意しながら毎日を暮らせたらと思います。
- ・高齢者活動に参加し健康づくりしたいが、活動に人数制限があり参加できないことがある。参加人数の拡大を図ってもらいたい（例：生き生き体操）。地域の活性化、自治会の活性化を図るため、行政から指導、支援が必要ではないか。地域活動に参加人員が少なく大変厳しい状況にある（公民館）
- ・公民館のミニデイやその他の高齢者の集まりなど参加したいが、移動手段がないので参加できない。送迎等のサービスがあれば、もっと多くの人が参加できると思う。平日は子、孫とも働いており送迎できない。

⑧趣味・生きがい

●市の教室等の情報提供や参加枠の増加など、趣味と生きがいの機会づくりについての声が見られます。

- ・週6日で仕事をして、体操教室やダンス、その活動参加したとしても、高齢（75）から国民健康保険なので、参加出来ない（昼間働いて夜間にしか自由時間ない。）。
- ・うるま市の広報で趣味の幅を広げようと応募するも、抽選に外れがっかりする。人数制限をもっと増やしてほしい。
- ・高齢者のレクリエーションを増やしてください。
- ・高齢者（健康な）が遊べる場所がほしい。お金を使わないスポーツ等。
- ・近くに散歩道（公園）があればいいと思います。
- ・介護長寿課から地域へ提供できる活動につながる支援や学習できることがあれば教えてください。

⑨集いの場

●市の教室等の情報提供や参加枠の増加など、趣味と生きがいの機会づくりについての声が見られます。

- ・大人や子どもの遊び場はあるが、隣近所の老人が気軽に集まってユンタクする場所がない。
- ・うるま市での触れ合いの場や仲間づくりの場が少なく感じています。
- ・地域住民のコミュニケーションできる場所を多くつくってほしい。
- ・うるま市において、コミュニティ広場があって、多目的に利用可能で（ワンコインの使用料金OK）※趣味、健康面を目的とし（10人～）5人グループ活動の場があったらいいと思います。市民のコミュニティ広場です。※定期的な巡回バスがあれば出かけたたいです。行動範囲が広がります。

⑩公共施設

●「うるみんな」の利用しやすさを求める声が見られます。

- ・うるみんなのプールが以前のように利用出来るようにしてほしい。夕方 17:00～21:00、今は 16:00～19:00 までで利用時間が短い。
- ・うるみんなでトレーニングしたいが、毎回 150 円は高いので定期的に通えない。県総は 65 歳以上は 70 円です。回数券もあります。

⑪自治会

●自治会参加に付いての声が見られます。

- ・自治会を中心に老人の集まりをもっと多く（健康に関する体操だけでなく、楽しく集まれる社会）持てたらいいいです。
- ・自治会会員の減少と区費の未納が増加。行政からのアプローチを強く望みます。
- ・自治会活動に興味はありますが、参加のタイミング、方法や活動内容等が不明です。また、従来の方々に占められていて、移住者は入りにくい感じがあります。
- ・自治会、老人会活動をしたくても近くに性格のあわない人がいてできない。

⑫住まい

●高齢者の住まいの確保に関する声が見られます。

- ・ 4階に住んでいるので、足が悪いので1階に移してほしい。
- ・ 身寄りのない高齢者が入居しやすい公営住宅をもう少し増やしてほしいと希望しています。
- ・ 現在、友人の厚意で同居させてもらっていますが、何らかの事情で出ていかねばならなくなった時、どうすればいいのかとても不安です。不動産屋さんは高齢者に貸してくれません。そんな場合、ホームレスになるかどこかの洞穴にでも住むようになるのだろうか考えると、お先真っ暗です。

⑬見守り

●高齢者宅への定期的な見守りを求める声が見られます。

- ・ 忙しいと思いますが、福祉関係者、民生委員の方々に定期的に訪問してほしいと思います。お願いします。
- ・ 高齢者のところには定期的に訪問していただきたい。
- ・ 年とともに体力も落ちてきますし、時々声をかけてくださる方がいるといいのかなあと思います。

⑭生活支援

●在宅生活する上での困りごとや支援を求める声が見られます。

- ・ とじこもり、病院にも2年間も行けなくなり困っている。私は透析をやっているので不安です。弁当など持って来てくれたらいい。
- ・ 緊急事態のとき、消防や警察署に連絡が取れるように直通電話があればよい。
- ・ ヤードの草刈りとかでいつも困っています。主人は介護する事になり、家の事全て自分でなくてはならないのでこれから先のことが心配です。友達もお互いに年を取っているためどうしようもありません。

⑮情報入手

●相談先、活動、教室などについての情報提供を求める声が見られます。

- ・介護予防情報の案内など。調査など定期的に案内をしてほしい。データーの開示をする。資料等の配布など。
- ・問 5 地域での活動について、この調査を見て知りました。情報が全然入ってこない。どうしたらグループやサークル交流サロンなどの参加できますか？
- ・質問にあったような「ふれあい……」「生活センター」「認知症」窓口 etc を各区に貼りだして分かりやすく、連絡できるように一年を通して貼り出してあげればと思う。月刊誌「うるま」の表紙に毎掲載せられたらと思う。

⑯手続き

●市役所の書類提出等についての要望が見られます。

- ・役所等の書類の提出は、まちまちに家に書類が来るので家族等が1回で済むように。役所で1回行けば済むように書類は、1回で家に届くようにしてほしい。
- ・足やひざなどが悪くなって思うようにできなくても代理人が探せない。コロナなどで頼めるわけもなく、高齢者で体の弱い子供にやってもらうのが切ない日々です。こういう代行の方も市で考えてほしい。

⑰重層的支援

●高齢者介護のほかに支援を必要とする家族がいるなど、家族で複雑化・複合化した課題を抱えているという声が見られます。

- ・同居していた妹が入院中。高齢の母親が一人暮らしで気がかりの日々。食事を運んでいるが、今後の事が心配です。
- ・実家の高齢の父親、精神病の妹の世話、恩納村まで通っていて、今後どうしていいかわからない！！心配で最近不眠症になっていることです。

⑱アンケート

●調査項目が多い、調査結果を活用してほしいといった声が見られます。

- ・アンケートの質問が多くて記入が難しいです。
- ・日常生活把握調査票を送ってくださりありがとうございました。
- ・今回のこのアンケートを生かして、うるま市の現状が良くなっていく事を望みます。

23. 単純集計表【経年比較表編（第7期～第9期）】

●基本情報

7期	8期	9期
----	----	----

◎：調査票を記入されたのはどなたですか。(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
あて名のご本人が記入	1811 (72.0)	1878 (77.8)	2055 (78.3)	0.5
ご家族が記入	501 (19.9)	429 (17.8)	449 (17.1)	▲0.7
その他	27 (1.1)	11 (0.5)	17 (0.6)	0.1
無回答	175 (7.0)	97 (4.0)	115 (4.4)	0.4

性別

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
男性	1082 (43.0)	1140 (47.2)	1237 (47.1)	▲0.1
女性	1428 (56.8)	1275 (52.8)	1387 (52.9)	0.1
無回答	4 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.0

年齢

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
65歳～69歳	806 (32.1)	717 (29.7)	717 (27.3)	▲2.4
70歳～74歳	484 (19.3)	588 (24.3)	775 (29.5)	5.2
75歳～79歳	500 (19.9)	482 (20.0)	450 (17.1)	▲2.9
80歳～84歳	427 (17.0)	367 (15.2)	403 (15.4)	0.2
85歳以上	293 (11.7)	261 (10.8)	279 (10.6)	▲0.2
無回答	4 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.0

性別・年齢

回答者実数		2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
男性	65歳～69歳	388 (15.4)	350 (14.5)	357 (13.6)	▲0.9
	70歳～74歳	226 (9.0)	278 (11.5)	386 (14.7)	3.2
	75歳～79歳	209 (8.3)	245 (10.1)	212 (8.1)	▲2.0
	80歳～84歳	151 (6.0)	167 (6.9)	171 (6.5)	▲0.4
	85歳以上	108 (4.3)	100 (4.1)	111 (4.2)	0.1
女性	65歳～69歳	418 (16.6)	367 (15.2)	360 (13.7)	▲1.5
	70歳～74歳	258 (10.3)	310 (12.8)	389 (14.8)	2.0
	75歳～79歳	291 (11.6)	237 (9.8)	238 (9.1)	▲0.7
	80歳～84歳	276 (11.0)	200 (8.3)	232 (8.8)	0.5
	85歳以上	185 (7.4)	161 (6.7)	168 (6.4)	▲0.3
無回答		4 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0.0

7期	8期	9期
----	----	----

地区（7期）

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)
勝連地区	286 (11.4)	278 (11.5)
与那城地区	303 (12.1)	265 (11.0)
具志川第1地区	671 (26.7)	660 (27.3)
具志川第2地区	692 (27.5)	694 (28.7)
石川地区	558 (22.2)	518 (21.4)
無回答	4 (0.2)	0 (0.0)

※8期より7圏域

地区（8期以降）

回答者実数	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
石川地区	402 (16.6)	410 (15.6)	▲1.0
具志川北地区	355 (14.7)	402 (15.3)	0.6
具志川東地区	307 (12.7)	379 (14.4)	1.7
具志川西地区	402 (16.6)	408 (15.5)	▲1.1
具志川南地区	406 (16.8)	444 (16.9)	0.1
与勝西地区	302 (12.5)	328 (12.5)	0.0
与勝東地区	241 (10.0)	252 (9.6)	▲0.4
無回答	0 (0.0)	1 (0.0)	0.0

※8期より7圏域

●あなたのご家族や生活状況について

7期	8期	9期
----	----	----

問1(1)：家族構成をお教えてください(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)
1人暮らし	613 (24.4)
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	590 (23.5)
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	142 (5.6)
息子・娘との2世帯	465 (18.5)
その他	578 (23.0)
無回答	126 (5.0)

問1(1)：家族構成をお教えてください(1つ〇)

回答者実数	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
1人暮らし	461 (19.1)	567 (21.6)	2.5
夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)	689 (28.5)	791 (30.1)	1.6
夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)	92 (3.8)	100 (3.8)	0.0
配偶者以外と2人暮らし	227 (9.4)	242 (9.2)	▲0.2
3人以上の同居世帯	748 (31.0)	755 (28.8)	▲2.2
その他	98 (4.1)	107 (4.1)	0.0
無回答	100 (4.1)	62 (2.4)	▲1.7

※8期より選択肢が変わる

問1(1)①：【問1(1)において「4. 配偶者以外と2人暮らし」「5. 3人以上の同居世帯」「6. その他」と回答した方のみ】同居されている方はどなたですか(いくつでも)

回答者実数	1073 (100.0)	1104 (100.0)	前期比較
配偶者(夫、妻)	326 (30.4)	335 (30.3)	▲0.1
息子	582 (54.2)	605 (54.8)	0.6
娘	347 (32.3)	334 (30.3)	▲2.0
子の配偶者	96 (8.9)	109 (9.9)	1.0
孫	206 (19.2)	213 (19.3)	0.1
兄弟姉妹	54 (5.0)	70 (6.3)	1.3
その他	116 (10.8)	93 (8.4)	▲2.4
無回答	69 (6.4)	63 (5.7)	▲0.7

※8期より設問追加 上記、選択肢変更の関連

問1(2)：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
介護・介助は必要ない	1926 (76.6)	1926 (79.8)	2076 (79.1)	▲0.7
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	233 (9.3)	200 (8.3)	229 (8.7)	0.4
現在、何らかの介護を受けている	218 (8.7)	160 (6.6)	163 (6.2)	▲0.4
無回答	137 (5.4)	129 (5.3)	156 (5.9)	0.6

7期	8期	9期
----	----	----

問1(2)①：【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

回答者実数	451 (100.0)	360 (100.0)	392 (100.0)	前期比較
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	37 (8.2)	45 (12.5)	29 (7.4)	▲5.1
心臓病	40 (8.9)	40 (11.1)	46 (11.7)	0.6
がん(悪性新生物)	14 (3.1)	17 (4.7)	22 (5.6)	0.9
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	29 (6.4)	17 (4.7)	21 (5.4)	0.7
関節の病気(リウマチ等)	73 (16.2)	40 (11.1)	44 (11.2)	0.1
認知症(アルツハイマー病等)	34 (7.5)	33 (9.2)	27 (6.9)	▲2.3
パーキンソン病	12 (2.7)	10 (2.8)	9 (2.3)	▲0.5
糖尿病	37 (8.2)	38 (10.6)	40 (10.2)	▲0.4
腎疾患(透析)	6 (1.3)	14 (3.9)	13 (3.3)	▲0.6
視覚・聴覚障害	38 (8.4)	28 (7.8)	38 (9.7)	1.9
骨折・転倒	102 (22.6)	59 (16.4)	53 (13.5)	▲2.9
脊椎損傷	26 (5.8)	15 (4.2)	18 (4.6)	0.4
高齢による衰弱	69 (15.3)	61 (16.9)	52 (13.3)	▲3.6
その他	82 (18.2)	52 (14.4)	61 (15.6)	1.2
不明	6 (1.3)	9 (2.5)	3 (0.8)	▲1.7
無回答	85 (18.8)	69 (19.2)	96 (24.5)	5.3

問1(2)②：【問1(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

回答者実数	451 (100.0)	160 (100.0)	163 (100.0)	前期比較
配偶者(夫・妻)	97 (21.5)	34 (21.3)	42 (25.8)	4.5
息子	101 (22.4)	38 (23.8)	47 (28.8)	5.0
娘	131 (29.0)	47 (29.4)	57 (35.0)	5.6
子の配偶者(嫁、むこ)	46 (10.2)	21 (13.1)	10 (6.1)	▲7.0
孫	18 (4.0)	9 (5.6)	12 (7.4)	1.8
兄弟・姉妹	29 (6.4)	12 (7.5)	15 (9.2)	1.7
介護サービスのヘルパー	43 (9.5)	39 (24.4)	30 (18.4)	▲6.0
その他	42 (9.3)	26 (16.3)	25 (15.3)	▲1.0
無回答	109 (24.2)	11 (6.9)	11 (6.7)	▲0.2

問1(3)：現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
大変苦しい	201 (8.0)	193 (8.0)	232 (8.8)	0.8
やや苦しい	633 (25.2)	662 (27.4)	732 (27.9)	0.5
ふつう	1473 (58.6)	1396 (57.8)	1475 (56.2)	▲1.6
ややゆとりがある	120 (4.8)	98 (4.1)	109 (4.2)	0.1
大変ゆとりがある	19 (0.8)	23 (1.0)	25 (1.0)	0.0
無回答	68 (2.7)	43 (1.8)	51 (1.9)	0.1

7期	8期	9期
----	----	----

問1(4)：お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらですか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
持家(戸建て)	2055 (81.7)	1961 (81.2)	2015 (76.8)	▲4.4
持家(集合住宅)	50 (2.0)	64 (2.7)	51 (1.9)	▲0.8
公営賃貸住宅(県営団地、市営団地等)	64 (2.5)	73 (3.0)	98 (3.7)	0.7
民間賃貸住宅(戸建て)	62 (2.5)	43 (1.8)	34 (1.3)	▲0.5
民間賃貸住宅(集合住宅、アパート等)	185 (7.4)	190 (7.9)	291 (11.1)	3.2
借家	34 (1.4)	36 (1.5)	75 (2.9)	1.4
その他(社宅など)	16 (0.6)	15 (0.6)	30 (1.1)	0.5
無回答	48 (1.9)	33 (1.4)	30 (1.1)	▲0.3

●からだを動かすことについて

7期	8期	9期
----	----	----

問2(1)：階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1478 (58.8)	1513 (62.7)	1663 (63.4)	0.7
できるけどしていない	360 (14.3)	344 (14.2)	365 (13.9)	▲0.3
できない	587 (23.3)	487 (20.2)	521 (19.9)	▲0.3
無回答	89 (3.5)	71 (2.9)	75 (2.9)	0.0

問2(2)：椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1784 (71.0)	1834 (75.9)	1966 (74.9)	▲1.0
できるけどしていない	214 (8.5)	169 (7.0)	221 (8.4)	1.4
できない	440 (17.5)	365 (15.1)	370 (14.1)	▲1.0
無回答	76 (3.0)	47 (1.9)	67 (2.6)	0.7

問2(3)：15分位続けて歩いていますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1754 (69.8)	1752 (72.5)	1845 (70.3)	▲2.2
できるけどしていない	384 (15.3)	368 (15.2)	452 (17.2)	2.0
できない	314 (12.5)	254 (10.5)	286 (10.9)	0.4
無回答	62 (2.5)	41 (1.7)	41 (1.6)	▲0.1

問2(4)：過去1年間に転んだ経験がありますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
何度もある	269 (10.7)	220 (9.1)	271 (10.3)	1.2
1度ある	468 (18.6)	472 (19.5)	537 (20.5)	1.0
ない	1734 (69.0)	1694 (70.1)	1790 (68.2)	▲1.9
無回答	43 (1.7)	29 (1.2)	26 (1.0)	▲0.2

問2(5)：転倒に対する不安は大きいですか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
とても不安である	503 (20.0)	409 (16.9)	441 (16.8)	▲0.1
やや不安である	761 (30.3)	854 (35.4)	951 (36.2)	0.8
あまり不安でない	613 (24.4)	537 (22.2)	628 (23.9)	1.7
不安でない	548 (21.8)	573 (23.7)	562 (21.4)	▲2.3
無回答	89 (3.5)	42 (1.7)	42 (1.6)	▲0.1

問2(6)：週に1回以上は外出していますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
ほとんど外出しない	213 (8.5)	187 (7.7)	239 (9.1)	1.4
週1回	388 (15.4)	281 (11.6)	433 (16.5)	4.9
週2~4回	997 (39.7)	993 (41.1)	1067 (40.7)	▲0.4
週5回以上	861 (34.2)	925 (38.3)	843 (32.1)	▲6.2
無回答	55 (2.2)	29 (1.2)	42 (1.6)	0.4

7期	8期	9期
----	----	----

問2(7)：昨年と比べて外出の回数が減っていますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
とても減っている	132 (5.3)	129 (5.3)	213 (8.1)	2.8
減っている	527 (21.0)	524 (21.7)	775 (29.5)	7.8
あまり減っていない	710 (28.2)	675 (28.0)	712 (27.1)	▲0.9
減っていない	1089 (43.3)	1054 (43.6)	879 (33.5)	▲10.1
無回答	56 (2.2)	33 (1.4)	45 (1.7)	0.3

問2(8)：外出を控えていますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	648 (25.8)	564 (23.4)	992 (37.8)	14.4
いいえ	1832 (72.9)	1827 (75.7)	1591 (60.6)	▲15.1
無回答	34 (1.4)	24 (1.0)	41 (1.6)	0.6

問2(8)①：【(8)で「1.はい」(外出を控えている)の方のみ】外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

回答者実数	648 (100.0)	564 (100.0)	992 (100.0)	前期比較
病気	78 (12.0)	74 (13.1)	101 (10.2)	▲2.9
障害(脳卒中の後遺症など)	19 (2.9)	19 (3.4)	26 (2.6)	▲0.8
足腰などの痛み	364 (56.2)	299 (53.0)	350 (35.3)	▲17.7
トイレの心配(失禁など)	136 (21.0)	112 (19.9)	131 (13.2)	▲6.7
耳の障害(聞こえの問題など)	82 (12.7)	55 (9.8)	63 (6.4)	▲3.4
目の障害	64 (9.9)	36 (6.4)	40 (4.0)	▲2.4
外での楽しみがない	111 (17.1)	93 (16.5)	158 (15.9)	▲0.6
経済的に出られない	92 (14.2)	98 (17.4)	106 (10.7)	▲6.7
交通手段がない	153 (23.6)	112 (19.9)	150 (15.1)	▲4.8
その他	89 (13.7)	50 (8.9)	385 (38.8)	29.9
無回答	16 (2.5)	15 (2.7)	27 (2.7)	0.0

問2(9)：外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
徒歩	810 (32.2)	817 (33.8)	773 (29.5)	▲4.3
自転車	138 (5.5)	118 (4.9)	135 (5.1)	0.2
バイク	19 (0.8)	27 (1.1)	25 (1.0)	▲0.1
自動車(自分で運転)	1269 (50.5)	1418 (58.7)	1648 (62.8)	4.1
自動車(人に乗せてもらう)	808 (32.1)	732 (30.3)	747 (28.5)	▲1.8
電車	0 (0.0)	2 (0.1)	3 (0.1)	0.0
路線バス	319 (12.7)	279 (11.6)	214 (8.2)	▲3.4
病院や施設のバス	90 (3.6)	88 (3.6)	53 (2.0)	▲1.6
車いす	16 (0.6)	17 (0.7)	17 (0.6)	▲0.1
電動車いす(カート)	6 (0.2)	8 (0.3)	6 (0.2)	▲0.1
歩行器・シルバーカー	36 (1.4)	26 (1.1)	24 (0.9)	▲0.2
タクシー	304 (12.1)	264 (10.9)	273 (10.4)	▲0.5
その他	53 (2.1)	13 (0.5)	32 (1.2)	0.7
無回答	43 (1.7)	37 (1.5)	27 (1.0)	▲0.5

●食べることについて

7期	8期	9期
----	----	----

問3(1) : BMI

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
低体重 18.5未満	85 (3.4)	67 (2.8)	93 (3.5)	0.7
普通体重 18.5以上25.0未満	1301 (51.8)	1279 (53.0)	1390 (53.0)	0.0
肥満(1度) 25.0以上30.0未満	771 (30.7)	749 (31.0)	804 (30.6)	▲0.4
肥満(2度) 30.0以上35.0未満	149 (5.9)	140 (5.8)	163 (6.2)	0.4
肥満(3度) 35.0以上40.0未満	15 (0.6)	19 (0.8)	18 (0.7)	▲0.1
肥満(4度) 40.0以上	12 (0.5)	9 (0.4)	6 (0.2)	▲0.2
無回答	181 (7.2)	152 (6.3)	150 (5.7)	▲0.6

問3(2) : 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	824 (32.8)	781 (32.3)	923 (35.2)	2.9
いいえ	1631 (64.9)	1581 (65.5)	1647 (62.8)	▲2.7
無回答	59 (2.3)	53 (2.2)	54 (2.1)	▲0.1

問3(3) : お茶や汁物等でむせることがありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	427 (17.0)	459 (19.0)	571 (21.8)	2.8
いいえ	2040 (81.1)	1911 (79.1)	2022 (77.1)	▲2.0
無回答	47 (1.9)	45 (1.9)	31 (1.2)	▲0.7

問3(4) : 口の渇きが気になりますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	602 (23.9)	566 (23.4)	654 (24.9)	1.5
いいえ	1847 (73.5)	1800 (74.5)	1927 (73.4)	▲1.1
無回答	65 (2.6)	49 (2.0)	43 (1.6)	▲0.4

問3(5) : 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	2193 (87.2)	2102 (87.0)	2312 (88.1)	1.1
いいえ	273 (10.9)	264 (10.9)	276 (10.5)	▲0.4
無回答	48 (1.9)	49 (2.0)	36 (1.4)	▲0.6

問3(6) : 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)
自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	298 (11.9)
自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	491 (19.5)
自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	1241 (49.4)
自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	323 (12.8)
無回答	161 (6.4)

7期	8期	9期
----	----	----

問3(6)：歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)(1つ〇)

回答者実数	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	262 (10.8)	288 (11.0)	0.2
自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	527 (21.8)	584 (22.3)	0.5
自分の歯は10～19本、かつ入れ歯を利用	409 (16.9)	449 (17.1)	0.2
自分の歯は10～19本、入れ歯の利用なし	229 (9.5)	245 (9.3)	▲0.2
自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用	699 (28.9)	743 (28.3)	▲0.6
自分の歯は10本未満、入れ歯の利用なし	122 (5.1)	139 (5.3)	0.2
無回答	167 (6.9)	176 (6.7)	▲0.2

※8期より選択肢変更

問3(6)①：噛み合わせは良いですか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1804 (71.8)	1803 (74.7)	1883 (71.8)	▲2.9
いいえ	590 (23.5)	499 (20.7)	637 (24.3)	3.6
無回答	120 (4.8)	113 (4.7)	104 (4.0)	▲0.7

問3(6)②：【問3(6)で「1.自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3.自分の歯は10～19本、かつ入れ歯を利用」「5.自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用」の方のみ】毎日入れ歯の手入れをしていますか(1つ〇)

回答者実数	1539 (100.0)	1370 (100.0)	1480 (100.0)	前期比較
はい	1358 (88.2)	1192 (87.0)	1301 (87.9)	0.9
いいえ	87 (5.7)	83 (6.1)	85 (5.7)	▲0.4
無回答	94 (6.1)	95 (6.9)	94 (6.4)	▲0.5

※8期より上記選択変更のため、条件が変更となっている。

「1.」「3.」「5.」の回答が対象となっているが、条件内容は一緒

問3(7)：現在、歯科医院を受診していますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	—	790 (32.7)	845 (32.2)	▲0.5
いいえ	—	1576 (65.3)	1750 (66.7)	1.4
無回答	—	49 (2.0)	29 (1.1)	▲0.9

※8期より問追加

問3(7)①：【問3(7)で「2.いいえ」の方のみ】歯科医院を受診していない理由は何ですか(いくつでも)

回答者実数	—	1576 (100.0)	1750 (100.0)	前期比較
忙しいから	—	98 (6.2)	115 (6.6)	0.4
行く必要がないから	—	912 (57.9)	952 (54.4)	▲3.5
移動手段がないから	—	46 (2.9)	38 (2.2)	▲0.7
近くに歯科医院がないから	—	20 (1.3)	31 (1.8)	0.5
病気や怪我、障がい等があるから	—	23 (1.5)	45 (2.6)	1.1
お金がかかるから	—	184 (11.7)	209 (11.9)	0.2
歯科医院が苦手だから	—	146 (9.3)	208 (11.9)	2.6
行くのが面倒だから	—	185 (11.7)	231 (13.2)	1.5
その他	—	150 (9.5)	197 (11.3)	1.8
無回答	—	75 (4.8)	99 (5.7)	0.9

※8期より問追加

7期	8期	9期
----	----	----

問3(8)：6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	378 (15.0)	377 (15.6)	492 (18.8)	3.2
いいえ	2047 (81.4)	1977 (81.9)	2077 (79.2)	▲2.7
無回答	89 (3.5)	61 (2.5)	55 (2.1)	▲0.4

問3(9)：どなたかと食事をとにもする機会がありますか(1つ○)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
毎日ある	1157 (46.0)	1178 (48.8)	1269 (48.4)	▲0.4
週に何度かある	396 (15.8)	289 (12.0)	308 (11.7)	▲0.3
月に何度かある	475 (18.9)	471 (19.5)	457 (17.4)	▲2.1
年に何度かある	202 (8.0)	190 (7.9)	234 (8.9)	1.0
ほとんどない	214 (8.5)	230 (9.5)	305 (11.6)	2.1
無回答	70 (2.8)	57 (2.4)	51 (1.9)	▲0.5

●毎日の生活について

7期	8期	9期
----	----	----

問4(1)：物忘れが多いと感じますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	955 (38.0)	877 (36.3)	970 (37.0)	0.7
いいえ	1511 (60.1)	1477 (61.2)	1610 (61.4)	0.2
無回答	48 (1.9)	61 (2.5)	44 (1.7)	▲0.8

問4(2)：自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	2231 (88.7)	2112 (87.5)	2280 (86.9)	▲0.6
いいえ	247 (9.8)	281 (11.6)	321 (12.2)	0.6
無回答	36 (1.4)	22 (0.9)	23 (0.9)	0.0

問4(3)：今日が何月何日かわからない時がありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	753 (30.0)	673 (27.9)	761 (29.0)	1.1
いいえ	1687 (67.1)	1710 (70.8)	1830 (69.7)	▲1.1
無回答	74 (2.9)	32 (1.3)	33 (1.3)	0.0

問4(4)：物をしまった場所がわからなくなることがありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1265 (50.3)	1261 (52.2)	1381 (52.6)	0.4
いいえ	1187 (47.2)	1100 (45.5)	1194 (45.5)	0.0
無回答	62 (2.5)	54 (2.2)	49 (1.9)	▲0.3

問4(5)：バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1815 (72.2)	1804 (74.7)	1901 (72.4)	▲2.3
できるけどしていない	304 (12.1)	265 (11.0)	394 (15.0)	4.0
できない	321 (12.8)	282 (11.7)	279 (10.6)	▲1.1
無回答	74 (2.9)	64 (2.7)	50 (1.9)	▲0.8

問4(6-1)：自分で食品・日用品の買物をしていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	2004 (79.7)	1950 (80.7)	2126 (81.0)	0.3
できるけどしていない	244 (9.7)	252 (10.4)	300 (11.4)	1.0
できない	197 (7.8)	170 (7.0)	161 (6.1)	▲0.9
無回答	69 (2.7)	43 (1.8)	37 (1.4)	▲0.4

7期	8期	9期
----	----	----

問4(6-2)：【(6-1)で「2.できるけどしていない」「3.できない」の方のみ】買い物しない、できない理由はなんですか。(いくつでも)

回答者実数	441 (100.0)	422 (100.0)	461 (100.0)	前期比較
近くに店がない	66 (15.0)	48 (11.4)	59 (12.8)	1.4
交通手段がない	61 (13.8)	46 (10.9)	67 (14.5)	3.6
家族等が買っている	320 (72.6)	342 (81.0)	357 (77.4)	▲3.6
外出したくない	41 (9.3)	16 (3.8)	29 (6.3)	2.5
身体的にできない(歩けない、息切れ等)	104 (23.6)	76 (18.0)	74 (16.1)	▲1.9
経済的理由	8 (1.8)	10 (2.4)	15 (3.3)	0.9
自分で買い物している	15 (3.4)	—	—	—
宅配を利用している。	13 (2.9)	13 (3.1)	24 (5.2)	2.1
その他	33 (7.5)	19 (4.5)	22 (4.8)	0.3
無回答	24 (5.4)	20 (4.7)	28 (6.1)	1.4

問4(7)：自分で食事の用意をしていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1866 (74.2)	1761 (72.9)	1967 (75.0)	2.1
できるけどしていない	351 (14.0)	398 (16.5)	417 (15.9)	▲0.6
できない	238 (9.5)	217 (9.0)	212 (8.1)	▲0.9
無回答	59 (2.3)	39 (1.6)	28 (1.1)	▲0.5

問4(8)：自分で請求書の支払いをしていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	2020 (80.4)	1933 (80.0)	2083 (79.4)	▲0.6
できるけどしていない	259 (10.3)	275 (11.4)	336 (12.8)	1.4
できない	169 (6.7)	163 (6.7)	161 (6.1)	▲0.6
無回答	66 (2.6)	44 (1.8)	44 (1.7)	▲0.1

問4(9)：自分で預貯金の出し入れをしていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
できるし、している	1948 (77.5)	1906 (78.9)	2065 (78.7)	▲0.2
できるけどしていない	292 (11.6)	273 (11.3)	347 (13.2)	1.9
できない	223 (8.9)	205 (8.5)	192 (7.3)	▲1.2
無回答	51 (2.0)	31 (1.3)	20 (0.8)	▲0.5

問4(10)：年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1885 (75.0)	1972 (81.7)	2181 (83.1)	1.4
いいえ	554 (22.0)	409 (16.9)	413 (15.7)	▲1.2
無回答	75 (3.0)	34 (1.4)	30 (1.1)	▲0.3

問4(11)：新聞を読んでいますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1762 (70.1)	1767 (73.2)	1760 (67.1)	▲6.1
いいえ	686 (27.3)	614 (25.4)	837 (31.9)	6.5
無回答	66 (2.6)	34 (1.4)	27 (1.0)	▲0.4

7期	8期	9期
----	----	----

問4(12)：本や雑誌を読んでいますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1538 (61.2)	1593 (66.0)	1662 (63.3)	▲2.7
いいえ	907 (36.1)	780 (32.3)	931 (35.5)	3.2
無回答	69 (2.7)	42 (1.7)	31 (1.2)	▲0.5

問4(13)：健康についての記事や番組に関心がありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	2179 (86.7)	2134 (88.4)	2275 (86.7)	▲1.7
いいえ	282 (11.2)	248 (10.3)	320 (12.2)	1.9
無回答	53 (2.1)	33 (1.4)	29 (1.1)	▲0.3

問4(14)：友人の家を訪ねていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1526 (60.7)	1382 (57.2)	1254 (47.8)	▲9.4
いいえ	913 (36.3)	992 (41.1)	1333 (50.8)	9.7
無回答	75 (3.0)	41 (1.7)	37 (1.4)	▲0.3

問4(15)：家族や友人の相談にのっていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	1923 (76.5)	1826 (75.6)	1930 (73.6)	▲2.0
いいえ	506 (20.1)	524 (21.7)	644 (24.5)	2.8
無回答	85 (3.4)	65 (2.7)	50 (1.9)	▲0.8

問4(16)：病人を見舞うことができますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	2160 (85.9)	2085 (86.3)	2048 (78.0)	▲8.3
いいえ	292 (11.6)	285 (11.8)	521 (19.9)	8.1
無回答	62 (2.5)	45 (1.9)	55 (2.1)	0.2

問4(17)：若い人に自分から話しかけることがありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	2056 (81.8)	1937 (80.2)	2011 (76.6)	▲3.6
いいえ	404 (16.1)	435 (18.0)	575 (21.9)	3.9
無回答	54 (2.1)	43 (1.8)	38 (1.4)	▲0.4

問4(18)：趣味はありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
趣味あり	1785 (71.0)	1753 (72.6)	1859 (70.8)	▲1.8
思いつかない	536 (21.3)	539 (22.3)	656 (25.0)	2.7
無回答	193 (7.7)	123 (5.1)	109 (4.2)	▲0.9

問4(19)：生きがいがありますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
生きがいあり	1609 (64.0)	1581 (65.5)	1630 (62.1)	▲3.4
思いつかない	614 (24.4)	644 (26.7)	827 (31.5)	4.8
無回答	291 (11.6)	190 (7.9)	167 (6.4)	▲1.5

●地域での活動について

7期	8期	9期
----	----	----

問5(1)①：「ボランティアのグループ」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	26 (1.0)	31 (1.3)	24 (0.9)	▲0.4
週2~3回	47 (1.9)	51 (2.1)	30 (1.1)	▲1.0
週1回	23 (0.9)	27 (1.1)	33 (1.3)	0.2
月1~3回	78 (3.1)	93 (3.9)	74 (2.8)	▲1.1
年に数回	99 (3.9)	128 (5.3)	108 (4.1)	▲1.2
参加していない	1088 (43.3)	1152 (47.7)	1519 (57.9)	10.2
無回答	1153 (45.9)	933 (38.6)	836 (31.9)	▲6.7

問5(1)②：「スポーツ関係のグループやクラブ」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	72 (2.9)	63 (2.6)	52 (2.0)	▲0.6
週2~3回	123 (4.9)	136 (5.6)	128 (4.9)	▲0.7
週1回	94 (3.7)	79 (3.3)	66 (2.5)	▲0.8
月1~3回	97 (3.9)	111 (4.6)	90 (3.4)	▲1.2
年に数回	68 (2.7)	76 (3.1)	90 (3.4)	0.3
参加していない	998 (39.7)	1063 (44.0)	1375 (52.4)	8.4
無回答	1062 (42.2)	887 (36.7)	823 (31.4)	▲5.3

問5(1)③：「趣味関係のグループ」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	62 (2.5)	54 (2.2)	47 (1.8)	▲0.4
週2~3回	133 (5.3)	134 (5.5)	103 (3.9)	▲1.6
週1回	156 (6.2)	130 (5.4)	149 (5.7)	0.3
月1~3回	206 (8.2)	187 (7.7)	171 (6.5)	▲1.2
年に数回	82 (3.3)	116 (4.8)	107 (4.1)	▲0.7
参加していない	896 (35.6)	965 (40.0)	1302 (49.6)	9.6
無回答	979 (38.9)	829 (34.3)	745 (28.4)	▲5.9

問5(1)④：「学習・教養サークル」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	12 (0.5)	18 (0.7)	4 (0.2)	▲0.5
週2~3回	28 (1.1)	22 (0.9)	20 (0.8)	▲0.1
週1回	34 (1.4)	53 (2.2)	33 (1.3)	▲0.9
月1~3回	40 (1.6)	38 (1.6)	31 (1.2)	▲0.4
年に数回	54 (2.1)	61 (2.5)	39 (1.5)	▲1.0
参加していない	1101 (43.8)	1205 (49.9)	1582 (60.3)	10.4
無回答	1245 (49.5)	1018 (42.2)	915 (34.9)	▲7.3

7期	8期	9期
----	----	----

問5(1)⑤：「介護予防のための通いの場(ミニデイ、百歳体操、脳いきいきクラブ、元気あっぷジム、うるま男塾、高齢者交流サロン)」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	—	27 (1.1)	19 (0.7)	▲0.4
週2~3回	—	92 (3.8)	66 (2.5)	▲1.3
週1回	—	60 (2.5)	55 (2.1)	▲0.4
月1~3回	—	85 (3.5)	63 (2.4)	▲1.1
年に数回	—	33 (1.4)	17 (0.6)	▲0.8
参加していない	—	1217 (50.4)	1574 (60.0)	9.6
無回答	—	901 (37.3)	830 (31.6)	▲5.7

※8期より追加

問5(1)⑥：「老人クラブ」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	41 (1.6)	17 (0.7)	14 (0.5)	▲0.2
週2~3回	53 (2.1)	44 (1.8)	34 (1.3)	▲0.5
週1回	49 (1.9)	31 (1.3)	15 (0.6)	▲0.7
月1~3回	149 (5.9)	112 (4.6)	100 (3.8)	▲0.8
年に数回	113 (4.5)	112 (4.6)	73 (2.8)	▲1.8
参加していない	1064 (42.3)	1212 (50.2)	1559 (59.4)	9.2
無回答	1045 (41.6)	887 (36.7)	829 (31.6)	▲5.1

問5(1)⑦：「自治会」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	27 (1.1)	18 (0.7)	12 (0.5)	▲0.2
週2~3回	26 (1.0)	28 (1.2)	19 (0.7)	▲0.5
週1回	30 (1.2)	29 (1.2)	25 (1.0)	▲0.2
月1~3回	128 (5.1)	108 (4.5)	86 (3.3)	▲1.2
年に数回	269 (10.7)	315 (13.0)	231 (8.8)	▲4.2
参加していない	936 (37.2)	1035 (42.9)	1419 (54.1)	11.2
無回答	1098 (43.7)	882 (36.5)	832 (31.7)	▲4.8

問5(1)⑧：「収入のある仕事」にどのくらいの頻度で参加していますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
週4回以上	206 (8.2)	239 (9.9)	287 (10.9)	1.0
週2~3回	75 (3.0)	101 (4.2)	115 (4.4)	0.2
週1回	26 (1.0)	24 (1.0)	28 (1.1)	0.1
月1~3回	30 (1.2)	32 (1.3)	29 (1.1)	▲0.2
年に数回	40 (1.6)	46 (1.9)	49 (1.9)	0.0
参加していない	1002 (39.9)	1055 (43.7)	1313 (50.0)	6.3
無回答	1135 (45.1)	918 (38.0)	803 (30.6)	▲7.4

7期	8期	9期
----	----	----

問5(2)：地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
是非参加したい	297 (11.8)	221 (9.2)	223 (8.5)	▲0.7
参加してもよい	1113 (44.3)	1031 (42.7)	1132 (43.1)	0.4
参加したくない	882 (35.1)	815 (33.7)	988 (37.7)	4.0
既に参加している	—	136 (5.6)	84 (3.2)	▲2.4
無回答	222 (8.8)	212 (8.8)	197 (7.5)	▲1.3

※「既に参加している」は8期より追加

問5(3)：地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
是非参加したい	103 (4.1)	93 (3.9)	88 (3.4)	▲0.5
参加してもよい	718 (28.6)	707 (29.3)	797 (30.4)	1.1
参加したくない	1395 (55.5)	1272 (52.7)	1417 (54.0)	1.3
既に参加している	—	95 (3.9)	66 (2.5)	▲1.4
無回答	298 (11.9)	248 (10.3)	256 (9.8)	▲0.5

※「既に参加している」は8期より追加

●たすけあいについて

7期	8期	9期
----	----	----

問6(1)：あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
配偶者	966 (38.4)	1130 (46.8)	1182 (45.0)	▲1.8
同居の子ども	627 (24.9)	576 (23.9)	583 (22.2)	▲1.7
別居の子ども	982 (39.1)	851 (35.2)	921 (35.1)	▲0.1
兄弟姉妹・親戚・親・孫	1059 (42.1)	952 (39.4)	1018 (38.8)	▲0.6
近隣	306 (12.2)	165 (6.8)	166 (6.3)	▲0.5
友人	1087 (43.2)	1006 (41.7)	1087 (41.4)	▲0.3
その他	85 (3.4)	70 (2.9)	67 (2.6)	▲0.3
そのような人はいない	101 (4.0)	106 (4.4)	131 (5.0)	0.6
無回答	108 (4.3)	82 (3.4)	96 (3.7)	0.3

問6(2)：反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
配偶者	915 (36.4)	1099 (45.5)	1151 (43.9)	▲1.6
同居の子ども	566 (22.5)	552 (22.9)	546 (20.8)	▲2.1
別居の子ども	926 (36.8)	865 (35.8)	923 (35.2)	▲0.6
兄弟姉妹・親戚・親・孫	1093 (43.5)	1034 (42.8)	1105 (42.1)	▲0.7
近隣	325 (12.9)	203 (8.4)	188 (7.2)	▲1.2
友人	1082 (43.0)	997 (41.3)	1072 (40.9)	▲0.4
その他	70 (2.8)	60 (2.5)	59 (2.2)	▲0.3
そのような人はいない	167 (6.6)	136 (5.6)	169 (6.4)	0.8
無回答	155 (6.2)	127 (5.3)	125 (4.8)	▲0.5

問6(3)：あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
配偶者	1039 (41.3)	1275 (52.8)	1323 (50.4)	▲2.4
同居の子ども	838 (33.3)	770 (31.9)	753 (28.7)	▲3.2
別居の子ども	1121 (44.6)	1017 (42.1)	1074 (40.9)	▲1.2
兄弟姉妹・親戚・親・孫	714 (28.4)	630 (26.1)	648 (24.7)	▲1.4
近隣	53 (2.1)	28 (1.2)	19 (0.7)	▲0.5
友人	160 (6.4)	144 (6.0)	131 (5.0)	▲1.0
その他	77 (3.1)	68 (2.8)	67 (2.6)	▲0.2
そのような人はいない	134 (5.3)	127 (5.3)	150 (5.7)	0.4
無回答	98 (3.9)	73 (3.0)	98 (3.7)	0.7

問6(4)：反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
配偶者	982 (39.1)	1226 (50.8)	1285 (49.0)	▲1.8
同居の子ども	573 (22.8)	604 (25.0)	578 (22.0)	▲3.0
別居の子ども	667 (26.5)	668 (27.7)	714 (27.2)	▲0.5
兄弟姉妹・親戚・親・孫	832 (33.1)	793 (32.8)	818 (31.2)	▲1.6
近隣	61 (2.4)	50 (2.1)	37 (1.4)	▲0.7
友人	182 (7.2)	186 (7.7)	167 (6.4)	▲1.3
その他	60 (2.4)	71 (2.9)	56 (2.1)	▲0.8
そのような人はいない	416 (16.5)	321 (13.3)	393 (15.0)	1.7
無回答	276 (11.0)	167 (6.9)	192 (7.3)	0.4

7期	8期	9期
----	----	----

問6(5)：家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
自治会・老人クラブ	289 (11.5)	261 (10.8)	252 (9.6)	▲1.2
社会福祉協議会・民生委員	231 (9.2)	215 (8.9)	179 (6.8)	▲2.1
ケアマネジャー	210 (8.4)	178 (7.4)	179 (6.8)	▲0.6
医師・歯科医師・看護師	588 (23.4)	514 (21.3)	457 (17.4)	▲3.9
地域包括支援センター・役所・役場	325 (12.9)	369 (15.3)	363 (13.8)	▲1.5
その他	221 (8.8)	167 (6.9)	190 (7.2)	0.3
そのような人はいない	848 (33.7)	1006 (41.7)	1172 (44.7)	3.0
無回答	397 (15.8)	272 (11.3)	293 (11.2)	▲0.1

問6(6)：友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
毎日ある	247 (9.8)	224 (9.3)	183 (7.0)	▲2.3
週に何度かある	799 (31.8)	763 (31.6)	695 (26.5)	▲5.1
月に何度かある	725 (28.8)	725 (30.0)	740 (28.2)	▲1.8
年に何度かある	271 (10.8)	284 (11.8)	386 (14.7)	2.9
ほとんどない	299 (11.9)	313 (13.0)	524 (20.0)	7.0
無回答	173 (6.9)	106 (4.4)	96 (3.7)	▲0.7

問6(7)：この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
0人(いない)	248 (9.9)	272 (11.3)	460 (17.5)	6.2
1～2人	511 (20.3)	520 (21.5)	666 (25.4)	3.9
3～5人	622 (24.7)	586 (24.3)	637 (24.3)	0.0
6～9人	304 (12.1)	296 (12.3)	265 (10.1)	▲2.2
10人以上	663 (26.4)	629 (26.0)	496 (18.9)	▲7.1
無回答	166 (6.6)	112 (4.6)	100 (3.8)	▲0.8

問6(8)：よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
近所・同じ地域の人	1089 (43.3)	990 (41.0)	959 (36.5)	▲4.5
幼なじみ	406 (16.1)	401 (16.6)	391 (14.9)	▲1.7
学生時代の友人	576 (22.9)	618 (25.6)	611 (23.3)	▲2.3
仕事での同僚・元同僚	675 (26.8)	715 (29.6)	676 (25.8)	▲3.8
趣味や関心が同じ友人	868 (34.5)	820 (34.0)	774 (29.5)	▲4.5
ボランティア等の活動での友人	164 (6.5)	171 (7.1)	152 (5.8)	▲1.3
その他	225 (8.9)	151 (6.3)	138 (5.3)	▲1.0
いない	186 (7.4)	193 (8.0)	311 (11.9)	3.9
無回答	145 (5.8)	123 (5.1)	115 (4.4)	▲0.7

●健康について

7期	8期	9期
----	----	----

問7(1)：現在のあなたの健康状態はいかがですか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
とてもよい	338 (13.4)	345 (14.3)	316 (12.0)	▲2.3
まあよい	1437 (57.2)	1413 (58.5)	1579 (60.2)	1.7
あまりよくない	524 (20.8)	490 (20.3)	555 (21.2)	0.9
よくない	88 (3.5)	102 (4.2)	108 (4.1)	▲0.1
無回答	127 (5.1)	65 (2.7)	66 (2.5)	▲0.2

問7(2)：あなたは、現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
0点	17 (0.7)	25 (1.0)	18 (0.7)	▲0.3
1点	10 (0.4)	21 (0.9)	15 (0.6)	▲0.3
2点	23 (0.9)	20 (0.8)	27 (1.0)	0.2
3点	64 (2.5)	68 (2.8)	94 (3.6)	0.8
4点	80 (3.2)	70 (2.9)	87 (3.3)	0.4
5点	521 (20.7)	478 (19.8)	501 (19.1)	▲0.7
6点	212 (8.4)	169 (7.0)	182 (6.9)	▲0.1
7点	249 (9.9)	283 (11.7)	351 (13.4)	1.7
8点	419 (16.7)	447 (18.5)	451 (17.2)	▲1.3
9点	191 (7.6)	204 (8.4)	241 (9.2)	0.8
10点	501 (19.9)	487 (20.2)	488 (18.6)	▲1.6
無回答	227 (9.0)	143 (5.9)	169 (6.4)	0.5

問7(2)まとめ

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
0点	17 (0.7)	25 (1.0)	18 (0.7)	▲0.3
1点～3点	97 (3.9)	109 (4.5)	136 (5.2)	0.7
4点～6点	813 (32.3)	717 (29.7)	770 (29.3)	▲0.4
7点～9点	859 (34.2)	934 (38.7)	1043 (39.7)	1.0
10点	501 (19.9)	487 (20.2)	488 (18.6)	▲1.6
無回答	227 (9.0)	143 (5.9)	169 (6.4)	0.5

問7(3)：日頃外出したり、誰かが訪ねてくるなど、人とふれあう機会はありますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	—	2062 (85.4)	2138 (81.5)	▲3.9
いいえ	—	297 (12.3)	432 (16.5)	4.2
無回答	—	56 (2.3)	54 (2.1)	▲0.2

※8期で設問追加

7期	8期	9期
----	----	----

問7(4)：【問7(3)で「1. はい」の方のみ】人とふれあう機会はどれくらいありますか(1つ〇)

回答者実数	—	2062 (100.0)	2138 (100.0)	前期比較
毎日	—	468 (22.7)	417 (19.5)	▲3.2
週2～3回くらい	—	843 (40.9)	844 (39.5)	▲1.4
週1回くらい	—	421 (20.4)	518 (24.2)	3.8
月1回くらい	—	274 (13.3)	315 (14.7)	1.4
無回答	—	56 (2.7)	44 (2.1)	▲0.6

※8期で設問追加

問7(5)：日常生活をしていて、孤独感がありますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
よく感じる	—	151 (6.3)	156 (5.9)	▲0.4
ときどき感じる	—	583 (24.1)	687 (26.2)	2.1
あまり感じない	—	865 (35.8)	927 (35.3)	▲0.5
ほとんど感じない	—	735 (30.4)	783 (29.8)	▲0.6
無回答	—	81 (3.4)	71 (2.7)	▲0.7

※8期で設問追加

問7(6)：この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	892 (35.5)	750 (31.1)	856 (32.6)	1.5
いいえ	1449 (57.6)	1569 (65.0)	1672 (63.7)	▲1.3
無回答	173 (6.9)	96 (4.0)	96 (3.7)	▲0.3

問7(7)：この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	590 (23.5)	479 (19.8)	586 (22.3)	2.5
いいえ	1742 (69.3)	1828 (75.7)	1935 (73.7)	▲2.0
無回答	182 (7.2)	108 (4.5)	103 (3.9)	▲0.6

問7(8)：お酒は飲みますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
ほぼ毎日飲む	218 (8.7)	286 (11.8)	352 (13.4)	1.6
時々飲む	447 (17.8)	427 (17.7)	423 (16.1)	▲1.6
ほとんど飲まない	643 (25.6)	586 (24.3)	672 (25.6)	1.3
もともと飲まない	1096 (43.6)	1052 (43.6)	1134 (43.2)	▲0.4
無回答	110 (4.4)	64 (2.7)	43 (1.6)	▲1.1

問7(9)：タバコは吸っていますか(1つ〇)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
ほぼ毎日吸っている	178 (7.1)	178 (7.4)	212 (8.1)	0.7
時々吸っている	41 (1.6)	46 (1.9)	42 (1.6)	▲0.3
吸っていたがやめた	567 (22.6)	599 (24.8)	666 (25.4)	0.6
もともと吸っていない	1630 (64.8)	1533 (63.5)	1665 (63.5)	0.0
無回答	98 (3.9)	59 (2.4)	39 (1.5)	▲0.9

7期	8期	9期
----	----	----

問7(10)：現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
ない	368 (14.6)	390 (16.1)	397 (15.1)	▲1.0
高血圧	1159 (46.1)	1139 (47.2)	1280 (48.8)	1.6
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	73 (2.9)	81 (3.4)	80 (3.0)	▲0.4
心臓病	189 (7.5)	231 (9.6)	253 (9.6)	0.0
糖尿病	308 (12.3)	326 (13.5)	394 (15.0)	1.5
高脂血症(脂質異常)	187 (7.4)	239 (9.9)	280 (10.7)	0.8
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	114 (4.5)	129 (5.3)	131 (5.0)	▲0.3
胃腸・肝臓・胆のうの病気	110 (4.4)	96 (4.0)	87 (3.3)	▲0.7
腎臓・前立腺の病気	162 (6.4)	177 (7.3)	176 (6.7)	▲0.6
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	338 (13.4)	272 (11.3)	275 (10.5)	▲0.8
外傷(転倒・骨折等)	100 (4.0)	97 (4.0)	79 (3.0)	▲1.0
がん(悪性新生物)	58 (2.3)	80 (3.3)	94 (3.6)	0.3
血液・免疫の病気	19 (0.8)	24 (1.0)	33 (1.3)	0.3
うつ病	37 (1.5)	35 (1.4)	27 (1.0)	▲0.4
認知症(アルツハイマー病等)	34 (1.4)	23 (1.0)	33 (1.3)	0.3
パーキンソン病	18 (0.7)	12 (0.5)	10 (0.4)	▲0.1
目の病気	413 (16.4)	447 (18.5)	424 (16.2)	▲2.3
耳の病気	178 (7.1)	193 (8.0)	181 (6.9)	▲1.1
その他	253 (10.1)	246 (10.2)	279 (10.6)	0.4
無回答	195 (7.8)	142 (5.9)	133 (5.1)	▲0.8

問7(11)：現在、病院を受診していますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	—	1885 (78.1)	2084 (79.4)	1.3
いいえ	—	432 (17.9)	452 (17.2)	▲0.7
無回答	—	98 (4.1)	88 (3.4)	▲0.7

※8期で設問追加

問7(11)①：【問7(11)で「2.いいえ」の方のみ】病院を受診していない理由はなんですか(いくつでも)

回答者実数	—	432 (100.0)	452 (100.0)	前期比較
忙しいから	—	22 (5.1)	18 (4.0)	▲1.1
行く必要がないから	—	303 (70.1)	347 (76.8)	6.7
移動手段がないから	—	2 (0.5)	7 (1.5)	1.0
近くに病院がないから	—	1 (0.2)	4 (0.9)	0.7
病気や怪我、障がい等があるから	—	1 (0.2)	4 (0.9)	0.7
お金がかかるから	—	36 (8.3)	35 (7.7)	▲0.6
病院が苦手だから	—	35 (8.1)	28 (6.2)	▲1.9
行くのが面倒だから	—	26 (6.0)	33 (7.3)	1.3
その他	—	26 (6.0)	25 (5.5)	▲0.5
無回答	—	31 (7.2)	30 (6.6)	▲0.6

※8期で設問追加

●認知症にかかる相談窓口の把握について

7期	8期	9期
----	----	----

問 8(1) : 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	—	283 (11.7)	274 (10.4)	▲1.3
いいえ	—	1993 (82.5)	2190 (83.5)	1.0
無回答	—	139 (5.8)	160 (6.1)	0.3

※8期で設問追加

問 8(2) : 認知症に関する相談窓口を知っていますか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
はい	—	581 (24.1)	534 (20.4)	▲3.7
いいえ	—	1679 (69.5)	1950 (74.3)	4.8
無回答	—	155 (6.4)	140 (5.3)	▲1.1

※8期で設問追加

●その他（うるま市独自の設問）

7期	8期	9期
----	----	----

問9(1)：生活の中で支援を望むことはありますか(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
話し相手	255 (10.1)	171 (7.1)	138 (5.3)	▲1.8
ときどき声をかけてほしい	186 (7.4)	169 (7.0)	115 (4.4)	▲2.6
買い物の支援(買ってほしい)	130 (5.2)	110 (4.6)	84 (3.2)	▲1.4
調理の支援	86 (3.4)	80 (3.3)	60 (2.3)	▲1.0
配食サービス(食事の提供)	93 (3.7)	90 (3.7)	89 (3.4)	▲0.3
みんなで食事をする機会(会食など)	113 (4.5)	112 (4.6)	69 (2.6)	▲2.0
移動の支援(送迎など)	167 (6.6)	177 (7.3)	128 (4.9)	▲2.4
簡単な生活支援(ゴミ出し、掃除など)	116 (4.6)	102 (4.2)	90 (3.4)	▲0.8
庭の手入れ、片付け(台風前後など)	302 (12.0)	287 (11.9)	247 (9.4)	▲2.5
緊急時の通報システム	223 (8.9)	253 (10.5)	199 (7.6)	▲2.9
金銭管理の支援(成年後見制度など)	21 (0.8)	24 (1.0)	22 (0.8)	▲0.2
その他	270 (10.7)	207 (8.6)	26 (1.0)	▲7.6
特にない	—	—	1646 (62.7)	—
無回答	1354 (53.9)	1433 (59.3)	310 (11.8)	▲47.5

※「特にない」は9期より追加

問9(2)：健康づくりや介護予防のために支援してほしいことはなんですか(いくつでも)

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
自宅でできる健康体操を教えてください	405 (16.1)	348 (14.4)	359 (13.7)	▲0.7
介護予防のための情報がほしい	327 (13.0)	270 (11.2)	262 (10.0)	▲1.2
認知症に関する情報がほしい	283 (11.3)	250 (10.4)	275 (10.5)	0.1
運動できる場や運動する機会がほしい	323 (12.8)	288 (11.9)	336 (12.8)	0.9
いっしょに健康づくりする仲間を教えてください	183 (7.3)	144 (6.0)	160 (6.1)	0.1
その他	67 (2.7)	39 (1.6)	46 (1.8)	0.2
特に必要ない	1073 (42.7)	1226 (50.8)	1425 (54.3)	3.5
無回答	515 (20.5)	400 (16.6)	307 (11.7)	▲4.9

問9(3)①：「地域包括支援センター」をご存知ですか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
知っている(利用したことがある)	—	280 (11.6)	341 (13.0)	1.4
知っている(利用したことはない)	—	726 (30.1)	805 (30.7)	0.6
知らない	—	1236 (51.2)	1324 (50.5)	▲0.7
無回答	—	173 (7.2)	154 (5.9)	▲1.3

※8期で設問追加

問9(3)②：「ふれあい総合相談支援センター(市社協)」をご存知ですか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
知っている(利用したことがある)	—	105 (4.3)	97 (3.7)	▲0.6
知っている(利用したことはない)	—	727 (30.1)	674 (25.7)	▲4.4
知らない	—	1405 (58.2)	1684 (64.2)	6.0
無回答	—	178 (7.4)	169 (6.4)	▲1.0

※8期で設問追加

7期	8期	9期
----	----	----

問9(3)③：「民生委員・児童委員」をご存知ですか(1つ〇)

回答者実数	—	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
知っている(利用したことがある)	—	156 (6.5)	189 (7.2)	0.7
知っている(利用したことはない)	—	1401 (58.0)	1614 (61.5)	3.5
知らない	—	705 (29.2)	711 (27.1)	▲2.1
無回答	—	153 (6.3)	110 (4.2)	▲2.1

※8期で設問追加

問9(4)：もし、あなたに介護が必要になったら、どこで生活したいですか(1つ〇)

回答者実数	—	—	2624 (100.0)	前期比較
自宅	—	—	1013 (38.6)	—
介護施設(特別養護老人ホーム等)	—	—	499 (19.0)	—
病院	—	—	68 (2.6)	—
ケア付きの高齢者用住宅	—	—	289 (11.0)	—
その他	—	—	27 (1.0)	—
考えたことがない	—	—	605 (23.1)	—
無回答	—	—	123 (4.7)	—

※9期で設問追加

問9(5)：どこで最期を迎えたいですか(1つ〇)

回答者実数	—	—	2624 (100.0)	前期比較
自宅	—	—	1192 (45.4)	—
介護施設(特別養護老人ホーム等)	—	—	154 (5.9)	—
病院	—	—	298 (11.4)	—
ケア付きの高齢者用住宅	—	—	99 (3.8)	—
その他	—	—	29 (1.1)	—
考えたことがない	—	—	667 (25.4)	—
無回答	—	—	185 (7.1)	—

※9期で設問追加

問9(6)：人生の最期を迎えるにあたり、どのような不安がありますか(いくつでも)

回答者実数	—	—	2624 (100.0)	前期比較
財産のこと	—	—	399 (15.2)	—
家族・親族のこと	—	—	894 (34.1)	—
医療・介護のこと	—	—	606 (23.1)	—
葬儀・お墓のこと	—	—	508 (19.4)	—
遺言のこと	—	—	199 (7.6)	—
その他	—	—	68 (2.6)	—
特にない	—	—	910 (34.7)	—
無回答	—	—	159 (6.1)	—

※9期で設問追加

7期	8期	9期
----	----	----

問9(7)：人生会議を知っていますか(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
内容を知っており、家族・医師等と話し合ったことがある	—	—	123 (4.7)	—
内容は知っているが、家族・医師等と話し合ったことはない	—	—	200 (7.6)	—
聞いたことはあるが詳しい内容は知らない	—	—	469 (17.9)	—
知らない、聞いたこともない	—	—	1669 (63.6)	—
無回答	—	—	163 (6.2)	—

※9期で設問追加

問9(8)：エンディングノートを知っていますか(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
内容を知っており、エンディングノートを持っている	—	—	108 (4.1)	—
内容は知っているが、エンディングノートを持っていない	—	—	484 (18.4)	—
聞いたことはあるが詳しい内容は知らない	—	—	704 (26.8)	—
知らない、聞いたこともない	—	—	1198 (45.7)	—
無回答	—	—	130 (5.0)	—

※9期で設問追加

問9(9)：携帯電話(折りたたみ式、スマートフォン)：やタブレット等はお持ちですか(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
はい	—	—	2121 (80.8)	—
いいえ	—	—	373 (14.2)	—
無回答	—	—	130 (5.0)	—

※9期で設問追加

問9(9)①：どのようなアプリを使用していますか(いくつでも)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
LINE (ライン)	—	—	1012 (47.7)	—
Twitter (ツイッター)	—	—	29 (1.4)	—
Instagram (インスタグラム)	—	—	48 (2.3)	—
face book (フェイスブック)	—	—	65 (3.1)	—
Eメール	—	—	524 (24.7)	—
You Tube (ユーチューブ)	—	—	436 (20.6)	—
その他	—	—	176 (8.3)	—
使用していない	—	—	728 (34.3)	—
無回答	—	—	115 (5.4)	—

※9期で設問追加

7期	8期	9期
----	----	----

【新型コロナウイルス禍の前と現在で、ご自身(またはご家族)の日常生活に悪影響について】

問9(10)①：からだの健康(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	91 (3.5)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	559 (21.3)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	745 (28.4)	—
全く悪影響はなかった	—	—	795 (30.3)	—
無回答	—	—	434 (16.5)	—

※9期で設問追加

問9(10)②：こころの健康(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	87 (3.3)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	483 (18.4)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	797 (30.4)	—
全く悪影響はなかった	—	—	784 (29.9)	—
無回答	—	—	473 (18.0)	—

※9期で設問追加

問9(10)③：仕事・趣味・生きがい活動の制限(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	118 (4.5)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	715 (27.2)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	683 (26.0)	—
全く悪影響はなかった	—	—	658 (25.1)	—
無回答	—	—	450 (17.1)	—

※9期で設問追加

問9(10)④：家族や親族とのつながり(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	159 (6.1)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	841 (32.1)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	621 (23.7)	—
全く悪影響はなかった	—	—	604 (23.0)	—
無回答	—	—	399 (15.2)	—

※9期で設問追加

問9(10)⑤：友人・知人とのつながり(1つ〇)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	152 (5.8)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	845 (32.2)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	627 (23.9)	—
全く悪影響はなかった	—	—	571 (21.8)	—
無回答	—	—	429 (16.3)	—

※9期で設問追加

7期	8期	9期
----	----	----

問9(10)⑥：地域活動への参加(1つ○)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	120 (4.6)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	539 (20.5)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	602 (22.9)	—
全く悪影響はなかった	—	—	805 (30.7)	—
無回答	—	—	558 (21.3)	—

※9期で設問追加

問9(10)⑦：外出の制限(1つ○)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	123 (4.7)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	754 (28.7)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	685 (26.1)	—
全く悪影響はなかった	—	—	638 (24.3)	—
無回答	—	—	424 (16.2)	—

※9期で設問追加

問9(10)⑧：経済面(1つ○)

回答者実数	7期	8期	9期	前期比較
回答者実数	—	—	2624 (100.0)	—
深刻な悪影響があった	—	—	168 (6.4)	—
ある程度の悪影響があった	—	—	515 (19.6)	—
あまり悪影響はなかった	—	—	796 (30.3)	—
全く悪影響はなかった	—	—	698 (26.6)	—
無回答	—	—	447 (17.0)	—

※9期で設問追加

●リスク判定

7期	8期	9期
----	----	----

二次予防

回答者実数	2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
リスクあり (総合事業対象者)	824 (32.8)	686 (28.4)	865 (33.0)	4.6
リスクなし (一般高齢者)	1690 (67.2)	1565 (64.8)	1446 (55.1)	▲9.7
判定不能	0 (0.0)	164 (6.8)	313 (11.9)	5.1

リスク判定

回答者実数		2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
運動器の機能低下	リスクあり	523 (20.8)	435 (18.0)	451 (17.2)	▲0.8
	リスクなし	1954 (77.7)	1923 (79.6)	2115 (80.6)	1.0
	判定不能	37 (1.5)	57 (2.4)	58 (2.2)	▲0.2
転倒リスク	リスクあり	737 (29.3)	692 (28.7)	808 (30.8)	2.1
	リスクなし	1734 (69.0)	1694 (70.1)	1790 (68.2)	▲1.9
	判定不能	43 (1.7)	29 (1.2)	26 (1.0)	▲0.2
閉じこもり傾向	リスクあり	601 (23.9)	468 (19.4)	672 (25.6)	6.2
	リスクなし	1858 (73.9)	1918 (79.4)	1910 (72.8)	▲6.6
	判定不能	55 (2.2)	29 (1.2)	42 (1.6)	0.4
低栄養の傾向	リスクあり	20 (0.8)	17 (0.7)	30 (1.1)	0.4
	リスクなし	2420 (96.3)	2340 (96.9)	2415 (92.0)	▲4.9
	判定不能	74 (2.9)	58 (2.4)	179 (6.8)	4.4
口腔機能低下	リスクあり	504 (20.0)	488 (20.2)	596 (22.7)	2.5
	リスクなし	1946 (77.4)	1882 (77.9)	1978 (75.4)	▲2.5
	判定不能	64 (2.5)	45 (1.9)	50 (1.9)	0.0
うつ傾向	リスクあり	998 (39.7)	843 (34.9)	968 (36.9)	2.0
	リスクなし	1333 (53.0)	1458 (60.4)	1544 (58.8)	▲1.6
	判定不能	183 (7.3)	114 (4.7)	112 (4.3)	▲0.4
認知機能低下(国設定)	リスクあり	955 (38.0)	877 (36.3)	970 (37.0)	0.7
	リスクなし	1511 (60.1)	1477 (61.2)	1610 (61.4)	0.2
	判定不能	48 (1.9)	61 (2.5)	44 (1.7)	▲0.8
認知機能低下(独自設定)	リスクあり	1265 (50.3)	1261 (52.2)		—
	リスクなし	1187 (47.2)	1100 (45.5)		—
	判定不能	62 (2.5)	54 (2.2)		—

7期	8期	9期
----	----	----

回答者実数		2514 (100.0)	2415 (100.0)	2624 (100.0)	前期比較
IADLの低下	高い	1888 (75.1)	1857 (76.9)	2061 (78.5)	1.6
	やや低い	225 (8.9)	209 (8.7)	213 (8.1)	▲0.6
	低い	254 (10.1)	217 (9.0)	227 (8.7)	▲0.3
	判定不能	147 (5.8)	132 (5.5)	123 (4.7)	▲0.8
虚弱	リスクあり	317 (12.6)	295 (12.2)		—
	リスクなし	2106 (83.8)	2059 (85.3)		—
	判定不能	91 (3.6)	61 (2.5)		—
知的能動性	高い	1081 (43.0)	1176 (48.7)	1189 (45.3)	▲3.4
	やや低い	547 (21.8)	610 (25.3)	675 (25.7)	0.4
	低い	751 (29.9)	543 (22.5)	681 (26.0)	3.5
	判定不能	135 (5.4)	86 (3.6)	79 (3.0)	▲0.6
社会能動性	高い	1261 (50.2)	1113 (46.1)	965 (36.8)	▲9.3
	やや低い	577 (23.0)	590 (24.4)	677 (25.8)	1.4
	低い	546 (21.7)	594 (24.6)	854 (32.5)	7.9
	判定不能	130 (5.2)	118 (4.9)	128 (4.9)	0.0
老研指標総合評価	高い	1566 (62.3)	1558 (64.5)		—
	やや低い	396 (15.8)	355 (14.7)		—
	低い	381 (15.2)	338 (14.0)		—
	判定不能	171 (6.8)	164 (6.8)		—

第 9 期

★高齢者介護予防・日常生活把握調査★
【 調 査 票 】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れて、
12月5日（月）までにポストに投函してください。

記 入 日	令和	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入				
(あて名のご本人からみた続柄_____)				
3. その他				

※以下は**あて名のご本人の情報**を記入してください。

年齢・性別	() 歳	男 ・ 女
生 年 月 日	明治・大正・昭和	年 月 日

<お問い合わせ先> うるま市役所 介護長寿課 地域支援係
電話：098-973-3208

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、市内にお住まいの高齢者の状況などを把握し、介護予防の取り組みなどを検討するために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、本市の介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また、ご回答いただいた情報については、本市で適切に管理いたします。
- ただし、本調査で得られた情報は、厚生労働省に登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)
4. 配偶者以外と2人暮らし
5. 3人以上の同居世帯
6. その他 ()

【(1)において「4. 配偶者以外と2人暮らし」「5. 3人以上の同居世帯」「6. その他」と回答した方のみ】

① 同居されている方はどなたですか

1. 配偶者(夫、妻) 2. 息子 3. 娘 4. 子の配偶者
5. 孫 6. 兄弟姉妹 7. その他 ()

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 2. 心臓病 3. がん(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等) 5. 関節の病気(リウマチ等)
6. 認知症(アルツハイマー病等) 7. パーキンソン病 8. 糖尿病
9. 腎疾患(透析) 10. 視覚・聴覚障害 11. 骨折・転倒
12. 脊椎損傷 13. 高齢による衰弱
14. その他 () 15. 不明

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

② 主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻) 2. 息子 3. 娘
4. 子の配偶者(嫁、むこ) 5. 孫 6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー 8. その他 ()

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

1. 持家（一戸建て） 2. 持家（集合住宅）
3. こうえいちんたいじゅうたく 公営賃貸住宅（県営団地、市営団地等） 4. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（一戸建て）
5. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（集合住宅、アパート等） 6. 借家
7. その他（社宅など）

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である
3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか

1. はい 2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

1. 病気 2. 障害(しょうがい のうそっちゅう こういしょう)(脳卒中の後遺症など)
3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障害(聞こえの問題など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない 10. その他()

(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク
4. 自動車(自分で運転) 5. 自動車(人に乗せてもらう) 6. 電車
7. 路線バス 8. 病院や施設のバス 9. 車いす
10. 電動車いす(カート) 11. 歩行器・シルバーカー 12. タクシー
13. その他()

問3 食べることについて**(1) 身長・体重**身長 cm体重 kg**(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか**

1. はい 2. いいえ

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか

1. はい 2. いいえ

(4) 口の^{かわ}渴きが気になりますか

1. はい 2. いいえ

(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

1. はい 2. いいえ

**(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)**

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
-
3. 自分の歯は10~19本、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は10~19本、入れ歯の利用なし
-
5. 自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用 6. 自分の歯は10本未満、入れ歯の利用なし

① 噛み合わせは良いですか

1. はい 2. いいえ

【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は10~19本、かつ入れ歯を利用」「5. 自分の歯は10本未満、かつ入れ歯を利用」の方のみ】**② 毎日入れ歯の手入れをしていますか**

1. はい 2. いいえ

(12) 本や雑誌ざっしを読んでいますか

1. はい

2. いいえ

(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか

1. はい

2. いいえ

(14) 友人の家を訪ねていますか

1. はい

2. いいえ

(15) 家族や友人の相談にのっていますか

1. はい

2. いいえ

(16) 病人を見舞うことができますか

1. はい

2. いいえ

(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか

1. はい

2. いいえ

(18) 趣味しゅみはありますか

1. 趣味あり → ()

2. 思いつかない

(19) 生きがいいきがいはありますか

1. 生きがいあり → ()

2. 思いつかない

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

**(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
同じ人には何度会っても1人と数えることとします**

1. 0人 (いない) 2. 1~2人 3. 3~5人
4. 6~9人 5. 10人以上

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ
3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人
7. その他 () 8. いない

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

**(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)**

とても 不幸											とても 幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	

(3) 日頃外出したり、誰かが訪ねてくるなど、人とふれあう機会がありますか

1. はい 2. いいえ

(4) [(3)で「1. はい」の方のみ] 人とふれあう機会はどれくらいありますか

1. 毎日 2. 週2~3回くらい 3. 週1回くらい 4. 月1回くらい

問9 その他

(1) 生活の中で支援を望むことはありますか (いくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 話し相手 | 2. ときどき声をかけてほしい |
| 3. 買い物の支援 (買ってきてほしい) | 4. 調理の支援 |
| 5. 配食サービス (食事の提供) | 6. みんなで食事をする機会 (会食など) |
| 7. 移動の支援 (送迎など) | 8. 簡単な生活支援 (ゴミ出し、掃除など) |
| 9. 庭の手入れ、片付け (台風前後など) | 10. 緊急時の通報システム |
| 11. 金銭管理の支援 (成年後見制度など) | 12. その他 () |
| 13. 特にない | |

(2) 健康づくりや介護予防のために支援してほしいことはなんですか (いくつでも)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 自宅でできる健康体操を教えてほしい | 2. 介護予防のための情報がほしい |
| 3. 認知症に関する情報がほしい | 4. 運動できる場や運動する機会がほしい |
| 5. いっしょに健康づくりする仲間を教えて欲しい | |
| 6. その他 () | 7. 特に必要ない |

(3) 次の相談先をご存知ですか

① 地域包括支援センター

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 知っている (利用したことがある) | 2. 知っている (利用したことはない) |
| 3. 知らない | |

② ふれあい総合相談支援センター・コミュニティソーシャルワーカー【CSW】(市社協)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 知っている (利用したことがある) | 2. 知っている (利用したことはない) |
| 3. 知らない | |

③ 民生委員・児童委員

1. 知っている（利用したことがある） 2. 知っている（利用したことはない）
3. 知らない

**(4) もし、あなたに介護が必要になったら、どこで生活したいですか
(あなたの考えに最も近いもの1つに○)**

1. 自宅 2. 介護施設（特別養護老人ホーム等）
3. 病院 4. ケア付きの高齢者用住宅
5. その他（ ） 6. 考えたことがない

※上記の番号を選んだ理由をお聞かせください

()

(5) どこで最期を迎えたいですか（あなたの考えに最も近いもの1つに○）

1. 自宅 2. 介護施設（特別養護老人ホーム等）
3. 病院 4. ケア付きの高齢者用住宅
5. その他（ ） 6. 考えたことがない

※上記の番号を選んだ理由をお聞かせください

()

(6) 人生の最期を迎えるにあたり、どのような不安がありますか(いくつでも)

1. 財産のこと(預貯金、資産、借入金、年金、保険等)
2. 家族・親族のこと
3. 医療・介護のこと(健康管理、告知・延命処置、介護等)
4. 葬儀・お墓のこと
5. 遺言のこと(遺産相続、遺言書)
6. その他()
7. 特にない

(7) 人生会議を知っていますか

※人生会議とは、人生の最終段階においてどんな治療やケアを受けたいかを家族や医師らと前もって話し合う取り組みです。

1. 内容を知っており、家族・医師等と話し合ったことがある
2. 内容は知っているが、家族・医師等と話し合ったことはない
3. 聞いたことはあるが詳しい内容は知らない
4. 知らない、聞いたこともない

(8) エンディングノートを知っていますか

※エンディングノートとは、人生の最期を迎える時に備えて、大切な家族に向けて自分の気持や想い、希望などを書き留めておくノートです。

1. 内容を知っており、エンディングノートを持っている
2. 内容は知っているが、エンディングノートを持っていない
3. 聞いたことはあるが詳しい内容は知らない
4. 知らない、聞いたこともない

あなたが日頃困っていることやご意見、ご要望などがあればご自由にお書きください

■■■ 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました ■■■

第4章 うるま市在宅介護実態調査結果報告

1. 調査の目的

在宅で介護を受けている高齢者について、介護の実態や介護者の就労状況等を把握し、利用している介護サービスや要介護度、世帯構成などとの集計を行うことで、今後必要とされる支援内容や、介護者の介護離職防止を念頭に置いたサービス展開等を検討することを目的に調査を実施。

調査は国から示された調査票をもとに一部設問を追加して実施。調査件数は、国から各市町村 600 件程度実施することと示されている。(地域の実情に応じて調査数は設定する)

2. 調査の概要

調査実施期間：令和4年11月～令和5年1月

調査方法：郵送による配布・回収

調査対象者：在宅で生活をしている要支援・要介護を受けている方のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける(受けた)方。(住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅に入居している方を含む)

有効回答数：467件(配布数：1,200件 回収率38.9%)

調査内容：
・要介護者と介護者の状況
・介護者の就労状況
・行っている介護の内容
・就労と介護の継続について
・サービスの利用状況
・新型コロナウイルス感染症の影響
・施設入所の意向

3. 本報告の構成

本報告では、在宅介護実態調査の集計結果より、主な分析項目を全国(令和2年版「在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)【10万人以上30万人未満】)と比較しながら、市の状況把握を行っている。

4. 報告書の見方

- 図表中の「n数(number of case)」は集計対象者総数あるいは回答限定者設問の限定条件に該当する人を示しています。
- グラフ中の「%」は小数点第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問(1つだけに○をつけるもの)であっても合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるもの)は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、文字数が多い場合は要約して記載する場合があります。

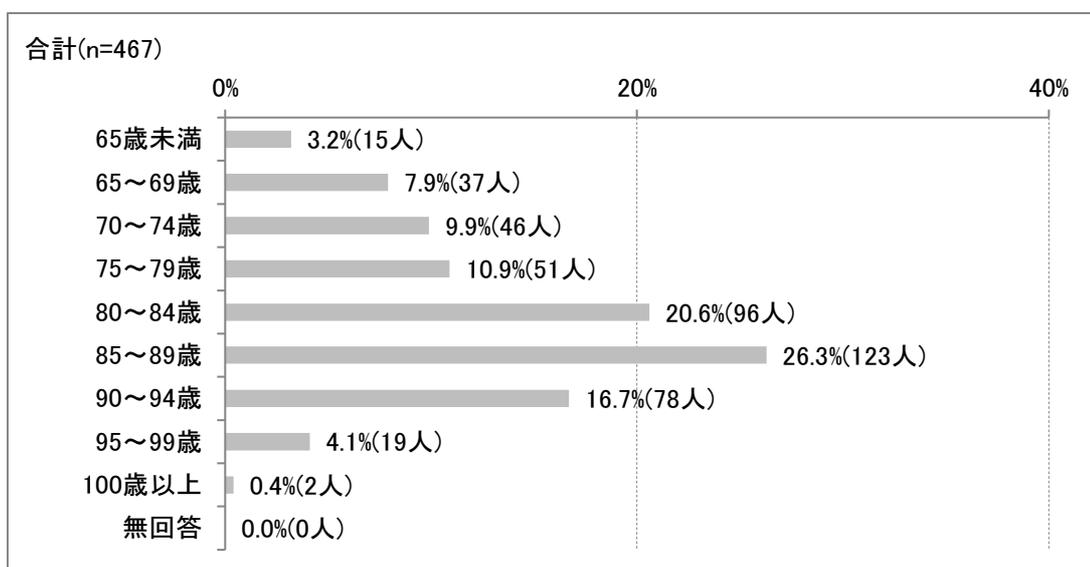
5. 調査結果より（国の分析項目を中心に掲載）

(1) 基本的な項目

① 年齢

本調査回答者（介護を受けている方）の年齢は、「85～89歳」が26.3%、「80～84歳」が20.6%で、他の年齢層より高い。これらを合わせると、80代が46.9%を占める。また、90代以上も合わせると68.1%となる。在宅生活を送る要介護者の約7割が80歳以上であることがわかる。

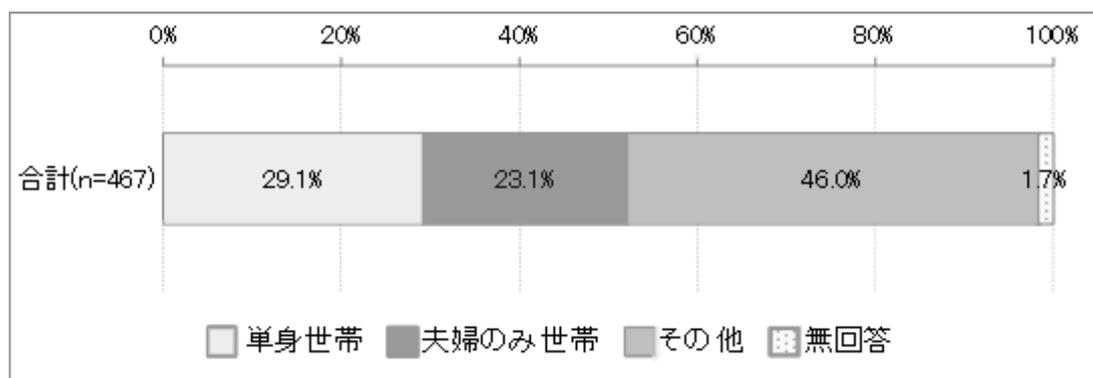
年齢



② 世帯類型

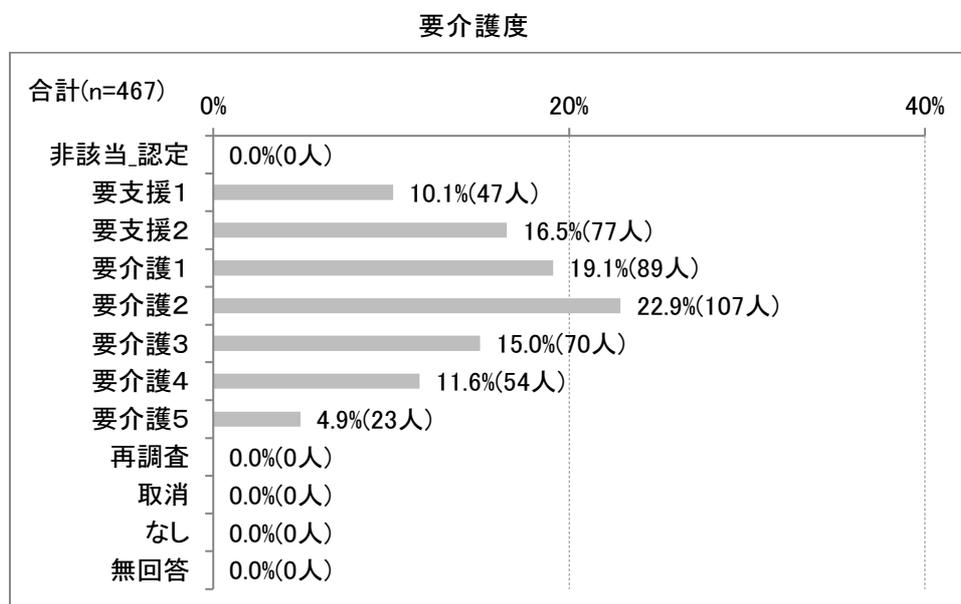
在宅介護を受けている高齢者の世帯構成を見ると、三世帯同居等に該当する「その他」が46.0%で最も高く、「単身世帯」は29.1%、「夫婦のみ世帯」は23.1%であった。

世帯類型



③要介護度

在宅介護者の要介護度を見ると、「要介護2」が22.9%で最も高く、「要介護1」が19.1%でこれに次いでいる。また、要介護3以上の中重度者は、31.5%である。

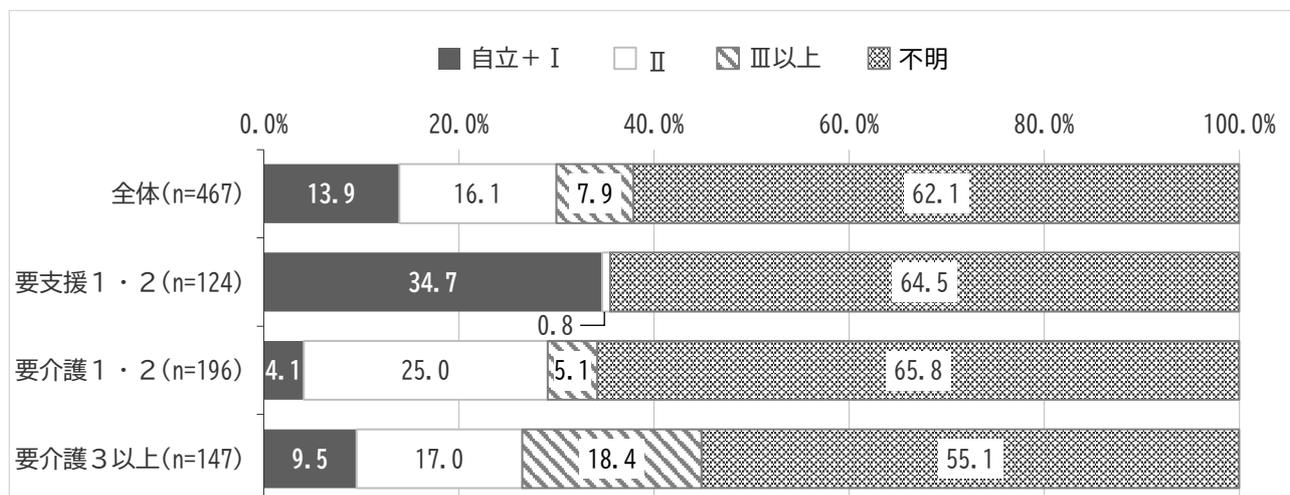


④認知高齢者自立度

在宅要介護者の認知自立度を見ると、「Ⅱ」が16.1%で最も高く、日常生活に支障を来たす症状・行動が多少あるが、誰かが注意していれば自立できる状態の人が多くっている。

要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「自立+Ⅰ」が34.7%を占めており、認知症状がない又は認知症状があっても日常生活では自立している人が非常に多い。しかし、「要介護1・2」になると「Ⅱ」が25.0%を占め、「要介護3以上」では「Ⅲ」が18.4%で最も高い。自立度の低下と要介護度の重度化は比例している。

要介護度別・認知高齢者自立度



⑤家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度を見ると、「ほぼ毎日」が50.0%であり、日常的に介護を行っている割合が半数を占めている。

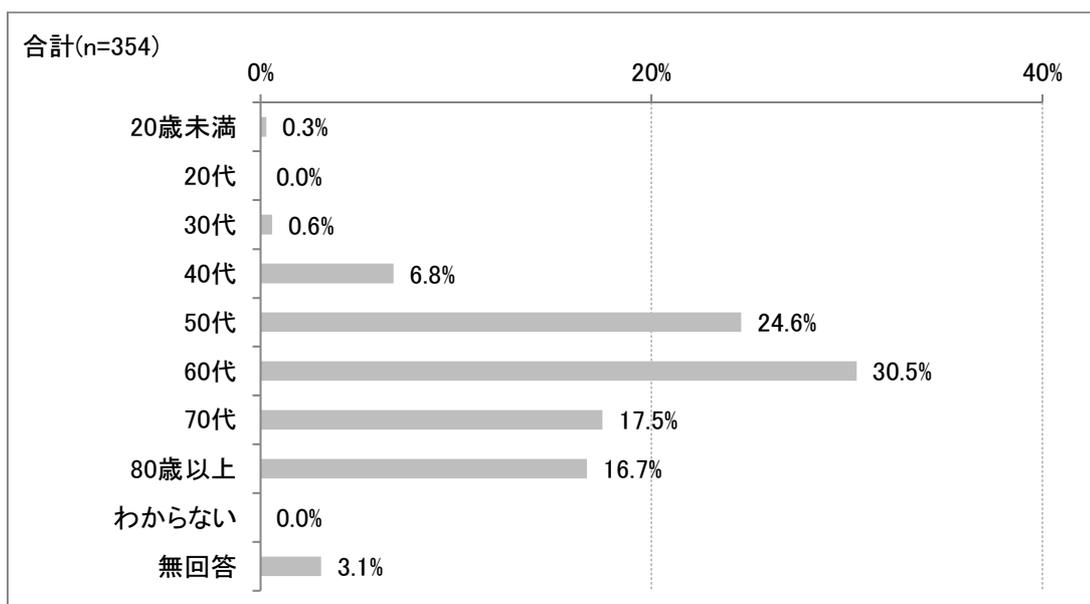


⑥主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が最も高く、30.5%、次いで「50代」の24.6%となっている。これら2つの年代を合わせると55.1%で、5割を超える。

本調査では、主な介護者の年齢に「18歳未満」の選択肢も設け、ヤングケアラーの状況把握も試みた。18歳未満という回答は0件であった。

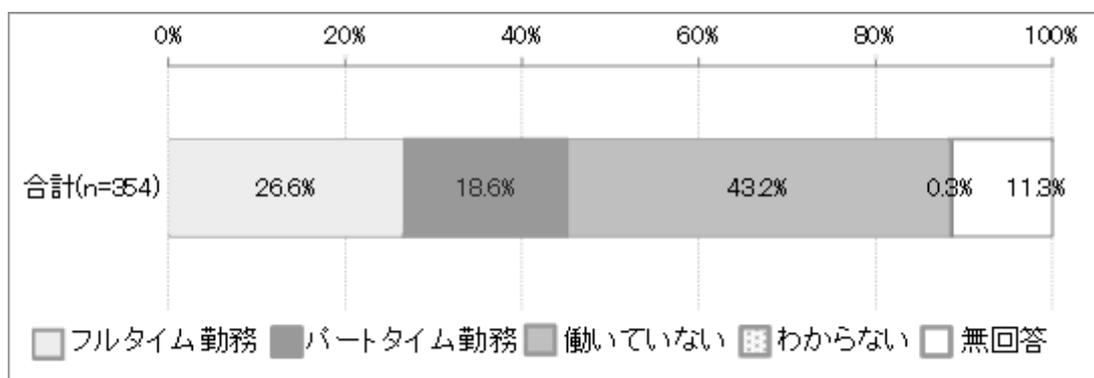
主な介護者の年齢



⑦主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態を見ると、「働いていない」が43.2%で最も高い。「フルタイム勤務」は26.6%、「パートタイム勤務」が18.6%であり、働いている介護者は45.2%となっている。

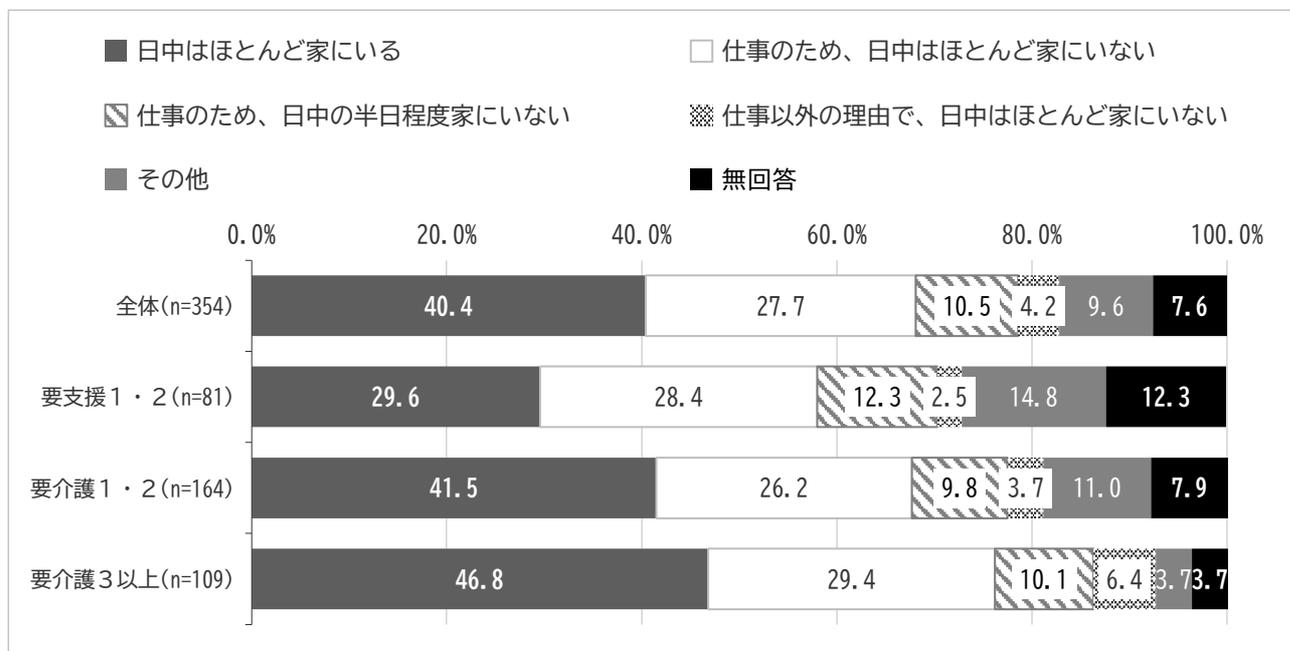
主な介護者の勤務形態



⑧介護者は日中、在宅しているか

介護者の日中の在宅状況を見ると、「日中はほとんど家にいる」が40.4%で最も高いものの、「家にはいない」も42.4%あり、特に「仕事のため、日中はほとんど家にはいない」は27.7%であった。

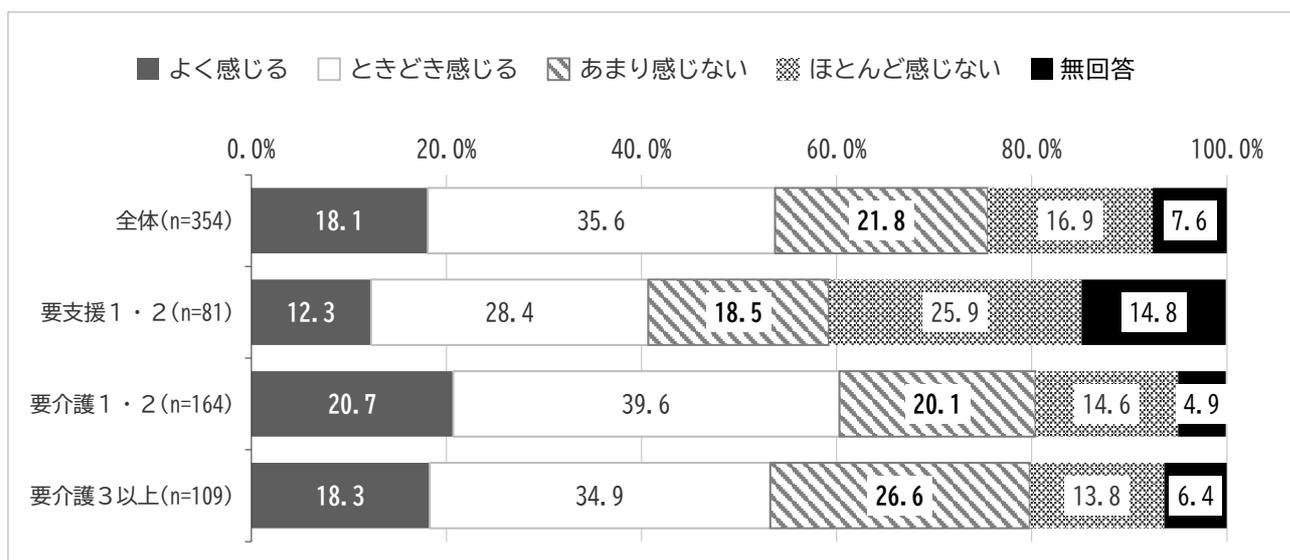
要介護度別・介護者は日中、在宅しているか



⑨介護者の孤独感

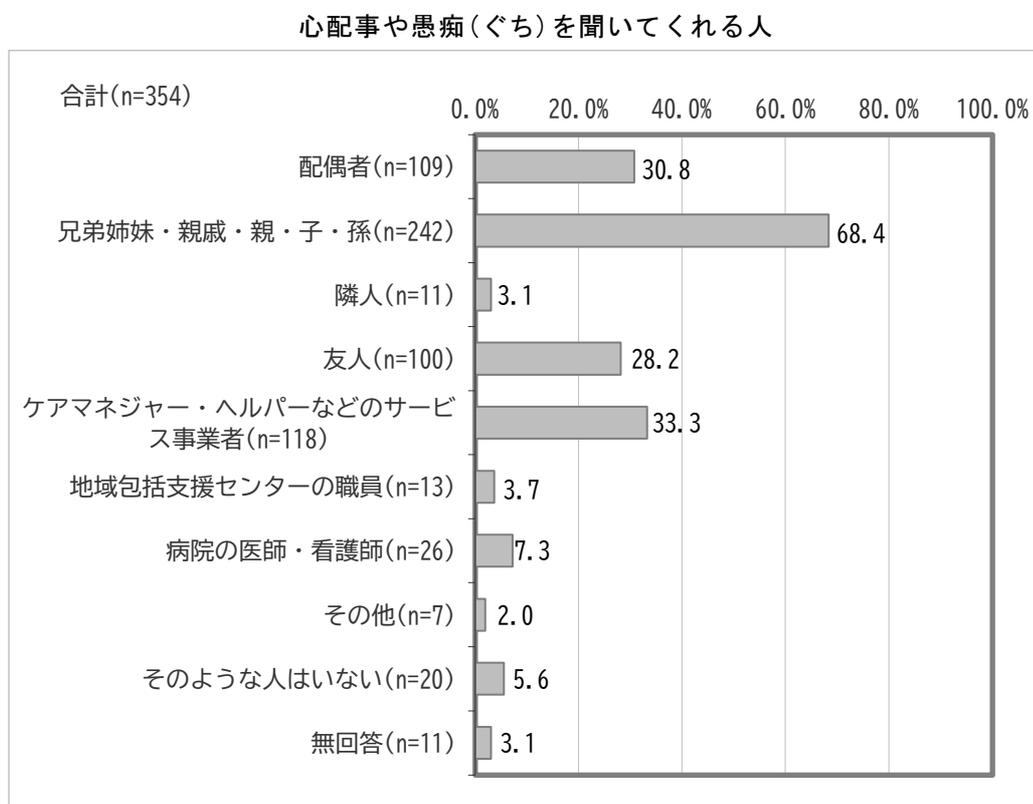
介護者の孤独感について見ると、「ときどき感じる」が35.6%で比較的高い。「よく感じる」と合わせると、孤独感がある介護者は53.7%となる。また、要介護度別に見ると、孤独感がある介護者は、要介護1・2で60.3%、要介護3以上は53.2%であり、要支援者に比べて高い。

要介護度別・介護者の孤独感



⑩心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人

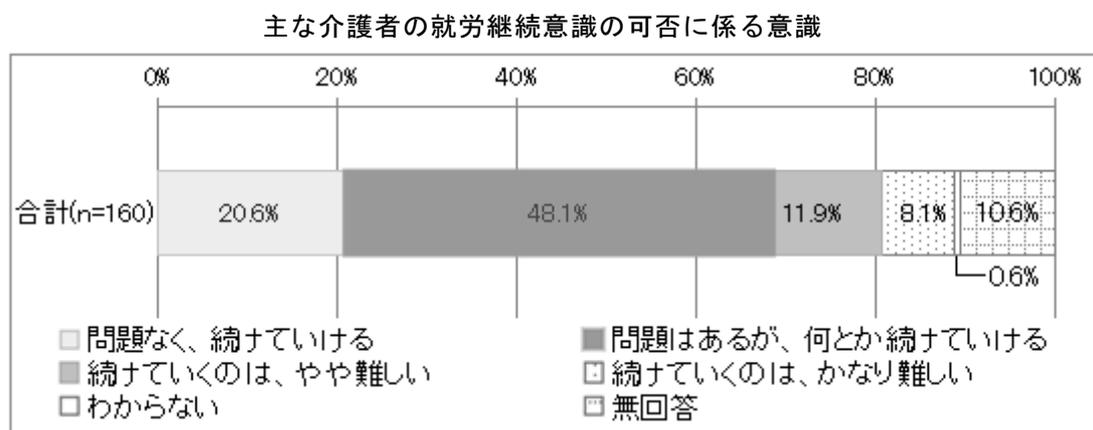
介護者の心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「兄弟姉妹・親戚・親・子・孫」が 68.4%で最も高く、次いで「ケアマネジャー・ヘルパーなどのサービス事業者」の 33.3%、「配偶者」の 30.8%と続いている。



⑪主な介護者の就労継続意識の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の意識を尋ねたところ、「問題はあるが、なんとか続けていける」が 48.1%で約半分を占めている。「問題なく続けていける」は 20.6%であり、これら2つを合わせると、継続できるという回答が7割弱となっている。

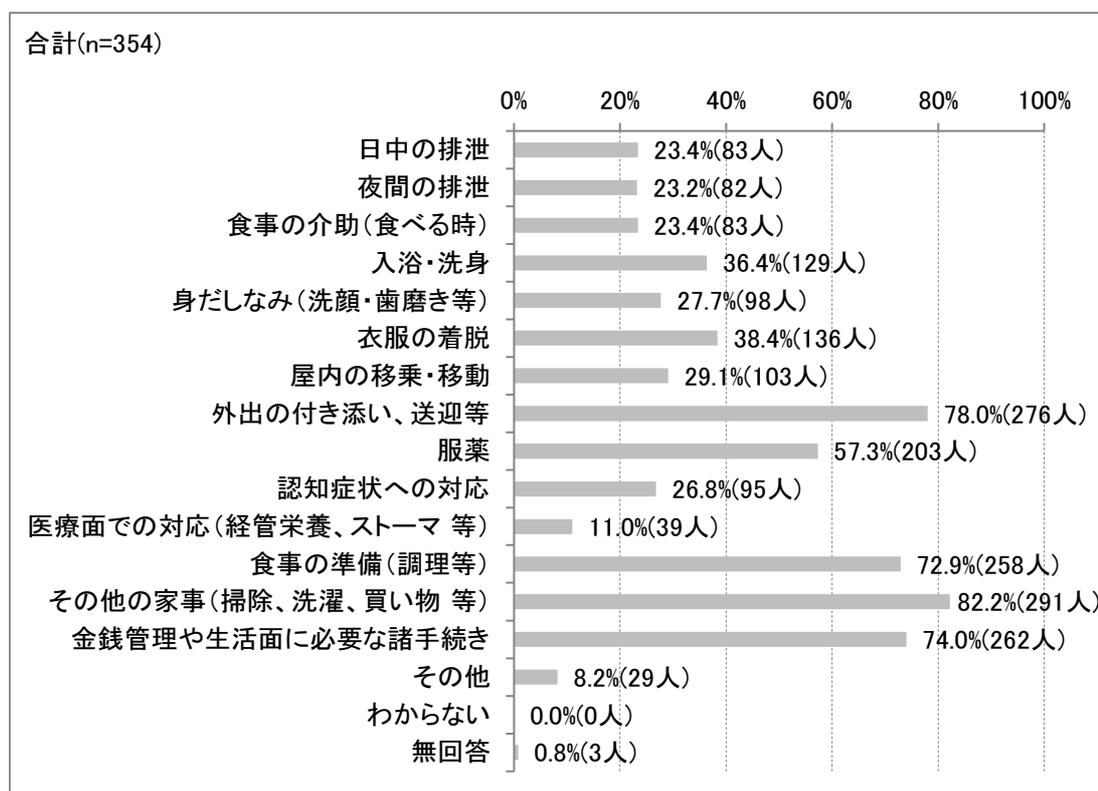
「続けていくのは、やや難しい」が 11.9%、「続けていくのは、かなり難しい」が 8.1%であり、就労継続が困難と考えている介護者は 20.0%となっている。



⑫主な介護者の方が行っている介護等

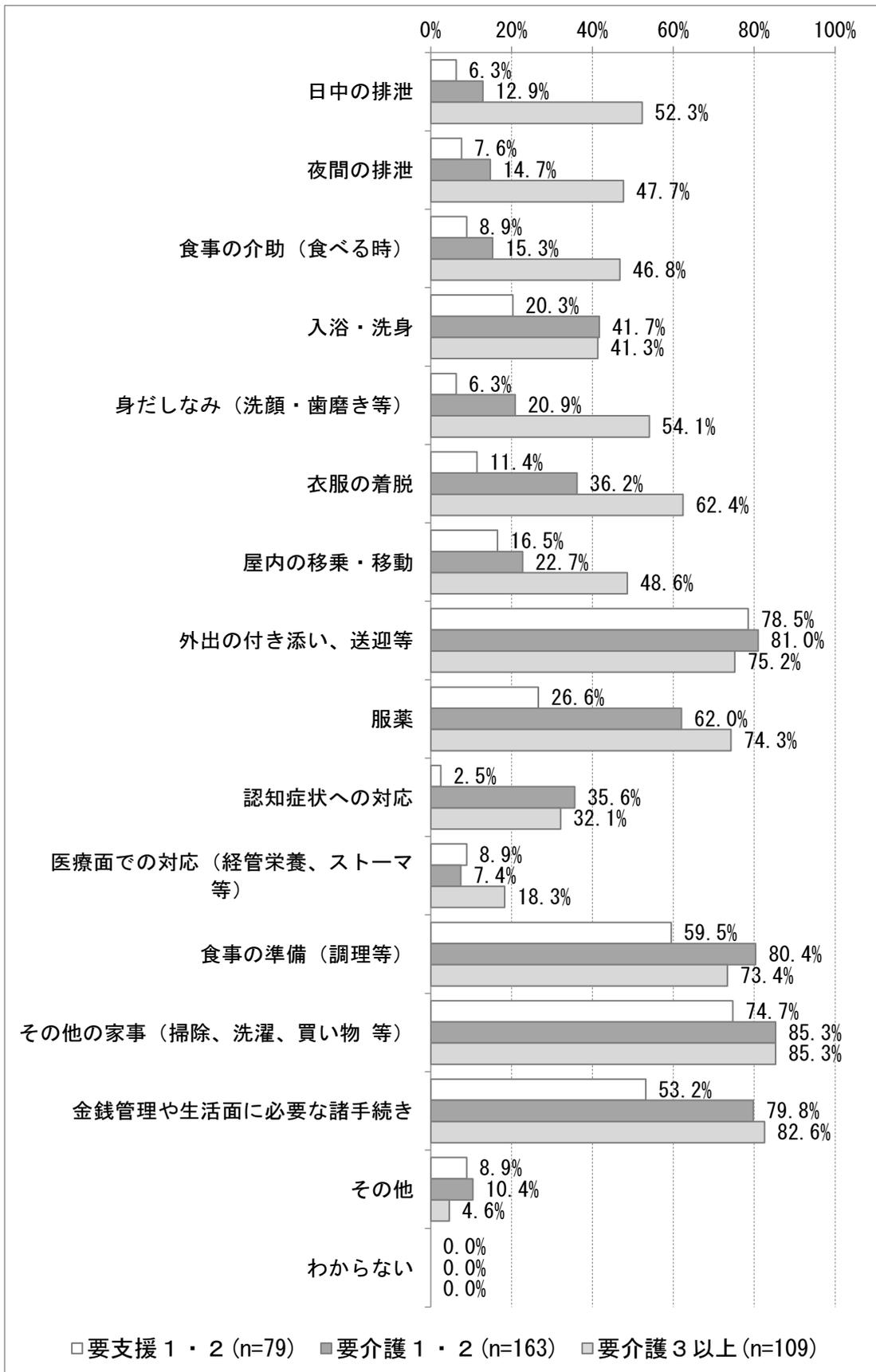
主な介護者が行っている介護としては、「その他の家事(掃除・洗濯、買い物等)」が82.2%で最も高いほか、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の74.0%や「外出の付き添い、送迎等」の78.0%、「食事の準備(調理等)」の72.9%が高い。

主な介護者の方が行っている介護等



要介護度別に見ると、各要介護度とも先に示した「その他の家事(掃除・洗濯、買い物等)」などが高いが、要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣類の着脱」「屋内の移乗・移動」がほかの介護度よりも非常に高くなっており、中重度の介護度では身体の介助・介護の割合が高くなるのがわかります。

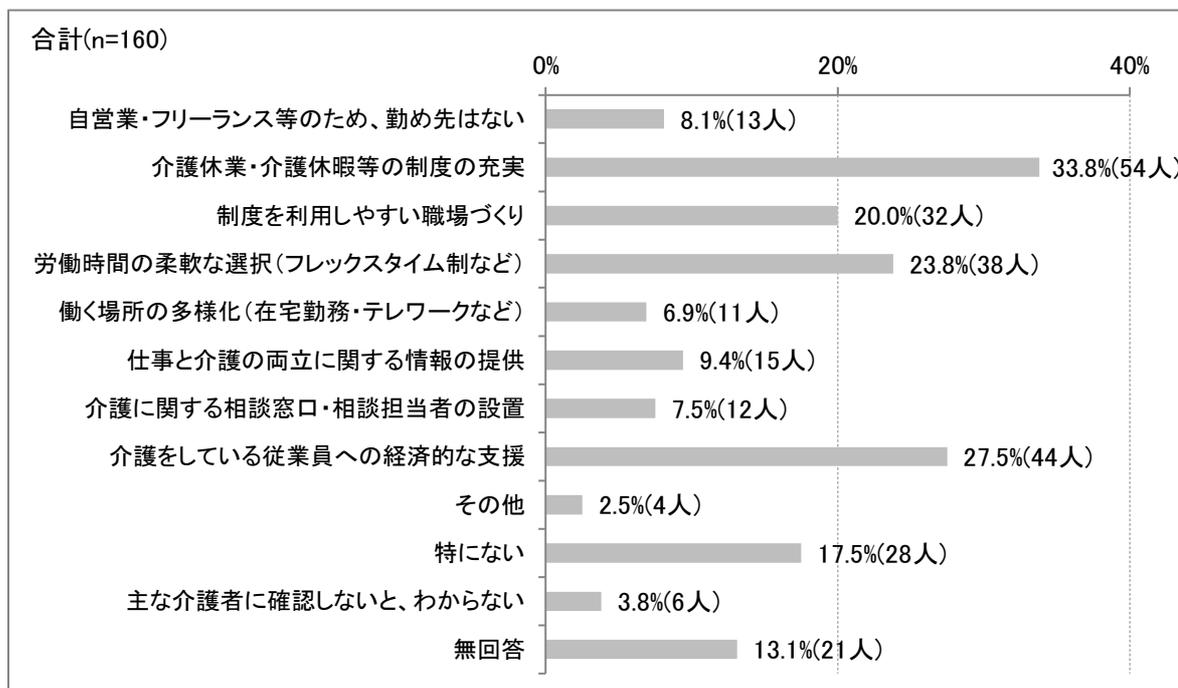
要介護度別・主な介護者の方が行っている介護等



⑬仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこととしては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「介護をしている従業員への経済的な支援」が高くなっている。仕事と介護の両立が難しいという人では、上記のほかに「制度を利用しやすい職場づくり」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」などを望む割合が、両立に問題ないという人より高くなっている。

仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと



今後の介護の状況別・仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこと

上段：% 下段：度数	回答者実数	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	仕事と介護の両立に関する情報の提供
問題なく、 続けていける	33人	9.1 3	27.3 9	24.2 8	24.2 8	6.1 2	12.1 4
問題はあるが、何とか 続けていける	71人	8.5 6	46.5 33	21.1 15	33.8 24	8.5 6	11.3 8
続けていくのは、 やや難しい	18人	16.7 3	38.9 7	27.8 5	22.2 4	11.1 2	0.0 0
続けていくのは、 かなり難しい	11人	9.1 1	45.5 5	36.4 4	18.2 2	9.1 1	27.3 3
主な介護者に確認しないと、 わからない	1人	-	-	-	-	-	-

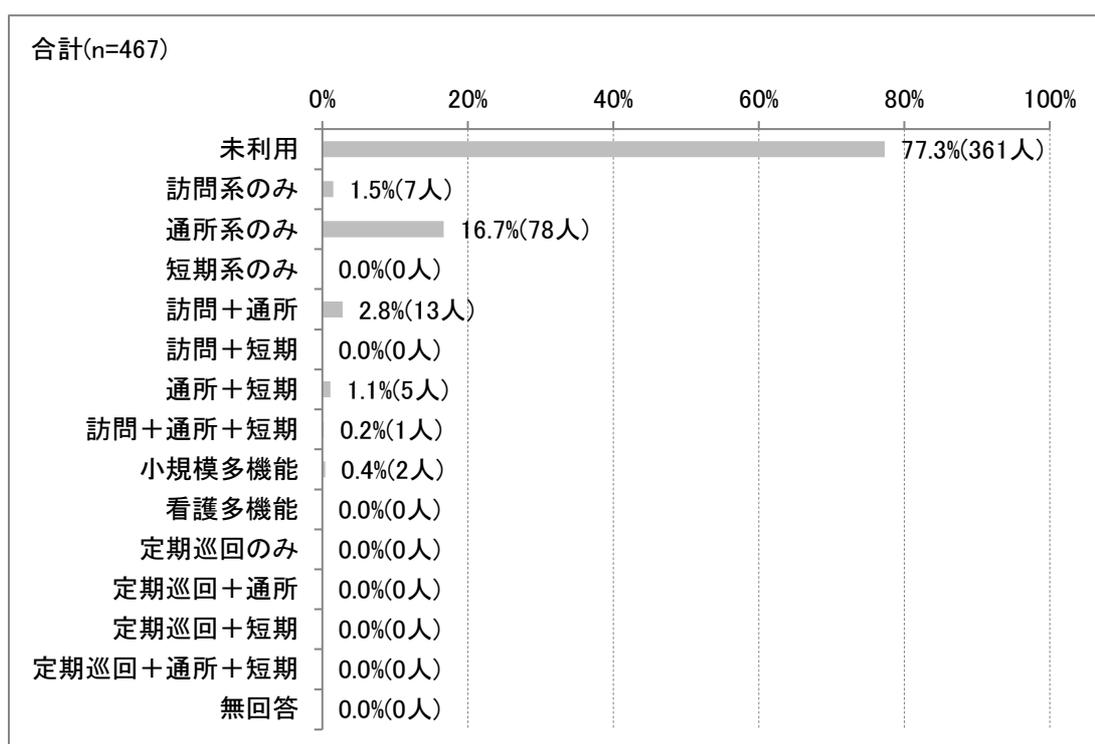
上段：% 下段：度数	回答者実数	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
問題なく、 続けていける	33人	12.1 4	12.1 4	0.0 0	30.3 10	6.1 2
問題はあるが、何とか 続けていける	71人	2.8 2	40.8 29	5.6 4	15.5 11	0.0 0
続けていくのは、 やや難しい	18人	16.7 3	38.9 7	0.0 0	16.7 3	5.6 1
続けていくのは、 かなり難しい	11人	18.2 2	36.4 4	0.0 0	9.1 1	9.1 1
主な介護者に確認しないと、 わからない	1人	-	-	-	-	100 1.0

⑭サービスの組み合わせ

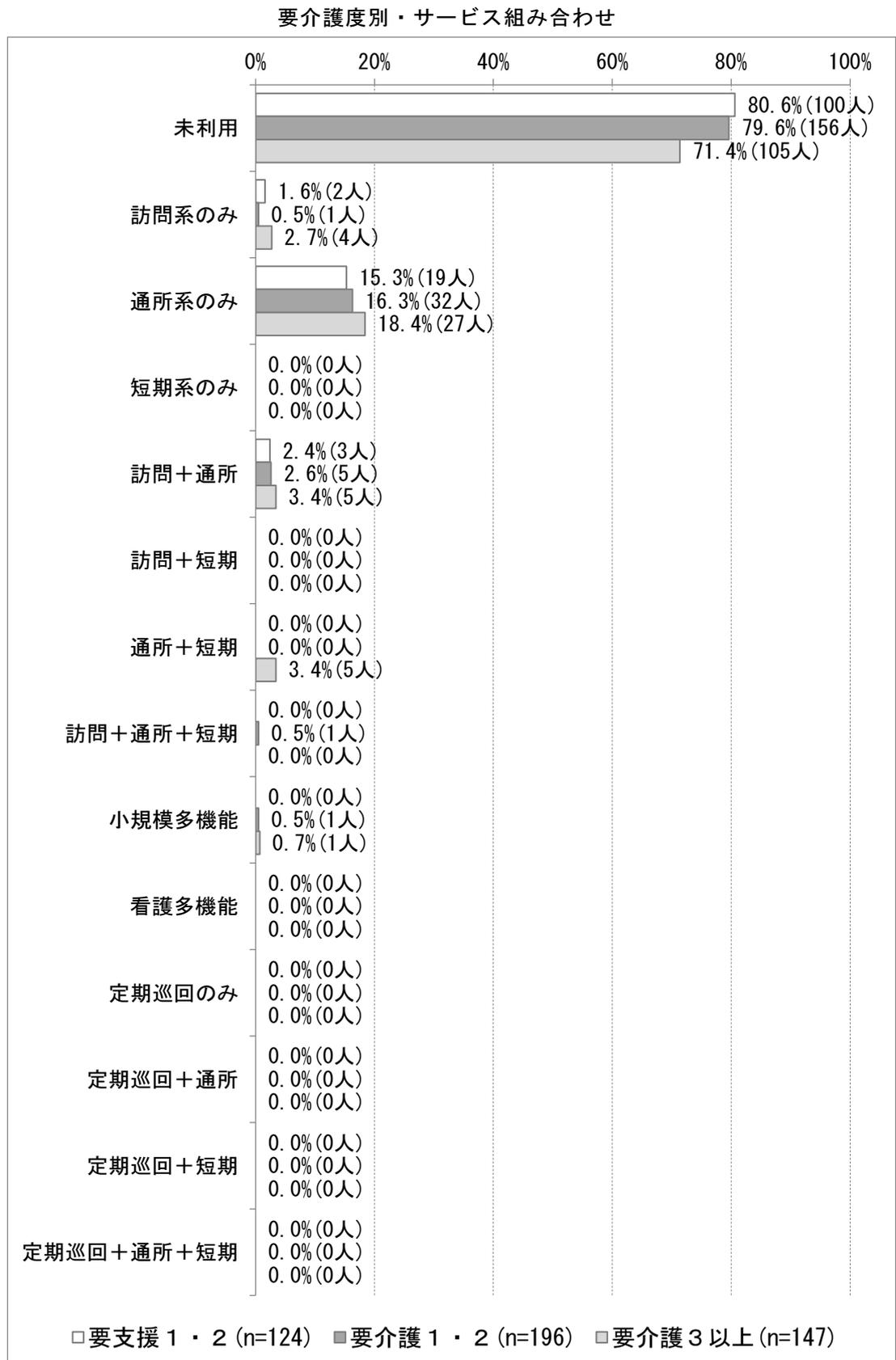
介護サービス利用の組み合わせについて見ると、「通所系のみ」が 16.7%、「未利用」(住宅改修や福祉用具利用は除く)が 77.3%であり、その他の組み合わせは 3%未満にとどまっている。

訪問系については、「訪問系のみ」が 1.5%、「訪問+通所」が 2.8%、「訪問+短期(入所)」が 0.0%であり、訪問系サービスの利用率が低いことがわかる。

サービス組み合わせ



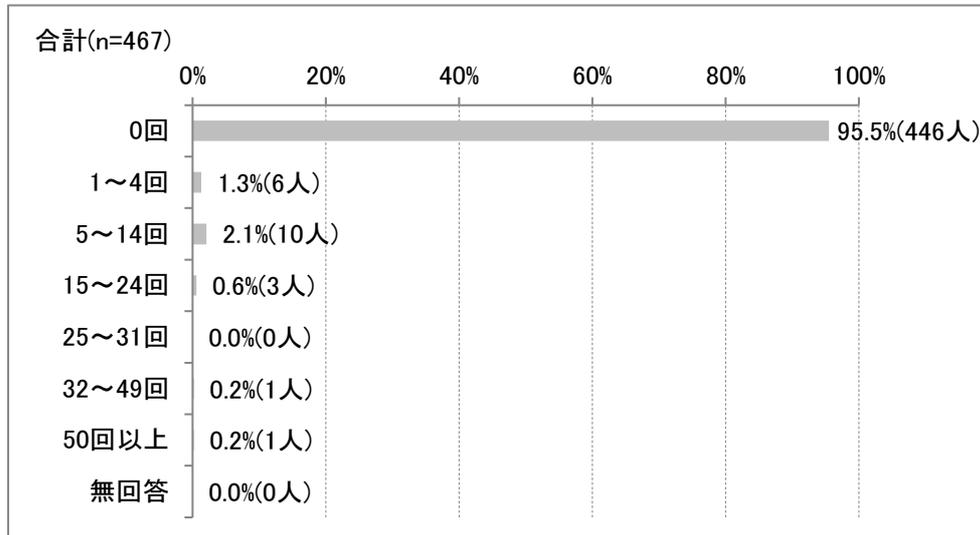
要介護度別に見ると、「未利用」は要支援1・2で高く80.6%、要介護3以上では71.4%となっている。通所系のみの利用率は他の組み合わせよりも高いが各介護度ともに2割弱となっている。



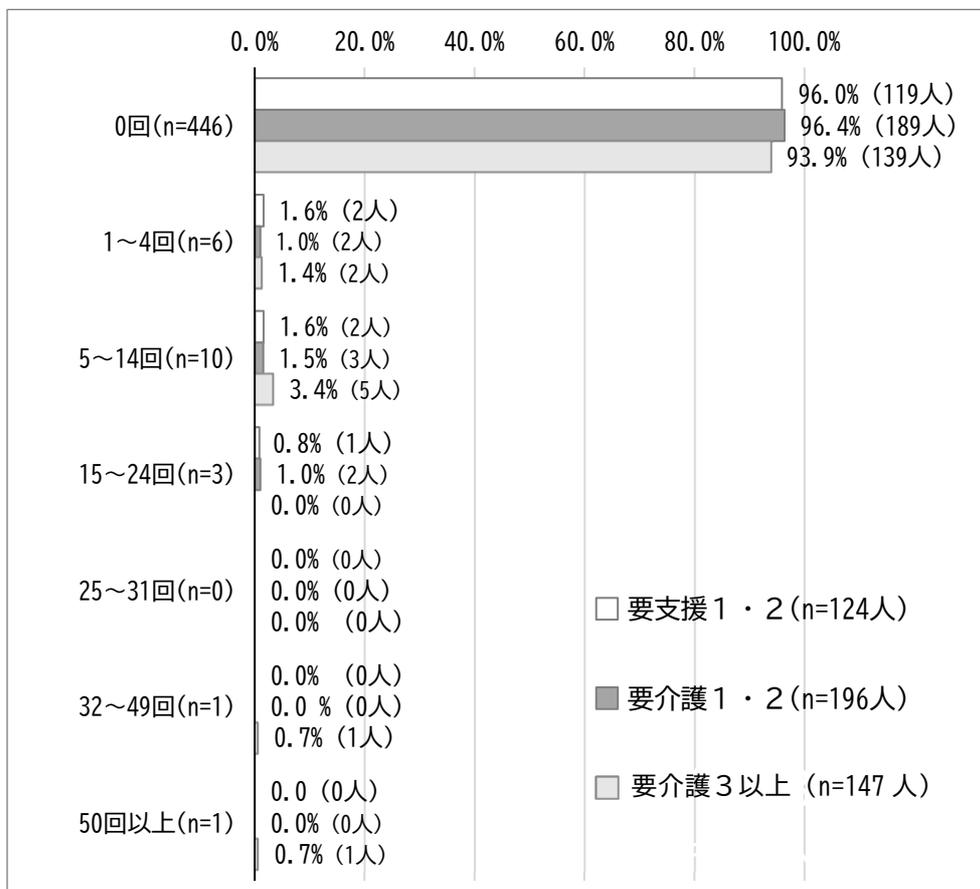
⑮訪問系サービス利用回数

訪問系サービスの月あたりの利用回数を見ると、「0回」が95.5%で圧倒的に高い。利用者では「1～4回」が1.3%、「5～14回」が2.1%であり、15回以上の利用は1%ほどにとどまっている。要介護度別での利用回数にも大差はない。

訪問系サービス利用回数

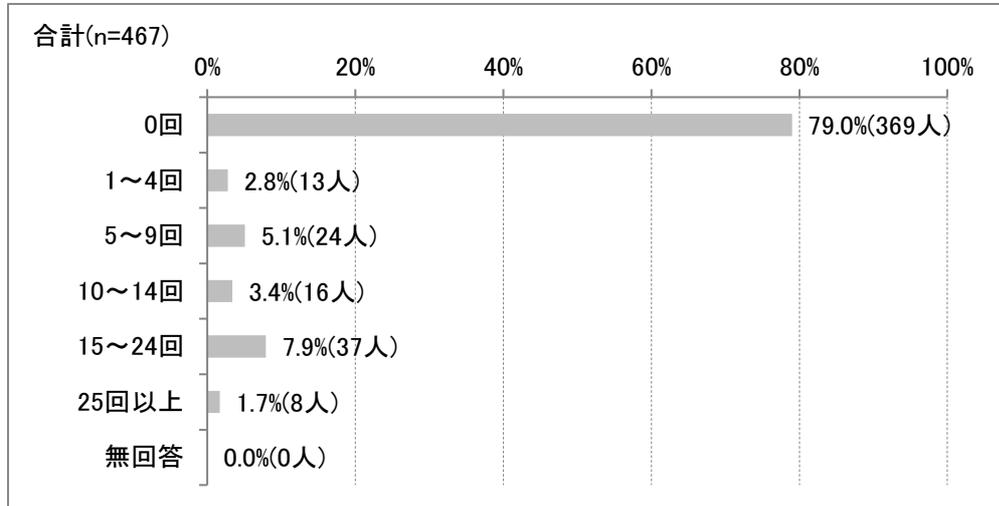


要介護度別・訪問系サービス利用回数



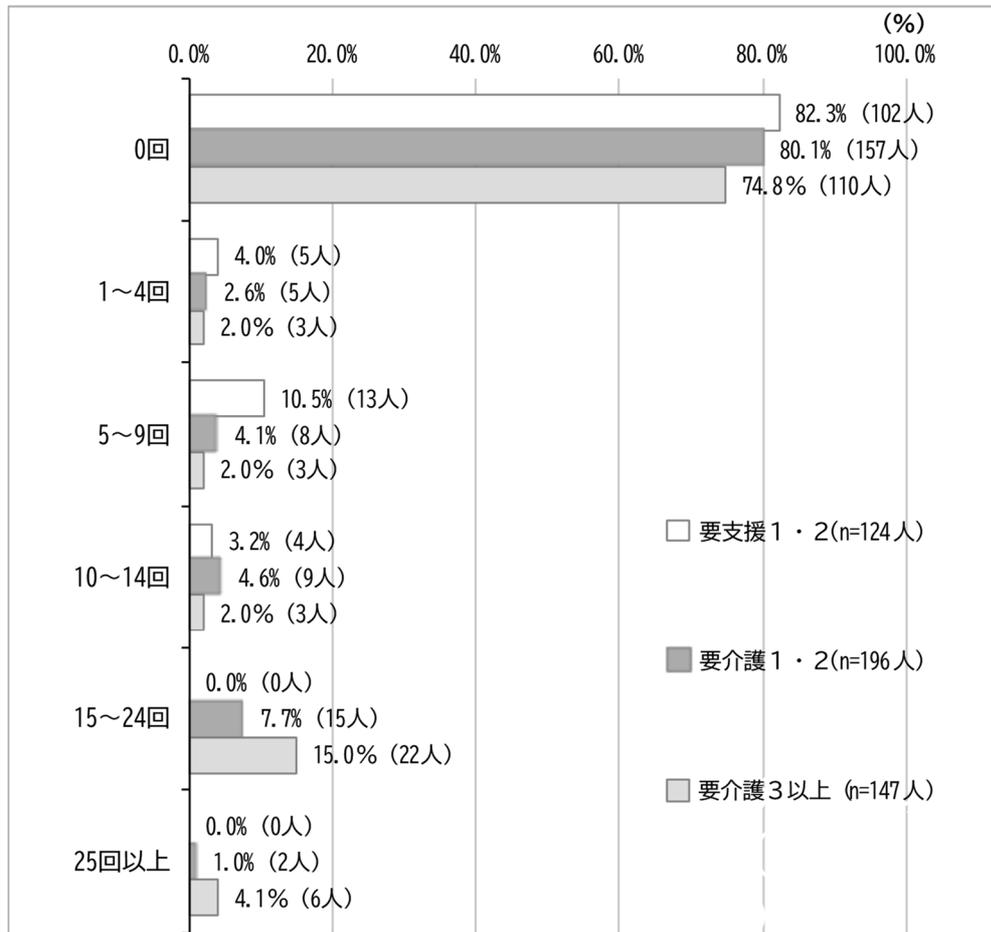
⑩通所系サービス利用回数

通所系サービスの月あたりの利用回数を見ると、「0回」が79.0%で最も高い。利用者では月15回～24回が7.9%、5～9回が5.1%、10～14回が3.4%の順で高い。



通所系サービス利用者の利用回数を要介護度別に見ると、「5～9回」までは要支援1・2で高いが、「15～24回」以上では要介護3以上が最も高い。中重度の要介護者では、頻回な利用が見られる。

要介護度別・通所系サービス利用回数

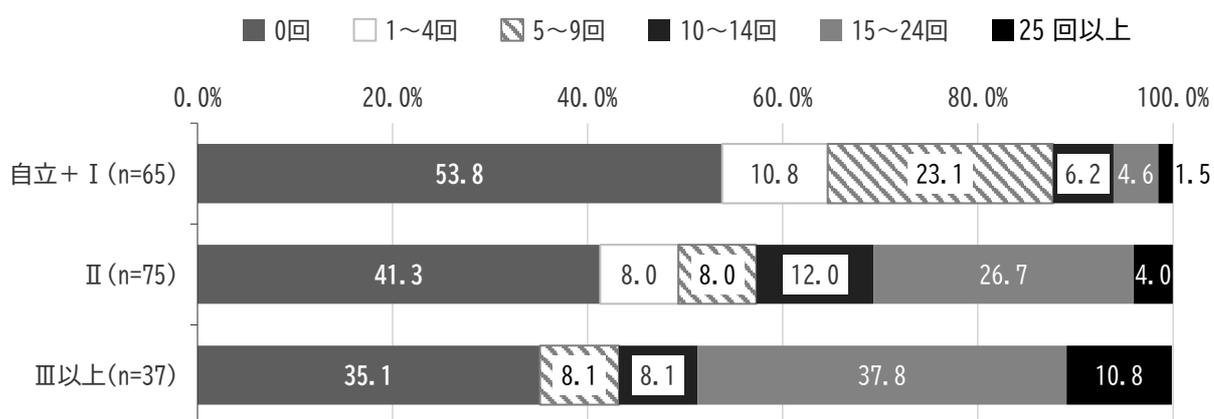


通所系サービス利用者の利用回数では、15回以上の頻回な利用が多い。頻回な利用は、どのような人で多くなっているか見ると、

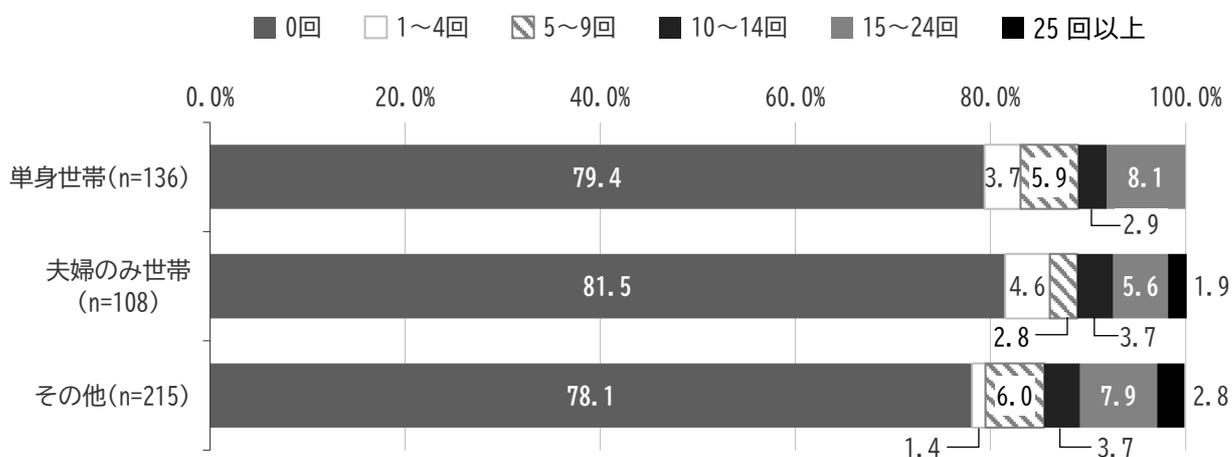
- ・要介護度：要介護3以上（19.1%）
- ・認知高齢者自立度：Ⅲ以上（日常生活上困難が見られる）（48.6%）
- ・世帯類型：単身世帯やその他世帯（三世代世帯等）（10%前後）
- ・施設入所希望：すでに入所申請済み（26.2%）
- ・検討理由：本人の希望（28.6%）
- ・住まい別：有料老人ホーム居住者（28.6%）

このような傾向が見られた。特に重度者・認知症状の重度者、施設入所を申請又は希望している人で多いことや、有料老人ホーム利用者での頻回な利用が見られた（特に、要介護3以上で入居している方での頻回な利用が多い。今回の集計結果を踏まえながら、通所系サービスを頻回利用している実情をより把握し、課題解決の施策を検討する必要がある。

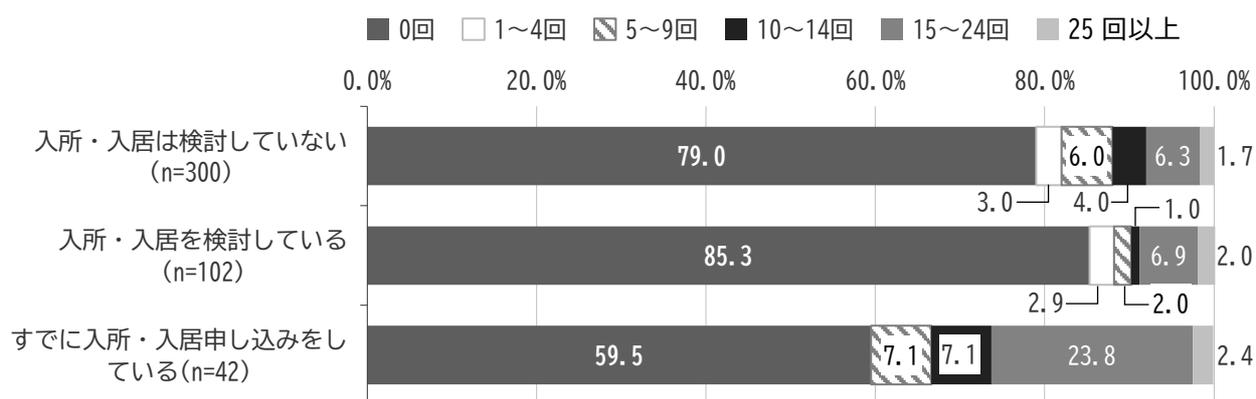
認知症高齢者自立度別・通所系サービス利用回数



世帯類型別・通所系サービス利用回数



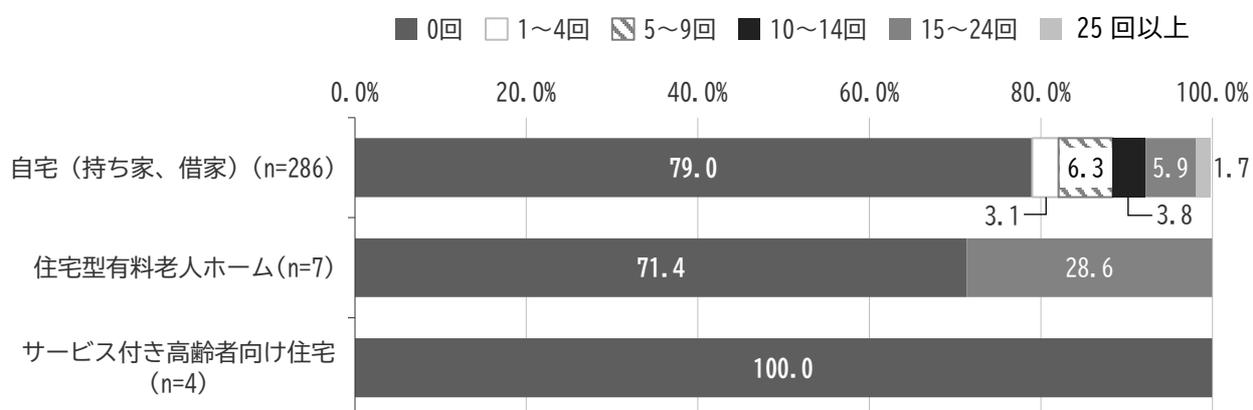
施設等検討の状況別・通所系サービス利用回数



施設等に入所・入居の検討理由別・通所系サービス利用回数



現在の住居別・通所系サービス利用回数

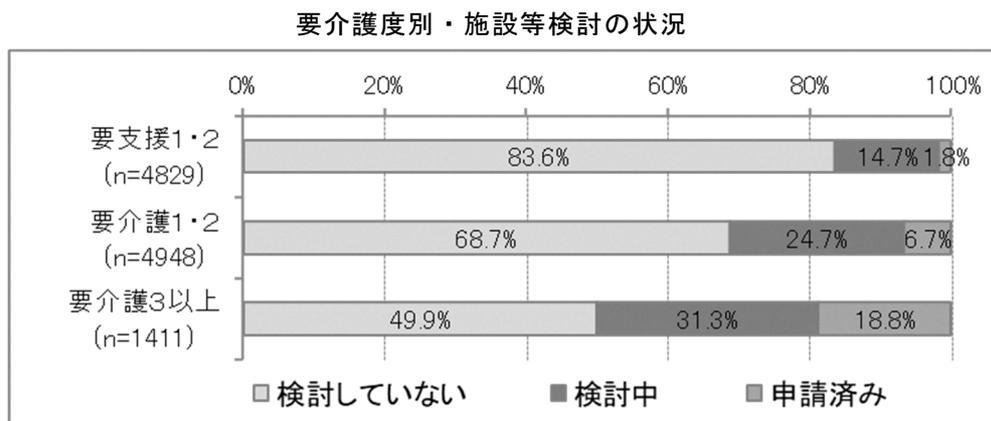


(2) 施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎「施設等に申請済み」の割合は、要介護3以上で18.8%

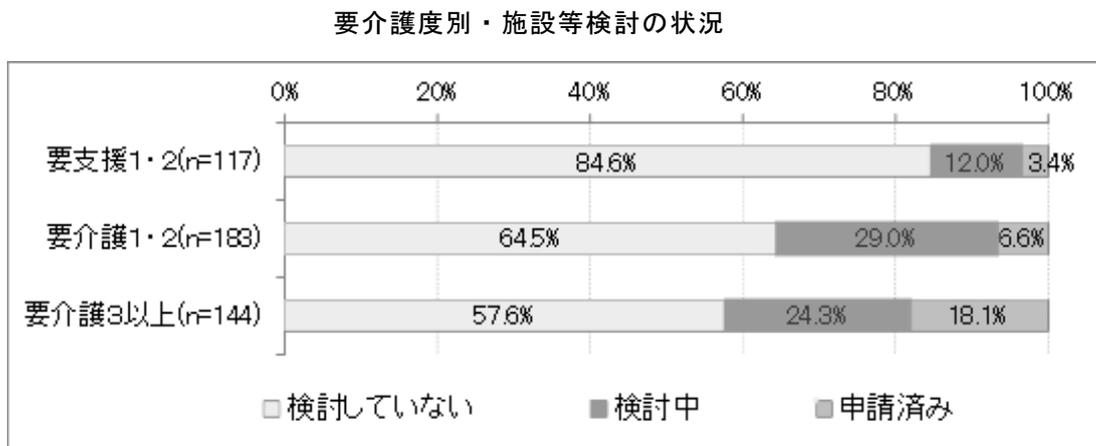
- ・全国の要介護度別の「施設等検討の状況」を見ると、要介護3以上では要介護度の重度化に伴い「申請済み」の割合が高くなっており、18.8%となっている。
- ・なお、「検討していない」の割合の減少幅は、要支援1・2(83.6%)から要介護1・2(68.7%)になる段階で▲14.9ポイント、要介護1・2から要介護3以上(49.9%)になる段階で▲18.8ポイントとなっている。



②-1 市の調査結果では……

市の要介護度別の「施設等検討の状況」では、要介護3以上では「申請済み」が18.1%となっている。

「検討していない」については、要支援1・2や要介護1・2では全国と同程度の割合ですが、要介護3以上は57.6%で、全国の49.9%を7.7ポイント上回っている。

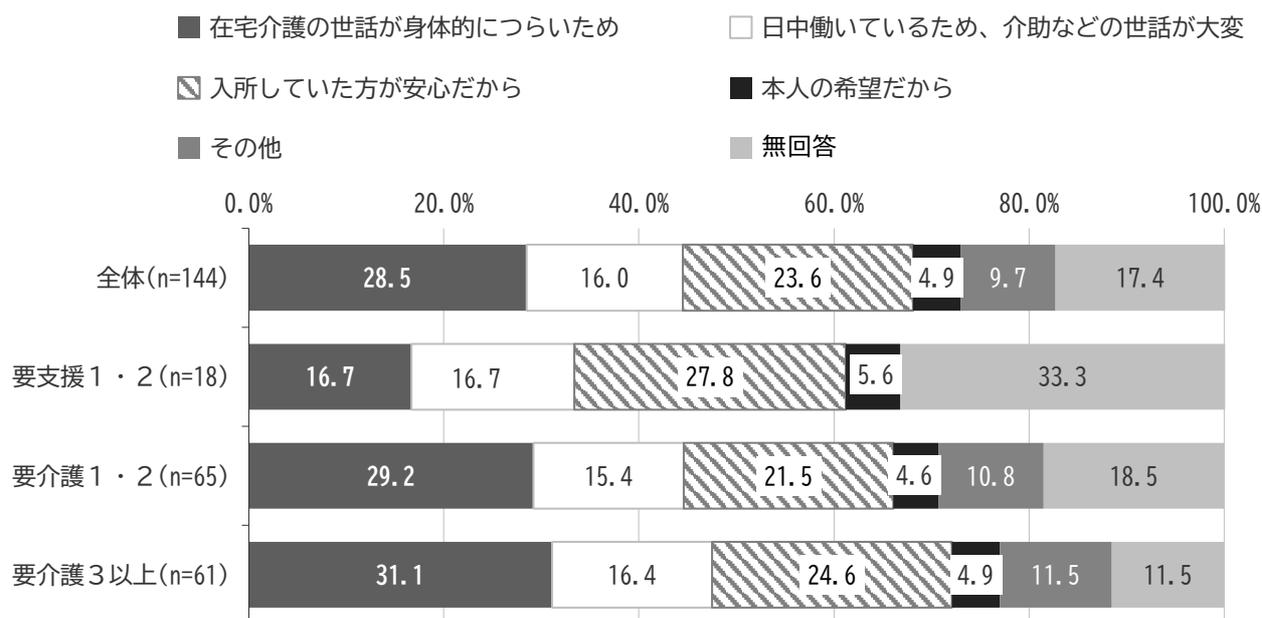


②-2 施設等検討理由（市の調査結果）

施設入所の検討理由を見ると、最も高いのは「在宅介護の世話が身体的につらいため」の28.5%で、「入所していた方が安心だから」の23.6%がこれに次いで高い。

要介護度別に見ると、要介護度が上がるにつれて「在宅介護の世話が身体的につらいため」が高くなっていく。要介護1・2では「入所していた方が安心だから」の27.8%が最も高くなっている。

要介護度別・施設等検討の理由

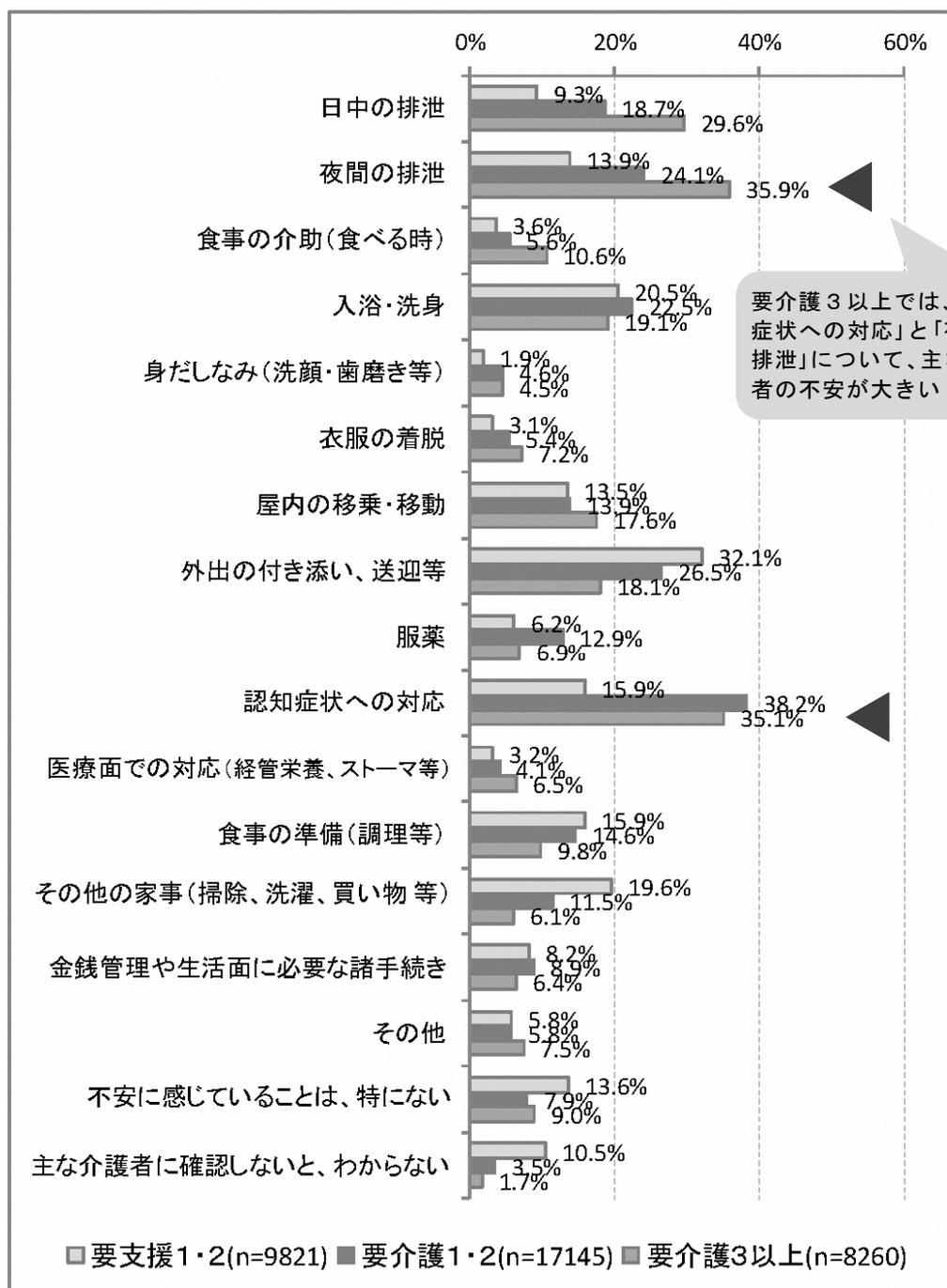


(3) 介護者が不安を感じる介護

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上 30万人未満】）より）

- ◎主な介護者が不安を感じる介護は、要介護3以上では「夜間の排泄」「認知症状への対応」
- ・「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護」について、要介護3以上では、特に「夜間の排泄」と「認知症状への対応」で、主な介護者の不安が大きい傾向となっている。
 - ・したがって、要介護3以上では、主な介護者が「在宅生活の継続が困難」と判断する特に重要なポイントとして、「認知症」と「(夜間の)排泄」の2点が挙げられると考えられる。
 - ・また「認知症状への対応」については、要介護1・2の方が高くなっている。

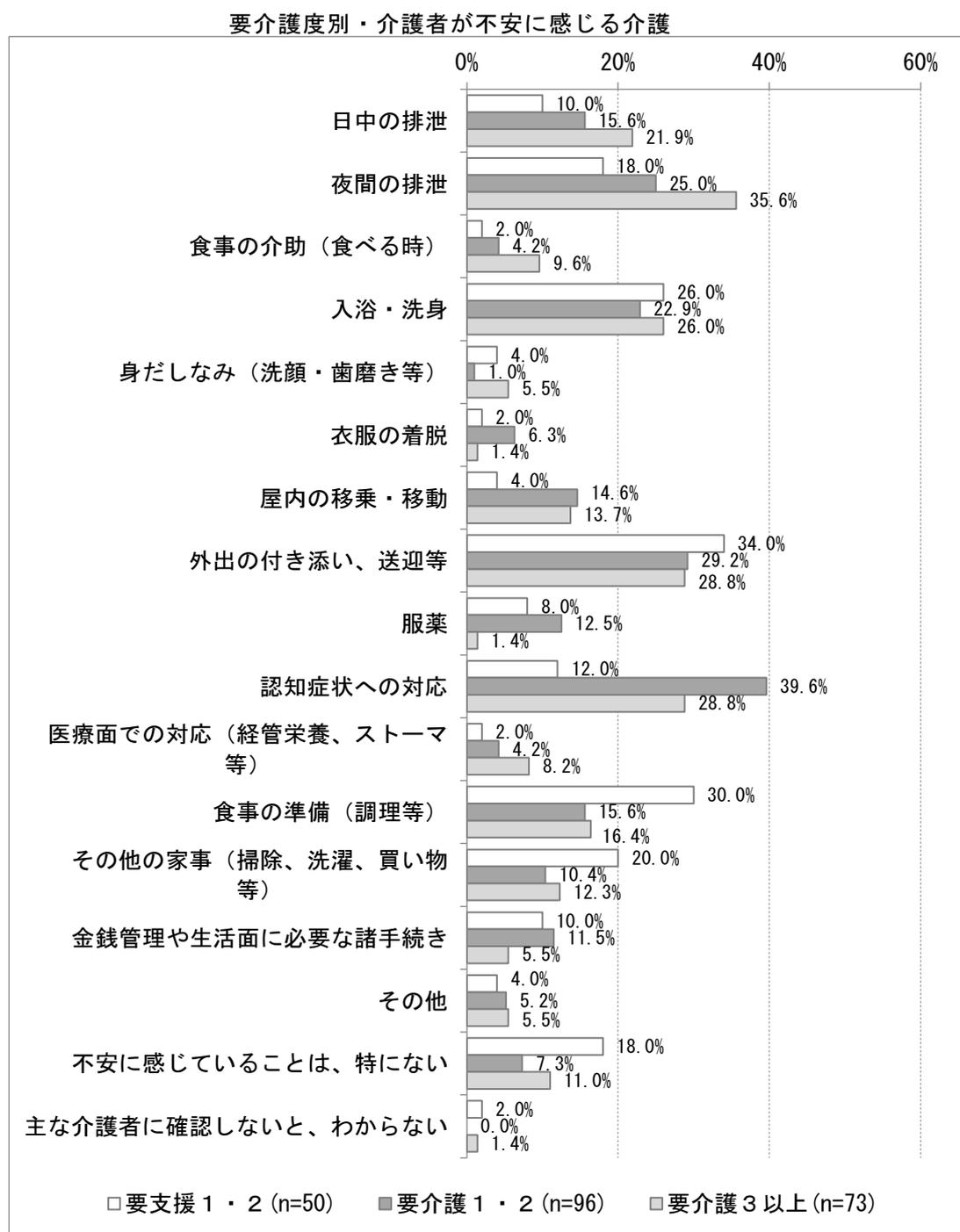
要介護度別・介護者が不安を感じる介護



②市の調査結果では……

市では、要介護3以上については「夜間の排泄」が最も高いほか、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」がこれに次いで高い。また、要介護1・2では「認知症状への対応」が39.6%あり、要介護3以上を10.8ポイント上回っている。要支援1・2では、「食事の準備」が全国比で14.1ポイント高くなっている。

在宅介護において、要介護3以上を抱える家庭だけではなく、要介護1・2や要支援1・2を抱える家庭でも、それぞれ特徴となる不安を抱えていることがわかる。

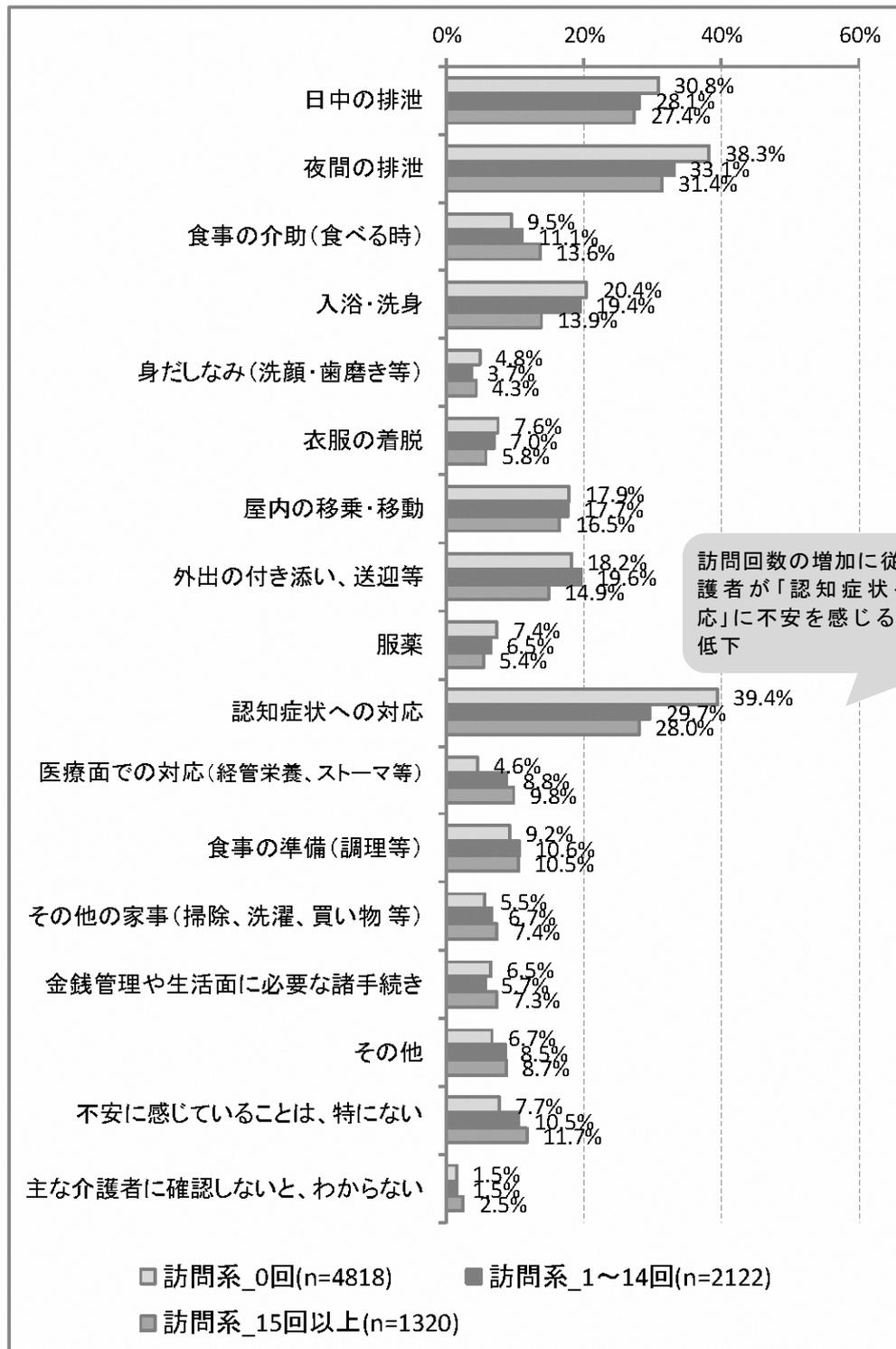


(4) 介護者が不安を感じる介護（サービス利用回数別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計)より）

◎「訪問回数の増加」に伴い、介護者の「認知症状への対応」「夜間の排泄」の不安が軽減
 ・「介護者が不安を感じる介護」と「訪問系サービスの利用回数」の関係を見ると、訪問系サービスの利用回数の増加とともに、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」について、介護者の不安が軽減する傾向がみられた。

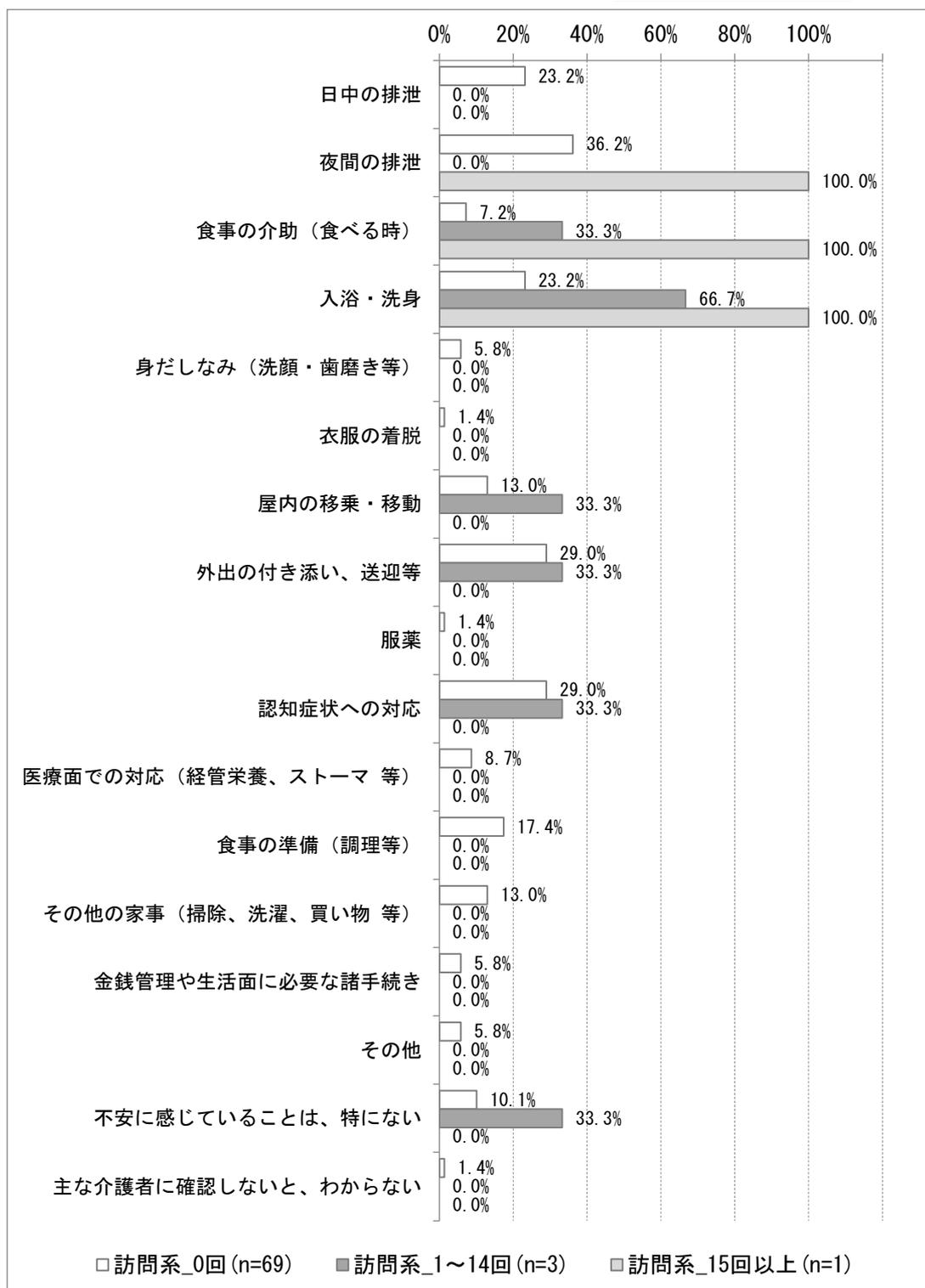
サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用者のサンプル数が少ないため参考値として見るが、「夜間の排泄」「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」は、訪問回数 15 回以上で高くなっている。

サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



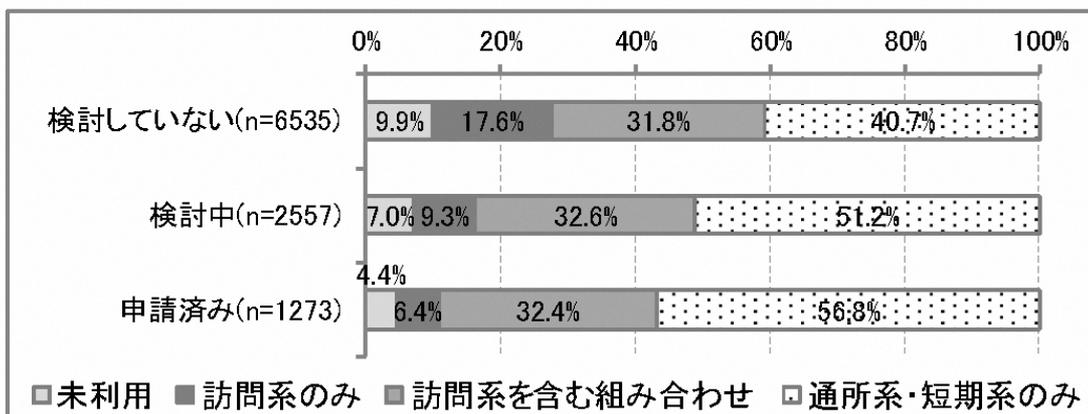
(5) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上 30万人未満】)より)

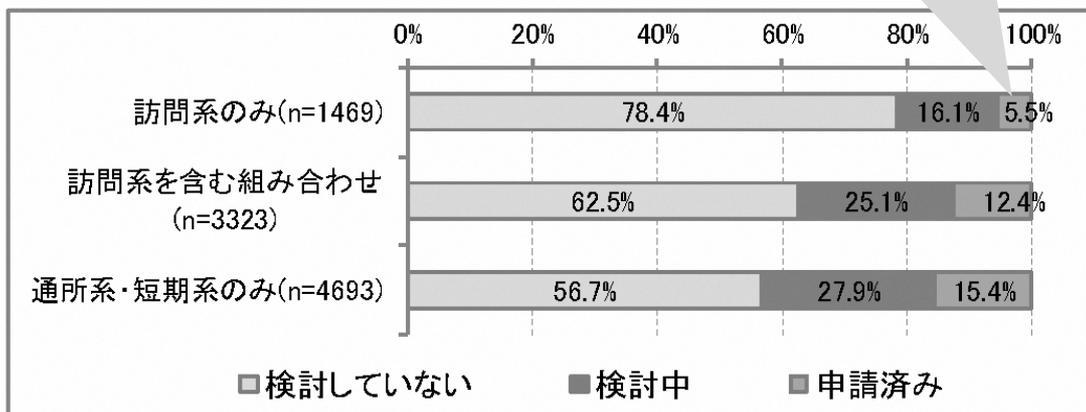
◎「訪問系」サービスを利用する方は、「施設等の検討・申請割合」が低い

- ・「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を見ると、訪問系サービスを利用する方は、「施設等の検討・申請割合」が低い傾向がみられる。
- ・なお、特に「訪問系のみ」のケースで、施設等を「検討していない」の割合が高くなっている。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



訪問系を利用する方は、施設等を「検討・申請」している割合が低い

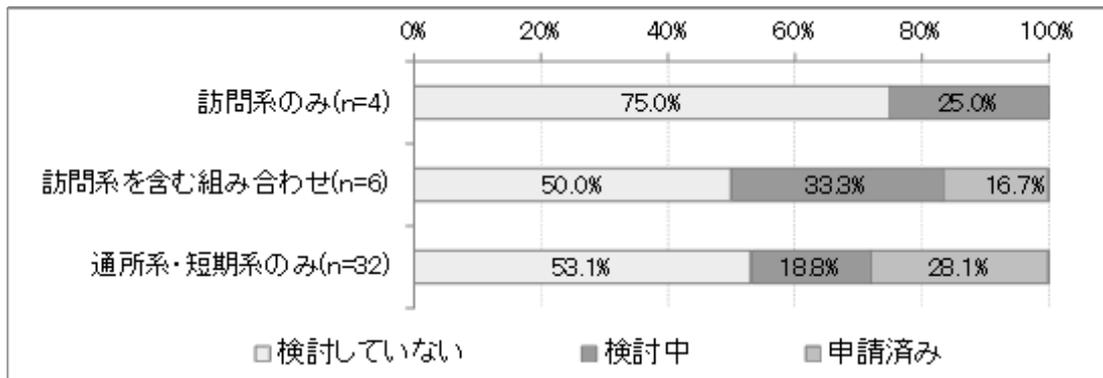
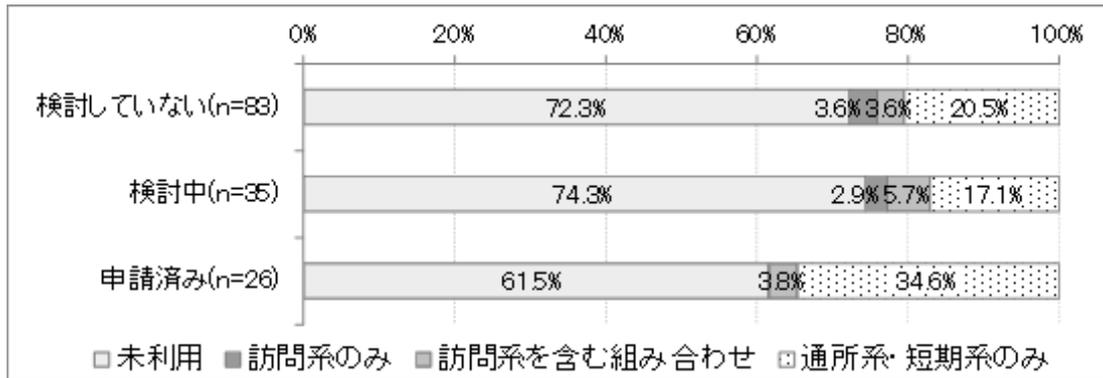


②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用者のサンプル数が少ないため参考値として見るが、「訪問系」サービス利用者での「申請済み」は3.8%と低くなっている。

また、「訪問系のみ」では、全国と同様に施設入所を「検討していない」割合が75.0%で非常に高い。市の訪問系利用者では他サービス利用者より施設入所意向が低い。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



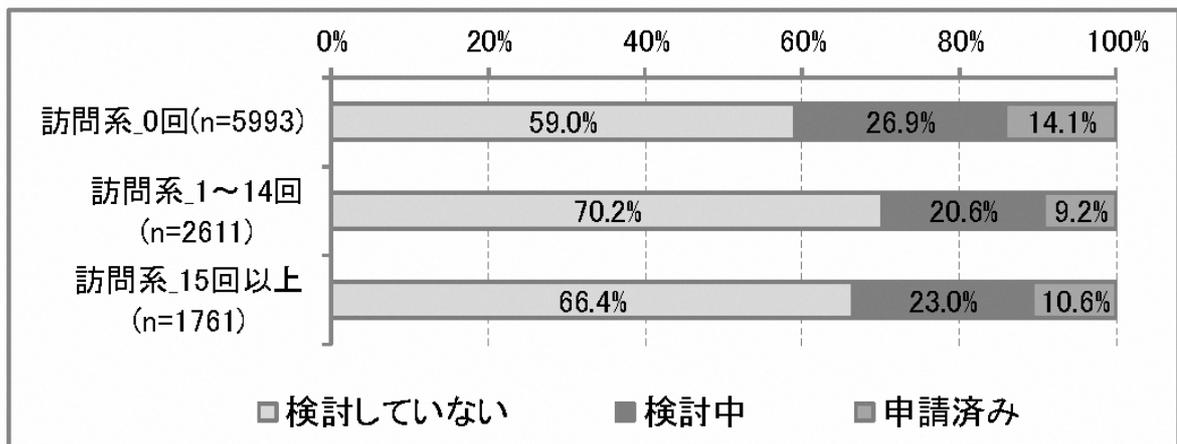
(6) 訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎施設等を「検討していない」方は、「訪問系」の利用回数が多い傾向

・「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係を見ると、施設等を「検討していない」方は、「訪問系」の利用回数が多い傾向となっている。

訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）

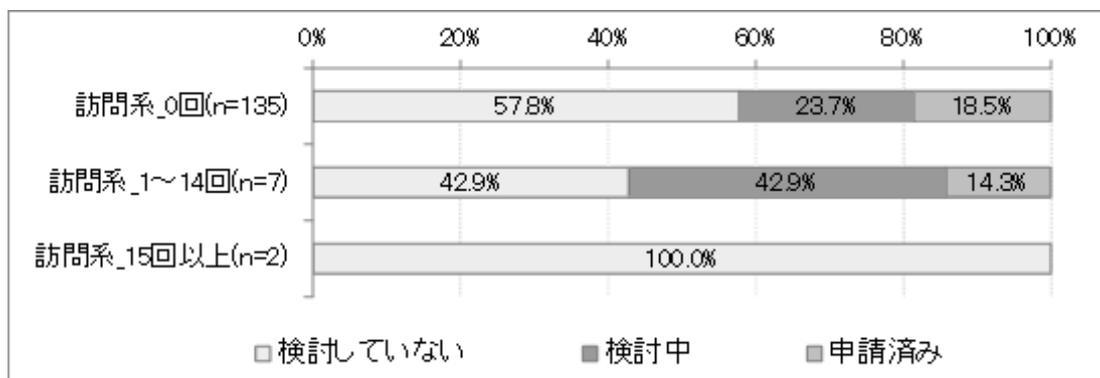


②市の調査結果では……

市では、訪問系サービス利用のサンプル数が少ないため参考値として見るが、「施設等検討の状況」と「訪問系サービス利用の回数」の関係を見ると、施設等に「申請済み」の方では、「訪問系0回」は18.5%、「訪問系1~14回」14.3%、「訪問系15回以上」は0.0%と、回数が増えると施設等入所申請済みが減少している。

また、「検討中」の施設希望者は、「訪問系15回以上」では希望はないものの、「訪問系0回」は23.7%、「訪問系1~14回」は42.9%となっている。

訪問系サービスの利用回数と施設等検討の状況（要介護3以上）



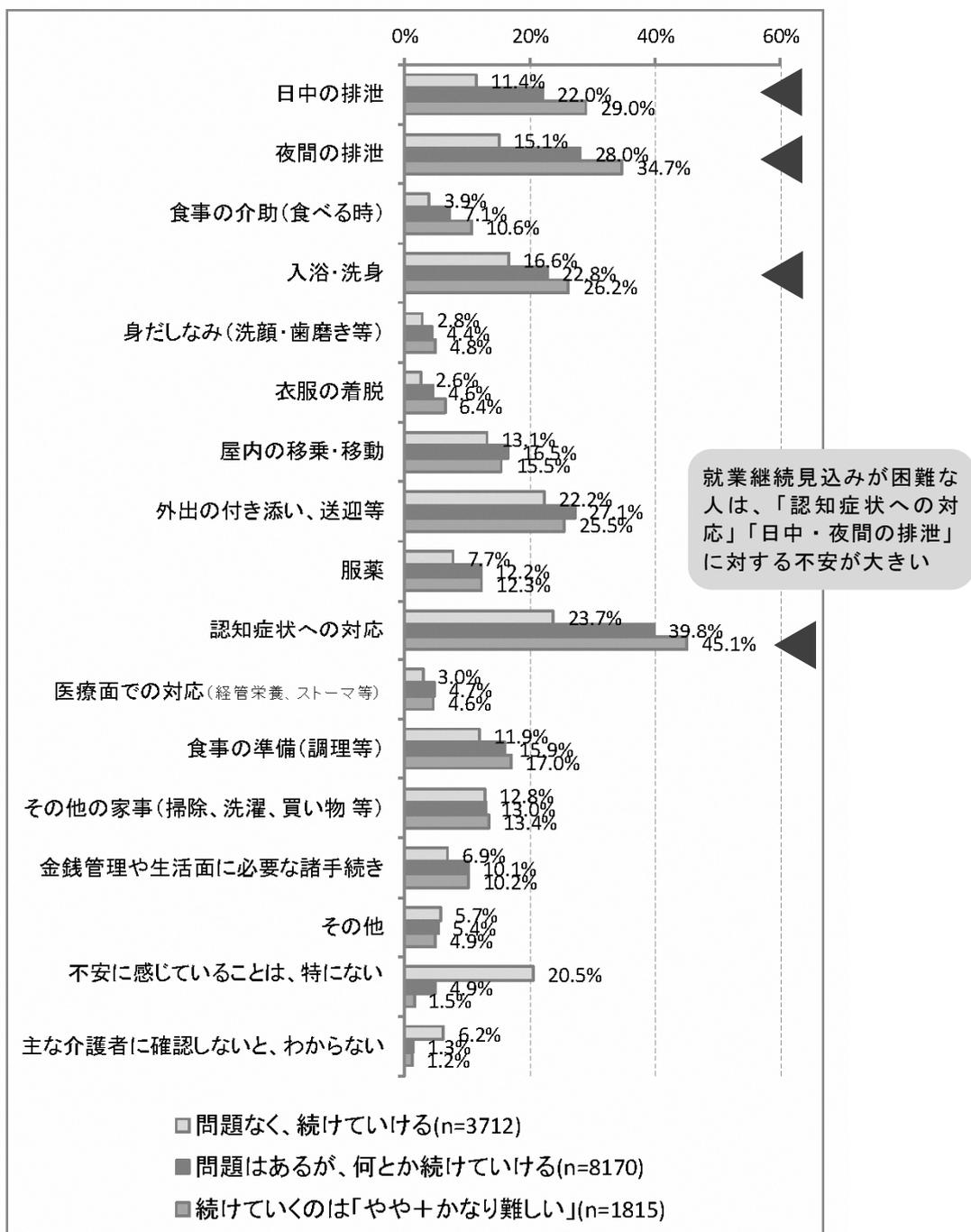
(7) 介護者が不安に感じる介護（就労継続見込み別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】）より）

◎就業継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」「日中・夜間の排泄」が高い傾向。

- ・「就労の継続の意向」と、「今後の在宅生活継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護」の関係を見ると、就労継続が難しいと感じるにしたがって、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」「日中の排泄」等について、不安に感じる割合が高くなる傾向がみられた。
- ・これらの介護が「在宅生活を継続しながらの就労継続」について、介護者が可否を判断するポイントとなっている可能性がある。

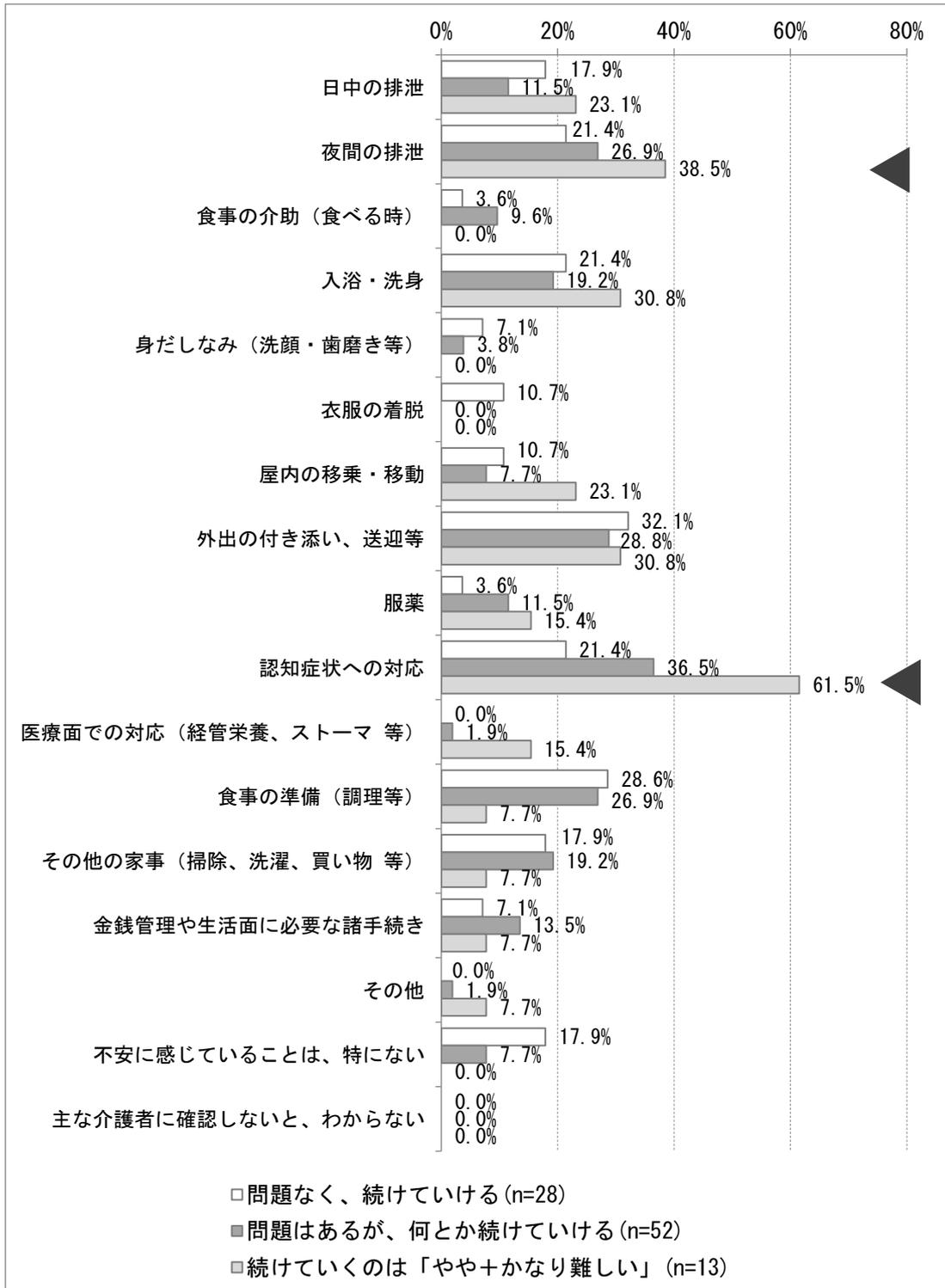
就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



②市の調査結果では……

市では、就労継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、全国と同様に「認知症状への対応」、「夜間の排泄」が高くなっている。特に「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が多い。在宅介護を継続する上では、介護者への認知症支援策(要介護1・2を対象とするもの、要介護3以上を対象とするもの)が重要となる。また、「夜間の排泄」では要介護3以上で不安に感じる割合が高く、夜間対応型の訪問等も必要と考えられる。

就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



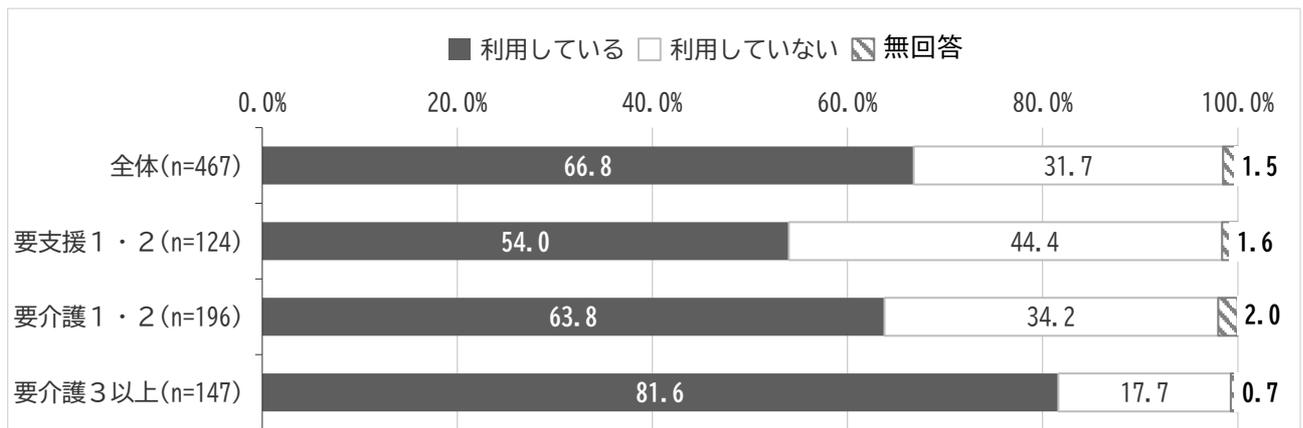
(8) 介護保険サービスの利用

①-1 介護保険サービスの利用状況（市の調査結果）

介護保険サービスを「利用している」は66.8%と7割弱となっている*。

要介護度別に見ると、要介護度が上がるとともに利用率も上昇しており、要介護3以上では81.6%を占めている。（ここでは、住宅改修、福祉用具の利用以外での介護保険サービスについて利用有無を聞いている）

要介護度別・介護保険サービスの利用状況

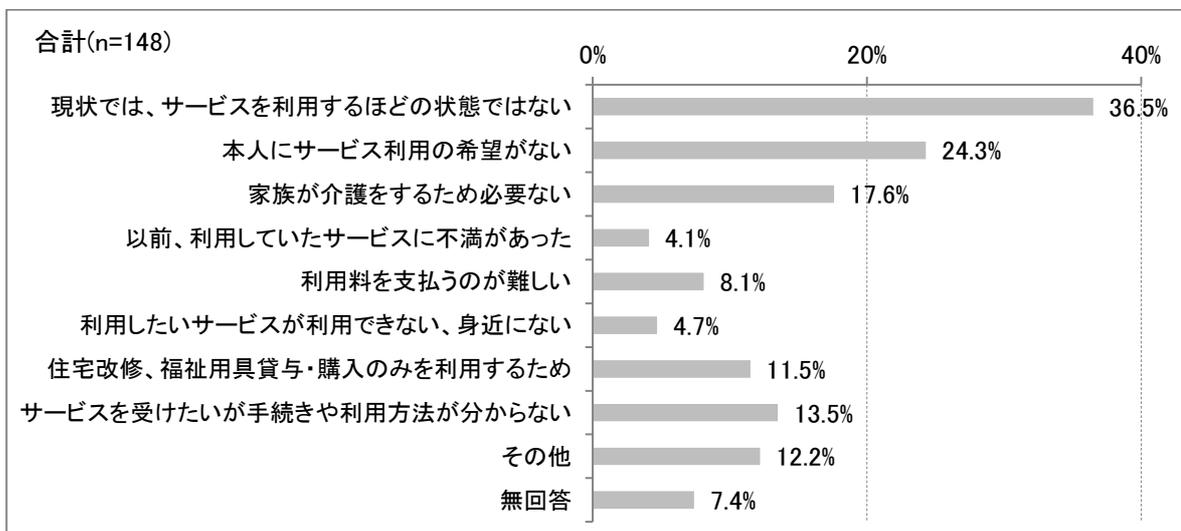


* (1)④は、認定ソフトから排出された csv から算出された市のデータを使用しグラフを作成しています。ここでは「アンケート調査」から集計した結果を用いて作成しています。

①-2 介護保険サービスを利用していない理由（市の調査結果）

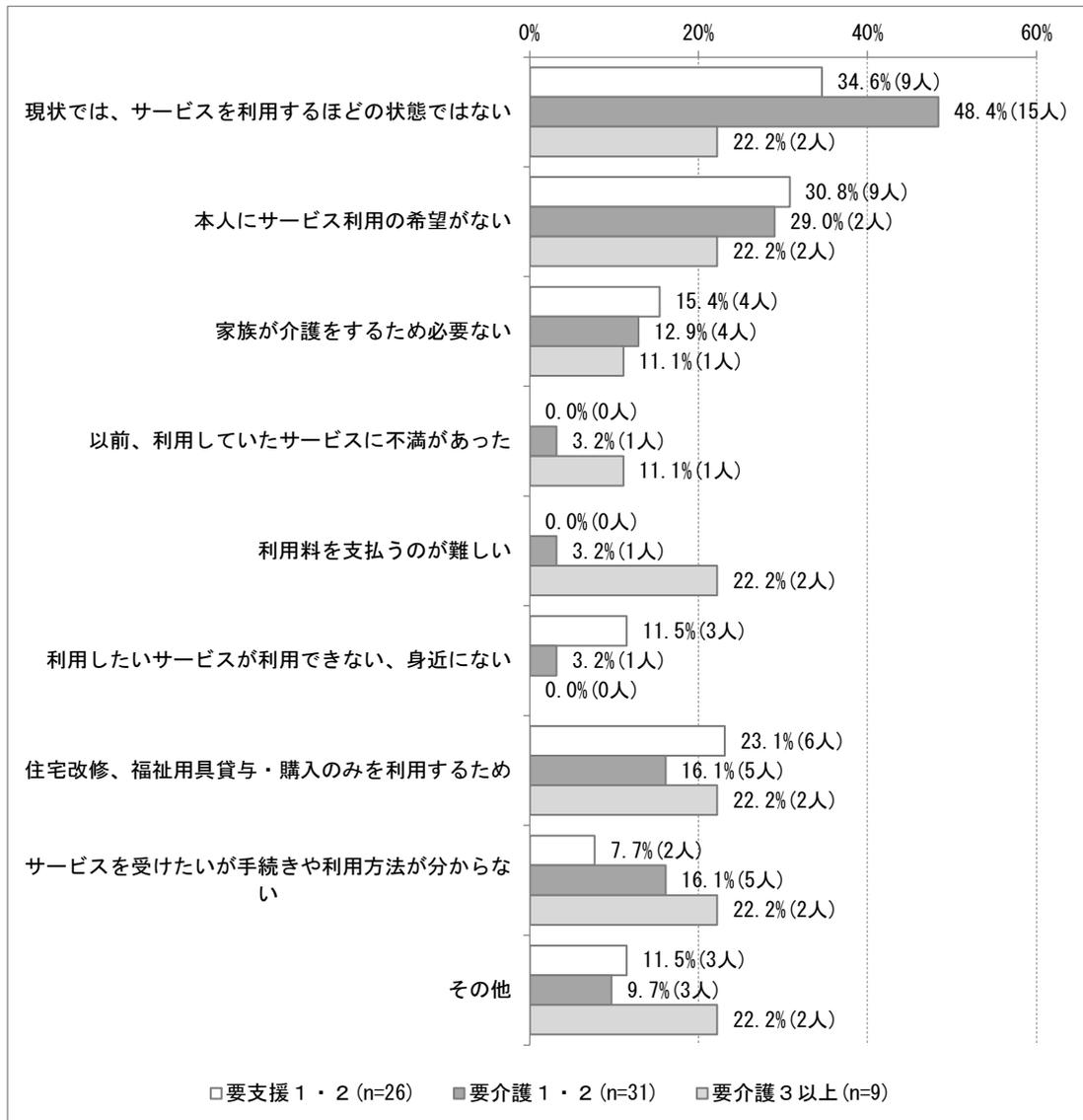
サービスを利用していない理由では「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」、が36.5%で最も高い。これに「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」が続いている。

介護保険サービスを利用していない理由



要介護度別に見ると、要支援1・2、要介護1・2ともに「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」となっている。

要介護度別・介護保険サービスを利用していない理由

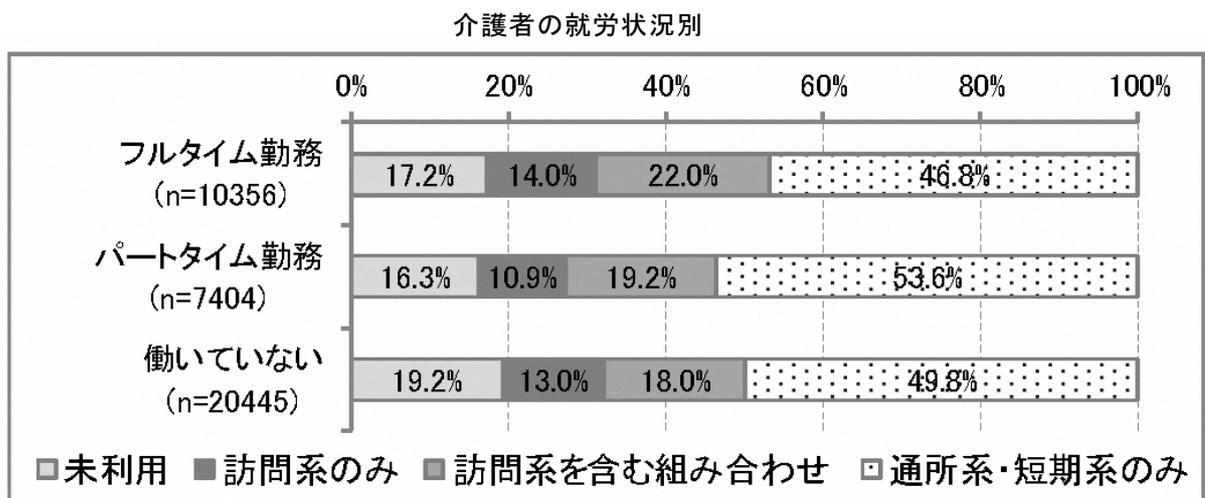


(9) サービス利用の組み合わせ（介護者の就労状況別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上 30万人未満】)より)

◎「通所系・短期入所系のみ」の利用が半数程度を占めるが、フルタイム勤務・パートタイム勤務では「訪問系を含む組み合わせ」が20%程度ある。

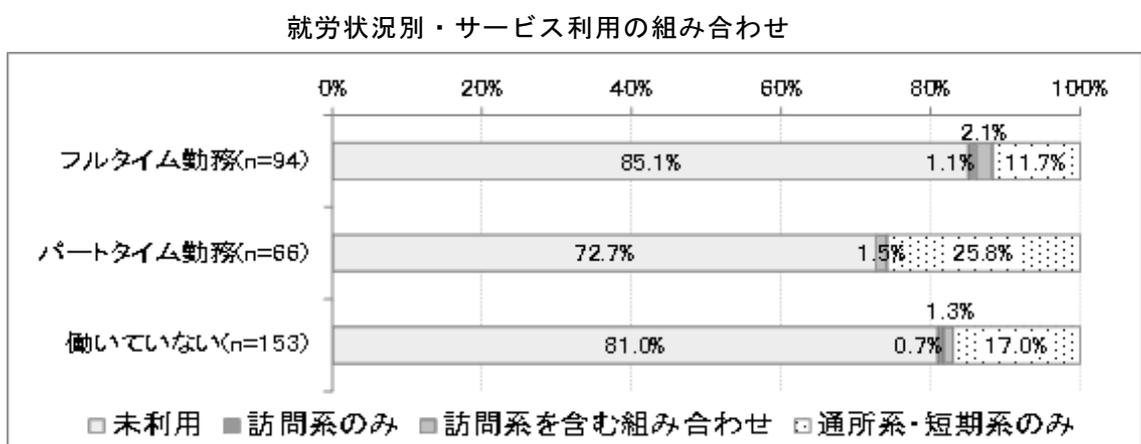
・全国では、利用している介護保険サービスの組み合わせを見ると、「通所系・短期入所系のみ」が50%前後で大半を占めている。また、「訪問系を含む組み合わせ」が、フルタイム勤務で22.0%、パートタイム勤務で19.2%あり、20%程度が訪問系を組み合わせたサービス利用をしている。



②市の調査結果では……

市では、全国の状況と異なり、未利用がどの就労状況でも7割～8割に達している。

「通所系・短期入所のみ」については全国と比較して非常に低い。ただ、パートタイム勤務が他の就労状況よりも高い点は共通している。訪問系サービスの利用が低い要因及び未利用者が多い要因など、市の在宅介護の状況把握を行っていく必要がある。



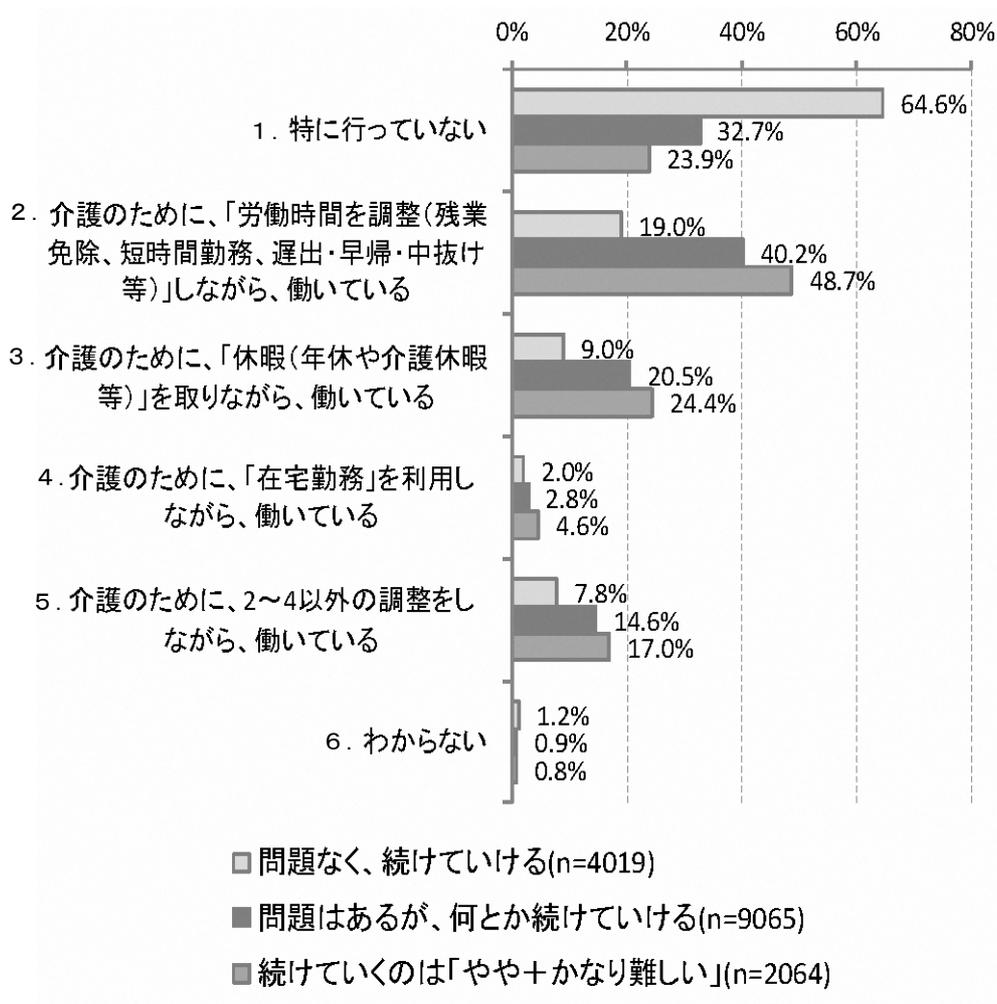
※(1)④は、認定ソフトから排出された csv から算出された市のデータを使用しグラフを作成しています。ここでは「アンケート調査」から集計した結果を用いて作成しています。

(10) 介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

- ・全国では、就業継続可能と考える介護者は、職場において働き方の調整を「特に行っていない」の割合が高い。また、就労継続が難しいと考える介護者では、特に「労働時間の調整」をしながら働いている割合が高い。

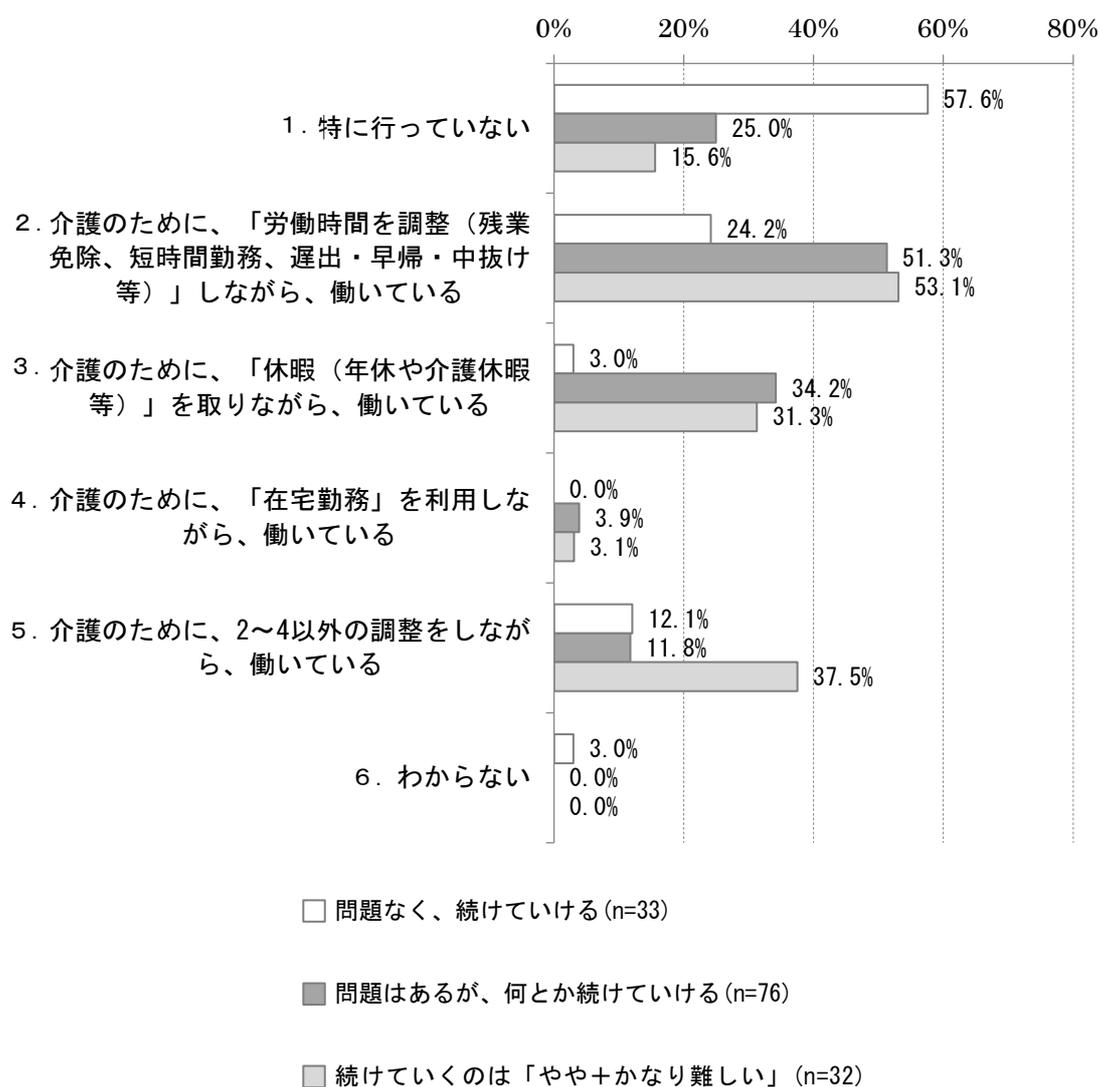
就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



②市の調査結果では……

市では、全国と同様に就業継続可能と考える介護者は、「特に行っていない」が非常に多くなっている。問題はあるがなんとか続けている人や続けていくのは難しいという人では、職場と働き方の調整を行っている割合が高くなっている。しかし、職場と調整しながら働いているにもかかわらず、就労継続が難しいと考える介護者も多く、家族介護者に対する職場の理解のほか、在宅介護を継続するために必要と感じることを把握する必要がある。

就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



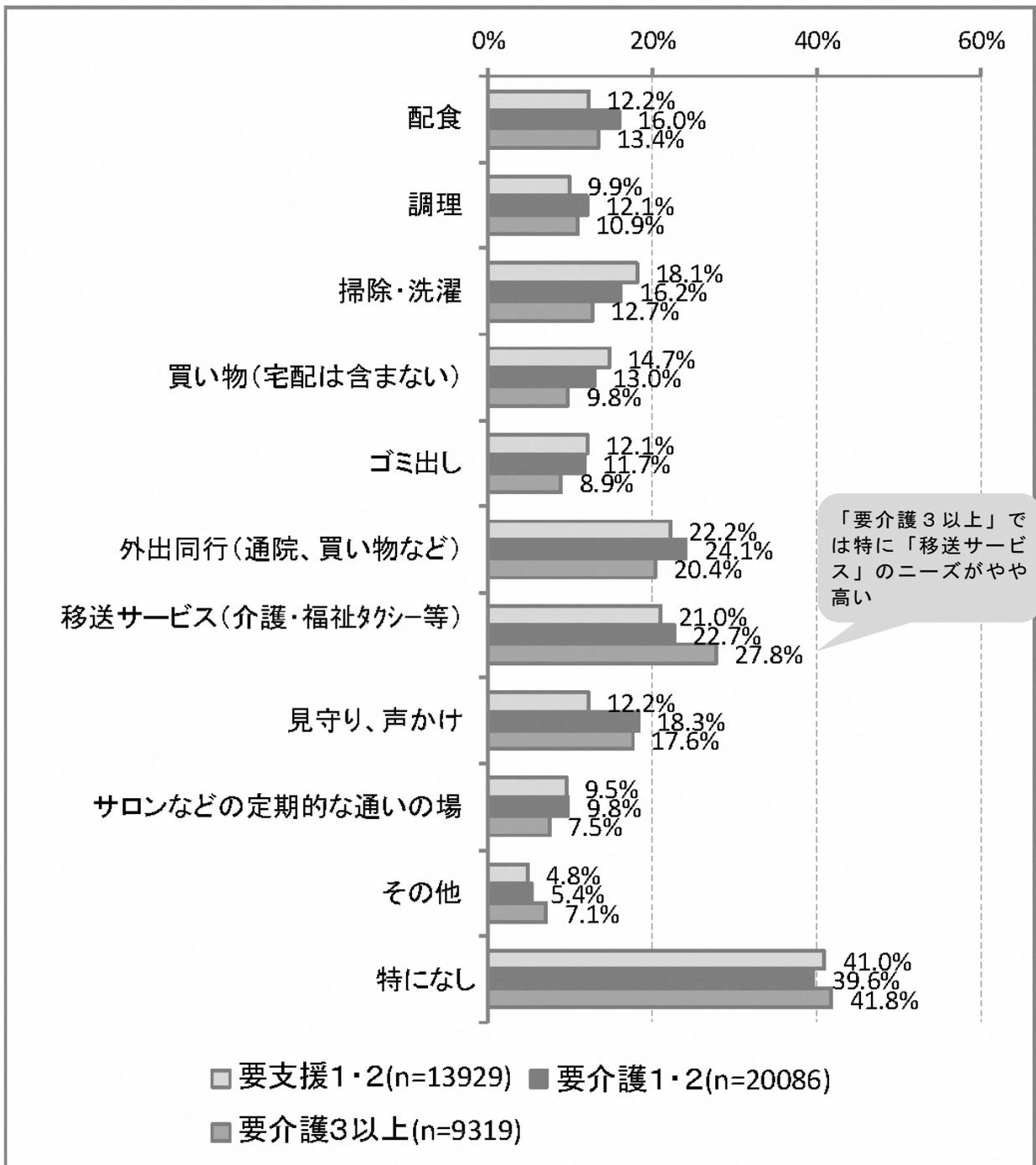
(11) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」は、要介護3以上では「移送サービス」がやや高い。

- ・要介護度別の「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」を見ると、「要介護3以上」においては、「移送サービス」のニーズがやや高い傾向がみられる。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



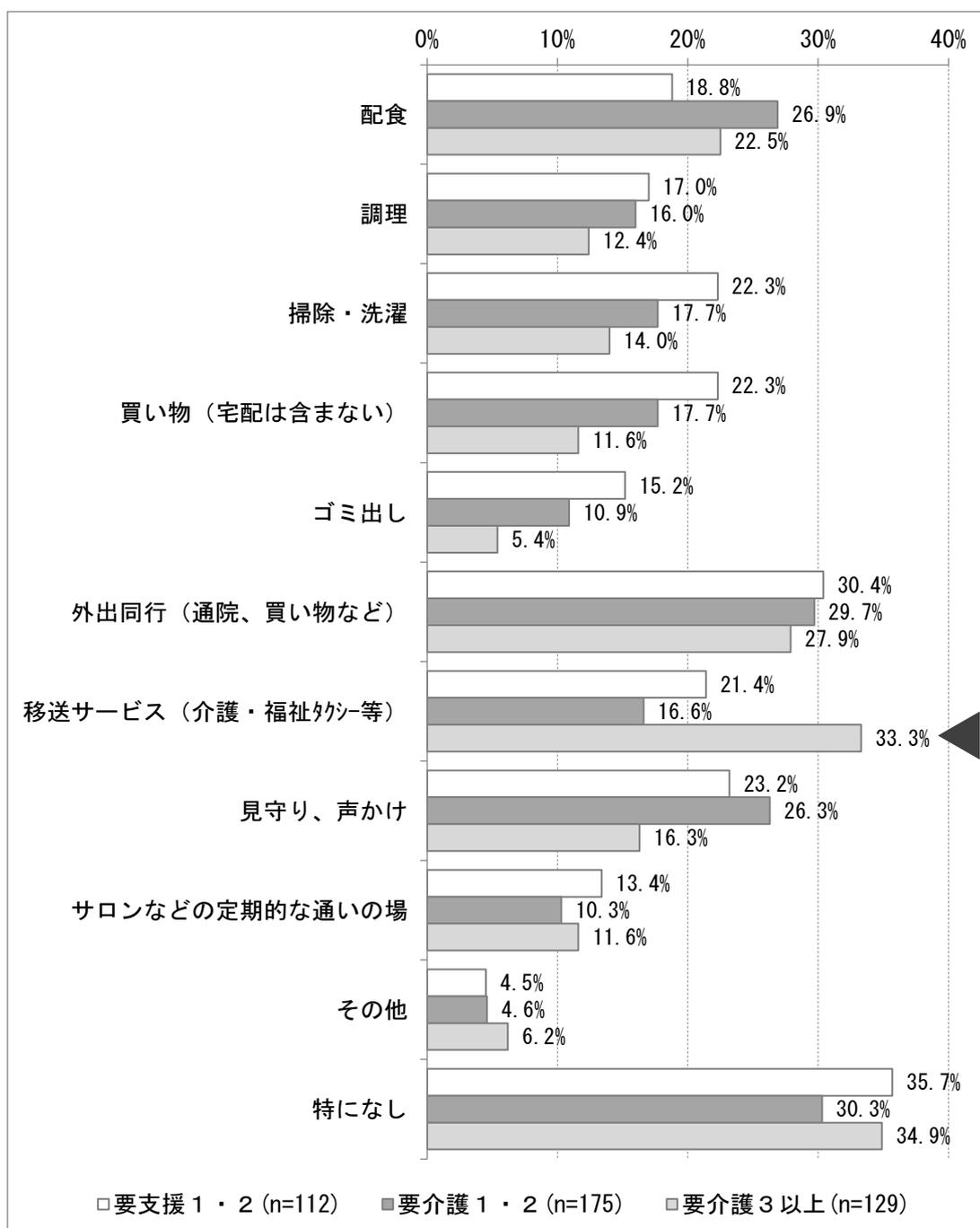
②市の調査結果では……

市でも全国と同様に、「要介護3以上」では「移送サービス」が高くなっている。要介護1・2では、「外出同行(通院、買い物など)」「配食」が高い。

また、「要支援1・2」では、「外出同行(通院、買い物など)」が最も高いが、これに「見守り、声かけ」、「掃除・洗濯」や「買い物(宅配は含まない)」などが続いている。

介護保険サービスと、保険外の支援やサービスを組み合わせながら、軽度のため、中重度のためのそれぞれに適切なサービスの整備等が必要となる。

要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



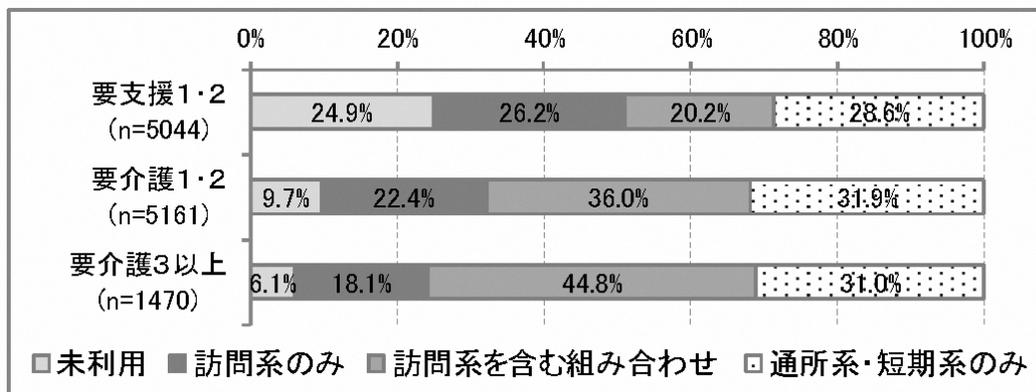
(12) サービス利用の組み合わせ（要介護度別・世帯類型別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上 30万人未満】)より)

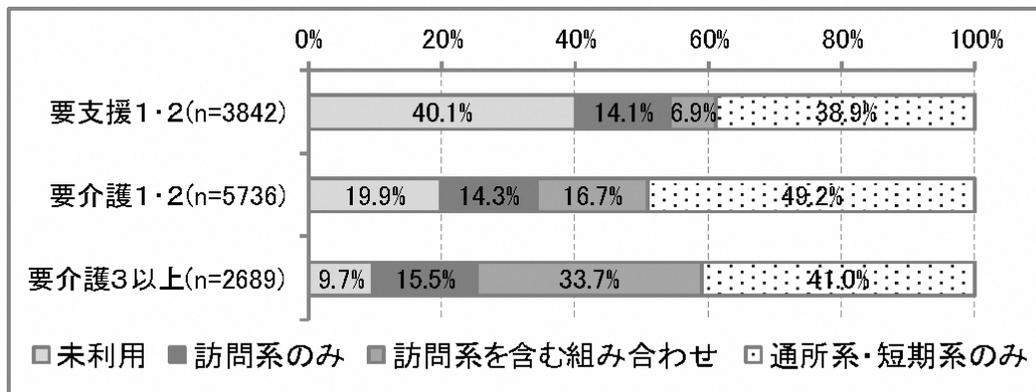
◎要介護度の重度化に伴い、いずれの世帯類型においても「訪問系を含む組み合わせ」が増加

- ・世帯類型別・要介護度別のサービス利用を見ると、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加する傾向がみられた。
- ・このように、現在、在宅で生活している要介護者は、要介護度の重度化に伴い「訪問系サービスを含む組み合わせ」の利用をしていくことで、在宅生活の継続を可能にしていると考えられ、また、いずれの世帯類型についても概ね同様の傾向がみられるといえる。

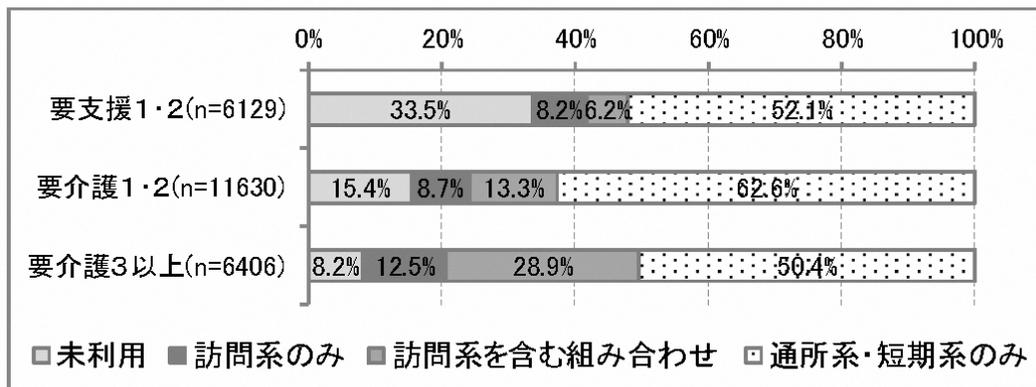
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



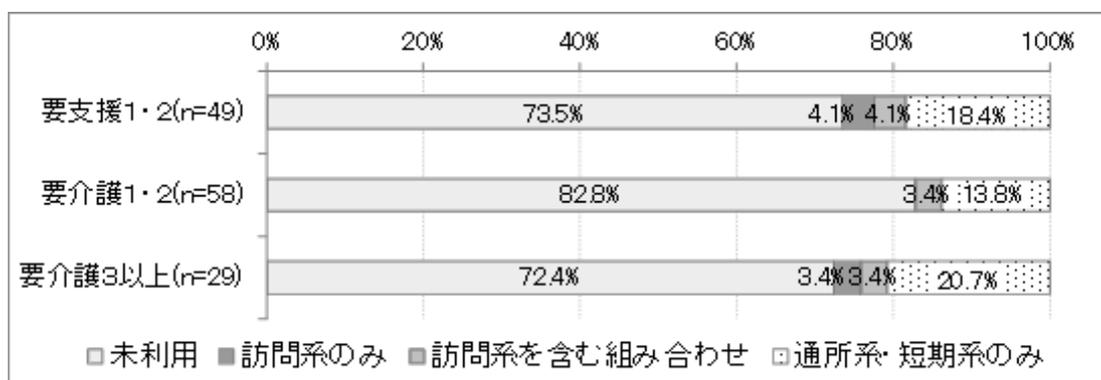
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



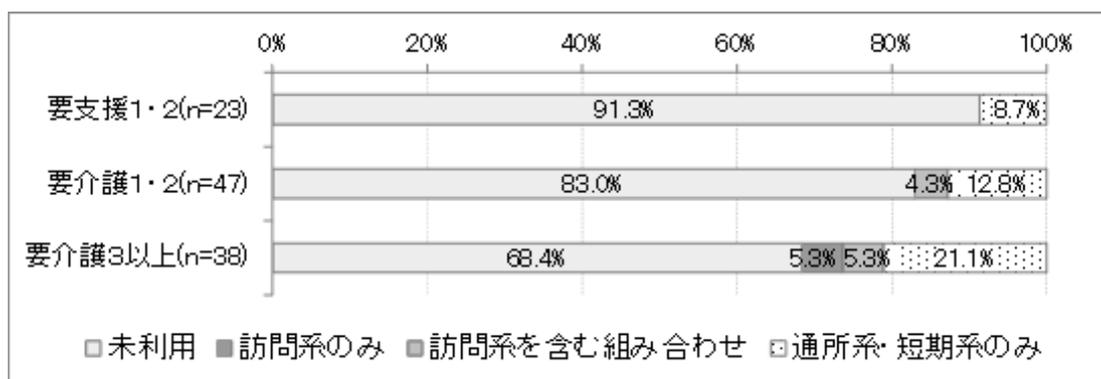
②市の調査結果では……

市では、全国の傾向とは大きく異なり訪問系サービスの利用は非常に少ない。これはどの世帯構成でも同じ傾向が見られる。

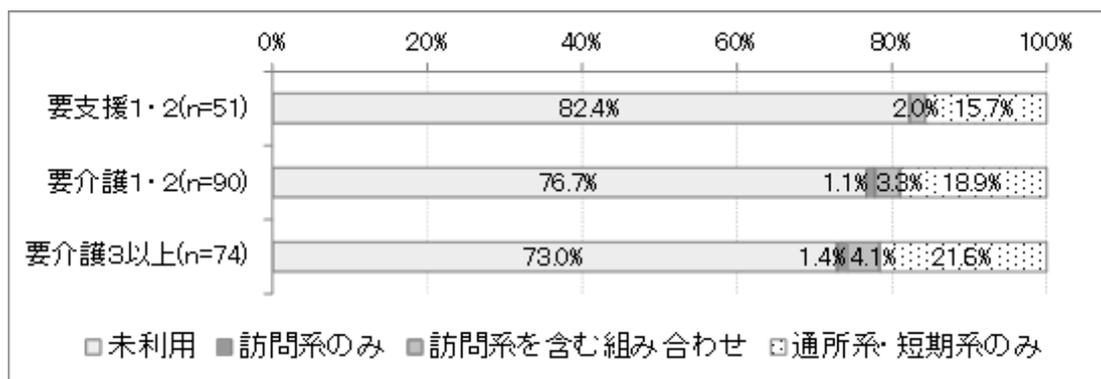
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



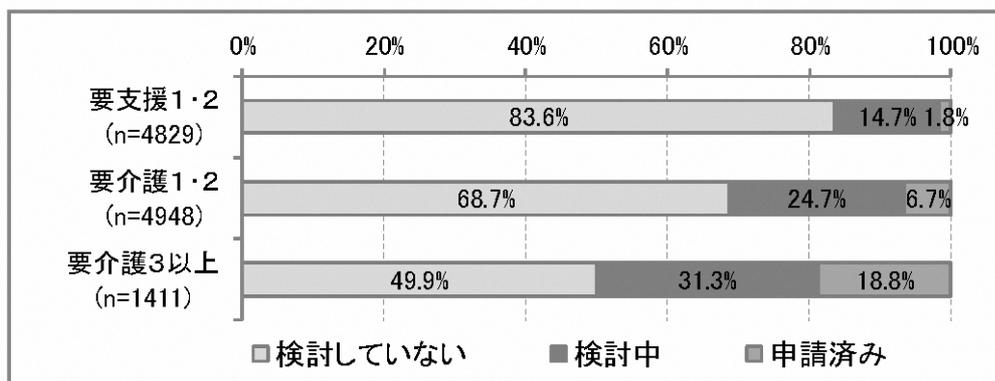
(13) 施設等検討の状況（要介護度別・世帯類型別）

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

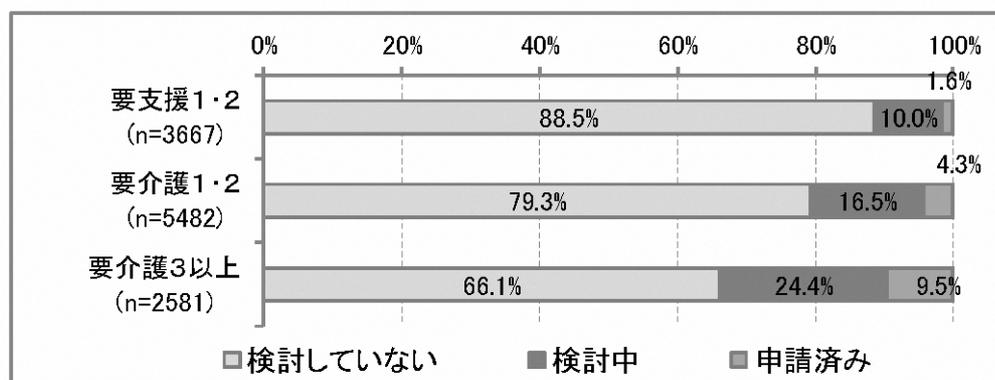
◎全国では、「夫婦のみ世帯」「そのほか世帯」では、要介護3以上においても「施設等を検討していない」割合が6割を超えているが、単身世帯では5割をきっている。

・施設等の検討状況について世帯類型別に見ると、要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では49.9%、「夫婦のみ世帯」は66.1%、「その他世帯」では64.6%である。反対に要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が18.8%、「夫婦のみ世帯」が9.5%、「その他世帯」が11.9%となっている。

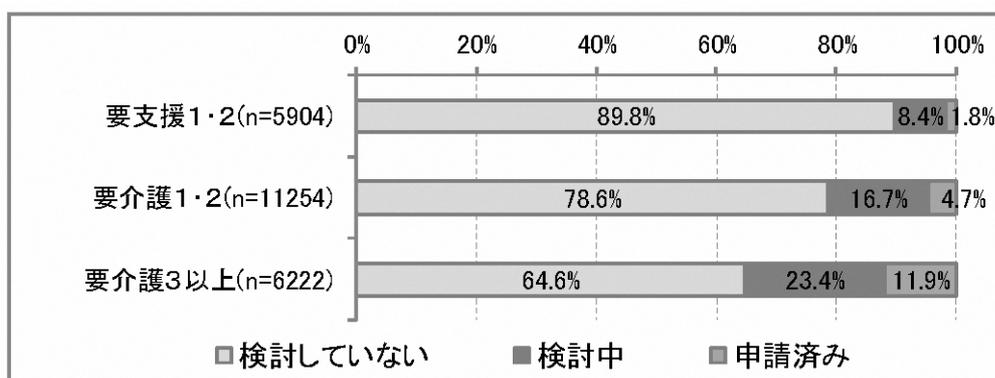
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



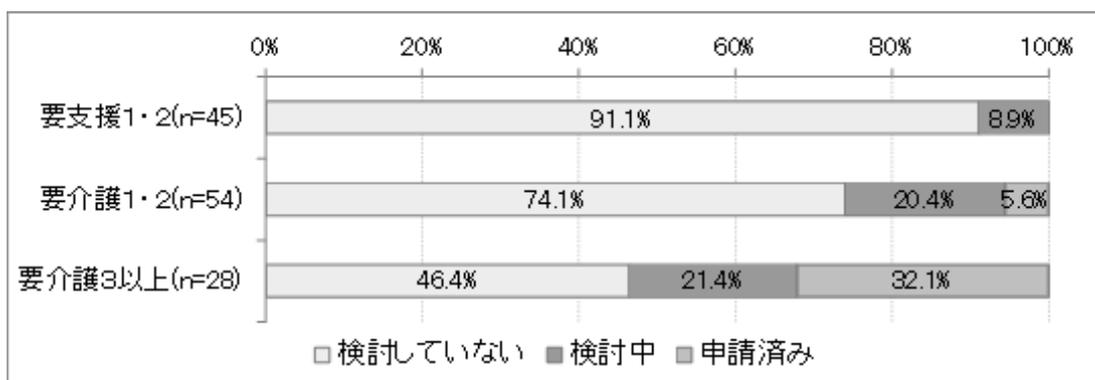
要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



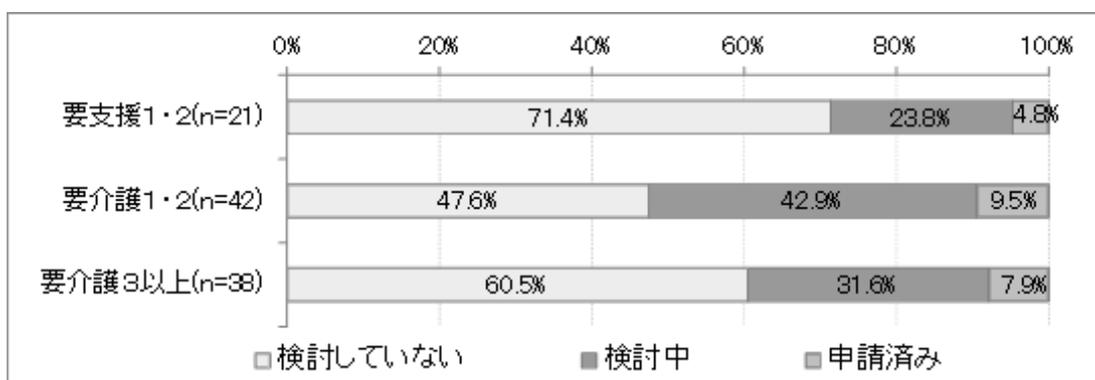
②市の調査結果では……

市では、施設等について要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では46.4%、「夫婦のみ世帯」で60.5%、「その他世帯」では62.5%であり、いずれも全国よりも低い。要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が32.1%、「夫婦のみ世帯」が7.9%、「その他世帯」が15.3%であり、「単身世帯」は全国を大きく上回っている。夫婦のみ世帯では、他の世帯類型と比べて、「申請済み」は低いが、「検討中」は最も高くなっている。

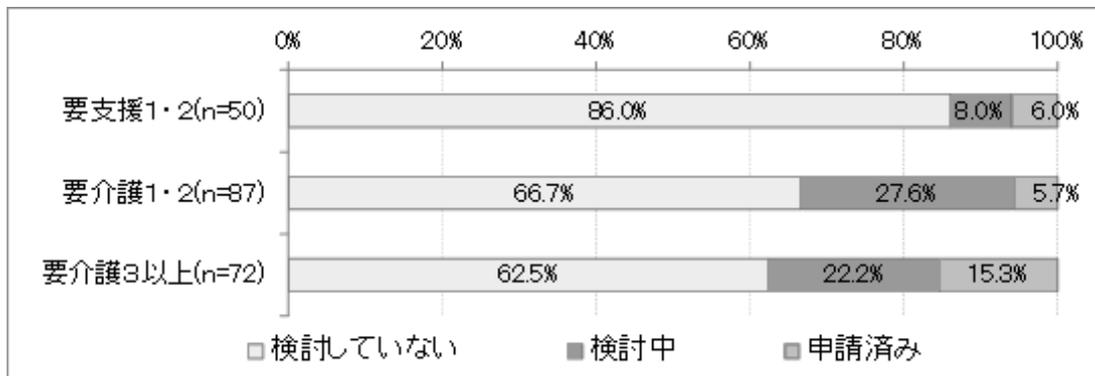
要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



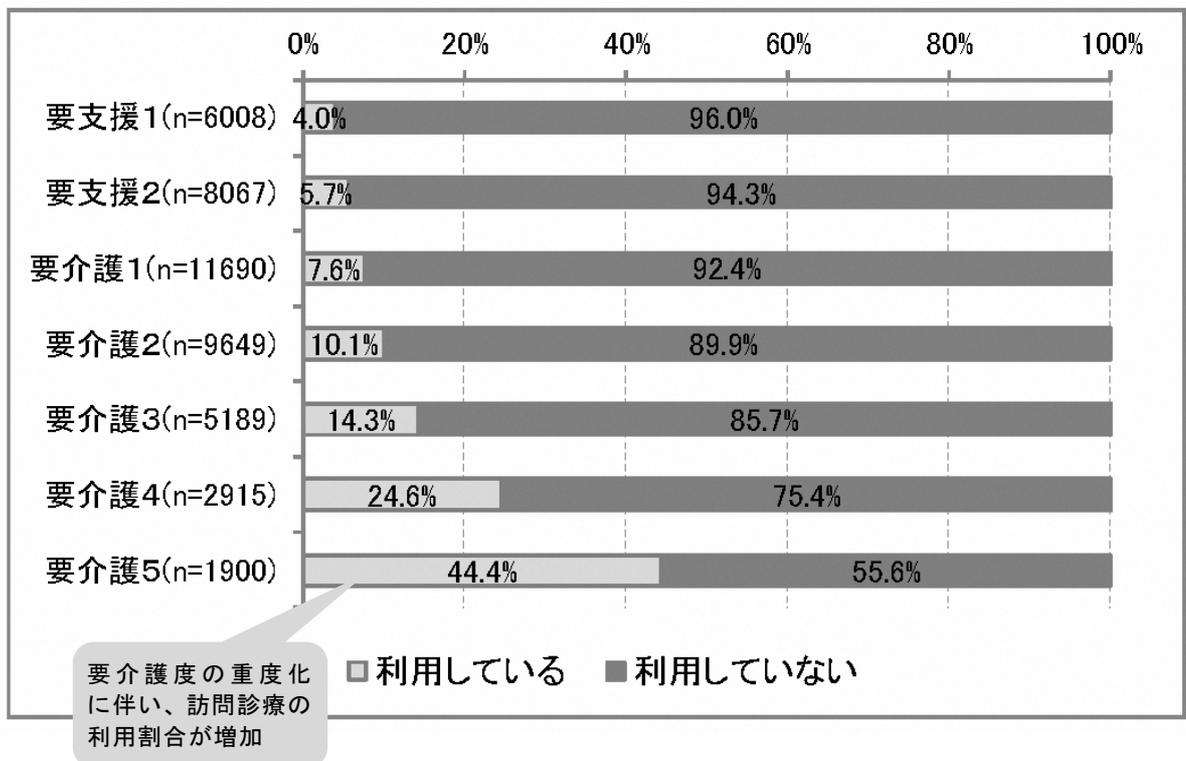
(14) 訪問診療の利用割合

①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上 30万人未満】)より)

◎「要介護度の重度化」に伴い、「訪問診療」の利用割合が増加

- ・要介護度別の「訪問診療の利用の有無」を見ると、要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加しており、要支援1では4.0%であった訪問診療の利用割合が、要介護1では7.6%、要介護3では14.3%、要介護5では44.4%に増えている。
- ・今後高齢化の進展に比例して要介護認定者も増加する。それに伴い訪問診療の利用も増加すると思われるため、その受け皿を準備する必要がある。

要介護度別・訪問診療の利用割合

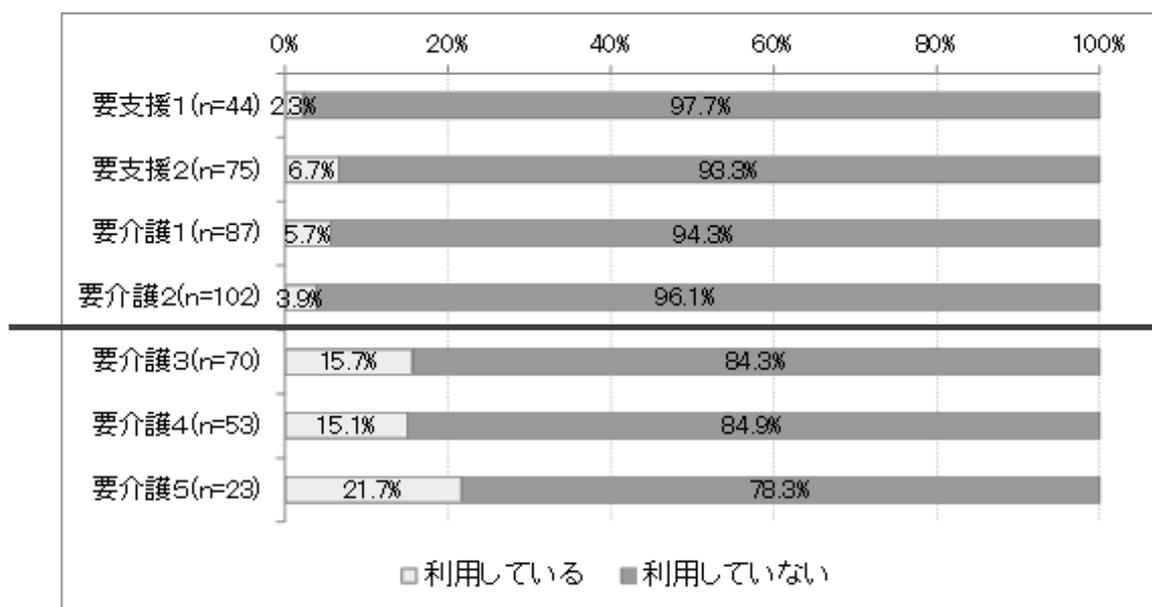


②市の調査結果では……

市では、全国ほど利用割合が高くないものの、全国と同様に介護度が上がると利用割合が高くなる傾向が見られる。全国では要介護度の上昇に比例して利用割合が高くなっているが、市では「要介護3」以上で利用割合が高くなっている。

在宅介護を継続する上では在宅医療の提供が必要なケースもあるため、在宅療養者に対する適切なサービス提供体制の確保が必要である。

要介護度別・訪問診療の利用割合

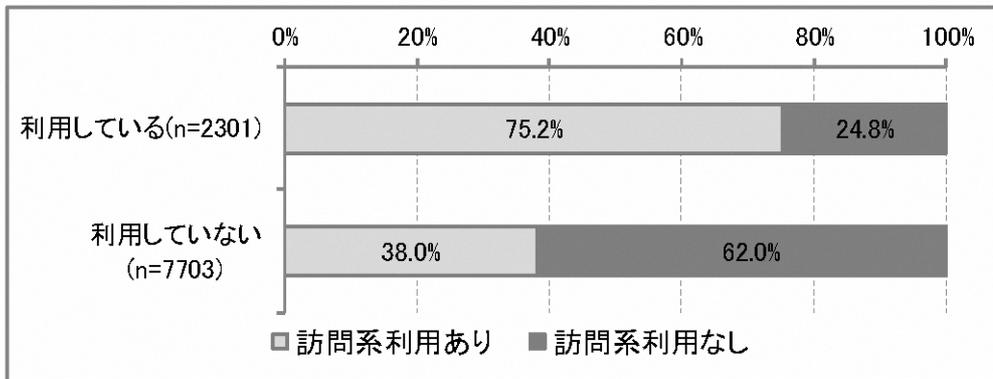


(15) 訪問診療とサービスの利用有無の関係

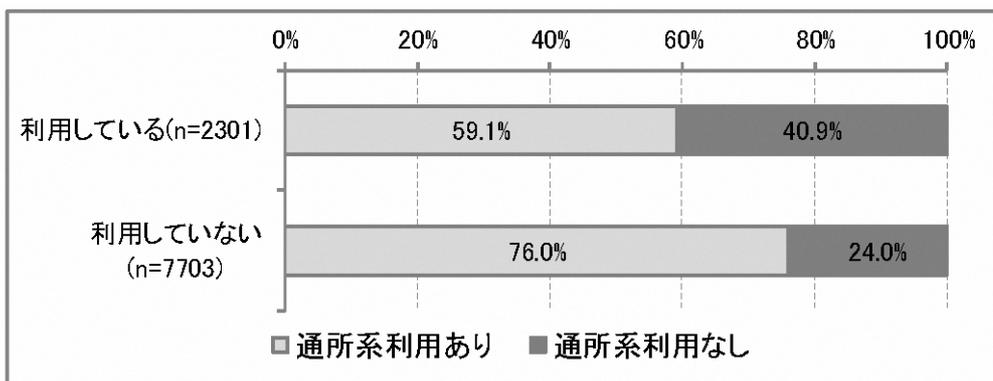
①全国（R2在宅介護実態調査の集計結果(全国集計【10万人以上30万人未満】)より)

◎全国では、「訪問診療を利用している」ケースでは、短期系の利用割合が低い。

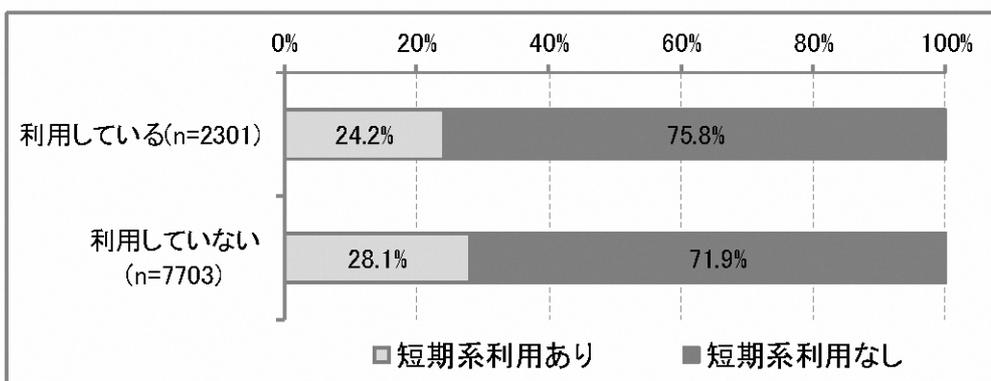
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



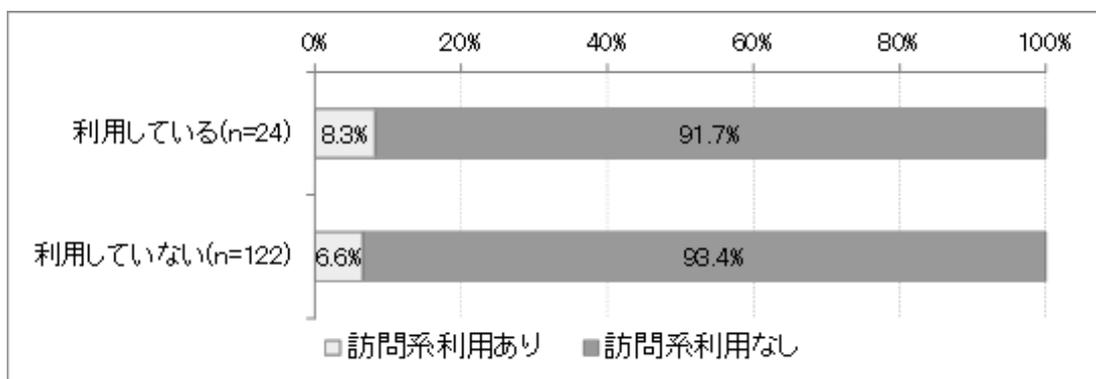
訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



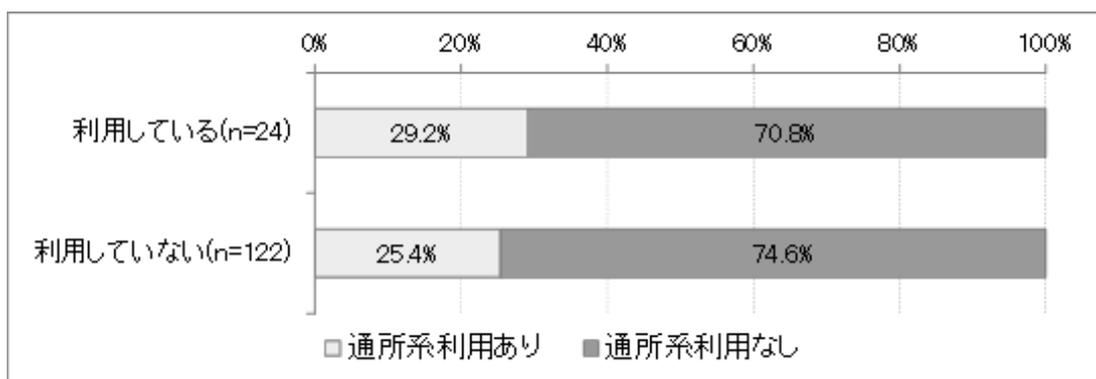
②市の調査結果では……

市では、いずれのサービスでも訪問診療利用率は全国を下回っている。やや訪問系サービス利用者の方が訪問診療利用率は高いが、全国ほどの差異は開いていない。

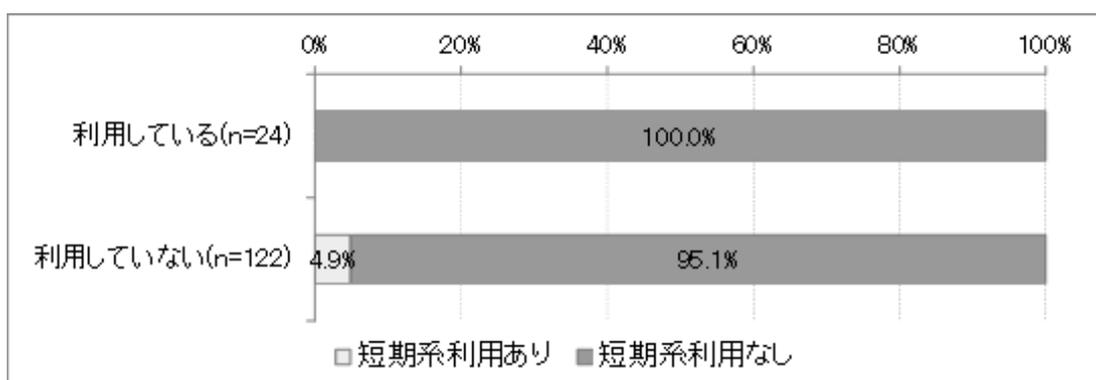
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



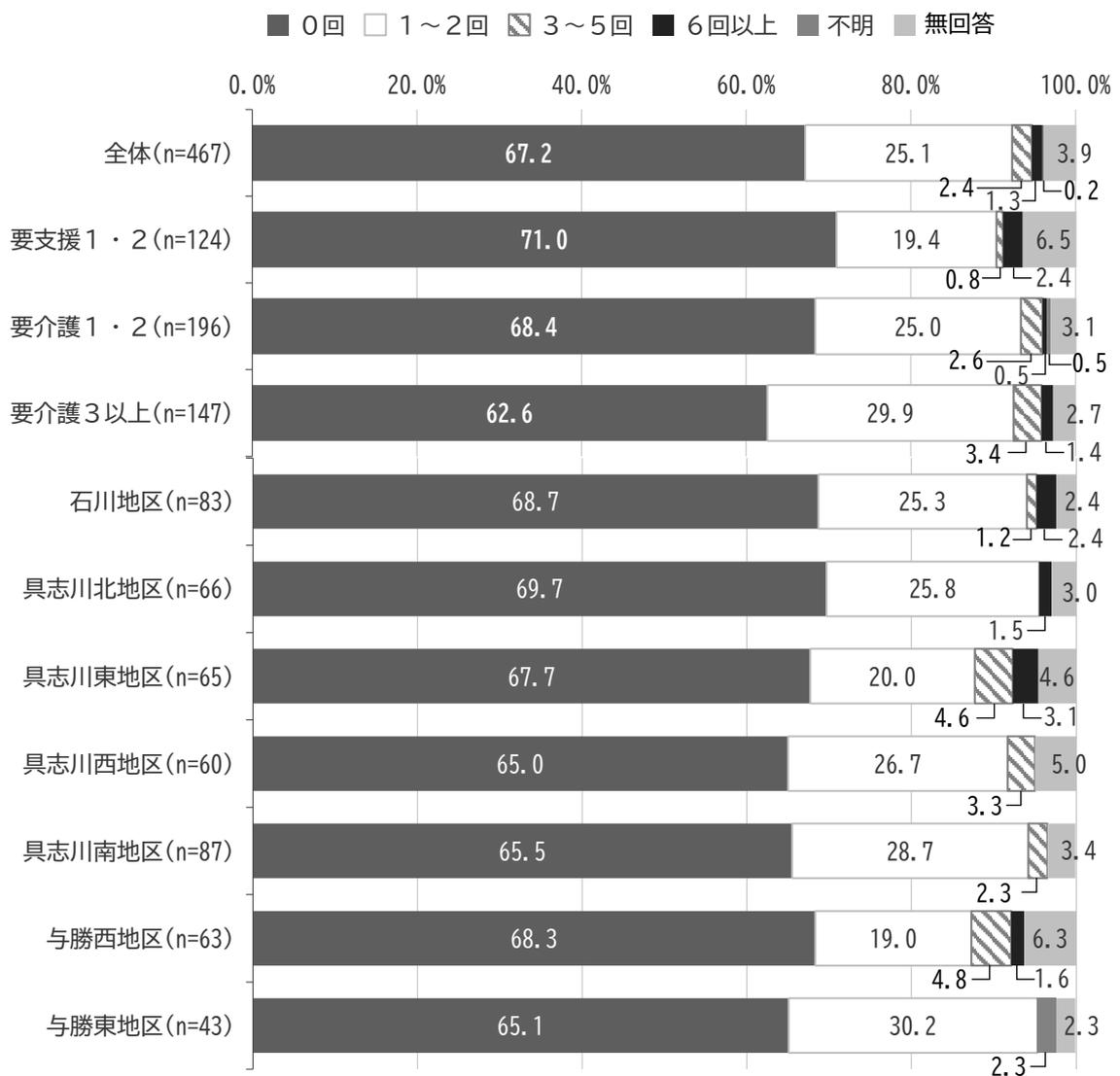
(16) 救急(総合病院への定期外受診)の受診回数

最近6か月以内に、救急(総合病院への定期外受診)を受診した回数を尋ねたところ、全体では7割弱の人は受診していないと回答している。

要介護度でみると、要介護度が重くなるにつれて受診したことがある人が増加しており、体力の低下とともに受診する可能性が高くなることがうかがえる。

地区別で見ると、「0回」はいずれも7割弱でしたが、「1～2回」はばらつきが見られる。「与勝西地区」や「具志川東地区」は2割前後にとどまっていますが、「与勝東地区」や「具志川南地区」は3割前後となっており、およそ10ポイントの開きがある。

救急の受診回数



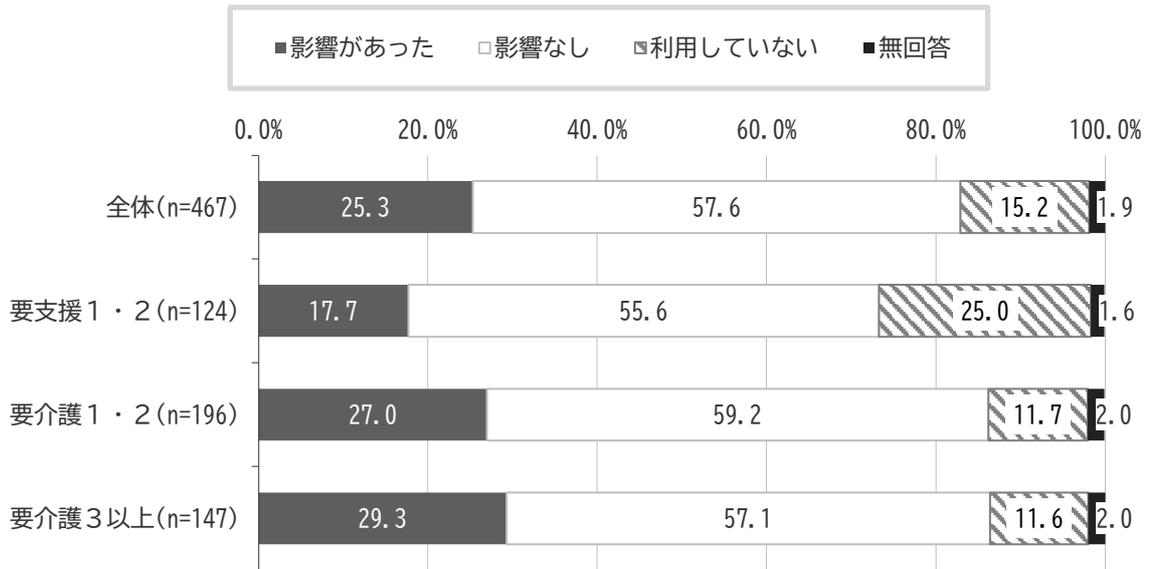
(17) 新型コロナウイルス感染症の影響

① 介護サービス利用への影響

介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響を尋ねたところ、「影響があった」が25.3%、「影響なし」が57.6%となっている。

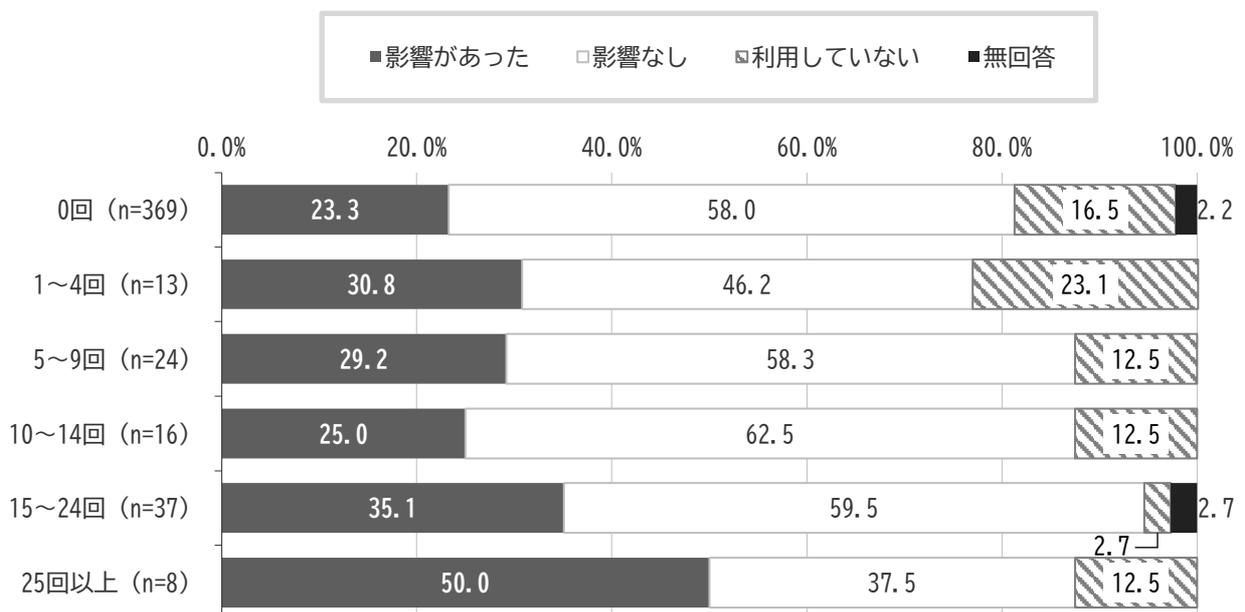
要介護度別に見ると、「影響があった」という回答は要介護度が重くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。

介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響と要介護度



外出を控えることを求められたコロナ禍では、日常生活にも大きな影響を与えたと言われる。通所系の介護サービスの利用回数への影響をみると、「25回以上」利用は「影響があった」の割合が50.0%と最も高く、これに「15～24回」利用の35.1%、「1～4回」利用の30.8%、「5～9回」利用の29.2%が続いている。

新型コロナウイルス感染症の影響と通所系サービスの利用回数

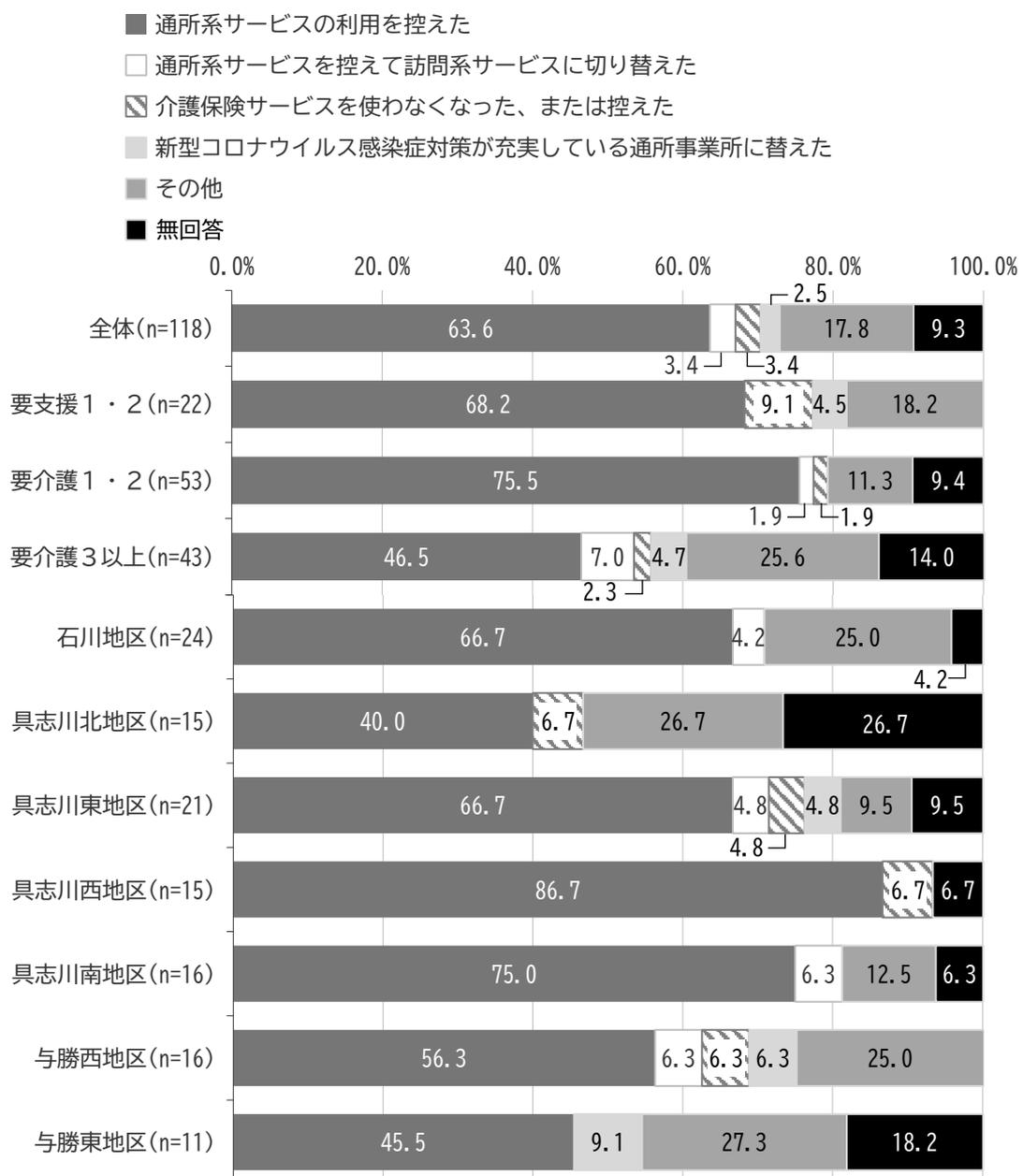


介護サービスへの新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答した人に、その影響の種類を尋ねると、6割強の人が「通所系サービスの利用を控えた」と回答している。

要介護度別に見ると、「要介護1・2」と「要介護3以上」では、「介護サービスそのものを控える」が5%未満であるが、「要支援1・2」では9.1%ある。また、「要介護3以上」では、「通所系サービスを控えて訪問系サービスに切り替えた」が7.0%あり、要支援1・2や要介護1・2より高い。

地区別で見ると、「通所系サービスの利用を控えた」について地区で大きな差異が見られた。「控えた」が最も低かったのは「具志川北地区」の40.0%であり、最も高かったのは「具志川西地区」の86.7%であった。

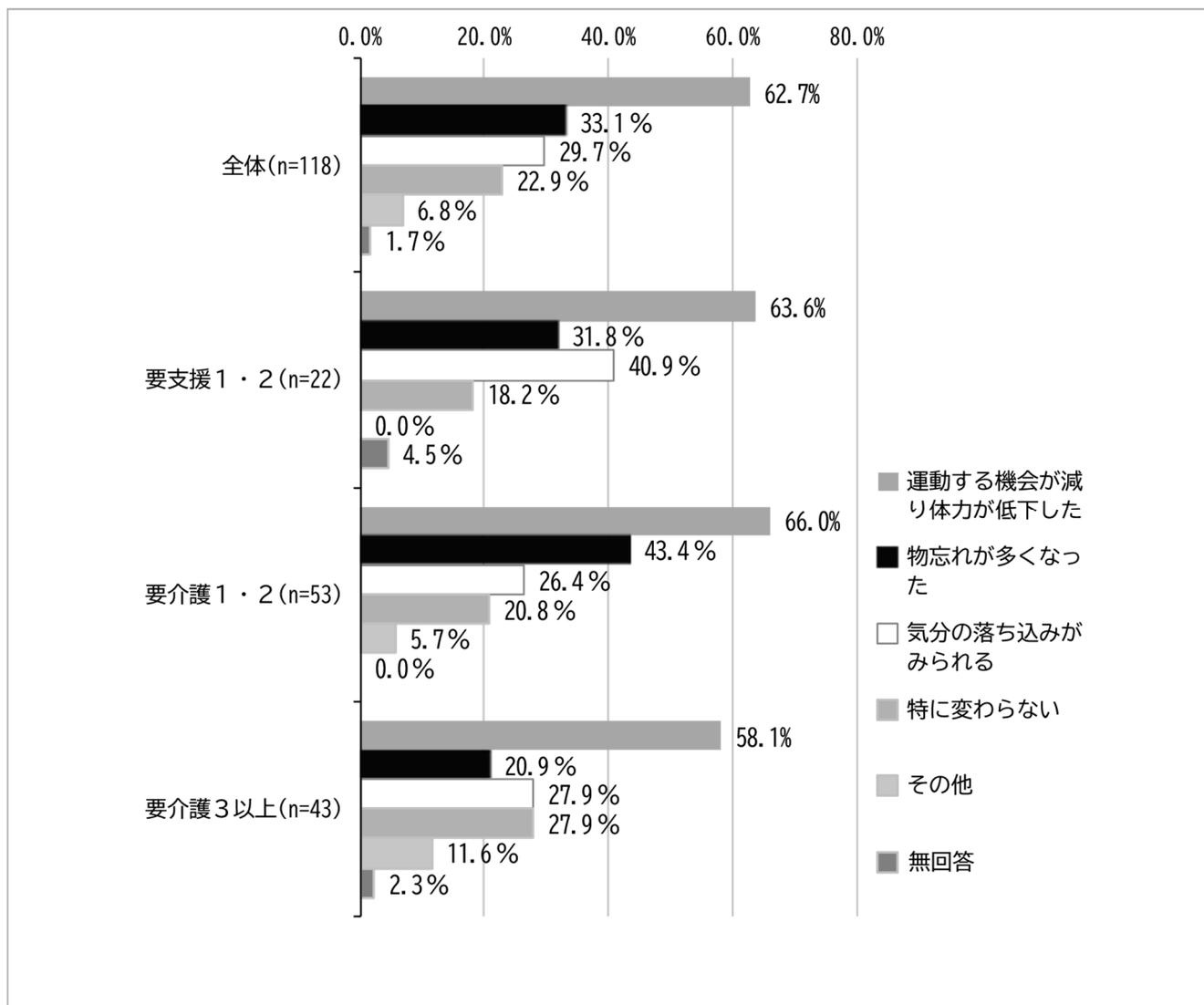
新型コロナウイルス感染症の影響の内容



新型コロナウイルス感染症の影響のうち、健康に関することを尋ねると、外出できないために運動もできず、体力の落ち込みがあったという割合が6割強あった。

要介護度別に見ると、いずれの要介護度でも体力低下をあげる回答が最も高くなっている。しかし、2位以下は要介護度で差異が見られ、「要支援1・2」では「気分の落ち込み」が他の要介護度よりも高くなっている。「要介護1・2」では「物忘れ」が4割強で次点となっている。「要介護3以上」では「気分の落ち込み」と「特に変わらない」が同率となっている。

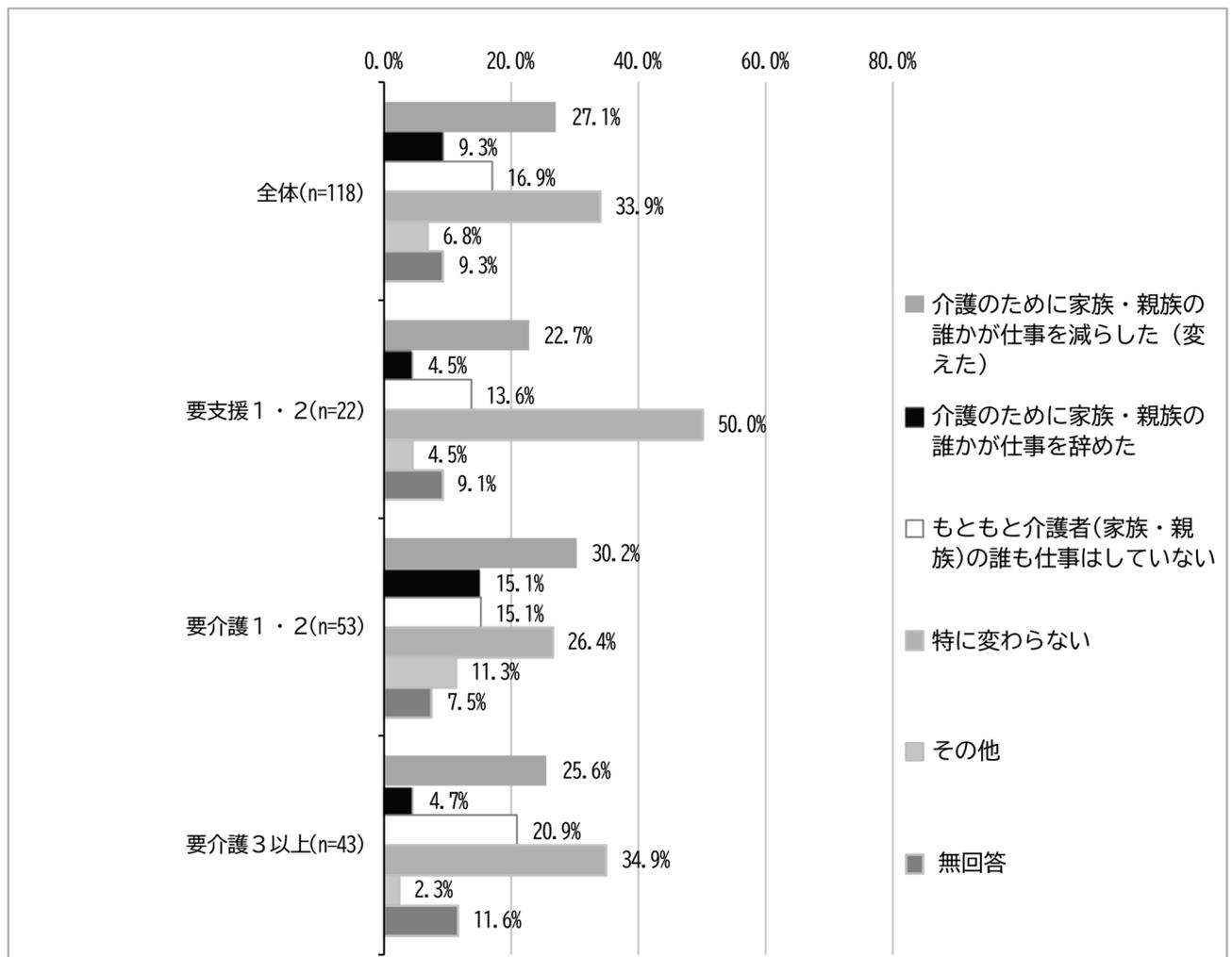
新型コロナウイルス感染症の健康的な影響



新型コロナウイルス感染症の周囲への影響をみたところ、「特に変わらない」が最も高くなっているが、次いで「介護のために家族・親族の誰かが仕事を減らした(変えた)」が続いている。「介護のために家族・親族の誰かが仕事を辞めた」は1割弱あり、「仕事を減らした(変えた)」と合わせると、4割弱が家族・または親族の仕事継続に影響を与えていることになる。

「介護のために家族・親族の誰かが仕事を減らした(変えた)」を要介護度別に見ると、いずれの要介護度も2割から3割ほどとなっており、特に「要介護1・2」は3割を超えている。

新型コロナウイルス感染症の周囲への影響

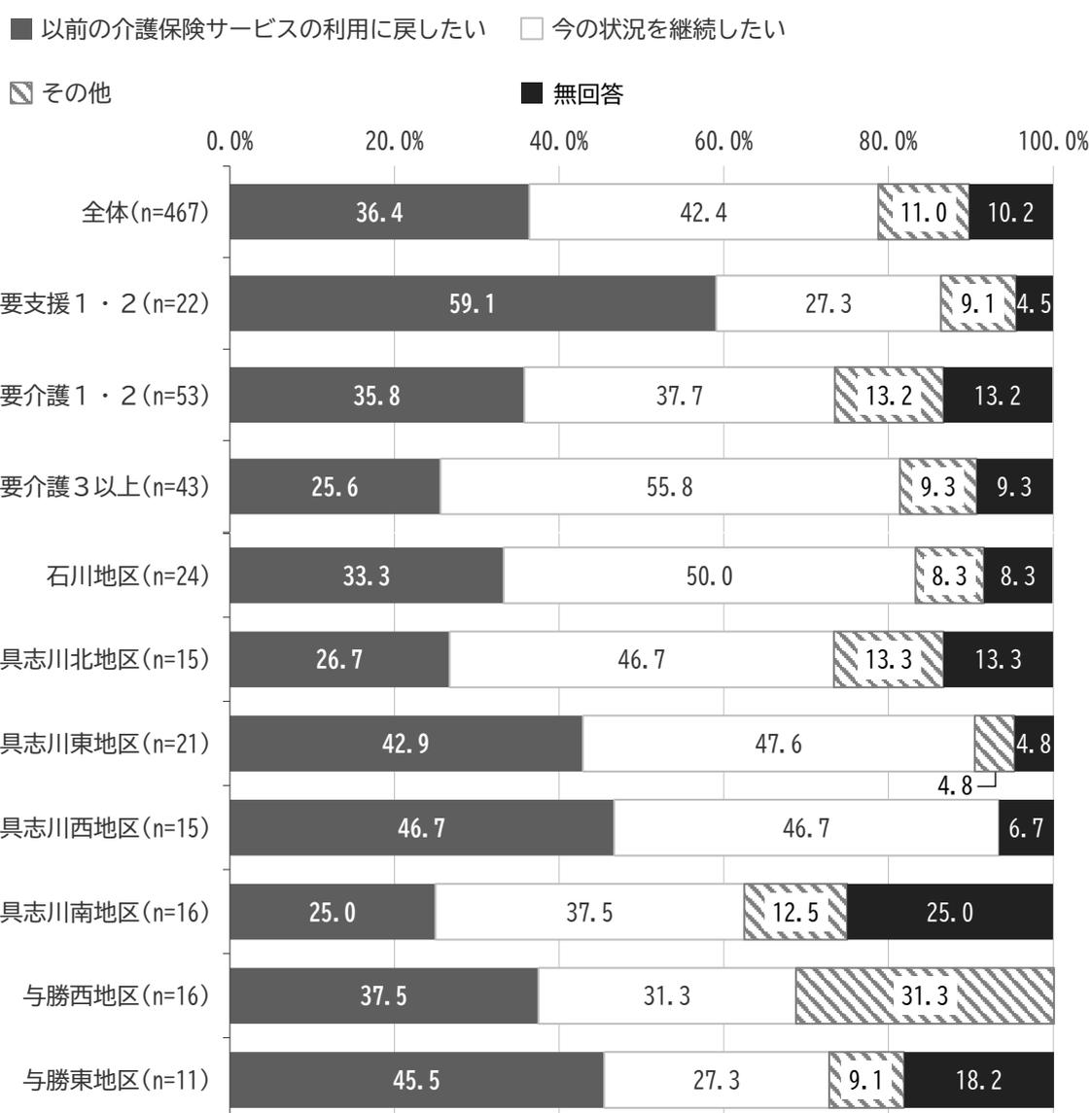


新型コロナウイルス感染症が収束し、外出などに支障が無くなったときの、介護サービス利用状況を尋ねたところ、「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」が4割弱なのに対し、「今の状況を継続したい」が4割強あった。新型コロナウイルス感染症蔓延以前の生活に戻ることを既定路線と考える人よりも、現状維持を選択する人の方がやや多いといえる。

要介護度別に見ると、明確な差異が見られた。「要支援1・2」では「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」が6割弱と他の要介護度より高くなっている。「要介護1・2」では「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」と「今の状況を継続したい」がほぼ拮抗している状態、「要介護3以上」では「今の状況を継続したい」が5割強となっている。

地区別で見ると、「具志川東地区」「具志川西地区」では「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」が5割弱あるのに対し、「具志川北地区」「具志川南地区」では3割弱にとどまっている。

ポスト・新型コロナウイルス感染症の介護サービスの利用



在宅の要介護者用

うるま市 在宅介護実態調査 調査票

調査番号 [_____]

【注意】 この調査は、在宅生活の方を対象としています。
万が一、施設入所者(介護保険の対象施設)の方に届いた場合、調査票にお答えいただく必要はありません。お手数ですが、本票を破棄していただくようお願いします。
※以下の施設は回答対象です。
・住宅型有料老人ホーム
・サービス付き高齢者向け住宅

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れて、

12月5日(月)までにポストに投函してください。

<お問い合わせ先> うるま市役所 介護長寿課 介護認定係
電話：098-973-3208

【お願い】 この調査は、本人の同意を必要としています。

この調査は、個人情報の取り扱いに関して、本人の同意を頂いた上で、調査票への回答をお願いするものです。

同意の署名がある調査票のみ、データとして集計に使用させていただきます。
個人情報取り扱い方法の説明と同意の署名については次のページに記載しています。

ご確認と同意の署名をよろしくお願いします。

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および要介護認定データの活用にかかる利用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、在宅で介護を受けながら生活する要介護者や介護者の状況把握を行い、今後の市の取り組みを検討するために行うものです。調査で得られた情報や要介護認定データは、本市における介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、本市で適切に管理いたします。
- ただし、本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

上記の事項を確認のうえ、同意します。

令和 年 月 日

ご署名 _____

(代筆者氏名： _____ 続柄： _____)

A 票 調査対象者様ご本人について、お伺いします

【ご回答をいただいたのは、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

1. ない → 問8へ
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

1. 男性
2. 女性

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

1. 18歳未満
2. 18歳～20歳未満
3. 20代
4. 30代
5. 40代
6. 50代
7. 60歳～64歳
8. 65歳～69歳
9. 70歳～74歳
10. 75歳～79歳
11. 80歳以上
12. わからない

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助（食べる時） | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等） | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等） | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備（調理等） | 13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等） |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|---------|-----------|
| 15. その他 | 16. わからない |
|---------|-----------|

問6-1 問6〔身体介護 11.医療面での対応〕を選択した方にお伺いします。
医療面に対応していることについて、ご回答ください（複数回答可）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 経管栄養（胃ろう、経鼻） | 2. ストーマ（消化管、膀胱） |
| 3. 在宅酸素 | 4. 喀痰吸引 |
| 5. 気管切開 | 6. 褥瘡処置 |

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● **ここから再び、全員の方にお伺いします。**

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他 |
| 11. 利用していない | |

※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他 |
| 11. 特になし | |

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※ 「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問10-1 「1. 入所・入居は検討していない」を選択された方にお伺いします。
現在のお住まいについて、ご回答ください（1つを選択）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 自宅（持ち家、借家） | 2. 住宅型有料老人ホーム |
| 3. サービス付き高齢者向け住宅 | |

- A票の問2で「2.」～「5.」を選択された場合は、「主な介護者」の方がB票へご回答・ご記入をして下さい。
- 「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人様のご回答・ご記入をして下さい（ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。

B票 主な介護者の方について、お伺いします

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入（調査票の該当する番号に○）をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

- | | | |
|-----------------------|---|-----|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問5へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他
10. 特にない
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)
(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にな |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問6 日中、介護・介助する人は在宅していますか(1つを選択)

1. 日中はほとんど家にいる
2. 仕事のため、日中はほとんど家にいない
3. 仕事のため、日中の半日程度家にいない
4. 仕事以外の理由で、日中はほとんど家にいない
5. その他 ()

問7 介護・介助をしていて孤独感がありますか(1つを選択)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. よく感じる | 2. ときどき感じる |
| 3. あまり感じない | 4. ほとんど感じない |

問8 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人はいますか(複数選択可)

1. 配偶者
2. 兄弟姉妹・親戚・親・子・孫
3. 隣人
4. 友人
5. ケアマネジャー・ヘルパーなどのサービス事業者
6. 地域包括支援センターの職員
7. 病院の医師・看護師
8. その他 ()
9. そのような人はいない

問9 在宅介護を続ける上で必要なことは何ですか(複数選択可)

1. 時々見に来てくれる在宅介護のアドバイザー
2. 24時間定期的に来てくれる訪問介護
3. 医療の面で様子を見に来てくれる専門員(在宅医療)
4. 時々、要介護者をみてくれる人(代わってくれる人)
5. その他 ()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第5章 アンケート調査から把握された課題のまとめ

第1節 日常生活圏域ニーズ調査結果から見える課題のまとめ

まとめ1. 身体機能リスク全般について

- ・本調査では、高齢者の身体機能の低下リスク（以下、身体機能リスクという）について、「総合事業対象者」、「運動器の機能の低下」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「低栄養の傾向」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」、「認知機能低下」、「IADLの低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」の項目で把握した。
- ・身体機能リスク項目のリスク者で、介護に陥りやすい高齢者に当たる「総合事業対象者」の割合は33.0%となっており、前回調査時（令和2年度（第8期））より4.6ポイント上昇しており、介護予防の取組が望まれる高齢者が増加している。
- ・特にリスクの高い項目は、「社会的役割の低下」の58.3%、「知的能動性の低下」の51.7%であるほか、「認知機能低下」と「うつ傾向」がそれぞれ4割弱で比較的高い。また、ほとんどの身体機能リスクが、前々回調査時から前回調査時で減少しているものの、今回調査時に上昇に転じている。コロナ禍の影響による外出控え、活動控えにより、身体機能リスク者が増加したとも考えられる。
- ・後期高齢者になると、各種身体機能リスクの割合が高くなっていく。特に80歳以上で急増する傾向が見られる。
- ・女性では「運動器の機能の低下」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」の項目における身体機能リスクの割合が男性より高い傾向にある。男性では、「知的能動性の低下」（情報を得る等）、「社会的役割の低下」（他人と交流する等）、「IADLの低下」（手段的日常生活動作＝料理、洗濯など）における身体機能リスクの割合が女性より高い傾向にある。
- ・「認知機能低下」や「口腔機能低下」は、男女とも同程度の身体機能リスクの割合となっている。
- ・圏域別では、「与勝東地区」は、全ての身体機能リスク項目が最も高いか上位となっている。また、「与勝西地区」も多くの項目で身体機能リスクの割合が高い。

- 身体機能リスク項目のリスク者で、介護に陥りやすい高齢者に当たる「総合事業対象者」が約3割おり、前回調査時より増加している。介護予防事業の拡充が必要である。
- 高齢者の身体機能リスクを見ると、「運動器の機能の低下」や「転倒リスク」といった“筋力低下”よりも、「社会的役割の低下」「知的能動性の低下」「認知機能低下」「うつ傾向」といったリスクの方が高くなる傾向が見られる。フレイル予防（心と体の働きが弱くなってきた状態（虚弱）の予防）の取組においては、この点を踏まえた事業展開が必要である。
- 性別・年代別で身体機能リスクの項目に特徴が見られるため、性別や年代別でフレイル予防のメニューを検討するなどの工夫が必要である。

まとめ2. 「1人暮らし」と「配偶者以外と2人暮らし」について

- ・高齢者の家族構成を見ると、最も多いのは「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」の30.1%となっているが、「1人暮らし」が21.6%あり、前回の19.1%から2.5ポイント上がっている。
- ・「配偶者以外と2人暮らし」では、「息子」と暮らしている割合が高くなっている。
- ・身体機能リスクとの関係を見ると、「1人暮らし高齢者」、「配偶者以外と2人暮らし」では、身体機能リスクの各項目でリスク割合が高くなる傾向が見られる。

- 「1人暮らし高齢者」とともに「配偶者以外と2人暮らし」の世帯の高齢者が、身体機能リスクの各項目でリスク割合が高くなる傾向がみられる。
- 「1人暮らし高齢者」は言うまでもなく、「配偶者以外と2人暮らし」の世帯の高齢者等、家庭環境によって支援を要する高齢者の把握が必要である。

まとめ3. 主観的幸福感、主観的健康感、孤独感、生きがい

(主観的幸福感)

- ・主観的幸福感を見ると、全体では「10点(とても幸せ)」は18.6%である。男性では「5点(普通)」と感じる者が多く、女性では「10点(とても幸せ)」と感じる者が多い。幸福度は、全般的に女性の方が男性より高い傾向が見られる。
- ・年齢別に見ると、「10点(とても幸せ)」は年齢が上がると高くなる傾向にある。65歳~69歳では1割半ばであるが、85歳以上では2割半ばに上がっている。
- ・身体機能リスクの割合を幸福度別で見ると、「0点(幸福でない)」では、ほぼ全ての項目でリスク割合が高い。特に「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」、「うつ傾向」は、8割を超えている。「10点(とても幸せ)」のリスク割合は低く、「0点(幸福でない)」との差は顕著である。

(主観的健康感)

- ・健康状態について尋ねたところ、健康状態が良い(「とてもよい」「まあよい)」という回答は約7割を占める。
- ・年齢別に見ると、健康状態が良いという回答は、年齢が上がるとともに減少傾向となる。健康状態が良いという者は65歳~69歳では7割を超えているが、85歳以上では6割弱に下がる。
- ・身体機能リスクの割合を主観的健康感別で見ると、健康ではない(「あまりよくない」「よくない」と回答した者では、全項目でリスクの割合が最も高くなっており、「社会的役割の低下」が8割強、「知的能動性の低下」、「うつ傾向」は7割強に及んでいる。

(孤独感)

- ・高齢者のうち、“孤独感あり”の割合は約3割であり、経年比較を見ると「ときどき感じる」が前回調査時より増えている。
- ・孤独感を主観的幸福度別で見ると、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」では孤独感を「よく感じる」、「1点～3点(やや幸福ではない)」では「ときどき感じる」と孤独を感じている割合が高い。
- ・身体機能リスクの割合を孤独感の有無別で見ると、全ての項目について、孤独を「よく感じる」人でリスクの割合が非常に高くなっている。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」で割合が高い。

(生きがい)

- ・生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいあり」は62.1%、「思いつかない」が31.5%であり、生きがいのある高齢者が大半を占めている。
- ・経年比較を見ると、「生きがいあり」の割合が、前回、前々回より下がっており、「思いつかない」が上がってきている。
- ・身体機能リスクの割合を生きがいの有無別で見ると、生きがいがない(「思いつかない」)は、身体機能リスクの全項目でリスクの割合が高い。特に、「社会的役割の低下」が8割弱、「知的能動性の低下」は7割弱、「うつ傾向」は5割強に及んでいる。

- 幸福とを感じる人は健康感が高く、孤独感が低い。反対に不幸とを感じる人では健康感が低く、孤独感が高いという傾向が見られる。
- 幸福感や健康感が低いと身体機能リスクも高い傾向があり、さらに孤独感が高いと身体機能リスクも高い傾向にある。
- 生きがいがない(思いつかない)高齢者は、身体機能リスクが全項目で高い。
- 幸せな暮らしにおいては、健康であると感じること、孤独ではないこと、生きがいを持っていることが関連している。
- 高齢者の幸福感を高めるための「健康づくり」「集いの場づくり」「生きがいづくり」の取組を推進する必要がある。

まとめ4. 歯の健康

- ・口腔ケアの状況を見ると「毎日歯磨きをしている人」は 88.1%、「入れ歯の手入れを毎日している人」は 87.9%を占めており、「歯のかみ合わせが良い」は 71.8%となっている。
- ・歯科医院を受診していない者は 66.7%で、受診していない理由では、「行く必要がないから」が 54.4%を占めているが、「お金がかかる」、「歯科医院が苦手」、「行くのが面倒」という回答がそれぞれ 12%前後見られる。
- ・歯の健康状況別に身体機能リスクの割合を見ると、「かみ合わせが悪い」人では全ての身体機能リスク項目で「かみ合わせが良い」人よりリスクの割合が高い。
- ・入れ歯や歯の本数と身体機能リスクの関係を見ると、「自分の歯は 10 本未満」の人は、リスク割合の高い項目が多くなっている。特に「運動器の機能の低下」や「転倒リスク」でリスク割合が高い。
- ・入れ歯の利用の有無については、「入れ歯の利用なし」の方が「入れ歯を利用している」に比べてリスク割合が高い。

- 歯のかみ合わせが悪いと身体機能リスクの全項目において、リスクを抱える状況があることや、自分の歯が 10 本以下でも身体機能リスクを抱える割合が高いことが見て取れる。歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえる。
- 歯の健康を維持するための事業・施策を検討する必要がある。

まとめ5. BMI

- ・身体機能リスクの割合をBMI別で見ると、「低体重(やせ型)」は「普通体重」「肥満」と比べ、全項目でリスク割合が最も高い。特に、「社会的役割の低下」は約7割、「知的能動性の低下」が約6割と高い。
- ・「低体重(やせ型)」においては、体重の減少が最近見られたという回答者が 32.3%を占めており、体調を崩し体重減少となったという可能性もある。
- ・肥満について、BMIを細分化し、肥満1度(軽度)から4度(重度)の4段階で見ると、「肥満2度」以上で運動器機能低下のリスク割合が上昇し、「肥満3度」では5割、「肥満4度」になると8割を超えている。
- ・転倒リスクの割合は、「低体重(やせ型)」で約4割、「肥満(4度)」では6割半ばとなっている。

- BMIと身体機能リスクとの関係では、「低体重(やせ型)」はすべての項目で身体機能リスクの割合が高い。また、重度の肥満では、運動器機能低下のリスクの割合が高くなっている。
- 健康管理とともに体重管理から健康の保持を行っていくことが身体機能リスクの低減につながると考えられる。
- 体重管理を重点においた健康づくりの推進を検討する必要がある。

まとめ6. 経済的負担感を抱える人

- ・高齢者の中では、経済的な面で「苦しい」と回答した人が36.7%と4割近くを占め、経済的な負担を感じている人も多いことがわかる。
- ・前々回からの経年比較を見ると「苦しい」の割合は、前回、前々回の調査時点より増える傾向が見られる。
- ・経済的負担感を抱える人では、ほぼ全ての項目で身体機能リスクの割合が高くなっている。
- ・経済的に「苦しい」と回答した人では一人暮らしが多いほか、歯の健康において、口腔ケアに課題がある人が多い。また、歯科医院の未受診も多く、その理由として経済的負担が大きいことをあげる割合も高い。
- ・さらに、経済的に苦しい高齢者では、「孤独感が高い」、「生きがいが無い」という割合も高くなっている。

- 経済的負担感を抱えている高齢者では身体機能リスクの割合が高く、さらに「一人暮らし」、「口腔ケア状態不良」、「歯科医院未受診」、「孤独感が高い」、「生きがいが無い」という割合も高くなっている。
- 経済的負担を抱く高齢者と歯の健康の面で関係性があることから、口腔ケアについて、高齢者の歯の健康はもちろん、若い頃からの歯周病予防、歯科医の定期受診（定期検診）を推進することが、様々な身体機能リスクの予防につながると思われる。
- 経済的負担感を抱える高齢者へは、経済的支援だけでなく、心と身体への支援（生きがいをづくり、介護予防、医療的ケア（特に歯科））が必要であり、どのようにアプローチしていくか検討する必要がある。

まとめ7. 社会参加

- ・地域活動など社会参加については、「参加していない」が非常に高く、スポーツ、趣味、サークル活動、老人クラブ、自治会など、全てにおいて4割を超えている。全般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めている。
- ・社会参加を「週4回以上」行っているという回答では、「収入のある仕事」が高く10.9%である。また、「スポーツ関係のグループやクラブ」は週数回、「趣味関係のグループ」は週1回や週数回、「自治会」は年に数回という回答が比較的高い。
- ・「社会参加率」（回数に関係なく参加している割合）を経年比較すると、「収入のある仕事」以外の社会参加率が前回調査、前々回調査を下回る傾向にある。特に「自治会」の参加率低下が大きい。
- ・リスク割合を社会参加別で見ると、「介護予防のための通いの場」は、9項目でリスク割合が最も高い。リスク割合が低い活動を見ると、「スポーツ関係のグループやクラブ」は「運動器の機能の低下」や「転倒リスク」のほか、「うつ傾向」、「認知機能低下」でもリスク割合が他の活動より低い。また、「学習・教養サークル」では、「社会的役割の低下」や「知的能動性の低下」のリスク割合が低い。

- 地域活動など社会参加については、「参加していない」が非常に高い。「社会参加率」は、「収入のある仕事」以外の社会参加率が前回調査、前々回調査を下回る傾向にある。コロナ禍による外出控えがその一因とも見られる。特に「自治会」の参加率低下が大きい。
- 「スポーツ関係のグループやクラブ」は「運動器の機能の低下」や「転倒リスク」のほか、「うつ傾向」、「認知機能低下」でもリスク割合が他の活動より低い。また、「学習・教養サークル」では、「社会的役割の低下」や「知的能動性の低下」のリスク割合が低い。
- 地域活動への参加は、生きがいや介護予防において有効であると言われているが、参加率が低いほか、コロナ禍では外出控えも見られた。そういった中でも高齢者の就労率は上がっている。収入や人材の確保の観点だけではなく、「生きがい」「孤立の解消」といった面からも高齢者の就労機会を確保し、社会参加を促進することも必要である。

まとめ 8. 最期の迎え方（終活）

- ・最期を迎えたい場所は、「自宅」が 45.4%で最も高く、「病院」が 11.4%となっている。最期を迎えるにあたっての不安は、「家族・親族のこと」(34.1%)、が最も高い。
- ・「人生会議」を「知らない、聞いたこともない」という回答は 63.6%、「エンディングノート」を「知らない、聞いたこともない」が 45.7%と、周知度は低い。エンディングノートを持っている割合は僅か 4.1%であった。

- 人生の最期を迎えるにあたって、「人生会議」や「エンディングノート」の周知度を確認したが、周知度は低い。本調査は介護を必要としない高齢者が主な対象者であり、虚弱な高齢者が少ないこともあり、まだ考えていないという人が多いと見られる。最期の迎え方（終活）については、個人の意向を尊重すべきものであるが、必要と考えている高齢者に周知・広報が行き届くようにすることは重要である。

まとめ 9. 携帯電話

- ・携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等を所持している高齢者は 80.8%であった。利用しているアプリでは、「LINE（ライン）」の 47.7%が最も高く、「Eメール」や「You Tube（ユーチューブ）」が約 2 割となっている。

- 携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等を所持している高齢者が大半を占めているが、アプリの利用は LINE（ライン）のほかは利用率が低くとどまっている。今後、ICTを活用した情報発信、リモートでの交流・相談など、幅広い展開が可能性としてあるが、ICTの活用を検討する上では、高齢者のスマートフォン等の操作方法習得も必要となる。

まとめ 10. 新型コロナウイルス感染症の影響

- ・新型コロナウイルス感染症による悪影響としては、「家族や親族とのつながり」や「友人・知人とのつながり」がそれぞれ 38% 台であり、身近な人との交流機会での大きな影響があったことがわかる。

●コロナ禍においては、高齢者も家族・親族・友人・知人との交流機会での大きな影響を受けているが、「孤立状態・孤食状態にある」、「生きがいが無い」場合には身体機能リスクが高まる傾向が見られるため、つながりの機会づくりは必要である。

第2節 在宅介護実態調査結果から見える課題のまとめ

まとめ1. 在宅介護の状況（介護者）

- ・主な介護者の年齢を見ると、60代が30.5%で最も高いが、70代が17.5%、80代が16.7%と、70代以上での主な介護者が34.2%を占めている。
- ・介護の頻度は「ほぼ毎日介護」が50%を占めている。
- ・介護者の孤独感を見ると、孤独を感じている介護者は53.7%で半数を超えている。要介護度別に見ると、孤独感がある介護者は、要支援1・2では40.7%であるのに対し、要介護1・2で60.3%、要介護3以上は53.2%であり、要介護者を持つ介護者の方で、孤独感を抱いている人が多くなっている。
- ・介護者が行っている介護の内容としては、「掃除・洗濯、買い物等」、「金銭管理等」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」が高くなっている。要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣類の着脱」、「屋内の移乗・移動」がほかの介護度よりも非常に高くなっており、中重度の介護度では身体の介助・介護の度合いが高くなっている。

- 在宅介護における介護者は、70代以上で3割半ば、60代を含めると6割半ばを占めている。中重度者の介護では、身体介護も必要であり、老々介護への対策を検討する必要がある。
- 介護者の中には孤独感を抱える人が5割を超えており、介護者の孤独感を緩和する取組が必要である。

まとめ2. 介護者の就労と介護の状況

- ・「就労しながら介護を行っている」割合が45.2%で、4割以上が働きながら介護を行っている。
- ・「仕事のため日中は家にほとんどいない」は27.7%で、介護度で見ると要介護3以上では29.4%となっており、ほぼ3割を占める。
- ・介護と就労の両立について、「続けていくのは、やや難しい」が11.9%、「続けていくのは、かなり難しい」が8.1%であり、就労継続が困難と考えている介護者は20.0%となっている。
- ・仕事と介護を両立するために勤め先に支援してほしいこととして、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「介護をしている従業員への経済的な支援」が高くなっている。
- ・利用している介護サービスは、ほとんどが通所系であり、介護者が就労等で日中不在となるため、訪問系よりも通所系の介護サービスが利用されていると考えられる。

- 主な介護者のうち、4割以上が働きながら介護を行っており、「仕事のため日中は家にほとんどいない」が3割を占める。
- 介護のため就労が困難と考えている介護者が2割おり、仕事と介護の両立のため、介護休業・介護休暇等の制度の充実や経済的な支援を求める声が多い。
- 在宅介護者のうち半数程度は、就労等のため主な介護者が日中不在となることから、通所系サービスが利用されるという生活スタイルが見られる。
- 仕事と介護の両立のための施策を検討する必要がある。

まとめ3. 介護をする上での困りごと、もとめられる生活支援

- ・介護をする上での困りごととしては、要介護3以上については「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」が高い。また、要介護1・2では「認知症状への対応」が39.6%あり、要介護3以上を10.8ポイント上回っている。要支援1・2では、「食事の準備」が30.0%で、全国比で14.1ポイント高くなっている。
- ・市では、就労継続が困難と考える介護者が不安に感じる介護は、全国と同様に「認知症状への対応」、「夜間の排泄」が高くなっている。特に「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が非常に多い。
- ・在宅生活を継続するために必要と感じる支援・サービスとしては、「要介護3以上」では「移送サービス」が高く、要介護1・2では、「外出同行(通院、買い物など)」、「配食」が高い。また、「要支援1・2」では、「外出同行(通院、買い物など)」が最も高く、これに「見守り、声かけ」、「掃除・洗濯」や「買い物(宅配は含まない)」などが続いている。

- 在宅介護における困りごととして、「夜間の排泄」と「認知症状への対応」が特に多く、対応策の検討が必要である。
- 在宅介護を継続するために求められる支援・サービスは、介護度によって異なることから、軽度者、中重度者、それぞれに合った支援の方法を考えなければならない。

まとめ4. 施設入所の希望

- ・施設入所の希望について見ると、要介護3以上で「検討していない」割合は「単身世帯」では46.4%、「夫婦のみ世帯」で60.5%、「その他世帯」では62.5%であり、いずれも全国値よりも若干低くなっている。
- ・要介護3以上で「申請済み」は、「単身世帯」が32.1%あり、「単身世帯」での施設入所希望は全国値を大きく上回っている。
- ・夫婦のみ世帯では、他の世帯類型と比べて、「申請済み」は低いが、「検討中」は31.6%で全国値を上回っている。

- 在宅介護の継続希望は、要介護3以上では全国値より若干低い状況にある。
- 施設入所希望は、要介護3以上では、単身世帯で「申請済み」が3割余あり、全国値を大きく上回っている。夫婦のみ世帯では「検討中」が3割余あり、全国値を上回っている。
- 在宅介護の実態として、施設入所希望が全国値を上回っており、入所施設の整備を検討する必要がある。

まとめ5. 訪問診療

- ・在宅介護を継続する上では、在宅医療の充実も必要であるが、市では、全国と比べて訪問診療の利用率が低くなっている。
- ・特に、要介護4では15.1%で全国値より9.5ポイント、要介護5では21.7%で全国値より22.7ポイント、利用率が低くなっている。

- 本市では、訪問診療の利用が全国より低いが、これは訪問診療を行っている医療機関が少ないことも影響している。要介護5では、全国に比べて利用率が大幅に低くなっている。
- 在宅介護を継続する上では在宅医療の提供が必要なケースもあるため、介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者に対する適切なサービス提供体制の確保が必要である。

まとめ6. 新型コロナウイルス感染症の影響

(介護サービス利用への影響)

- ・介護保険サービス利用への新型コロナウイルス感染症の影響としては、「影響があった」が25.3%、「影響なし」が57.6%となっている。要介護度別に見ると、「影響があった」は、要介護度が重くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。
- ・通所系の介護サービスの利用回数への影響を見ると、月あたりの利用回数が多いほど、影響が大きかったという回答割合が高くなっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響への介護サービス利用の対応としては、「通所系サービスの利用を控えた」が6割を超えている。「要介護3以上」では、「通所系サービスを控えて訪問系サービスに切り替えた」が要支援1・2や要介護1・2より高い。

(健康面への影響)

- ・新型コロナウイルス感染症の健康面への影響としては、「運動する機会が減り体力が低下した」が6割強で最も高い。要介護度別に見ると、各要介護度とも、体力低下をあげる回答が最も高い。第2位以下は要介護度で差異が見られ、「要支援1・2」では「気分の落ち込み」、「要介護1・2」では「物忘れ」、「要介護3以上」では「気分の落ち込み」と「特に変わらない」が同率となっている。

(周囲への影響)

- ・新型コロナウイルス感染症の周囲への影響としては、「特に変わらない」という回答が高くなっているが、「仕事を減らした(変えた)」や「仕事を辞めた」という回答が見られる。このような声が4割弱あり、家族・親族の仕事継続に新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。

(新型コロナウイルス感染症収束後の介護サービス利用)

- ・新型コロナウイルス感染症が収束した後の介護サービス利用を尋ねたところ、「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」が4割弱なのに対し、「今の状況を継続したい」が4割強あった。
- ・要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」が6割弱と他の要介護度より高い。「要介護1・2」では「以前の介護保険サービスの利用に戻したい」と「今の状況を継続したい」がほぼ拮抗している。「要介護3以上」では「今の状況を継続したい」が5割強となっている。

- 介護保険サービス利用への新型コロナウイルス感染症の影響があったという回答は2割半ばである。通所系サービス利用者では、月の利用回数が15回以上や25回以上といった頻回な利用の方が、影響を大きく受けている。また、影響を受けて、「通所系サービスの利用を控えた」という回答は6割を超えている。要介護3以上では、通所系サービスを控えて訪問系サービスに切り替えたという回答が見られる。
- 新型コロナウイルス感染症の健康面への影響としては、外出控えによる体力の低下が6割強を占めているが、その他には「気分の落ち込み」「物忘れ」など、要介護度別に差異が見られる。健康面では、要介護度別での影響を踏まえた高齢者へのケアなどについて、サービス事業所と共有することも必要である。
- 新型コロナウイルス感染症の周囲への影響として、家族・親族の仕事への影響（仕事を変えた、減らした、辞めた）が4割弱みられる。
- 新型コロナウイルス感染症収束後のサービス利用としては、今の状態を維持したいという声と、以前のサービス利用（回数）に戻りたいという声が半々であった。しかし、要介護度によって希望が異なっており、軽度者では以前の利用に戻りたいという声が、重度者では今の状態を維持したいという声が多い。このようなニーズを踏まえ、第9期のサービス見込み量の算定を行う必要がある。